

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

## ■ 目 次 ■

|     |  |    |
|-----|--|----|
| ア   | 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況                 | 1  |
| I   | 学生確保の見通し                               | 1  |
| 1   | 入学定員設定の考え方                             | 1  |
| 2   | 定員充足の見込みと根拠                            | 1  |
| (1) | 本学及び他大学等の入試動向                          | 1  |
| (2) | 学科別の入試動向                               | 2  |
| II  | 学生確保に向けた具体的な取組状況                       | 5  |
| 1   | 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定を含む）                | 5  |
| 2   | 学生確保についての具体的な取組状況及びその効果、反応等            | 6  |
| イ   | 人材需要の動向等社会の要請                          | 7  |
| I   | 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）            | 7  |
| 1   | 教育目標                                   | 7  |
| 2   | 教育研究上の目的                               | 11 |
| 3   | 卒業後の進路                                 | 14 |
| II  | 上記が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 | 16 |
| 1   | 養成する人材像に対する人材需要の動向                     | 16 |
| 2   | 既設学科における進路状況                           | 24 |
| 3   | 新設学科卒業生に対する採用意向調査                      | 29 |

## ア 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### Ⅰ. 学生確保の見通し

#### 1. 入学定員設定の考え方

本学は、農と生命を科学する総合大学として、高度化と複雑化が加速する現代社会の要請に的確に応え、広義の農学領域の課題解決に貢献できる人材を育成するため、学部等の増設・改編など、教育の質的転換を推進してきた。これに伴う教員編成の変更や施設設備などの教育研究環境の整備を行うことにより、教育の質の向上を図ってきた。これらの施策により本学の教育理念・目的、教育内容が高く評価され、本学の養成する人材の需要が高まり、近年の本学卒業生の高い進路決定率と入学試験の安定した高い志願者数の確保に繋がっている。

この度の学則変更は、社会で活躍するより多くの人材を育成することが本学の社会的使命であると考え、世田谷キャンパスに所在する既存4学部14学科の入学定員について、平成30年4月より増員するものである。

入学定員は、専任教員数、平成32年度供用予定の新研究棟、及びこれまで継続的に整備してきた教育研究環境の中で教育の質の維持向上が可能な範囲で設置した。特に、増員後の学生確保の見通しについて学科毎に過去の入学志願動向等をもとに学生が十分確保可能であることを確認し、また、卒業後の進路について学科毎に過去の進路状況等をもとに各学科が掲げる養成する人材像が今後も社会的な需要があることを十分に確認した結果、各学科10名から20名の範囲で増員することとした。

#### 2. 定員充足の見込みと根拠

##### (1) 本学及び他大学等の入試動向

内閣府が文部科学省の資料を基に作成した「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」[資料1](#)によると、18歳人口は、平成21～32年頃までほぼ横ばい（120万人前後）で推移するが、平成33年頃から減少（114万人）し、高等教育機関への進学率はここ数年頭打ちの傾向が示されている。

一方、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、平成25年度に77,662人であった農学系の志願者数は、平成29年度には85,357人となり、5年間で7,695人増（約9%増）となった[資料2](#)。

また、次表の示すとおり、農学系を志望する受験生の多くは本学を志願先として認知しており、農学系の志願者数の増加は本学の学生確保の見通しを担保する大きな要因となる。

志願者数（平成 25 年度から平成 29 年度）の推移

|               | 25 年度  | 26 年度  | 27 年度  | 28 年度  | 29 年度  |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 農学系(学部系統) (注) | 77,662 | 82,167 | 85,235 | 83,540 | 85,357 |
| 東京農業大学        | 33,076 | 34,153 | 31,231 | 29,815 | 35,852 |

(注) 出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

次表は、日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」に基づき、平成 25 年～29 年までの 5 年における大学のカテゴリー別志願倍率を示したものである。これによると、本学と農学系の志願倍率は、他に比べいずれも高く、全国的な 18 歳人口の減少にかかわらず、本学は受験生から高い入学意向を維持している。

カテゴリー別志願倍率（平成 25 年度から平成 29 年度）の推移

| カテゴリー                      | 25 年度 | 26 年度 | 27 年度 | 28 年度 | 29 年度 |
|----------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全大学 (注 1)                  | 7.39  | 7.53  | 7.58  | 7.76  | 8.13  |
| 入学定員(1500-3000 人) (注 1, 2) | 8.52  | 9.07  | 9.07  | 9.47  | 9.51  |
| 東京都(所在地) (注 1)             | 9.75  | 9.68  | 9.63  | 9.84  | 10.32 |
| 農学系(学部系統) (注 1)            | 11.16 | 11.81 | 11.34 | 11.12 | 11.03 |
| 東京農業大学                     | 13.67 | 13.77 | 12.39 | 11.83 | 12.80 |

(注 1) 出典：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」

(注 2) 本学の入学定員は 2,960 人（平成 30 年度予定）

志願倍率は次式による。志願者数÷入学定員

また、本学における直近 5 年間の入学志願動向をみると、志願者数は約 30,000 人、志願倍率（志願者数÷入学定員）は 12 倍前後で推移しており、いずれも全国平均を上回っている資料 3、資料 4。

平成 29 年度入試を例に確認すると、志願者数の合計は 35,852 人であり、これは入学定員の 2,800 人の約 13 倍にあたり、過去の入試実績からも学生確保の見通しについて、十分に担保できる状況にある。

以上、同系統他大学の志願動向及び本学のこれまでの入試実績から、収容定員変更後も十分に学生確保の見込みがあると判断した。

## （2）学科別の入試動向

平成 30 年度から入学定員の変更を予定する世田谷キャンパスに所在する既存 4 学部 14 学科について、学科毎に直近 5 年間の入学志願動向から定員充足の見込みと根拠を

示す。

## <応用生物科学部>

### 1) 生物応用化学科(平成30年度から農芸化学科に名称変更予定)

平成30年度から入学定員を現在の140人から150人に変更する。本学科における直近5年間の入学志願動向 **資料5** をみると、平成25年度4,100人あった志願者が直近3年間は3,000人に留まっている。しかし志願倍率(志願者数÷入学定員)は常に20倍以上を維持している。今回、入学定員を10人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 2) 醸造科学科

平成30年度から入学定員を現在の140人から150人に変更する。本学科における直近5年間の入学志願動向 **資料5** をみると、志願者数は2,500人前後で推移しており、志願倍率(志願者数÷入学定員)は常に17倍以上を維持している。今回、入学定員を10人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 3) 食品安全健康学科

平成30年度から入学定員を現在の140人から150人に変更する。本学科における開設年度から4年間の入学志願動向 **資料5** をみると、志願者数は2,300人前後で推移しており、志願倍率(志願者数÷入学定員)は常に14倍以上を維持している。今回、入学定員を10人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

## <生命科学部>

### 1) バイオサイエンス学科

平成30年度から入学定員を現在の140人から150人に変更する。本学科における平成29年度の入試結果 **資料5** をみると、志願者数は約3,500人で、志願倍率(志願者数÷入学定員)は約25倍であった。今回、入学定員を10人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 2) 分子生命化学科

平成30年度から入学定員を現在の115人から130人に変更する。本学科における平成29年度の入試結果 **資料5** をみると、志願者数は約1,300人で、志願倍率(志願者数÷入学定員)は約11倍であった。今回、入学定員を15人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、

充足できるものと判断している。

### 3) 分子微生物学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 115 人から 130 人に変更する。本学科における平成 29 年度の入試結果 **資料 5** をみると、志願者数は約 2,000 人で、志願倍率（志願者数÷入学定員）は約 17 倍であった。今回、入学定員を 15 人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

## <地域環境科学部>

### 1) 森林総合科学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 120 人から 130 人に変更する。本学科における直近 5 年間の入学志願動向 **資料 5** をみると、志願者数は 1,500 人前後で推移しており、志願倍率（志願者数÷入学定員）は約 12 倍を維持している。今回、入学定員を 10 人増員する計画であるが、地域再生の中で林業に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 2) 生産環境工学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 120 人から 130 人に変更する。本学科における直近 5 年間の入学志願動向 **資料 5** をみると、志願者数は隔年で変動する傾向を示し、約 1,500 人から約 1,000 人の間で推移しているが、志願倍率（志願者数÷入学定員）は最も低い年でも 7 倍以上を維持している。今回、入学定員を 10 人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 3) 造園科学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 120 人から 130 人に変更する。本学科における直近 5 年間の入学志願動向 **資料 5** をみると、志願者数は常に 1,000 人を超えている。造園学は緑環境の調査、計画、設計、施工、管理、運営に関わる学問分野であるため数年単位のブームによって志願者数が大幅に増えることはないが、その分野を志す受験生からは毎年一定の評価（志願）を得ている。今回、入学定員を 10 人増員する計画であるが、以上から、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 4) 地域創成科学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 80 人から 100 人に変更する。本学科における平成 29 年度の入試結果 **資料 5** をみると、志願者数は約 1,500 人で、志願倍率（志願者数÷入学定員）は約 20 倍であった。今回、入学定員を 20 人増員する計画であるが、地域創成に取り組む本学科に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生

確保については、充足できるものと判断している。

## ＜国際食料情報学部＞

### 1) 国際農業開発学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 140 人から 150 人に変更する。本学科における直近 5 年間の入学志願動向 **資料 5** をみると、志願者数は近年減少の傾向にはあるが、常に 1,000 人を超えている。志願倍率（志願者数÷入学定員）は約 8 倍を維持している。今回、入学定員を 10 人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 2) 食料環境経済学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 180 人から 190 人に変更する。本学科における直近 5 年間の入学志願動向 **資料 5** をみると、志願者数は 1,500 人前後で推移しており、志願倍率（志願者数÷入学定員）は約 7 倍を維持している。今回、入学定員を 10 人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 3) 国際バイオビジネス学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 140 人から 150 人に変更する。本学科における直近 5 年間の入学志願動向 **資料 5** をみると、志願者数は隔年で変動する傾向を示しているが、常に 1,000 人を超えており、志願倍率（志願者数÷入学定員）は約 7 倍を維持している。今回、入学定員を 10 人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

### 4) 国際食農科学科

平成 30 年度から入学定員を現在の 100 人から 110 人に変更する。本学科における平成 29 年度の入試結果 **資料 5** をみると、志願者数は約 1,300 人で、志願倍率（志願者数÷入学定員）は約 13 倍であった。今回、入学定員を 10 人増員する計画であるが、農学分野に対する社会からの期待の高まりもあって、本学科における学生確保については、充足できるものと判断している。

## II. 学生確保に向けた具体的な取組状況

### 1. 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定を含む）

本学は建学の精神「人物を畑に還す」と教育の理念「実学主義」に基づき、教育研究活動に取り組んでいる。これを踏まえ、本学や農学系分野の特色及び各学科の教育内容等について、高校教員、保護者、受験生、予備校関係者等の理解を得るために様々な媒

体を利用して広報活動を実施している。平成 30 年度の学生募集活動は例年行う内容と同様に実施する予定である。また、農学系及び関連分野にも積極的に参加予定である。

- ① 進学相談会（首都圏私立大学進学相談会 15 大学 [資料 6](#)、農学・獣医学・生物環境系進学ガイダンス、大学フェア等）（動員数約 2,474 名）
- ② 高校訪問（訪問高校数 508 校）
- ③ 出張講義（出張高校数 54 校）
- ④ 大学見学（来学高校数 47 校、参加者 961 名）
- ⑤ 大学案内（学科、研究室、キャリア、入試日程等を紹介）
- ⑥ 新聞等（朝日、読売、日経新聞、高校生新聞、東進タイムス等）[資料 7](#)
- ⑦ 看板広告（本厚木駅）
- ⑧ 受験雑誌等（蛍雪時代、大学発見ナビ、マナビジョンブック（保護者版）等）
- ⑨ WEB 広報等（進学ネット、マナビジョン、パスナビ、マイナビ進学 U-17 等）、大学 HP
- ⑩ 山手線新型車両「E235 系」AD トレイン等[資料 8](#)

※（ ）内数字は平成 28 年度実績

毎年開催している大学独自の各種イベント

- ① キャンパス見学ツアー（年 2 回開催）[資料 9](#)・・・（世田谷 2,411 名、厚木 521 名、オホーツク 153 名）
- ② オープンキャンパス（キャンパスごとに開催）[資料 10](#)・・・（世田谷 9,234 名、厚木 2,837 名、オホーツク 480 名）
- ③ 収穫祭・進学相談会（各キャンパスごとに開催）[資料 11](#)・・・（世田谷 919 名、厚木 240 名、オホーツク 94 名）
- ④ ユメナビ[資料 12](#)（263 名） ミライガク[資料 13](#)（450 名）  
北九州ゆめみらいワーク[資料 14](#)（500 名）

※（ ）内数字は平成 28 年度参加者数

## 2. 学生確保についての具体的な取組状況及びその効果、反応等

各種広報活動の実施により、入学定員を確保している。

充実した学生生活のため、アドミッション・ポリシーの発信や、学科の教育内容や特徴、ディプロマ・ポリシー等を明確に説明することで、学生が希望に沿った学科を選択できるように取り組み、不本意入学をできるだけ防ぎ、卒業時に高い満足度が得られるように配慮している。

このような取り組みが、以下の入学定員に対する志願者の倍率に示されるとおり、効果がでていいるものとする。

全学部の志願者の推移（入学定員・志願者数（全入試制度）・志願倍率）

|      | 平成 25 年度 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 入学定員 | 2,420 名  | 2,480 名  | 2,520 名  | 2,520 名  | 2,800 名  |
| 志願者数 | 33,076 名 | 34,153 名 | 31,233 名 | 29,815 名 | 35,852 名 |
| 志願倍率 | 13.67 倍  | 13.77 倍  | 12.39 倍  | 11.83 倍  | 12.80 倍  |

## イ 人材需要の動向等社会の要請

### I. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### 1. 教育目標

##### <応用生物科学部>

##### （1）応用生物科学部

応用生物科学部は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析する能力を有する者
- ② 人と環境との共生を真の生活に活かし、社会に貢献する能力を有する者
- ③ 修得した知識や成果を的確に表現できるプレゼンテーションとコミュニケーション能力を有する者

##### （2）農芸化学科

農芸化学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 生命現象から環境に関わる諸問題を発見して、それを提起する能力を有する者
- ② 化学的視野に立って諸問題の原因を究明する能力を有する者
- ③ 得られた成果を社会に還元・発信できる能力を有する者

##### （3）醸造科学科

醸造科学科は、わが国唯一の醸造・発酵技術関連の高等教育研究機関として、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 伝統技術から最新のバイオテクノロジーに至る幅広い分野の基礎知識を有する者
- ② 醸造・発酵技術関連分野の基礎知識および総合的技能を有する者
- ③ 醸造・食品・微生物利用産業の発展に寄与する者

##### （4）食品安全健康学科

食品安全健康学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 食の安全を、最新の技術を取り入れたリスク分析手法により解析し、客観的に評価

できる能力を有する者

- ② 食の健康機能を、食品の生理活性成分と生体分子との関わりを通して解明することにより、生体影響を科学する能力を有する者
- ③ 食の安全と健康機能において発生した問題点に対し、科学的視点からの評価、情報発信により問題を解決する能力を有する者

## <生命科学部>

### (1) 生命科学部

生命科学部は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 多様な生物を原子・分子レベルから生命高次機能まで関連性をもって理解し、汎用的な基礎力と専門的な応用力を有する者
- ② 問題意識を常に持ち、情報発信や自ら解決方法を見いだすことに挑戦できる者
- ③ 実験・実習や研究室活動を通じて、知識・技術・経験を統合し、現代社会が直面する問題解決に貢献できる者

### (2) バイオサイエンス学科

バイオサイエンス学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 生命科学分野における専門知識と技術を修得し、それらを活かして社会に貢献する能力を有する者
- ② 修得した知識や成果を的確に伝えるプレゼンテーション・コミュニケーションの能力を有する者
- ③ 論理的思考能力と問題設定・解決能力を有する者

### (3) 分子生命化学科

分子生命化学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 化学を中心とする自然科学を総合的に理解し、基礎的知識および技術を身につけた者
- ② 修得した知識や成果を的確に伝える論理的思考力、数的処理能力、文章力およびプレゼンテーション能力を有する者
- ③ 身につけた専門的知識および技術を活かし、学修の成果を社会に還元しつつ、人類の発展へ寄与しうる能力を有する者

### (4) 分子微生物学科

分子微生物学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 微生物の生物機能および他生物や環境との関わりについて生命科学の視点で深く理解する者
- ② 微生物の研究を通して生命の本質を理解し、もって科学・学問の発展に寄与することができる者
- ③ 微生物の新たな機能の発見や開発を通して、人類が抱える諸問題の解決に貢献することができる者

## <地域環境科学部>

### (1) 地域環境科学部

地域環境科学部は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① グローバルな地球環境からミクロな地域環境に至るまでの幅広い知識と理解力を有する者
- ② 様々な環境問題の解決能力、人と自然との調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための知識や技術を修得した者
- ③ 環境問題の解決や持続可能な地域づくりに関わる社会的使命感と高い倫理観を有する者

### (2) 森林総合科学科

森林総合科学科では、問題の発見能力と解決能力とを身につけ、社会的使命感と倫理観を高め、森林に関する、

- ① 幅広い知識と理解力
  - ② 専門的知識と技術の活用等の諸能力
- の涵養を教育の目標とする。

### (3) 生産環境工学科

生産環境工学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 「土と水」の機能と地域の文化および「農」の多面的意義を理解して、人類の生存と発展を支えることのできる者
- ② 地域から地球規模への環境保全を実現するための新しい試みを展開できる者
- ③ 省資源および省エネルギー技術などを導入して、自然と共生する循環型社会の創造に貢献できる者

### (4) 造園科学科

造園科学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 都市環境から自然環境に至るまでの育成と保全に科学的かつ実践的に対応できる

者

- ② 新たな環境を計画的、デザイン的に創成できる者
- ③ 技術と実践力をもって自然環境の利活用を生態技術的、環境芸術的に処理できる者

#### **(5) 地域創成科学科**

本学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 自然環境、生活環境および社会環境の関わりについて広い知識と豊かな感性を有する者
- ② 観察力、論理的思考能力、高い倫理観を有し、フィールドにおける多様な課題の解決に向けて積極的に行動できる者
- ③ 生物文化多様性や土地・社会資本の保全、地域振興等の観点から持続可能な地域の創成に貢献できる者

#### **<国際食料情報学部>**

##### **(1) 国際食料情報学部**

国際食料情報学部は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 主として熱帯地域の途上諸国への食料・農業開発のための国際協力を目指す者
- ② 熱帯生物資源開発と保全のための、先端的技術を活用した熱帯農学の研究と教育を実践できる者
- ③ 環境保全型世界の食料・農業経済システムと資源循環型社会の構築に取り組む者
- ④ 日本と世界の地域特性を活かした共生型農業・農村発展のための社会経済理論の構築と政策提言等に取り組む者
- ⑤ 国際的視野に立つ食料の生産・流通・加工ビジネスとその関連産業からなる新しいビジネス領域としての「バイオビジネス」の起業と経営に、IT技術を駆使して取り組む国際的感覚を有する者

##### **(2) 国際農業開発学科**

国際農業開発学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 国際社会に関する幅広い知識と、農業・農村開発に関する専門知識を有する者
- ② 現状分析、問題点の把握、問題解決のための企画立案および計画遂行を行う能力を有する者
- ③ 政府機関、研究教育機関、民間企業等で国際的な活動を行う素養と実力を有する者

##### **(3) 食料環境経済学科**

食料環境経済学科は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 食料・農業・環境分野において活躍できる者
- ② 公務員、団体職員等として社会的貢献ができる者
- ③ 教育、研究分野で活躍できる者

#### **(4) 国際バイオビジネス学科**

国際バイオビジネス学科では、国際的な感覚を持った農業・食品系企業の経営幹部や経営の中核を担う人材の養成を教育目標とし、具体的には、次のような者の養成を目指している。

- ① 修得した知識や経験を活かし、新たな商品企画・開発を通じて市場開拓を実現できる者
- ② 培ったコミュニケーション力や表現力を駆使し、新たな製品・サービスの特徴や強みを提案することができる者
- ③ 修得した知識やスキルを応用し、組織内の経営戦略や財務管理を担うことができる者
- ④ 培った論理的思考力や課題探求力を発揮し、既存ビジネスにおける課題の発見・解決やコンサルティングができる者

#### **(5) 国際食農科学科**

国際食農科学科は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- ① 日本の多様な食農文化を継承し、より付加価値の高い農産物等の食材の生産、加工、流通など食農事業を展開する実践能力を有する者
- ② 地域社会が伝統的に育んできた食農文化を継承し、地域資源の活用をコーディネートし、多様な産業や活動を支援する能力を有する者
- ③ 食農教育を通じた文化の継承とともに、新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信する能力を有する者

## **2. 教育研究上の目的**

### **<応用生物科学部>**

#### **(1) 応用生物科学部**

本学部は、動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析能力を高め、人と環境との共生の上に成り立つ生活を真に考究し、実践出来る人材育成を教育理念としている。本理念の達成に向け、生物、化学及び生物化学を基礎学問に据え、講義と実験・実習さらには卒業論文実験を通じて、学力の向上と国際的研究を目指す。

## **(2) 農芸化学科**

本学科は、化学と生物学の素養と知識を基礎に生命現象から環境問題までを多元的に理解・解析できる人材を養成する。その目的を達成するため、食料・健康・環境・資源エネルギーにかかわる諸問題を対象として、基礎から応用に至る実学的教育・研究プログラムに基づいた教育をする。

## **(3) 醸造科学科**

本学科は、わが国唯一の醸造・発酵技術関連の高等教育研究機関である。微生物利用産業における伝統技術から、最新のバイオテクノロジーに至る幅広い分野の教育研究を行っている。当該分野の基礎知識及び総合的技能を有する醸造・食品・微生物利用産業の発展に寄与する人材を養成する。

## **(4) 食品安全健康学科**

本学科は、食の安全と健康機能を統合した学問領域を科学するため、幅広い基礎科目を基盤とし、多様な専門コア科目による教育を展開することにより、食の安全・健康上の問題解決力を備えた食品技術者・研究者・教育者・行政官となり得る人材育成を行う。

## **<生命科学部>**

### **(1) 生命科学部**

本学部は、多様な生物をミクロからマクロまで統合的に捉えることで、現代社会が直面する問題解決の取組みにつなげる教育研究を行う。また、その過程を通して、汎用的な基礎力と専門的な応用力を磨き、知識・技術・経験をもとに、自ら問題発見と解決方法を見いだすことに挑戦し、倫理観をもって社会に貢献できる人材を養成する。

### **(2) バイオサイエンス学科**

本学科は、原核細胞から真核細胞、さらに動物・植物の個体レベルにおける、生命現象の分子機構の理解と研究を通して、生命現象の本質を理解し、生命科学を利用して社会貢献できる人材、さらに、研究や開発等の生命科学領域で幅広く活躍するための礎となる深い洞察力と問題解決能力を身につけた個性豊かな人材を養成する。

### **(3) 分子生命化学科**

本学科は、21世紀に入り目まぐるしく変動する自然環境・社会及び農業情勢を理解し、科学技術により柔軟かつ多様な対応が可能な、農学領域の視野を持ち汎用性のある基礎力を有する人材が求められていることから、様々な自然・生命現象に対し、分子論的な解釈と化学的なアプローチを行うことができ、また他分野への応用・発展を可能とする人材を養成する。

### **(4) 分子微生物学科**

本学科は、微生物の様々な機能を駆使する微生物開発・利用が望まれていることを踏

まえ、有用な微生物資源の探索と培養工学を駆使した微生物機能の開発、並びに微生物間及び動・植物との相互作用における多様な生命現象を分子の視点から理解し、物質生産技術の開発や環境問題・エネルギー問題など現代社会の諸問題の解決に貢献する人材を養成する。

## <地域環境科学部>

### (1) 地域環境科学部

本学部は、生物に対する深い理解を基調とし、自然と人間の調和ある地域環境と生物資源の保全・利用・管理のための科学技術を確立することを目指すものである。さらに、ミクロな地域環境問題の解決はもとより、マクロな広域環境問題さらにはグローバルな地球環境問題の解決に貢献する人材を養成する。

### (2) 森林総合科学科

本学科は、人間と森林との共生に貢献できる人材の育成が、教育・研究目標である。森林そのものと環境循環について科学的に理解することからはじまり、森林のもつ資源生産的機能と環境循環機能を総合的に考究するなかで、これからの循環型社会の創造に貢献できる専門知識を養う。

### (3) 生産環境工学科

本学科は、農業生産の場における土・水・施設・機械に関する技術を応用し、地域から地球規模まで考慮した環境保全に資する新たな農業生産技術とエコ・テクノロジーの開発を行うとともに。さらに、生産性向上のみでなく、環境・資源・エネルギーに配慮した計画・設計・施工・管理を行える倫理観を持った技術者を養成する。

### (4) 造園科学科

本学科は、庭園文化を踏まえ、人間と自然の調和共生社会の実現をめざし、都市から田園、自然地域にわたる国土の環境と景観を保全・活用し創造するための、調査・計画・設計・施工・管理・運営及び材料に関する理論と応用を教授し、豊かな感性とデザイン力、確かな倫理観を持つ造園家、造園技術者を養成する。

### (5) 地域創成科学科

本学科は、水資源や食料生産、環境保全等の役割を担ってきた農山村地域の保全・再生、持続的発展に向けて、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、環境アセスメント手法や環境教育・地域マネジメント手法等の幅広い専門的能力とその運用法を習得し、地域の創成に貢献できる人材を養成する。

## <国際食料情報学部>

### **(1) 国際食料情報学部**

本学部は「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと総合的・実践的に挑戦する」をモットーに、農業・農村開発と国際協力の推進、持続可能な食料・農業システムと循環型社会の構築、食料の生産・加工・流通・支援サービスを担う農業・食品系ビジネスの展開及び日本が誇る食農文化の継承・発信や新たな食農文化の創造等の分野で活躍できる人材を養成する。

### **(2) 国際農業開発学科**

本学科は自然科学と社会科学の両領域からなる科目を配し、さらに、国内外の農業実習・研修を積極的に取り入れ、「専門性を活かした総合的アプローチ」をモットーに、農業・農村開発協力を通じて、地球規模に貢献のできる人材を育成する。

### **(3) 食料環境経済学科**

本学科は、社会科学、とりわけ経済学の手法を用いて、「農業」、「食料」及び「環境」を取り巻く課題を地域的・国民的視点、さらには国際的視点から究明し、もって「新たなフードシステムの構築」及び自然と人間の共生を軸とした「持続的な循環型社会の構築」に資する人材を養成する。

### **(4) 国際バイオビジネス学科**

本学科は、人類の生存に最も重要な食料を支えるバイオビジネスに関する教育・研究を行い、食料の生産、加工、流通、支援サービスを担う専門知識と実践力を身につけた国際的人材を養成する。

### **(5) 国際食農科学科**

日本が誇る食と農の文化を世界に向けて積極的に発信することは、激しい国際競争の下に置かれている日本の農業・農村にとって喫緊の課題であることから、本学科は、この課題の解決に向けて、日本の多様な地域が伝統的に育んできた固有の食農文化を、食農教育を通じて継承するとともに、より付加価値の高い農産物等の食材を基にした新たな食農文化を創造し、地域から世界に向けて展開・発信できる人材を養成する。

## **3. 卒業後の進路**

### **<応用生物科学部>**

#### **(1) 農芸化学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、製薬企業および医療系企業、食品メーカー、化学分析試験機関、農薬・肥料メーカー、中学・高校教員、公務員等の分野での活躍が期待される。

#### **(2) 醸造科学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、酒類、醸造・発酵食品、飲料および一般

食品の製造企業、糖質・油脂・香料や酵素製剤等の食品・医薬品素材の製造企業、微生物利用による環境関連企業等における技術職、研究開発職および営業職、自営、中学・高校教員、公務員等の分野での活躍が期待される。

### **(3) 食品安全健康学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、食品開発・製造業、医薬品開発・製造業、分析・試験機関、農薬・肥料系企業、医療系企業、健康産業、公務員等の分野での活躍が期待される。

## **<生命科学部>**

### **(1) バイオサイエンス学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、製薬・医療系企業、健康産業、化学系・化学分析系企業、食品開発・製造系企業、中学・高校教員、公務員等の分野での活躍が期待される。

### **(2) 分子生命化学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、総合・製薬・農薬・化粧品等のファイン及びバルク化学系企業、生物関連の科学技術系産業、食品関連産業、中学・高校教員、公務員等の分野での活躍が期待される。

### **(3) 分子微生物学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、バイオ産業、発酵産業、食品産業、製薬企業、健康産業、検査業界、環境科学、公務員、教員等の分野での活躍が期待される。

## **<地域環境科学部>**

### **(1) 森林総合科学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、森林組合、森林調査設計事務所、住宅、木材・建材、建設業（土木・造園）、製造・販売、サービス業、公務員、中学・高校教員等の分野での活躍が期待される。

### **(2) 生産環境工学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、国家公務員技術職、地方上級公務員技術職、土地改良事業団体連合会、建設会社、道路会社、建設コンサルタント、農業土木コンサルタント、環境コンサルタント、鉄道会社、機械製造業、食品加工業、農業協同組合、中学校・高等学校教員等の分野での活躍が期待される。

### **(3) 造園科学科**

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、公務員（公園緑地部門、自然保護部門）、造園建設業、土木建設業、造園・都市計画コンサルタント、環境コンサルタント、緑化

生産・造園資材会社、財団法人等（公園緑地部門、自然保護部門）、中学校・高等学校教員等の分野での活躍が期待される。

#### （４）地域創成科学科

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、農産物流通業、建設業（土木・造園）、農業協同組合、観光・レクリエーション業、環境コンサルタント業、高校教員、地方自治体等の公務員等の分野での活躍が期待される。

### ＜国際食料情報学部＞

#### （１）国際農業開発学科

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、以下の分野での活躍が期待される。

- ① ODA に関連した農業・農村開発協力の専門家
- ② NGO や NPO などといった協力組織のスタッフ
- ③ 農業に関しての国際的視野をもち国内外で活躍する研究者、公務員、教員、農業関連産業従事者
- ④ その他民間企業

#### （２）食料環境経済学科

本学科の卒業生は、大学院への進学その他、食品製造等の製造業、商社・青果・食品卸売業等の卸売業、スーパー、百貨店などの小売業、銀行等の金融業、生活協同組合、農業協同組合（JA）等の団体、教育（中学・高校教員）、公務、研究等の分野での活躍が期待される。

#### （３）国際バイオビジネス学科

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、生産関係（自営農業経営、農業生産法人等）、食品製造業、外食産業、流通関係（卸売業、小売業）、農業支援サービス（農業協同組合、各種農業団体、生活協同組合、公務員）、観光業、情報サービス業、金融・保険業等の分野での活躍が期待される。

#### （４）国際食農科学科

本学科の卒業生は、進学（大学院等）の他、農業協同組合、食品関連企業、商社などの貿易関係業務、農業法人、農業自営、食農に関する NPO、出版・マスメディア、高校教員、公務員等の分野での活躍が期待される。

## Ⅱ. 上記が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

### 1. 養成する人材像に対する人材需要の動向

#### ＜応用生物科学部＞

### (1) 農芸化学科

農林水産省の公務員志望者向け資料では、「生命を支える『食』と安心して暮らせる『環境』を未来の子どもたちに継承していくのが農林水産省のミッション」であるとし、その遂行のために農芸化学を専攻した職員の貢献に期待している。また多くの県では技術公務員採用の分野として農芸化学を設定している。

さらに公益社団法人日本農芸化学会には多くの食品・薬品・化学・農業関連の企業・団体が会員として参加しており、農芸化学を専攻した学生が就職するとともに、産官学の共同研究も活発に行われている。明治維新とともに日本に導入された農芸化学は既に農業と関連産業に向けて多くの人材を輩出してきたが、今後も生物と化学の素養を持ち、作物栽培から加工・利用までの全工程の技術革新に貢献できる人材が求められる。

### (2) 醸造科学科

醸造科学科が人材を供給する分野である醸造・食品産業は、我が国の食文化の中核を成し、日本人のアイデンティティと密接に結びついている重要分野であるため、今後も安定した発展が望まれる。近年は、食生活の多様化に伴い、国内における醸造関連製品の需要についてはほぼ飽和から漸減状態となっているが、2013年に和食がユネスコ世界無形文化遺産となり（申請名称「和食；日本人の伝統的な食文化」）、和食の海外普及とともに海外での製品需要は増加している。これに伴い各業界とも輸出量を伸ばしており、過去10年間の輸出量は、清酒・醤油・味噌・食酢のいずれにおいても二倍程度の伸びを示している（日刊経済通信社「酒類食品統計月報」、醤油情報センター「醤油の統計資料」、財務省「日本貿易月報」「貿易統計」）。農林水産省も、国内においては和食の保護および継承を喚起すると同時に、日本の食文化の海外展開に向けて積極的な取り組みを行っており（農林水産省「食文化」基本政策）、このような状況に対応し業界の発展に寄与する人材の需要が、今後一層増加してくることは明らかである。本学科は、設立後60年以上を数える、現在国内で唯一の醸造・発酵分野の専門教育機関であり、開設当初より関連業界と連携しながら教育・研究を行っている。このため、このような醸造産業を取り巻く複雑な状況に対応できる人材育成プログラムを有しており、業界の需要に対応し業界の発展に貢献し得る人材を輩出している。

また本学科は、発酵の応用形として、微生物を用いた環境浄化やバイオマスエネルギー開発分野にも取り組んでいるが、政府の第四次環境基本計画中の「持続可能な社会の実現」方針の下、本分野が対象となる環境産業の雇用規模は年々拡大しており、今後も人材需要の増加が見込まれている（環境産業市場規模検討会「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書」）。

以上のことから、本学科が養成する人材像は、社会的・業界的な動向を考慮した場合、今後一層需要が増加することが強く予測される。

### (3) 食品安全健康学科

多くの国民が食に対する不安を抱えている状況にある[資料 15]、[資料 16]。また、内閣府食品安全委員会の食品健康影響評価では、「食品の安全性の専門家」により解決すべき食の問題が山積していることが示されている[資料 17]。以上より、当学科で取得できる HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point) 管理者などの資格を有した、食品産業界では食の安全・安心を総合的に理解し、食に対する問題解決力を備えた広範な能力を有する「食品の安全性の専門家」としての人材に対するニーズが高まっていることが窺える。

他方、特定保健用食品（トクホ）、機能性表示食品の売り上げからも明らかなように[資料 18]、[資料 19]、普段の食生活改善による生活習慣病の予防、あるいは病態の軽減に多くの期待が寄せられている。このような状況下、食材の生理活性などについて十分な知識を兼ね備えた「食品の機能性の専門家」としての人材が必要とされている。

さらに、食品の効果・効能（機能性）は、言うまでもなく、安全性が担保されたうえで求めるものでなければならない。「いわゆる健康食品」の中には、その実体や作用メカニズムが明らかでないものも多い。これらの過剰摂取による副作用等の事故を未然に防ぎ、安全性の担保された機能性食品の摂取により健康の維持・増進をはかるために、食品企業あるいは官公庁においては、最先端の研究成果をいち早く取り入れ、安全性と機能性の根拠を明確にし、機能性食品の開発を推進するとともに、社会に対して正しい情報を提供できる「食品の安全性と機能性の専門家」へのニーズが高まっている。

## <生命科学部>

### (1) バイオサイエンス学科

日本の公的機関の分野別研究費はライフサイエンス分野が 2,680 億円と分野別では 2005 年以降 1 位を維持している（我が国の産業技術に関する研究開発活動の動向-主要指標と調査データ-第 13 版、経済産業省、平成 25 年 8 月）。これは、日本の将来の技術革新に、ライフサイエンス分野の進歩が必要であることを物語っている。さらに、経済産業省は、バイオ産業の市場規模を、2030 年までに 2014 年の 6 倍にあたる約 20 兆円に育成する目標を打ち出した（日本経済新聞・電子版、平成 27 年 3 月 24 日）。それにとともに、バイオ産業に従事する人の数も増加することが予想されることから、バイオサイエンスに関する専門的な知識と技術を有している人材がより一層求められる。

### (2) 分子生命化学科

卒業生が有用人材とされる根拠については文部科学省、経済産業省による資料“理工系人材育成に関する産業構造審議会における議論及びこれまでに講じた施策について、平成 27 年 5 月 22 日”等に窺い知る事ができる。この報告書の化学系業種の分析において、大学研究室で学ぶ専門分野はほぼ産業界ニーズであり、その中でも特に重要な

のが基礎有機化学、高分子化学、機能性化学、分析化学とされている。これらは開講科目、研究室構成に反映されている。さらに絶滅が懸念される化学工学、高分子合成等もその一部を教育体系の中に取り組んでいる。上記と科学技術全般と応用分野においても化学は基幹の1つである事を受け、手堅いニーズが予想される。

### (3) 分子微生物学科

この10年間の中で、経済産業省では微生物関連は複数の検討会や分科会などが開かれている。微生物遺伝資源の整備及び利用促進に関する検討会では世界トップクラスの微生物遺伝資源機関の維持・向上を目指した議論がなされ、伝統的に発酵食品などで利用されている微生物株の保護だけではなく、多くの目的に対応できる遺伝資源として微生物を位置づけている。さらに、微生物利用者からはコンソーシア（複合微生物系）で利用したいという強い要望が出されている。また、中央環境審議会水環境・土壌農薬合同部会バイオレメディエーション小委員会審査分科会ではその議事概要において「バイオ分野は裾野が広く、特定の微生物の研究者では気づいていない機能が重要となることもある。広く応用に結びつけられることが重要」とし、さらに、「海外の大手製薬企業が、1兆円を超える規模で、天然物の巨大なライブラリーを有する企業を買収した。以来、中分子化合物を使った創薬についても関心が集まっている」など微生物の利用が未だ尽くされていないとともに、潜在的な価値を利用することに対して期待が高まっている。一方、経済産業省では「遺伝子組換え微生物の産業利用を一層促進」するために表示を含めたルール改善を進めている。

このような経済産業省動向は関連産業団体の希望を考慮した流れであり、これに対し本学科は、生物資源工学、バイオインフォマティクス、複合微生物、動物共生微生物、植物共生微生物分野の研究室を配置し、十分に対応できる環境である。そのため、本学科の教育や研究が昨今の日本で微生物に求められる知見や技術をカバーし、直接的に貢献できると考える。また、本学科で教育を受けた学生は社会に受け入れられる基盤を高く有することが可能と考える。

## <地域環境科学部>

### (1) 森林総合科学科

わが国では、2013年に「国土強靱化基本法」が公布され、2017年6月には「国土強靱化アクションプラン2017」が決定されたことにも明らかのように、頻発する大規模災害等への備えとして「強くしなやかな国民生活の実現」が希求されているほか、既被災地の復興についても極めて重要な社会問題として認識されている。他方で、生物多様性の保全や地球温暖化防止など、国際的な重要課題にも早急な対応が求められている。

こうした中であって、国土の約7割を占める森林には、旧来の木材等の林産物生産のみではなく、防災機能の強化、水源涵養機能の向上、生物多様性の保全、温室効果ガスの吸収・貯蔵など多面的な機能の発揮が求められており、その適正な管理の実現が必要であることは言を俟たない。そして、適正な管理の礎となる、高度な専門性を有する人材輩出力の増強は喫緊の課題であるといえる。

具体的には、農山村地域において木材生産、森林管理等の業務に従事する者、教育・研究機関等において業務に従事する者、国および地方行政機関等において公務に従事する者等々、森林・林業・山村・木材等に係わる多彩で、高い専門性と実践力を兼ね備えた人材の増員が必要である。本学科の70有余年にわたる教育実践の蓄積を基礎として、こうした社会的要請に応えたい。

## **(2) 生産環境工学科**

本学科では、1940年の学科創設以来、一貫して農業工学技術者(農業土木、農業機械)を中心に、人材を輩出してきた。具体的な就職先は、国、県、市町村の技術職、あるいは、コンサルタント、建設業に関わる技術者、農業機械関連機器の開発・販売・整備に関わる技術者、情報系・システムエンジニア、その他、高校農業・理科教員、中学技術科教員などである。こうした業界では、横断的に数多くの人材が育成されており、本学科の卒業生同志の連携も高く評価されている。また、団塊の世代の定年退職に伴い、上記のいずれの職種も人材不足の状況にあり、ここ数年は卒業生からも本学科指定の数多くの求人が来ている。平成28年秋と平成29年春に、本学科で独自に行った就職セミナーの参加団体はそれぞれ、51、40団体である。

昨年度の卒業生159名の就職状況は以下の通りである。国家公務員3名、都道府県公務員16名、市区18名、建設業33名、機械設計・販売・整備8名、食品製造8名、進学8名、システムエンジニア6名、中高教員5名、JA2名、エネルギー2名、コンサルタント4名、測量1名、環境1名、その他27名で、就職率は89.3%である。また、その他を除く就職先は本学科の教育を生かした職種(農業土木・土木・機械・情報・教員)で、卒業生の72.3%に当たる。

以上のように本学科の専門教育は社会のニーズに応えるものであり、平成15年にはJABEE(技術者教育認定機構)認定のプログラムを設置するなど、時代の流れに対応した教育も併せて行っている。

## **(3) 造園科学科**

本学科の領域は都市から田園、自然地域にわたる国土の環境と景観を保全・活用し、創造することを目標としている。そして、平成28年度末の就職状況は建設業38%、公務員16%であり、計54%いわゆる建設業界への就職が過半数を占めている。

また、毎年、石川県をはじめ多数の地方自治体から、造園職として本学科に応募を求

めているが、これにほとんど応えられていない。造園業界の就職状況も同様で、需要に対し、供給が追い付いていない現状である。

一方、社会的、人材的な需要面でみると平成 30 年度の新卒採用見通しのデータ（リクルート採用見通し調査）では、建設業は「増える」が 16.1%であり、「減る」が 2.9%であることから他の業種と比較しても、「増える」「減る」を大きく上回っている。

また、本学全体の就職率は 95%であり、造園科学は 97%であることから、本学科は建設業界を就職のベースであることを裏付けている。

このようなことから、本学科では、都市から田園、自然地域にわたる国土の環境と景観を保全・活用に貢献できる人材を育成し、卒業後の主な就職先として、国や地方自治体の公務員や教員、建設業、観光・レクリエーション業等を想定している。

#### **（４） 地域創成科学科**

農山漁村に関する世論調査（内閣府、2014 年）によると、国民の 80%以上が中山間地域の国土・環境保全の必要性を認識しており、都市地域から農山漁村への定住希望者は年々増加していることが示されている。また、国民に対する食料の安定的な供給のため食料自給率の向上が重要な課題とされており、食料を生産する場としての農山村地域の持続的発展が社会的に求められている（食料・農業・農村基本計画、農林水産省、2015 年）。農山村地域を保全・再生し、持続的発展を促していくためには、人々の安心・安全な生活を維持するとともに、農業の振興を中心とした地域づくりが必要であり、地域社会の担い手となる人材の育成が求められている。

このような社会的背景から、本学科では、地域に根ざし、地域づくりに貢献できる卒業後の主な就職先として、地方自治体の公務員や教員、農林業、農産物流通業、観光・レクリエーション業、建設業等を想定している。

### **<国際食料情報学部>**

#### **（１） 国際農業開発学科**

世界はグローバル化の進展に伴い、気候変動、環境悪化、紛争、貧困や格差、食料問題、感染症など、国境を越えて人類が共通して直面する地球規模課題がますます顕在化している。2015 年に、2030 年までにこれらの問題を解決することを目指し、すべての国連加盟国が合意した世界共通の目標 SDGs（Sustainable Development Goals）と呼ばれる「持続可能な開発目標」が設定され、先進国の私たちは、課題解決に向けた行動が求められている。またグローバル化に伴う問題は国内の社会課題にも関係し、このような変動と課題の社会に対応し、地球的視野に立って行動するための資質能力が、これからの変化の時代を生きる社会人に求められている。また、平成 27 年末現在における中長期在留者数は、223 万 2,189 人となり、前年末に比べ、5.2%増加し、多様な社会を向

かえつつある。

本学科は、このような背景に基づいて、国際社会に関する幅広い知識、他国の文化・社会・習慣などの多様性に十分な知識と理解を有し、柔軟な思考力と判断力、さらにコミュニケーション力を身につけ、国内外のどの地域でも自己の能力を発揮して社会に貢献することができる人材を育成し、卒業後は、政府機関、研究・教育機関、海外ビジネスを展開する民間企業等、国際的な活動を行う団体などの進路を想定している。

## **(2) 食料環境経済学科**

食料環境経済学科の教育においては、食料・農業・環境分野で民間企業や公務・団体さらに教育・研究の各領域で活躍できる人材の育成を目的としている。

まず、国の「食品産業の将来ビジョン『第3 食品産業の目指すべき方向／1 食品産業の目指す基本的な方向と望ましい構造、第4 食品産業の持続的発展に向けた共通の目標と具体的取組／1 食品関連産業全体の共通の目標・2 食品産業事業者の重点課題』」（農林水産省 <http://www.maff.go.jp/j/press/shokusan/ryutu/pdf/120330-01.pdf>）では、今後の食品・農業関連産業の発展方向として需要サイドに立った新しい付加価値を提供すること、「消費者」、「地域」、「グローバル」の三つの視座からの取り組みが必要であることが示されており、国内および新興アジアを含む市場を見据えてフードチェーンの改革を目指すことが提起されている。

他方で、国の「食料・農業・農村基本計画」（農林水産省（平成27年3月）[http://www.maff.go.jp/j/keikaku/k\\_aratana/pdf/1\\_27keikaku.pdf](http://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/pdf/1_27keikaku.pdf)）では、多面的機能の発揮による恵沢を将来にわたって国民が享受することができるよう、農地・農業用水、美しい農村景観等の地域の資源について、地域コミュニティ等により良好な状態で保全管理が行われるための取組を推進するために、都市部の人材なども含め、農村の内外から幅広い人材や事業者等の参画を促すとともに、地域においてその能力等を最大限発揮できる環境づくりを推進すること、農業の新たな価値の創出を実現する6次産業化等の取組の質の向上と拡大に向けた戦略的推進のために、6次産業化等の取組をコーディネートする人材を育成すること、観光、教育、福祉等と連携した都市農村交流を促進するために、体験活動を支援する人材の育成等を推進すること等、多様な人材の育成と確保が課題として提起されている。

こうした産業界や社会的・公的なニーズに応えるには本学科の養成する企業人材と公務員・団体や教育・研究などの現場で活躍できる人材が必要である。

## **(3) 国際バイオビジネス学科**

本学科の特色は、今後進展するであろうと予想される農業経営の企業化やそれに伴う国際化・多角化などへの対応並びに食品企業経営における内需型の企業運営から国際化・多角化に向けた経営形態への転換が進む実情に鑑み、農学分野における農業経済学・

農業経営学と経営学・マーケティングを融合させた、いわば社会科学間における複合化を標榜していることである。

周知のように経済のソフト化が叫ばれて久しく、産業構造も第三次産業へのシフトが著しい。そのような中で 1985 年のプラザ合意以降、グローバリゼーションが進展し、その反動として産業の空洞化に象徴される地域社会の疲弊が急速に進んでおり、日本の農業や食品企業はその影響を大きく受けている。また、少子高齢化の下で市場が飽和しており、このままでは農業や食品企業は産業の成熟化を越え、産業の衰退化へと進みかねない危険をはらんでいる。

かかる状況下における、農業や食品企業が生き残るためには知識創造を行い、国際化や事業の多角化に備えた対応をすることが戦略の重要なカギとなっている。具体的には、従前のポジショニング的な静態論的アプローチから創発的アプローチ、資源ベースアプローチ、さらにダイナミック・ケイパビリティ理論に示されるように、激しい環境変化に対して経営諸資源の活用等を不断の学習を通して、絶えず動的かつ創造的に機能しなければならない。このような企業の行動プロセスと同時に、経営戦略と深く関わるイノベーションに関する対応も必要となってきた。

そのような中で、本学科では、他の農学系の学科にはない、新製品開発や新規需要開拓、多国籍展開にも対応しうる国際的な感覚、コミュニケーション能力と表現力をもち合わせ、経営戦略、マーケティング、情報管理、財務管理、資金調達、資金運用などについて戦略的に取り組むことができる人材を養成し、農学系でありながら先端の経営スキルを有する人材を輩出している。そして、その需要は農業や食品企業の国際化・多角化とともに開かれていくと思料する。

これからの農業や食品企業に求められる人材は、従前よりも増して、創造力のある人材である。創造力を身につけるには論理的思考力や課題探求力が必要である。しかし、既存の農学系の学科ではこのような人材の育成はなされておらず、特に農業分野においてはコンサルティング業務や市場創造など新たな知見を有する人材が求められているにも関わらず、大学教育レベルにおいてそれに順応できる学科は少ない。本学科で養成する人材はそういった人材需要に適合する人材であり、今後の農業や食品企業の進展に伴い需要が拡大すると予想される。なお、近時、本学科に類似する学科が他大学において設置されている事実から見て、農学系大学において農業・食品に関して、基本事項を学習しつつ、専門的なビジネス教育を行うことができる本学科の社会的需要は大であり、定員増が必要であると思われる。

#### (4) 国際食農科学科

近年、「和食」のユネスコ世界無形文化遺産登録、「能登の里山里海」等の世界農業遺産登録等々を契機に、伝統的な食農文化に対する国民的な関心が増大しつつあり、農

と食を関連づけて捉えることの重要性が示されている。食品産業の就業者数は堅調に推移しており、また、農林水産省新規就農者調査によれば、「新規雇用就農者」は堅調に推移し「新規参入者」は増加しており、食や農業に対する若年層の興味の高まりを示している。また、世界の人々の日本の食や農業農村への関心が高まり、農林水産省では農産物や食品の輸出促進と共に、食と農のインバウンド需要を地域活性化に活かそうとする戦略を展開しており、その担い手となる人材が求められている。

このような社会的背景から、本学科では、食と農の現場で能力を発揮できる卒業生の進路として、食品関連メーカー、商社など、農業経営、農業法人、食農起業家、さらに地方自治体の公務員や教員、学芸員、JA、NPO、マスメディア等を想定している。

## 2. 既設学科における進路状況

### <応用生物科学部>

#### (1) 生物応用化学科（平成 30 年度から農芸化学科に名称変更予定）

##### ① 進路状況 資料 20

資料は直近 5 年間（平成 24 年度から平成 28 年度）の進路状況を表とグラフで示したものである。平成 28 年度を例に検証すると、卒業者 157 人に対し、就職 128 人（81.5%）と進学 24 人（15.3%）の合計は 152 人となり、全体の 96.8%に上る。残り 5 人（3.2%）は、公務員試験や大学院進学の再チャレンジなど、卒業時点で最終進路が決定しなかった学生などである。

##### ② 就職状況 資料 20

資料は直近 5 年間（平成 24 年度から平成 28 年度）の就職状況にについて、業種分類毎にグラフで示したものである。平成 28 年度を例に検証すると、就職先の業種は就職者の多い順に、メーカー、サービス、商社、流通、情報通信と続く。メーカーの内訳上位は「食品・飲料」が突出して高くメーカー全体の 7 割を占める。サービスの内訳上位は「学校・専門学校」「病院・医院・医療・保健衛生」が占める。

株式会社リクルートホールディングス「ワークス採用見通し調査（新卒：2018 年卒）」資料 21によると、本学科の主な就職先業種である製造業は 2018 年の新卒採用見通しにおいて 6.3%、同様にサービス・情報業は 8.6%も採用が増えるとの見通しを示している。

以上、本学科における就職状況及び民間企業における採用見通しから、本学科が養成する人材に対する、社会的な需要は今後も継続していくと判断できる。

#### (2) 醸造科学科

##### ① 進路状況 資料 20

資料は直近 5 年間（平成 24 年度から平成 28 年度）の進路状況を表とグラフで示した

ものである。平成 28 年度を例に検証すると、卒業者 171 人に対し、就職 147 人(86.0%)と進学 18 人(10.5%)の合計は 165 人となり、全体の 96.5%に上る。残り 6 人(3.5%)は、公務員試験や大学院進学の再チャレンジなど、卒業時点で最終進路が決定しなかった学生などである。

## ② 就職状況 資料 20

資料は直近 5 年間(平成 24 年度から平成 28 年度)の就職状況にいついて、業種分類毎にグラフで示したものである。平成 28 年度を例に検証すると、就職先の業種は就職者の多い順に、メーカー、商社、流通、サービス、情報通信と続く。メーカーの内訳上位は「食品・飲料」が突出して高くメーカー全体の約 7 割を占める。商社の内訳上位も「食品・飲料」が突出して高く商社全体の約 6 割を占める。

株式会社リクルートホールディングス「ワークス採用見通し調査(新卒:2018 年卒)」資料 21によると、本学科の主な就職先業種である製造業は 2018 年の新卒採用見通しにおいて 6.3%も採用が増えるとの見通しを示している。

以上、本学科における就職状況及び民間企業における採用見通しから、本学科が養成する人材に対する、社会的な需要は今後も継続していくと判断できる。

### (3) 食品安全健康学科

本学科は平成 26 年度に開設し、平成 29 年度末に最初の卒業生を輩出するため、進路及び就職の実績を示すことはできない。

しかし、本学科の卒業生の多くが志望する食品関連企業は、前述した本学部の各学科の就職状況が示すとおり、採用実績が極めて高い。実際、平成 29 年 6 月 29 日現在、本学科の内定率は 70.2%であり、本大学他学科と比較しても、同程度かそれ以上である。また、上述の「養成する人材像に対する人材需要の動向」に示したとおり、本学科が養成する人材像は、今後ますます需要が高まることが予測され、社会的な需要はあるものと判断できる。

## <地域環境科学部>

### (1) 森林総合科学科

#### ① 進路状況 資料 20

資料は直近 5 年間(平成 24 年度から平成 28 年度)の進路状況を表とグラフで示したものである。平成 28 年度を例に検証すると、卒業者 156 人に対し、就職 128 人(82.1%)と進学 14 人(9.0%)の合計は 142 人となり、全体の 91.0%に上る。残り 14 人(9.0%)は、公務員試験や大学院進学の再チャレンジなど、卒業時点で最終進路が決定しなかった学生などである。

#### ② 就職状況 資料 20

資料は直近5年間（平成24年度から平成28年度）の就職状況にについて、業種分類毎にグラフで示したものである。平成28年度を例に検証すると、就職先の業種は就職者の多い順に、サービス、メーカー、建設業、公務、流通と続く。サービスの内訳上位は「学校・専門学校」「協同組合・郵便局」。メーカーの内訳上位は「食品・食料」「木材・木製品」。建設業の内訳上位は「土木・橋梁・造園・鉄骨」「設備工事・プラント・内装」が占める。その他、本学科の特長は、公務員が多いことで平成28年度は国家公務員3人、地方公務員10人に上る。

株式会社リクルートホールディングス「ワークス採用見通し調査（新卒：2018年卒）」**資料21**によると、本学科の主な就職先業種であるサービス・情報業は2018年の新卒採用見通しにおいて8.6%、同様に製造業は6.3%も採用が増えるとの見通しを示している。

以上、本学科における就職状況及び民間企業における採用見通しから、本学科が養成する人材に対する、社会的な需要は今後も継続していくと判断できる。

## （2）生産環境工学科

### ① 進路状況 **資料20**

資料は直近5年間（平成24年度から平成28年度）の進路状況を表とグラフで示したものである。平成28年度を例に検証すると、卒業生159人に対し、就職143人（89.9%）と進学8人（5.0%）の合計は151人となり、全体の95.0%に上る。残り8人（5.0%）は、公務員試験や大学院進学の再チャレンジなど、卒業時点で最終進路が決定しなかった学生などである。

### ② 就職状況 **資料20**

資料は直近5年間（平成24年度から平成28年度）の就職状況にについて、業種分類毎にグラフで示したものである。平成28年度を例に検証すると、就職先の業種は就職者の多い順に、公務、建設業、サービス、メーカー、商社と続く。公務の内訳は、地方公務員36人、国家公務員3人であり合計39人となる。これは就職者全体の27.3%に上り本学科の特長をなす。

株式会社リクルートホールディングス「ワークス採用見通し調査（新卒：2018年卒）」**資料21**によると、本学科の主な就職先業種である建設業は2018年の新卒採用見通しにおいて13.2%、同様にサービス・情報業は8.6%も採用が増えるとの見通しを示している。

以上、本学科における就職状況及び民間企業における採用見通しから、本学科が養成する人材に対する、社会的な需要は今後も継続していくと判断できる。

## （3）造園科学科

### ① 進路状況 **資料20**

資料は直近5年間（平成24年度から平成28年度）の進路状況を表とグラフで示したものである。平成28年度を例に検証すると、卒業者177人に対し、就職154人（87.0%）と進学11人（5.6%）の合計は165人となり、全体の93.2%に上る。残り12人（6.8%）は、公務員試験や大学院進学の再チャレンジなど、卒業時点で最終進路が決定しなかった学生などである。

## ② 就職状況 資料 20

資料は直近5年間（平成24年度から平成28年度）の就職状況にについて、業種分類毎にグラフで示したものである。平成28年度を例に検証すると、就職先の業種は就職者の多い順に、建設業、サービス、公務、商社、メーカーと続く。建設業の内訳上位は「土木・橋梁・造園・鉄骨」「コンサルタント・設計事務所」。サービスの内訳上位は「物品レンタル・物品リース」が占める。その他、本学科の特長は、公務員が多いことで平成28年度は24人が地方公務員として採用された。

株式会社リクルートホールディングス「ワークス採用見通し調査（新卒：2018年卒）」資料 21によると、本学科の主な就職先業種である建設業は2018年の新卒採用見通しにおいて13.2%、同様にサービス・情報業は8.6%も採用が増えるとの見通しを示している。

以上、本学科における就職状況及び民間企業における採用見通しから、本学科が養成する人材に対する、社会的な需要は今後も継続していくと判断できる。

## <国際食料情報学部>

### (1) 国際農業開発学科

#### ① 進路状況 資料 20

資料は直近5年間（平成24年度から平成28年度）の進路状況を表とグラフで示したものである。平成28年度を例に検証すると、卒業者151人に対し、就職125人（82.8%）と進学12人（7.9%）の合計は137人となり、全体の90.7%に上る。残り14人（9.3%）は、公務員試験や大学院進学の再チャレンジなど、卒業時点で最終進路が決定しなかった学生などである。

#### ② 就職状況 資料 20

資料は直近5年間（平成24年度から平成28年度）の就職状況にについて、業種分類毎にグラフで示したものである。平成28年度を例に検証すると、就職先の業種は就職者の多い順に、サービス、商社、メーカー、流通、情報通信と続く。サービスの内訳上位は「協同組合・郵便局」「学校・専門学校」が占める。商社の内訳は「農畜水産物・青果物・卸売市場」が突出して高く商社全体の半数を占める。

株式会社リクルートホールディングス「ワークス採用見通し調査（新卒：2018年卒）」

資料 21 によると、本学科の主な就職先業種であるサービス・情報業は 2018 年の新卒採用見通しにおいて 8.6%も採用が増えるとの見通しを示している。

以上、本学科における就職状況及び民間企業における採用見通しから、本学科が養成する人材に対する、社会的な需要は今後も継続していくと判断できる。

## (2) 食料環境経済学科

### ① 進路状況 資料 20

資料は直近 5 年間（平成 24 年度から平成 28 年度）の進路状況を表とグラフで示したものである。平成 28 年度を例に検証すると、卒業者 247 人に対し、就職 224 人（90.7%）と進学 6 人（2.4%）の合計は 230 人となり、全体の 93.1%に上る。残り 17 人（6.9%）は、公務員試験や大学院進学の再チャレンジなど、卒業時点で最終進路が決定しなかった学生などである。

### ② 就職状況 資料 20

資料は直近 5 年間（平成 24 年度から平成 28 年度）の就職状況にについて、業種分類毎にグラフで示したものである。平成 28 年度を例に検証すると、就職先の業種は就職者の多い順に、サービス、商社、メーカー、流通、金融と続く。サービスの内訳上位は「協同組合・郵便局」「学校・専門学校」。商社の内訳上位は「農畜水産物・青果物・卸売市場」「食品・飲料」が占める。

株式会社リクルートホールディングス「ワークス採用見通し調査（新卒：2018 年卒）」資料 21 によると、本学科の主な就職先業種であるサービス・情報業は 2018 年の新卒採用見通しにおいて 8.6%も採用が増えるとの見通しを示している。

以上、本学科における就職状況及び民間企業における採用見通しから、本学科が養成する人材に対する、社会的な需要は今後も継続していくと判断できる。

## (3) 国際バイオビジネス学科

### ① 進路状況 資料 20

資料は直近 5 年間（平成 24 年度から平成 28 年度）の進路状況を表とグラフで示したものである。平成 28 年度を例に検証すると、卒業者 205 人に対し、就職 171 人（83.4%）と進学 16 人（7.8%）の合計は 187 人となり、全体の 91.2%に上る。残り 18 人（8.8%）は、公務員試験や大学院進学の再チャレンジなど、卒業時点で最終進路が決定しなかった学生などである。

### ② 就職状況 資料 20

資料は直近 5 年間（平成 24 年度から平成 28 年度）の就職状況にについて、業種分類毎にグラフで示したものである。平成 28 年度を例に検証すると、就職先の業種は就職者の多い順に、メーカー、商社、サービス、流通、情報通信と続く。メーカーの内訳上位は「食品・飲料」「化学・医薬・化粧品」。商社の内訳上位は「食品・飲料」「農畜水産

物・青果物・卸売市場」が占める。

株式会社リクルートホールディングス「ワークス採用見通し調査(新卒:2018年卒)」  
資料 21 によると、本学科の主な就職先業種である製造業は 2018 年の新卒採用見通し  
において 6.3%も採用が増えるとの見通しを示している。

以上、本学科における就職状況及び民間企業における採用見通しから、本学科が養成  
する人材に対する、社会的な需要は今後も継続していくと判断できる。

### 3. 新設学科卒業生に対する採用意向調査

平成 29 年 4 月に新設した生命科学部(バイオサイエンス学科、分子生命化学科及び  
分子微生物学科)、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科  
の開設に向けて、当該学科の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的と  
し、平成 27 年度に実施したものであるが、この度の収容定員変更の検討資料として利  
用する資料 22。

#### (1) 調査概要

##### ① 調査目的

平成 29 年 4 月に予定している東京農業大学生命科学部(仮称)、地域環境科学部地  
域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の開設に向けて、東  
京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる、全国 47  
都道府県の企業等の採用担当者にアンケートを実施し、東京農業大学生命科学部(仮称)、  
地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の  
卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

##### ② 調査対象

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等  
4,000 社の採用担当者にアンケートを実施し、945 件の有効回答があった。

##### ③ 調査方法

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等  
4,000 社の採用担当者にアンケート用紙及び東京農業大学生命科学部(仮称)、地域環  
境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の概要を  
示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ企  
業等から直接郵送。

集計結果より、東京農業大学生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮  
称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の卒業生に対する採用意向を分析した。

##### ④ 調査実施期間

平成 27 年 9 月～平成 27 年 11 月

## ⑤ 有効回収率等

配布数 : 4,000 社

有効回答数 : 945 件

有効回収率 : 約 23.6%

## (2) 調査結果

### ① 生命科学部バイオサイエンス学科

本学科の卒業生の採用意向調査の結果、回答のあった企業等945件のうち、「採用したい」が183件(19.4%)、「採用を検討したい」が454件(48.0%)であった。

本学科の卒業生を「採用したい」とした回答数183件に、将来的な採用人数の各選択肢(「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上(5人として計算)」、「人数は未確定(1人として計算)」)を乗じ、これを合計した結果、213人分となる。変更後の入学定員は150名であるため、1.42倍の採用意向を確保できている。

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、本学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

### ② 生命科学部分子生命化学科

本学科の卒業生の採用意向調査の結果、回答のあった企業等945件のうち、「採用したい」が164件(17.4%)、「採用を検討したい」が468件(49.5%)であった。

本学科の卒業生を「採用したい」とした回答数164件に、将来的な採用人数の各選択肢(「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上(5人として計算)」、「人数は未確定(1人として計算)」)を乗じ、これを合計した結果、195人分となる。変更後の入学定員は130名であるため、1.5倍の採用意向を確保できている。

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、本学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

### ③ 生命科学部分子微生物学科

本学科の卒業生の採用意向調査の結果、回答のあった企業等945件のうち、「採用したい」が173件(18.3%)、「採用を検討したい」が465件(49.2%)であった。

本学科の卒業生を「採用したい」とした回答数173件に、将来的な採用人数の各選択肢(「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上(5人として計算)」、「人数は未確定(1人として計算)」)を乗じ、これを合計した結果、211人分となる。変更後の入学定員は130名であるため、約1.62倍の採用意向を確保できている。

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、本学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

### ④ 地域環境科学部地域創成科学科

本学科の卒業生の採用意向調査の結果、回答のあった企業等945件のうち、「採用し

たい」が253件（26.8%）、「採用を検討したい」が462件（48.9%）であった。

本学科の卒業生を「採用したい」とした回答数253件に、将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上（5人として計算）」、「人数は未確定（1人として計算）」）を乗じ、これを合計した結果、341人分となる。変更後の入学定員は100名であるため、3.41倍の採用意向を確保できている。

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、本学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

#### ⑤ 国際食料情報学部国際食農科学科

本学科の卒業生の採用意向調査の結果、回答のあった企業等945件のうち、「採用したい」が211件（22.3%）、「採用を検討したい」が470件（49.7%）であった。

本学科の卒業生を「採用したい」とした回答数211件に、将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上（5人として計算）」、「人数は未確定（1人として計算）」）を乗じ、これを合計した結果、278人分となる。変更後の入学定員は110名であるため、約2.53倍の採用意向を確保できている。

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、本学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

# 学生の確保の見通し等を記載した書類

(東京農業大学)

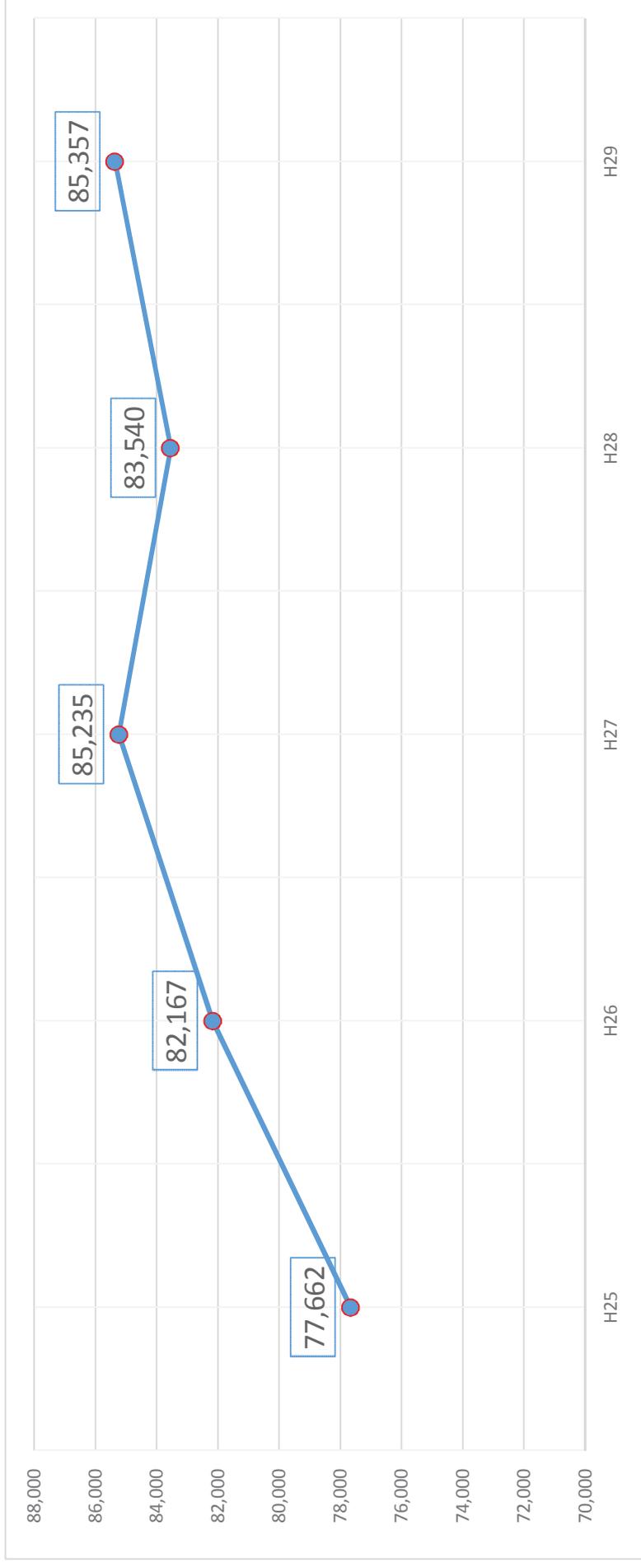
## 資料目次

- 資料1 18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移 (内閣府)
- 資料2 平成25年度～平成29年度農学系大学志願者数の推移
- 資料3 平成25年度～平成29年度カテゴリー別志願倍率の推移
- 資料4 平成25年度～平成29年度東京農業大学入試動向
- 資料5 平成25年度～29年度 学科別入試動向
- 資料6 首都圏私立大学進学ガイダンス
- 資料7 高校生新聞 (7・8月号、10月号)、東進タイムス (9月号、10月号)
- 資料8 山手線新型車両ADトレイン実施報告書
- 資料9 東京農業大学キャンパスツアー2016 (パンフレット)
- 資料10 OPEN CAMPUS 2016 (パンフレット)
- 資料11 進学説明会 (第125回収穫祭同時開催)
- 資料12 夢ナビライブ2016 (東京会場)
- 資料13 ミライガク2016 (パンフレット)
- 資料14 北九州 ゆめみらいワーク (パンフレット)
- 資料15 食品産業動向調査結果 (株式会社日本政策金融公庫)
- 資料16 ニュースリリース「平成27年度上半期消費者動向調査」  
(株式会社日本政策金融公庫)
- 資料17 食品健康影響評価の審議状況 (内閣府 食品安全委員会)
- 資料18 厚生労働科学研究成果データベース (厚生労働省)
- 資料19 機能性表示食品に関するパンフレット (消費者庁)
- 資料20 平成24年～28年度 学科別進路等状況
- 資料21 ワークス採用見通し調査 (新卒：2018年度卒)  
(株式会社リクルート ホールディングス)
- 資料22 卒業生に対する企業等の採用意向等に関するアンケート調査報告  
(一般財団法人日本開発構想研究所)

以上



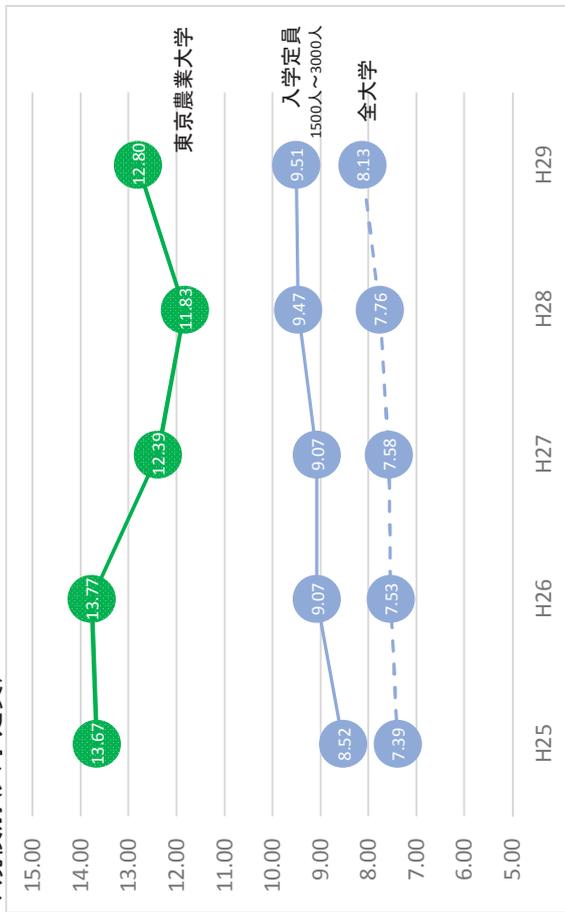
## 平成25年度～平成29年度 農学系大学 志願者数の推移



| 年度  | 集計学部数 | 入学定員 A | 志願者 B  | 受験者 C  | 合格者 D  | 入学者 E | 志願倍率 B/A | 合格率 D/C | 歩留率 E/D | 入学定員充足率 E/A |
|-----|-------|--------|--------|--------|--------|-------|----------|---------|---------|-------------|
| H25 | 17    | 6,960  | 77,662 | 74,596 | 20,640 | 7,814 | 11.16    | 27.67   | 37.86   | 112.27      |
| H26 | 17    | 6,960  | 82,167 | 78,620 | 21,842 | 7,789 | 11.81    | 27.78   | 35.66   | 111.91      |
| H27 | 18    | 7,515  | 85,235 | 81,261 | 24,459 | 8,491 | 11.34    | 30.1    | 34.72   | 112.99      |
| H28 | 18    | 7,515  | 83,540 | 79,288 | 24,805 | 8,416 | 11.12    | 31.28   | 33.93   | 111.99      |
| H29 | 18    | 7,741  | 85,357 | 80,682 | 25,443 | 8,174 | 11.03    | 31.53   | 32.13   | 105.59      |

## 平成25年度～平成29年度 カテゴリー別志願倍率の推移

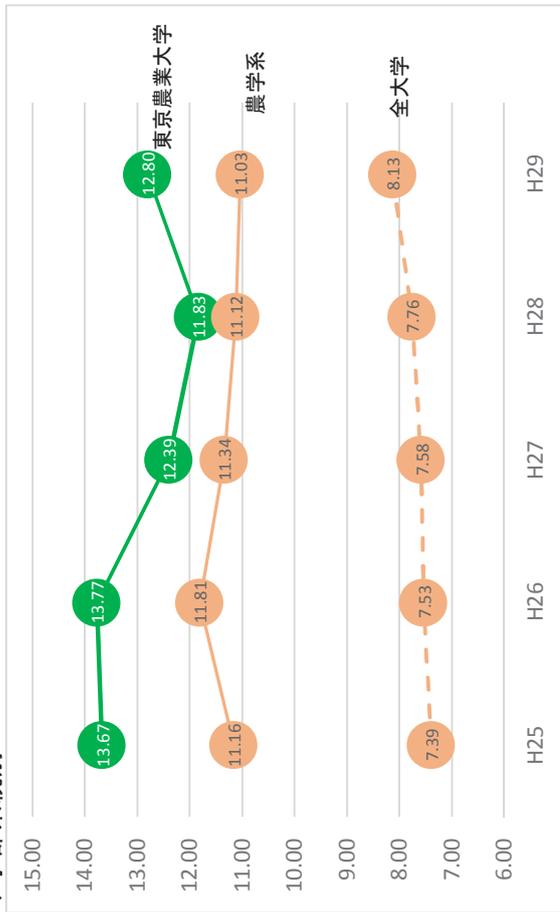
◆規模別(入学定員)



◆学部所在地別

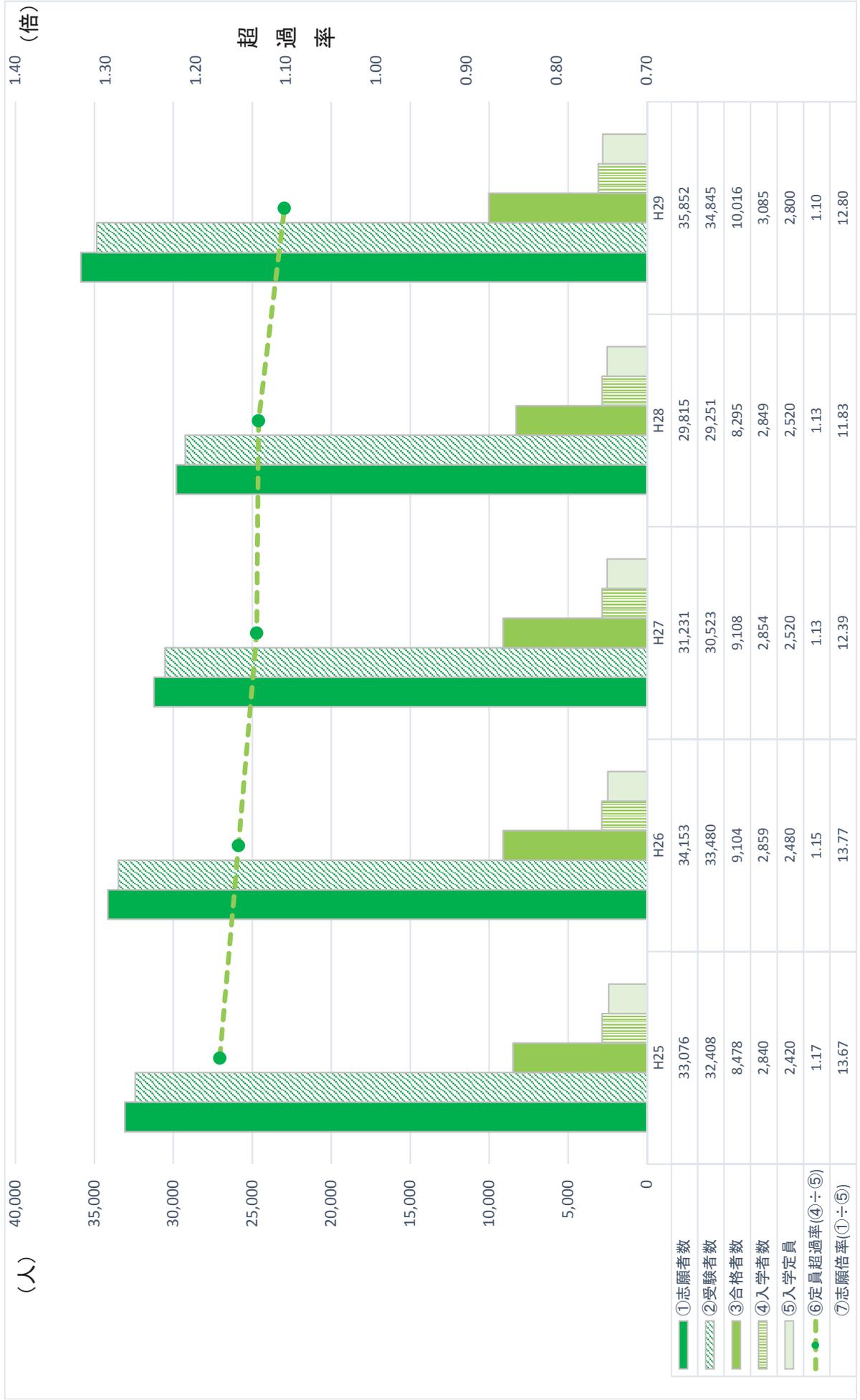


◆学部系統別

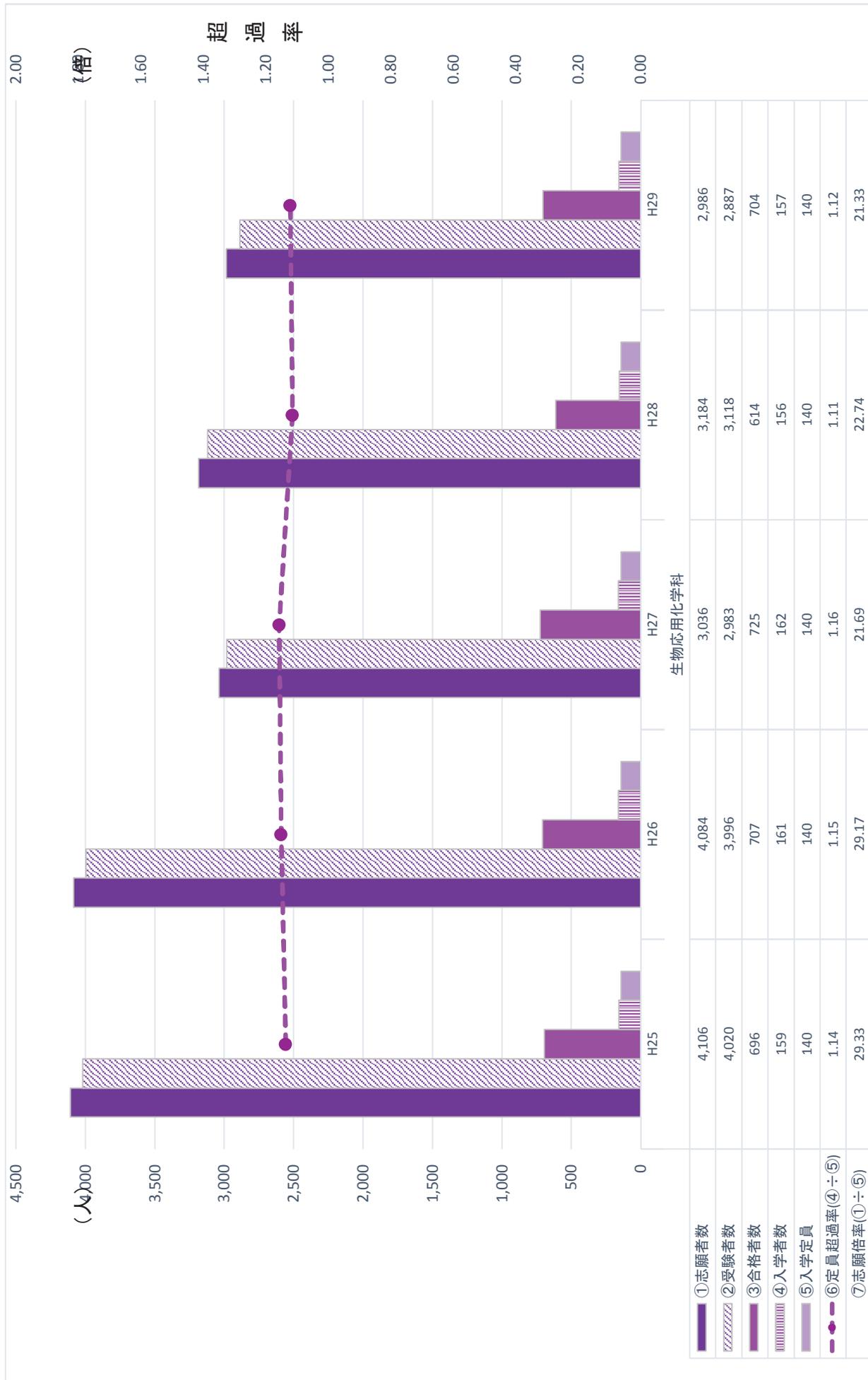


※志願倍率は志願者数を入学定員で除して算出した。  
 ※本学以外の数値は日本私立学校振興・共済事業団が発行する「私立大学・短期大学等 入学志願動向」から算出している。

# 平成25年度～平成29年度 東京農業大学 入試動向

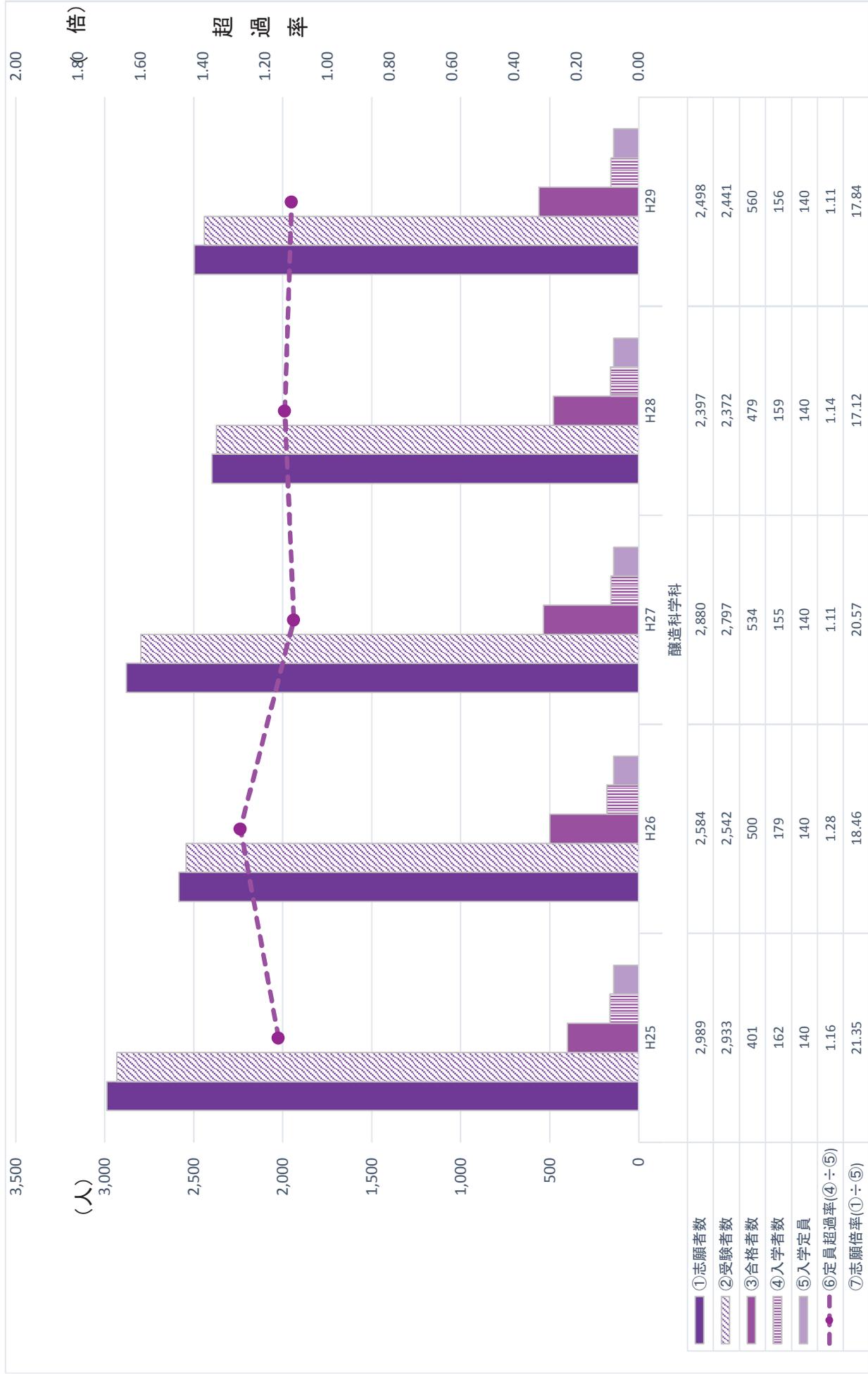


平成25年度～平成29年度 応用生物科学部 生物応用化学科 入試動向

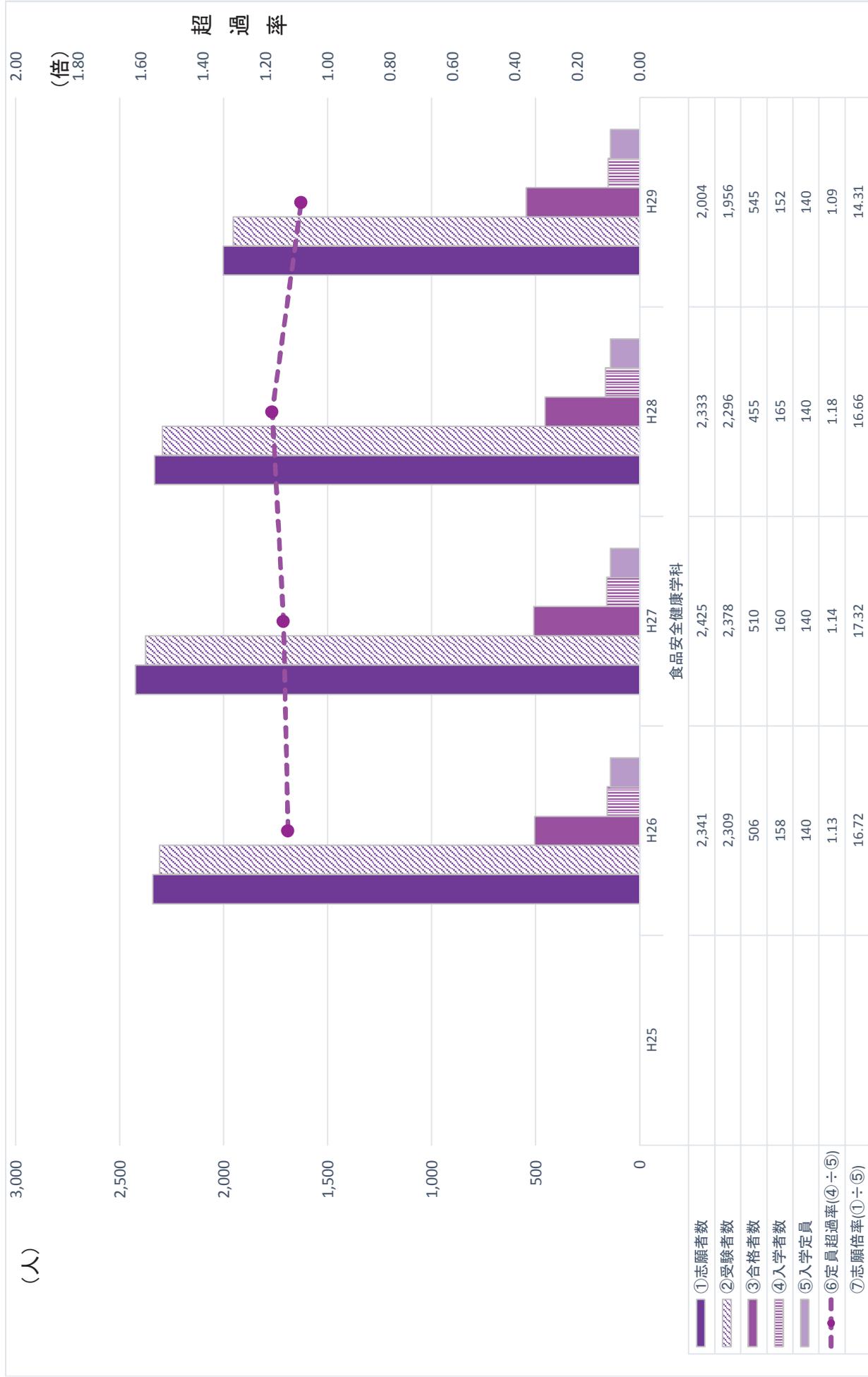


出典：東京農業大学 入試センター

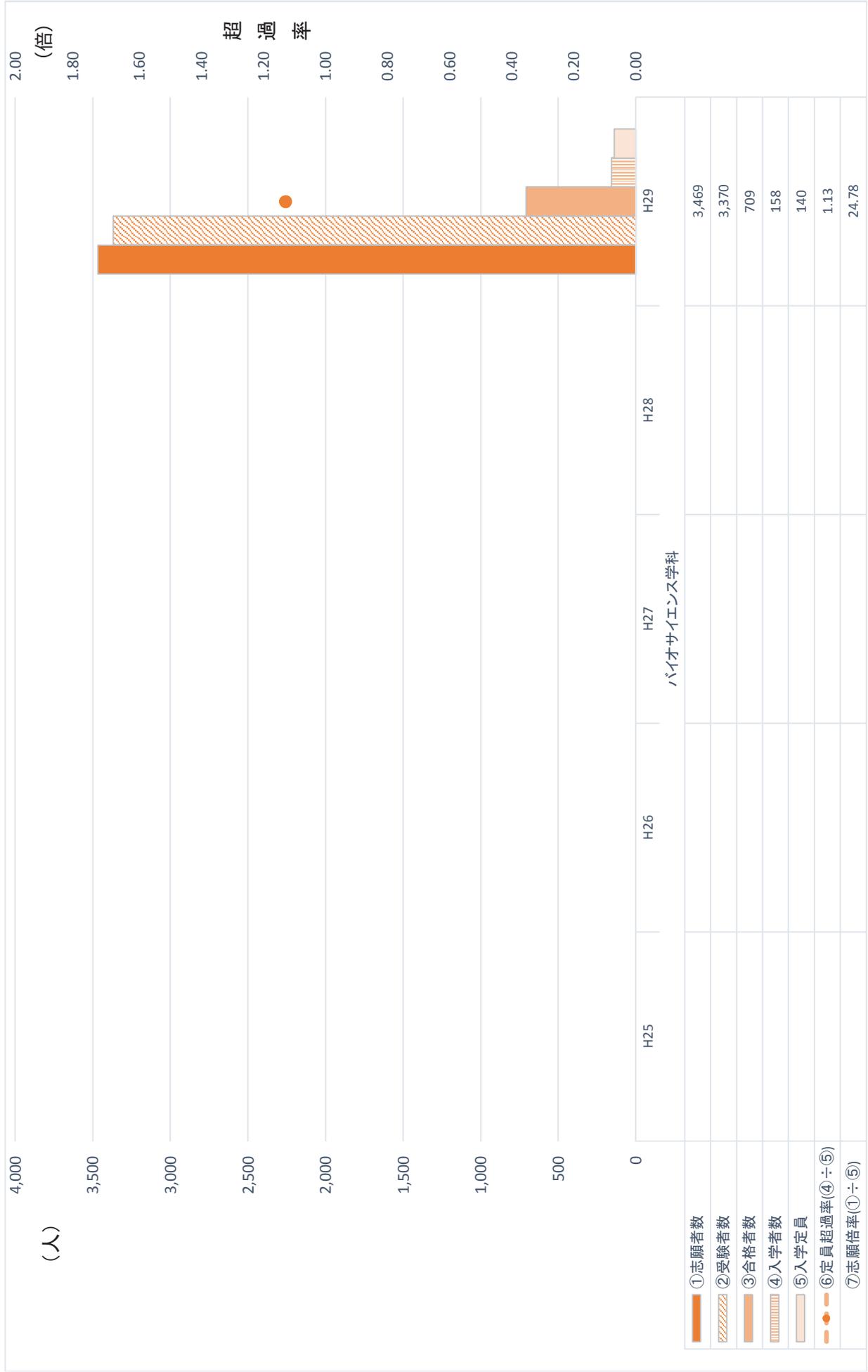
# 平成25年度～平成29年度 応用生物科学部 醸造科学科 入試動向



# 平成25年度～平成29年度 応用生物科学部 食品安全健康学科 入試動向

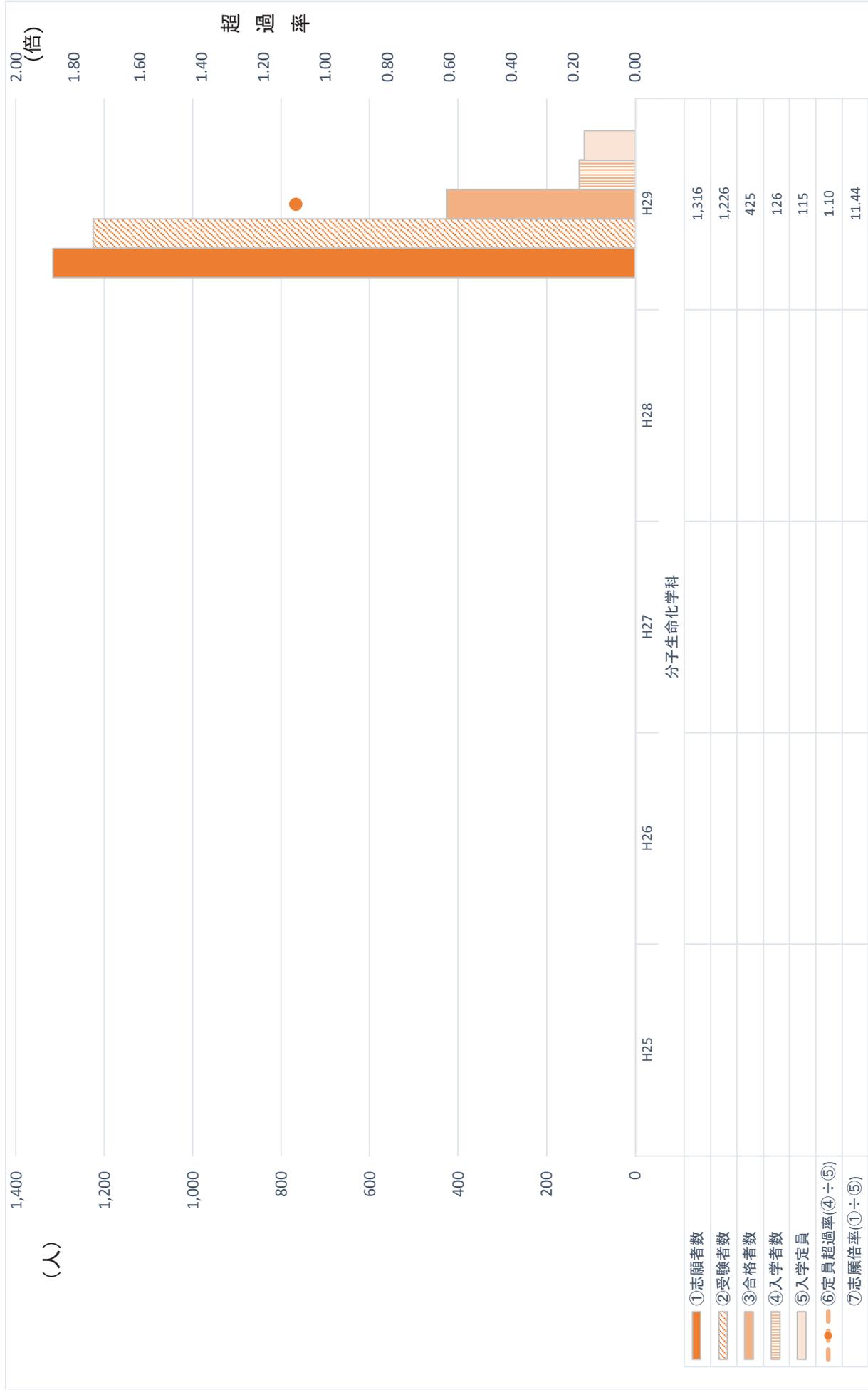


# 平成25年度～平成29年度 生命科学部 バイオサイエンス学科 入試動向

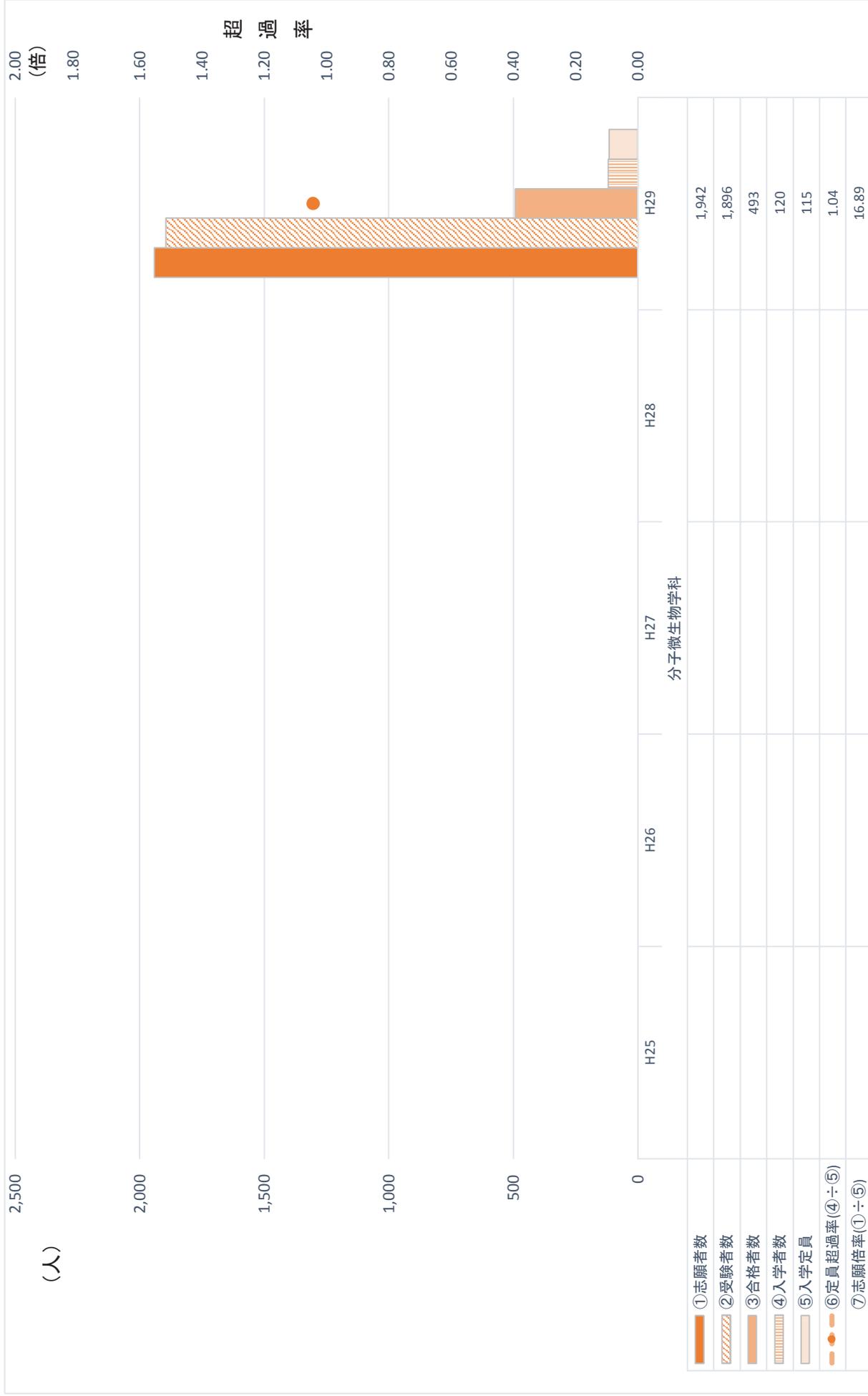


出典：東京農業大学 入試センター

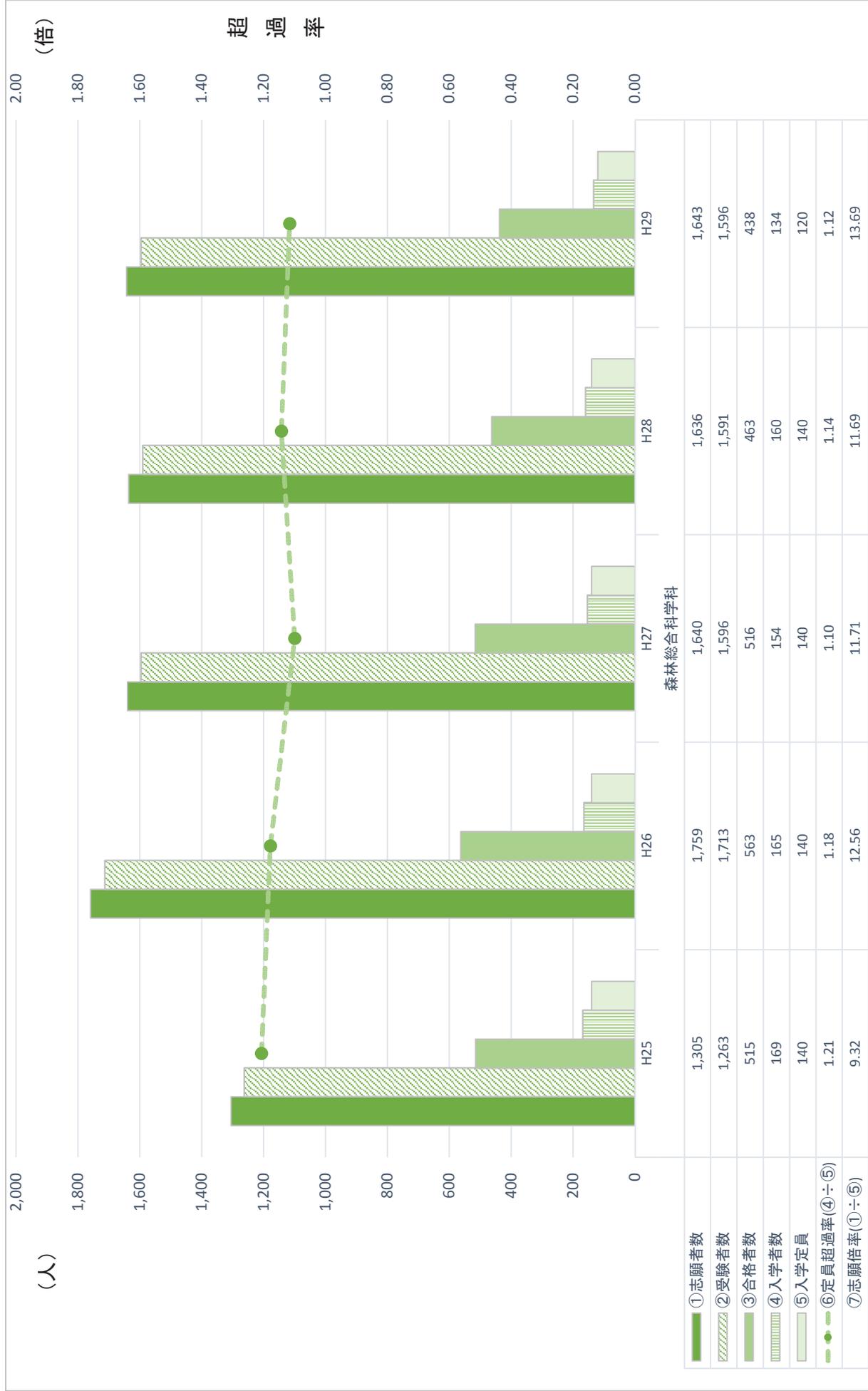
# 平成25年度～平成29年度 生命科学部 分子生命化学科 入試動向



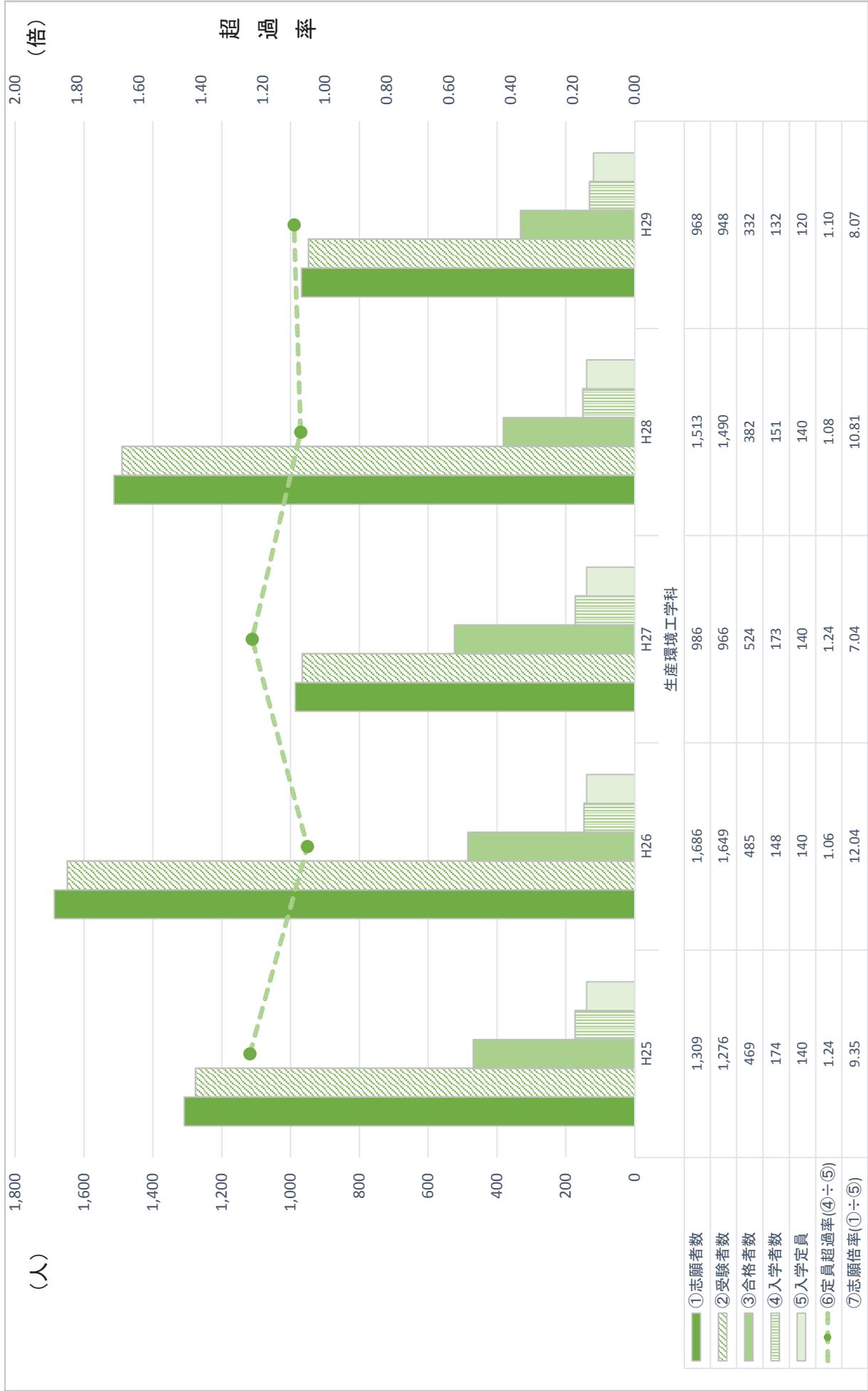
# 平成25年度～平成29年度 生命科学部 分子微生物学 入試動向



# 平成25年度～29年度 地域環境科学部 森林総合科学科 入試動向

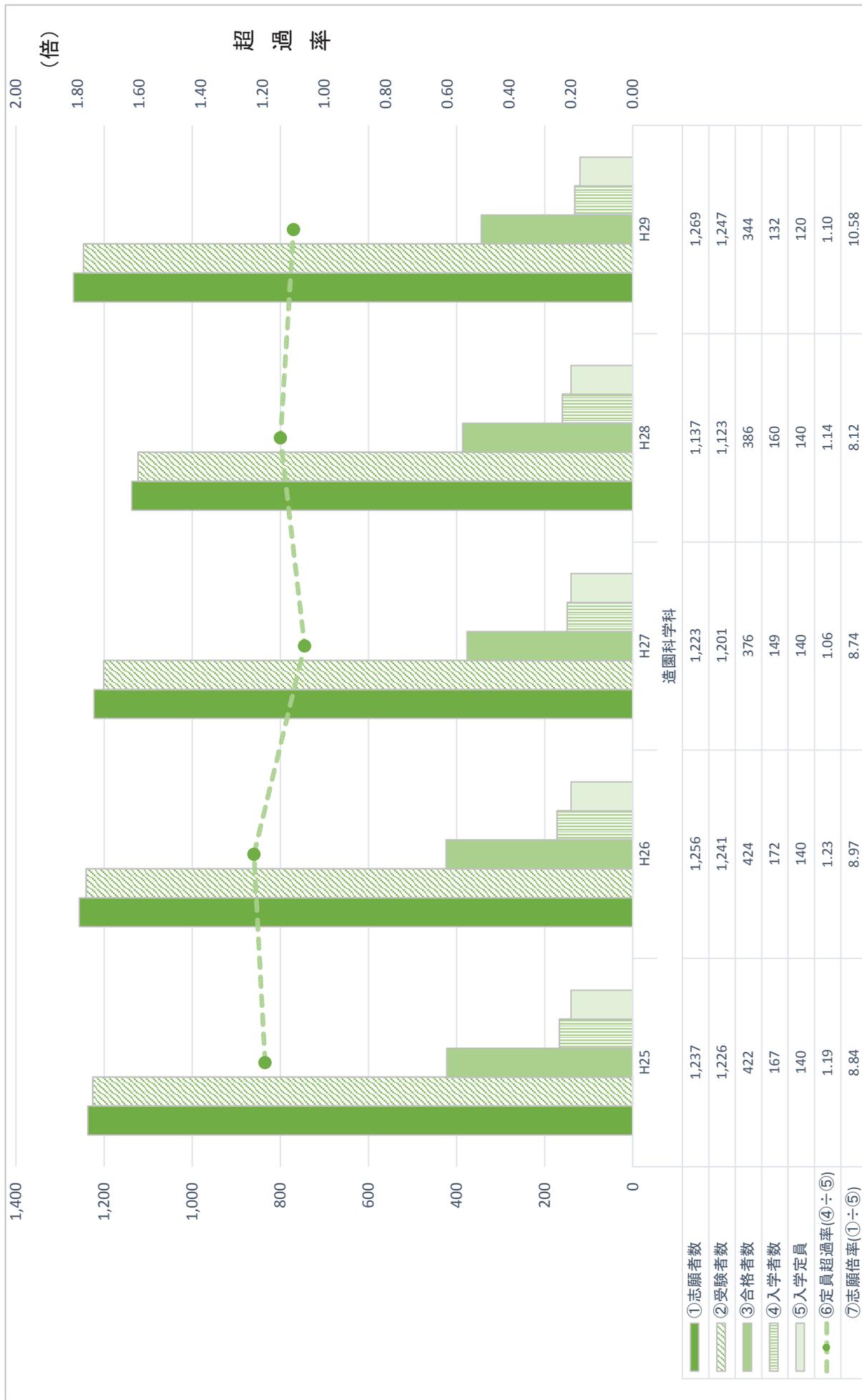


# 平成25年度～29年度 地域環境科学部 生産環境工学科 入試動向

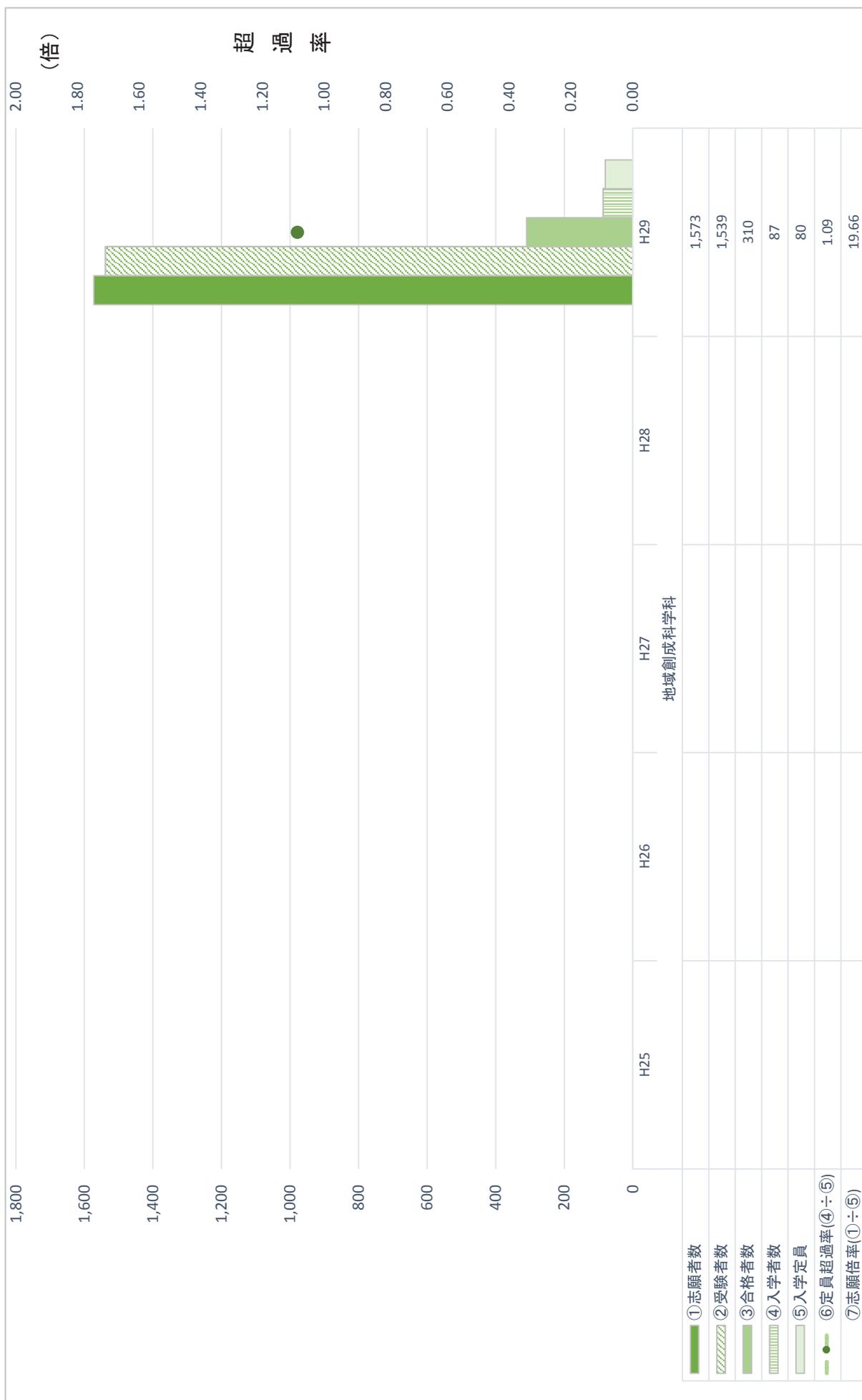


出典: 東京農業大学 入試センター

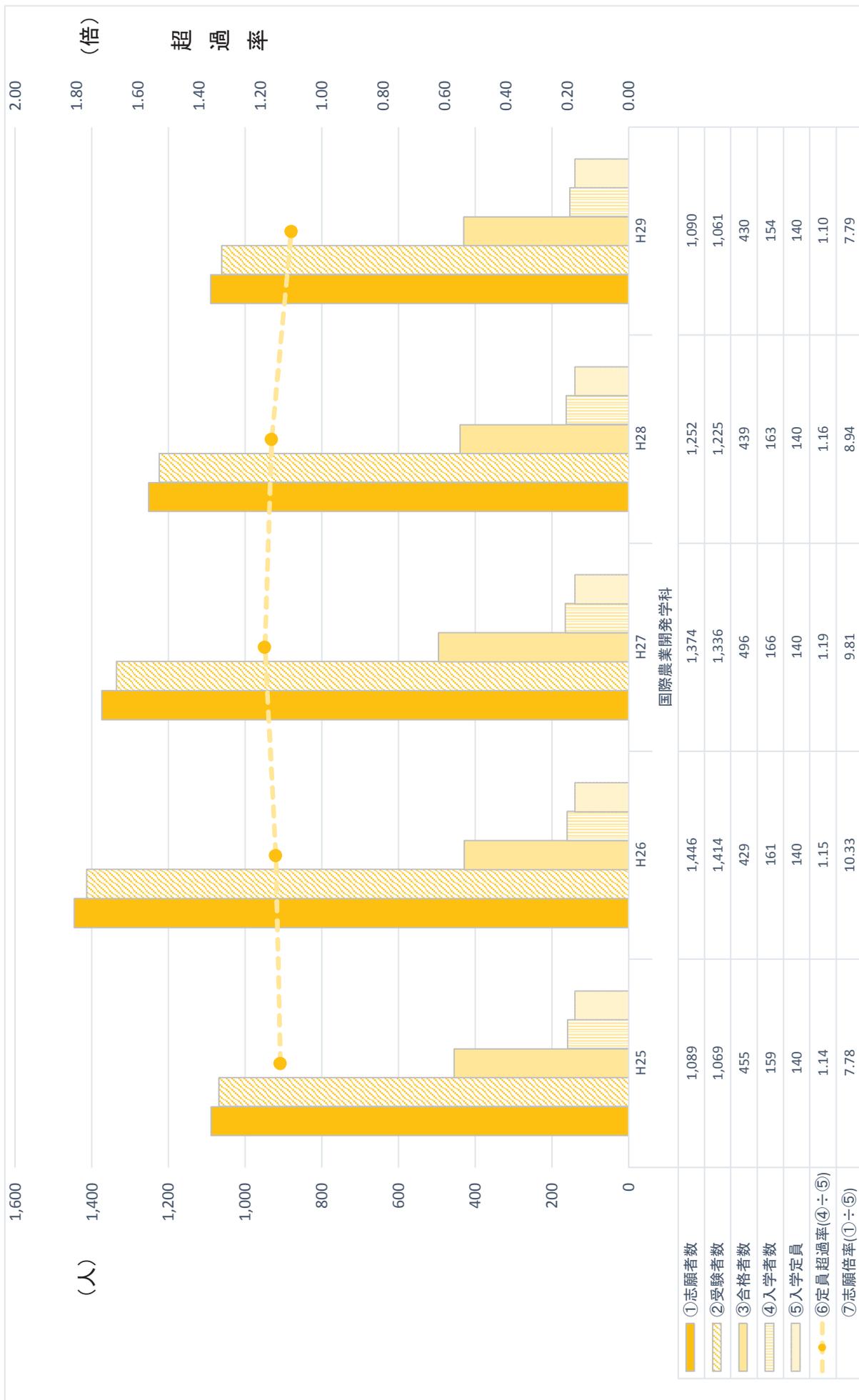
# 平成25年度～29年度 地域環境科学部 造園科学科 入試動向



# 平成25年度～29年度 地域環境科学部 地域創成科学科 入試動向

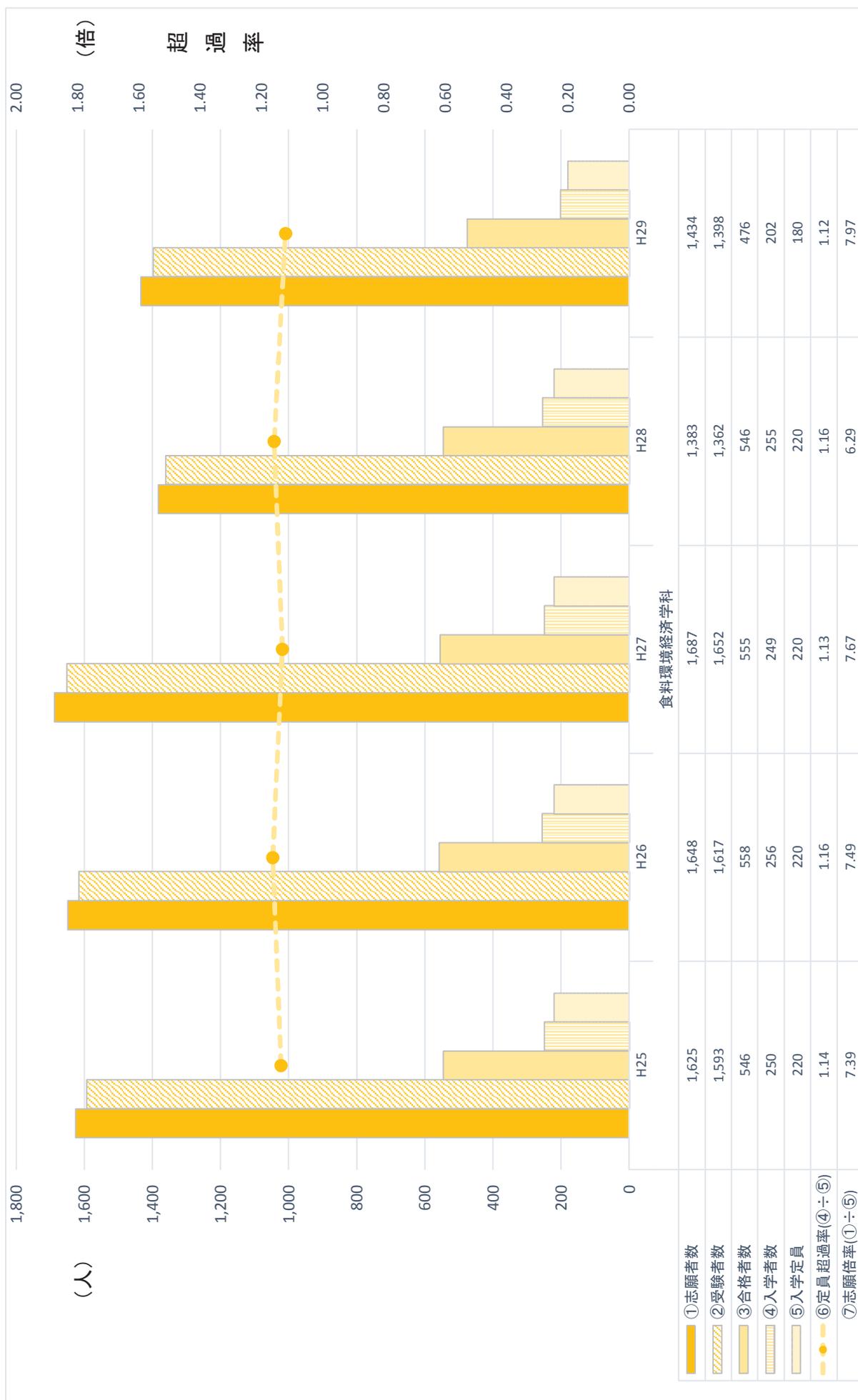


# 平成25年度～29年度 国際食料情報学部 国際農業開発学科 入試動向

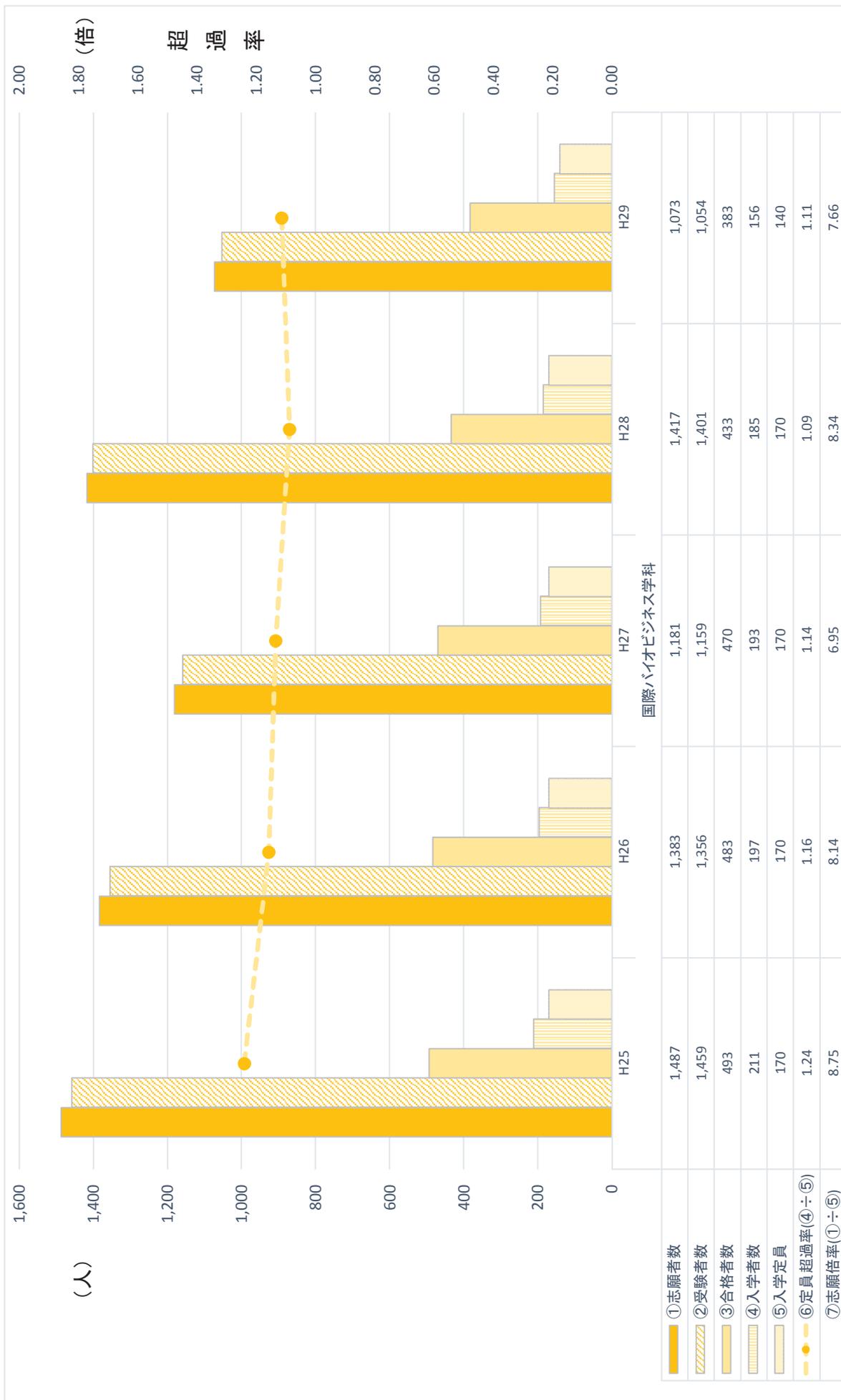


出典：東京農業大学 入試センター

# 平成25年度～29年度 国際食料情報学部 食料環境経済学科 入試動向

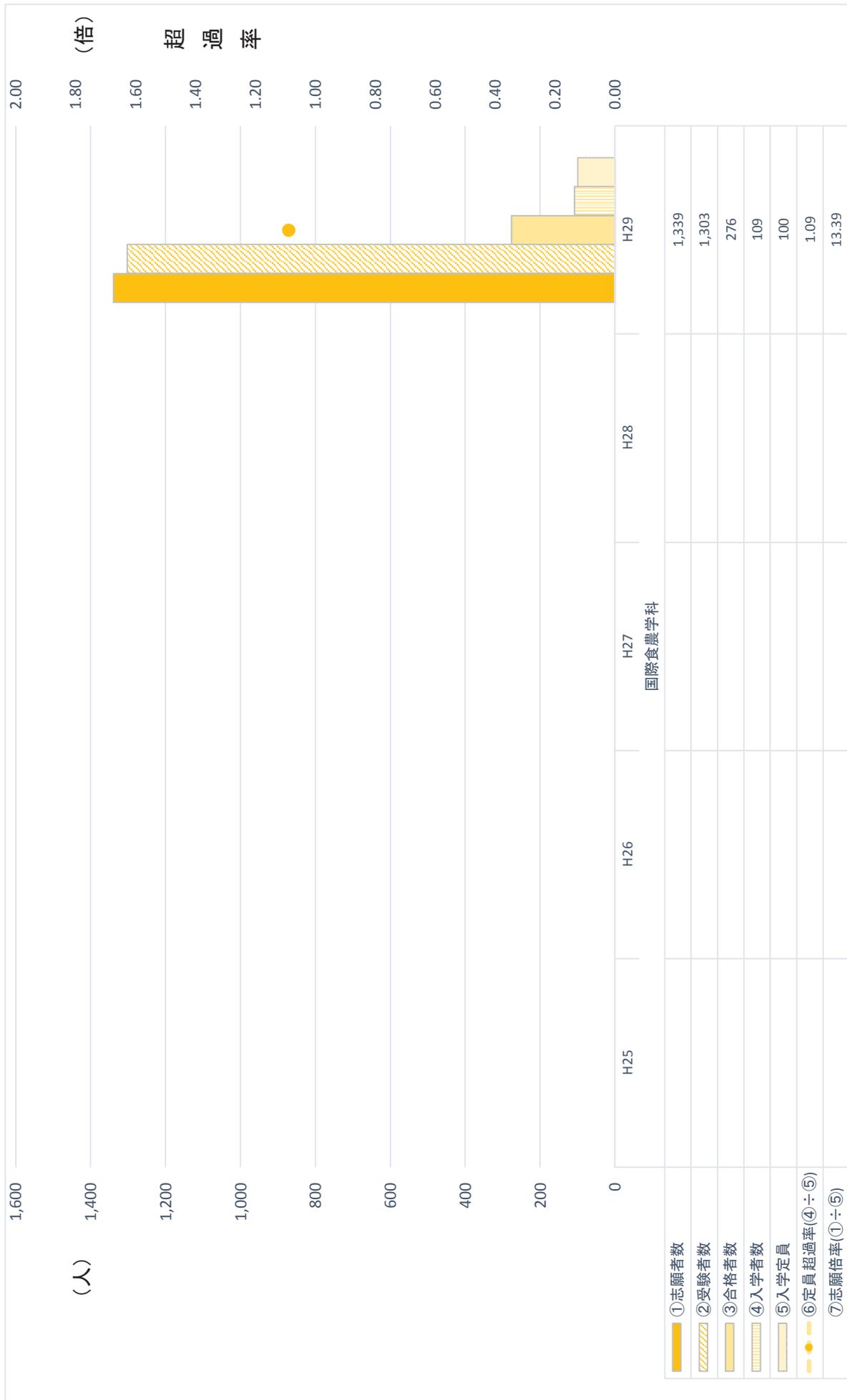


# 平成25年度～29年度 国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科 入試動向



出典：東京農業大学 入試センター

# 平成25年度～29年度 国際食料情報学部 国際食農科学科 入試動向



出典：東京農業大学 入試センター



# 希望の“学び”がある大学を見つけよう!

# 系統・分野別index

この頁では、本日参加している大学を系統・分野別に紹介しています。自分の興味や得意を活かせる学校選びをする上でさらに学びが楽しくなり、充実したキャンパスライフが送れるはず。学びたい分野の項目に、その学問が学べる大学名、ブース番号が並んでいて是非是非を聞いてみましょう。  
自分にあう志望校を選ぶためには、多くの大学についているような角度から調べて、比較検討をしてみることが大切。同じ学部でも複数の大学間を比較してみると、いろいろなお話が聞けますよ。

| 系統          | 分野       | 大学     | ブース番号 |
|-------------|----------|--------|-------|
| 文学・歴史・心理・人間 | 文学       | 神奈川大学  | ①     |
|             |          | 慶応義塾大学 | ②     |
|             |          | 横浜国立大学 | ③     |
|             |          | 成城大学   | ④     |
|             |          | 大東文化大学 | ⑤     |
|             | 歴史・心理・人間 | 神奈川大学  | ⑥     |
|             |          | 慶応義塾大学 | ⑦     |
|             |          | 横浜国立大学 | ⑧     |
|             |          | 成城大学   | ⑨     |
|             |          | 大東文化大学 | ⑩     |
| 心理学         | 神奈川大学    | ⑪      |       |
|             | 慶応義塾大学   | ⑫      |       |
|             | 横浜国立大学   | ⑬      |       |
|             | 成城大学     | ⑭      |       |
|             | 大東文化大学   | ⑮      |       |
|             | 外国語学     | 神奈川大学  | ⑯     |
|             |          | 慶応義塾大学 | ⑰     |
|             |          | 横浜国立大学 | ⑱     |
|             |          | 成城大学   | ⑲     |
|             |          | 大東文化大学 | ⑳     |
| 言語学         |          | 神奈川大学  | ㉑     |
|             |          | 慶応義塾大学 | ㉒     |
|             |          | 横浜国立大学 | ㉓     |
|             |          | 成城大学   | ㉔     |
|             |          | 大東文化大学 | ㉕     |
|             | 国際関係学    | 神奈川大学  | ㉖     |
|             |          | 慶応義塾大学 | ㉗     |
|             |          | 横浜国立大学 | ㉘     |
|             |          | 成城大学   | ㉙     |
|             |          | 大東文化大学 | ㉚     |

| 系統  | 分野     | 大学     | ブース番号 |
|-----|--------|--------|-------|
| 経済学 | 神奈川大学  | ①      |       |
|     | 慶応義塾大学 | ②      |       |
|     | 横浜国立大学 | ③      |       |
|     | 成城大学   | ④      |       |
|     | 大東文化大学 | ⑤      |       |
|     | 経営学    | 神奈川大学  | ⑥     |
|     |        | 慶応義塾大学 | ⑦     |
|     |        | 横浜国立大学 | ⑧     |
|     |        | 成城大学   | ⑨     |
|     |        | 大東文化大学 | ⑩     |
| 経営学 |        | 神奈川大学  | ⑪     |
|     |        | 慶応義塾大学 | ⑫     |
|     |        | 横浜国立大学 | ⑬     |
|     |        | 成城大学   | ⑭     |
|     |        | 大東文化大学 | ⑮     |
|     | 経営学    | 神奈川大学  | ⑯     |
|     |        | 慶応義塾大学 | ⑰     |
|     |        | 横浜国立大学 | ⑱     |
|     |        | 成城大学   | ⑲     |
|     |        | 大東文化大学 | ⑳     |

| 系統  | 分野     | 大学     | ブース番号 |
|-----|--------|--------|-------|
| 社会学 | 神奈川大学  | ①      |       |
|     | 慶応義塾大学 | ②      |       |
|     | 横浜国立大学 | ③      |       |
|     | 成城大学   | ④      |       |
|     | 大東文化大学 | ⑤      |       |
|     | 社会学    | 神奈川大学  | ⑥     |
|     |        | 慶応義塾大学 | ⑦     |
|     |        | 横浜国立大学 | ⑧     |
|     |        | 成城大学   | ⑨     |
|     |        | 大東文化大学 | ⑩     |
| 社会学 |        | 神奈川大学  | ⑪     |
|     |        | 慶応義塾大学 | ⑫     |
|     |        | 横浜国立大学 | ⑬     |
|     |        | 成城大学   | ⑭     |
|     |        | 大東文化大学 | ⑮     |

| 系統 | 分野       | 大学     | ブース番号 |   |
|----|----------|--------|-------|---|
| 工学 | 電気電子情報工学 | 神奈川大学  | ①     |   |
|    | 神奈川大学    | ②      |       |   |
|    | 慶応義塾大学   | ③      |       |   |
|    | 横浜国立大学   | ④      |       |   |
|    | 成城大学     | ⑤      |       |   |
|    | 工学       | 機械工学   | 神奈川大学 | ⑥ |
|    |          | 慶応義塾大学 | ⑦     |   |
|    |          | 横浜国立大学 | ⑧     |   |
|    |          | 成城大学   | ⑨     |   |
|    |          | 大東文化大学 | ⑩     |   |
| 工学 |          | 建築学    | 神奈川大学 | ⑪ |
|    |          | 慶応義塾大学 | ⑫     |   |
|    |          | 横浜国立大学 | ⑬     |   |
|    |          | 成城大学   | ⑭     |   |
|    |          | 大東文化大学 | ⑮     |   |

| 系統 | 分野       | 大学     | ブース番号 |   |
|----|----------|--------|-------|---|
| 工学 | 電気電子情報工学 | 神奈川大学  | ①     |   |
|    | 神奈川大学    | ②      |       |   |
|    | 慶応義塾大学   | ③      |       |   |
|    | 横浜国立大学   | ④      |       |   |
|    | 成城大学     | ⑤      |       |   |
|    | 工学       | 機械工学   | 神奈川大学 | ⑥ |
|    |          | 慶応義塾大学 | ⑦     |   |
|    |          | 横浜国立大学 | ⑧     |   |
|    |          | 成城大学   | ⑨     |   |
|    |          | 大東文化大学 | ⑩     |   |
| 工学 |          | 建築学    | 神奈川大学 | ⑪ |
|    |          | 慶応義塾大学 | ⑫     |   |
|    |          | 横浜国立大学 | ⑬     |   |
|    |          | 成城大学   | ⑭     |   |
|    |          | 大東文化大学 | ⑮     |   |



# 地域をつなぎ、元気にする達人 地域コーディネーター になるう!

今、日本国内には過疎化や少子高齢化あるいは自然災害といった問題を抱え、衰退している地域が少なくありません。そうした地域の問題を解決し、「自然と人との共生」をテーマに持続可能な地域づくりを目指す学科が、来春、東京農業大学地域環境科学部に誕生します。その名は「地域創成科学科」<sup>※</sup>。同学科の目標や学びについて宮林茂幸教授に伺いました。

※2017年4月開設予定

## トータルな視点から「地域づくり」を考える

「これまで地域環境科学部では、林学・農業工学・造園学という3つの学問分野から、山村・農村・都市部の地域環境や地域資源の保全・利用に関する教育研究を行ってきました。しかし近年、地域が抱える問題は、過疎化や少子高齢化、農業や林業の後継者不足、頻発する自然災害、里山破壊など地域の存続にかかわる総合的な課題が多様化しています。こうした問題を解決し、地域を再生し、持続的に発展させていくためにはどうすればよいのか。それを考えるのが地域創成科学科です。既存の学問分野を横断し、自然科学や政策学など文理を融合させ、トータルな視点から『地域づくり』を学びます」と宮林教授は説明する。

都市部に暮らす人にとって、農山村地域の問題はあまり身近に感じられないかもしれない。だが実際は、食料の生産、水資源の確保、さらに防災という点でも、農山村と都市部は深くつながっているのだ。「例えば、昨年9月の関東・東北豪雨では茨城県内で鬼怒川が氾濫し、多くの被害が出ましたね。でも、上流域の森林の土壌にもっと長い時間雨水をとどめておける保水力があれば、下流域の被害を軽減できたはず。日本の河川は諸外国に比べて勾配がきつくと、さらに梅雨や台風があるため、洪水や土砂災害が発生しやすい。農林業を再生し、元気な地域を守ることは、都市部を自然災害から守ることであるのです」

地域創成科学科では、「自然再生」「地域マネジメント」という2つの研究分野を設置。生物多様性や生態系に配慮した土地の利用法、地域の防災力を強化する国土保全・管理技術、農業・林業・畜産を結びつけた新たな農村空間を創出する手法などを学び、安心・安全で、持続可能な地域づくりに貢献できる人材の養成を目指していく。

## 地域と地域を結び Win-Winな関係を

宮林教授は「地域再生」や「農山村と都市の交流」といったテーマを専門に研究し、地域をつなぐコーディネーターとしてさまざまな取り組みを行っている。その一つが、群馬県川場村と東京都世

田谷区との交流事業だ。

交流が始まったのは35年前。「初めて川場村を訪れ、放置され荒れた森林を目にした時、ここをきちんと管理して美しい里山の姿に戻したいと思ったのがきっかけです」と宮林教授は振り返る。特に、里山や人工林は、定期的に保育(植林、下草刈り、間伐など)をし伐採するなど適正な管理を行わないと林内に生息する生物が単一化してしまう。水資源の涵養にも悪影響が出る。しかし、川場村には人手がなかった。



夏にはひまわり畑に变身。地域の人たちと

そこで宮林教授が声をかけたのが世田谷区だ。川場村があるのは利根川の上流域。そして、世田谷区は利根川の水の恩恵を受ける下流域にある。一つの川を介してつながっている村民と区民が一緒に森林の手入れをするしくみを考え、川場村に世田谷区の里山を作ったのだ。「農山村には昔ながらの暮らしの知恵や、文化、伝統技術が息づいているんです。例えば、炊飯器がなければ竹筒でご飯を炊く。鋏を忘れて畑に行ってしまうと、そのあたりに生えている、竹を切って、木を切って、つると石を使ってばと鋏を作ってしまう。そんな「自然と共生するための知恵」を村の人に教えてもらいながら、区民が「林業や農業、かやぶき体験などを楽しめるようにし、保全活動につなげていきました」

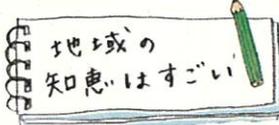
取り組みは実を結び、交流開始前は年間2~3万人だった川場村の観光客は、今や190万人にのぼる。その多くがリピーターだ。川場村は世田谷区民の「第二のふるさと」として親しまれてい

る。また、森林の間伐材を燃やして発電した電力を世田谷区が買い取るなど、川場村に継続的に利益をもたらすシステムも検討されている。「地域交流を進める際には、双方の地域の声を聞き、双方にメリットをもたらすWin-Win(ウィンウィン)な関係を築くことが大切です。川場村のような地域が増えていけば、日本全体が元気になると思います」

## 地域に足を運び 現場で学ぶ

地域づくりを考えていく上で欠かせないのは、「地域を知ること」だ。地域の生態や特性は地域ごとに異なる。たとえ抱えている問題は同じでも、地域が違えば解決策も違ってくる。このため、地域創成科学科ではフィールドワークを特に重視している。

「まずは現地に足を運び、現地の人と交流し、ともに汗を流す。その中で地域の課題や資源を掘り起こし、データを集める。そして、そのデータをどのようにアレンジし、地域の活性化や新たなビジネスの創出につなげていくかを考えてデザインしていきます。卒業後の進路は、地方自治体の公務員をはじめ、農産物流通業、観光・レクリエーション業、建設業、企業の環境貢献部などを想定しています。地域と地域をつなぎ、元気な地域をつくるコーディネーターとして、ぜひ活躍してほしいですね」



## 東京農業大学「2016年度オープンキャンパス」

オホーツクキャンパス  
7/30(土) 31(日)  
10:00~16:00 (要予約)

【プログラム】学部マナビ体験、入試相談、学外バスツアー、在学生トークライブ、保護者向け説明会など  
連絡先:0152-48-3814 入試課

厚木キャンパス  
8/6(土) 7(日)  
10:00~17:00 (予約不要)

【プログラム】学科別マナビ体験、見学ツアー、模擬講義、キャンパスライブ紹介、入試相談、学生生活相談など

世田谷キャンパス  
8/7(日) 8(月)  
10:00~17:00 (予約不要)

【プログラム】学科別マナビ体験、模擬講義、入試対策講座、キャンパスライブ紹介、学生の取り組みの紹介など



詳細はHPをご覧ください。

# 食農プロデューサーが 社会を変える

2013年に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され、日本の伝統的な食文化に対する注目が高まっています。こうした日本の「食」と「農」の価値を国内外に発信し、日本を元気にすることを目指して、来春、東京農業大学 国際食料情報学部「国際食農科学科」が誕生します。同学科の学びについて上岡美保教授に伺いました。

※2017年4月開設

## 生産から消費までをトータルに学ぶ

国際食農科学科では、「農」と「食」、すなわち農産物の「生産」から「消費」までのプロセスをトータルに学ぶ。「1・2年次で農業生産技術、食品の加工・商品開発技術、販売・マーケティング、食農文化・食育の基礎などを一通り学び、その中から興味のある分野を選んで3年次から研究室で研究を深めていきます。座学だけでなく実践を重視し、実験や実習、ファームステイなどを数多く実施。大きな特徴は、農学や食品科学といった自然科学に加えて、経済学や経営学などの社会科学、地域の文化や歴史といった人文科学を融合し、多角的にアプローチすること。非常に学びの幅が広い、欲張りな学科といえるかもしれません」と上岡教授は笑う。

文化や歴史が食と農にどう関わっているのか、疑問に思う高校生もいるかもしれないが、実はそれが、農業や地域に新たな価値やビジネスを生み出すカギなのだそう。最近、農作物を使って新たな食品を開発し、地域の活性化につなげようとする取り組みが増えています。でも、単にこの農作物がたくさんとれるから食品にしました、ではうまくいかない場合がある。なぜその農作物がその地で作られ、食べられてきたのか、どんな由来があるのかといった、消費者の心をつかむ「ストーリー」が必要なのです。

例えば、新潟県佐渡市では「朱鷺(とき)と暮らす郷(さと)」と名付けられたコシヒカリが生産されている。トキは国の特別天然記念物。かつて佐渡には野生のトキが生息していたが、環境破壊や乱獲により絶滅してしまっ。そこで、トキの野生復帰を目指し、エサとなるさまざまな生物が暮らす生態系の復元に取り組んだ。水田への農業や化学肥料の使用を抑え、雑草は手で抜く。そうした昔

ながらの農法で栽培されているのが、このお米だ。さらに、収穫が終わった冬も水田に水をはり、トキのエサ場を確保。こうした努力が実り、トキは再び佐渡の空に飛び上がった。生きものを育む農法で作られたお米だから、人間も安心して食べることができる。なお、この取り組みは世界からも高く評価され、2011年、佐渡市は世界農業遺産<sup>※1</sup>に登録された。

## 生産の背景を伝え 消費者の意識を変える

このお米は栽培に手間がかかるだけに、価格も少々高い。しかし、大量生産・大量消費の時代が終わる今、食の安全・安心への関心が高まる今、農産物の背景にあるこうしたストーリーに価値を見出す消費者が増えているという。ちなみに、このお米の売上の一部はトキの保護基金に寄付されているそうだ。

消費者にとって価格の安さは確かに魅力だ。でも、それだけではない「農のさまざまな価値」を伝えていくことで、消費者の意識や行動を変えられると、上岡教授は言う。こうした消費者に対する「食農教育」が、上岡教授の研究テーマの一つだ。「買う人が増えれば生産者ももっと作ろうと思うはず。農作物の国内生産、国内消費を喚起することは、食料自給率の向上や日本の農業を守る



上岡美保教授  
東京農業大学 国際食料情報学部長

ことにつながります。さらに、国産農産物の積極的な生産・消費拡大は、環境問題の解決や、伝統文化の継承、地域経済の活性化などにも寄与します。日本の農業は、後継者不足や安い輸入農作物の増加など厳しい状況に直面していますが、生産者だけに努力を求めるのではなく、消費者自身が変わることで、現状を改善できる可能性は大いにあるのです」

## 食農の新たな価値を創る人材を育成

消費者の意識を変えていくためには、農業生産の背景を理解し、正しい情報を発信していくことが不可欠だ。上岡教授の研究室では、生産者が都市部で農産物を直売する「マルシェ」に定期的に足を運び、販売のサポートや消費者ニーズの調査を行っている。

「生産者のものづくりにかける思いと、都市に暮らす消費者が食や農に求めていること。その両方を聞き取り、両者に伝えることで、消費者は自分たちが欲しいと思う農産物を手にできるようになるし、農業・農村も活性化していく。消費者と生産者、都市と農村をつなぐことで、双方にメリットをもたらすWin-Win(ウィンウィン)な関係を築くことができるのです」

同学科では、こうした連携を推進するコーディネーターや、「食の6次産業化プロデューサー<sup>※2</sup>」などの食農振興を支援する人材、食農事業や食農教育に携わる人材の育成を目指している。「食農科学は社会を変える大きな力をもつ学問です。この学科で一緒に学び、地域を、日本を元気にしていきましょう！」

※1-世界農業遺産：国連食糧農業機関（FAO）が2002年より開始。次世代へ継承すべき重要な農法や生物多様性を有する地域を認定するもの  
※2-食の6次産業化プロデューサー：生産（1次産業）、加工（2次産業）、流通・販売・サービス（3次産業）の一体化や連携により、食分野で新たなビジネスを創出する人



谷欠張りの学科で 食・農のプロになろう



体感! 東京農大!  
**収穫祭**  
受験生必見!  
進学説明会も開催

東京農大の学園祭「収穫祭」は世田谷・厚木・オホーツクの3キャンパスで合計で12万人以上が訪れるビッグイベント。野菜無料配布をはじめ、個性的な模擬店など、お腹も好奇心も大満足のイベントが白押しです。受験生に対しては進学説明会で個別相談なども実施。各学科の先生が丁寧にお応えします。ぜひ、東京農大を体感してみてください。

**オホーツクキャンパス** …10/9日・10時 予約不要  
進学説明会とキャンパスツアーは10/9のみ実施(10:00~15:00)要申込

**世田谷キャンパス** …10/28日~30日 予約不要  
進学説明会は10/29・30のみ実施(10:00~16:00)入退場自由

**厚木キャンパス** …10/29日・30日 予約不要  
進学説明会(10:00~16:00)入退場自由

※1-こちらの受験生向けイベントは予約が必要です。なお、オホーツクキャンパスのイベントは振替の一部補助制度もありません。連絡先0152-48-3814(オホーツクキャンパス入試課)



**PR 12**

東京農業大学 PRESENTS #1

生命科学部 新設

**未来に種まく 生命科学**

21世紀の人類は「食料」「環境」「健康」「資源」「エネルギー」などのさまざまな問題に直面している。その解決につながる学問として、世界中で活発に研究が進められているのが生命科学だ。なぜ今、生命科学なのか？

そこで2017年4月に新たに「生命科学部」を開設する東京農業大学の応用生物科学部バイオサイエンス学科教授・矢嶋俊介先生(2017年4月より生命科学部長 就任予定)に、生命科学の魅力と、東京農業大学ならではの生命科学の研究の醍醐味についてお話を伺った。

**21世紀の鍵を握る生命科学とは？**

iPS細胞の開発者である山中伸弥先生の功績を始め、21世紀は生命科学の世紀ともいわれます。今、生命科学が注目されている理由を教えてください。

さまざまな生命現象を遺伝子レベルで解き明かす「生命科学」が脚光を浴びるようになったのは、今から20年ほど前のことです。クローン羊のトリートやヒトゲノム計画が登場した頃で、ちょうど東京農大でも応用生物科学部を設置し「バイオサイエンス学科」を設立した時期となります。遺伝子研究をきちんとやっていたという東京農大の取り組みは、当時としては先進的な試みでした。

具体的には「分子生命科学」(分子生物学、化学科)として現在、応用生物科学部内に「バイオサイエンス学科」の3つの学科で構成されています。とりわけ従来イメーჯを醸成してきた意味で特徴的なのは「分子生命科学」です。生物学と化学から捉えられているアプローチは、理工学系に並ぶ力強い学系にも「応用生物科学部」があります。生物応用化学科が、食料生産に関わる農芸化学から発展してきています。一方「分子生命科学」では、バイオプラスチックなどの新しい高分子を創り出すことが研究の視野に入っています。

また「分子生物学科」も、微生物の働きを広く研究する学科として21世紀です。さらに20年余の実績を誇る「バイオサイエンス学科」では、遺伝子レベルで脳科学研究や哺乳類の発生メカニズムの研究、植物のゲノム編集など複雑な生命現象の解明に取り組んでいます。



東京農業大学 応用生物科学部 バイオサイエンス学科 教授 生物資源ゲノム解析センター長 (2017年4月より生命科学部長 就任予定) **矢嶋 俊介**先生

長野県生まれ。1993年、東京大学大学院 農学系研究科 応用生命工学専攻 博士課程修了(博士(農学))。同年、米国立衛生研究所(National Institutes of Health)で博士研究員、ドーパミンの受容体遺伝子発現について研究。研究に没頭しつつ、週末はテニス(全く上達せず)。国立公園の雄大な自然に感動を受ける。1997年から東京農業大学。専門は構造生命科学、X線結晶構造解析法でタンパク質の立体構造を調べ、Imperial College Londonに研究員として英国滞在を経験。人々のサッカー好きを目の当たりにする。

**徹底した「実学主義」で 生命科学の新たな可能性を探る**

東京農大の理念は「実学主義」とお聞きしていますが、生命科学部では何をどのように学んでいくことになるのでしょうか？

生命科学部にも、もちろん「実学主義」の理念は継承されます。その表れといえるのが実習・実験・演習の豊富さです。例えば「分子生物学科」(分子生命科学科)では1年次から基礎化学実験が始まり、海道から沖縄に至るまで各地に広大な農場を持っており、さまざまな形で利用できます。そうした環境の中で実験や演習を繰り返して、座学で得た知識をより深めていくわけです。同時に自ら積極的に物事を考える姿勢を育てることが重要です。なぜなら実験という検証し、成果が出るまで辛抱強く繰り返す必要があるからです。それは結果として、社会人になつてから必須となるスキルとなるでしょう。

求める知識としては「生物」「物理」「化学」が基本となりますが、少くも優先度は少し異なります。とりわけ「分子生命科学科」では、圧倒的に化学を重視しています。なぜならすべての生命現象は化学物質の反応によって起きているからです。その一方で、ものごとに対する興味関心も強けていく必要があります。生命の仕組みを調べたり、ものづくりが好きという気持ちも、自分にとって得意なことでも、実験が得意なことでも構いません。

生命科学分野の研究を支えているのは、解析技術の進歩なんです。

化学合成によって新しい物質を創る過程や生命現象を掘り下げる過程は、論理的思考力を養う鍛錬になります。また「分子生物学科」



生命科学分野の研究を支えているのは、解析技術の進歩なんです。

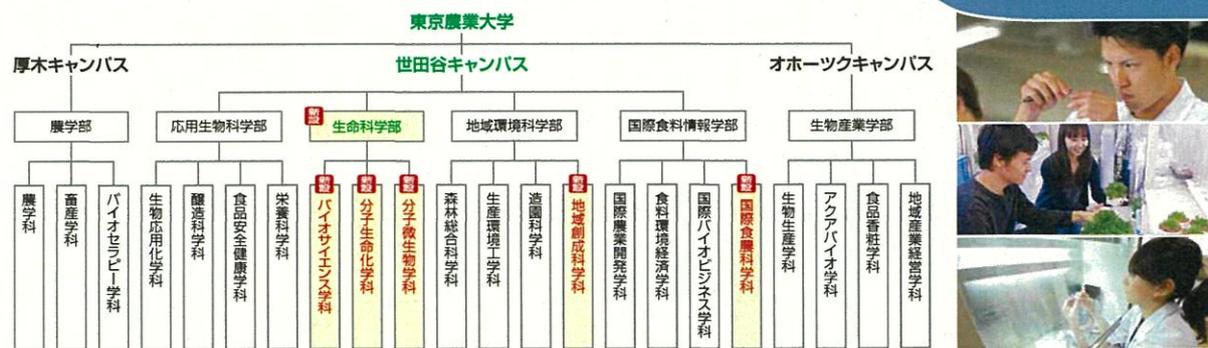
**生命科学部 各学科の予想される進路**

- **バイオサイエンス学科**  
大学院進学(32.2%) 就職(60.8%) 内訳: 食品製品製造業(17.0%)、サービス業(13.2%)、情報通信業(9.5%)、卸業(8.6%)、公務員(8.6%)等。
- **分子生命科学科(副専)**  
製薬、化粧品、高分子、香料、化粧品、農薬、材料などの化学に関する幅広い業界。その他、企業の総合職、農業分野、公務員、教員。1/3が大学院へ進学(見込)。その後、研究職、開発職へ。
- **分子微生物学科(副専)**  
医薬品開発、検査・品質管理、食品原料の生産、バイオマス生産、環境浄化等を目的とした企業の企画・商品開発部門、研究機関、情報産業、福祉・看護部門、公務員、教員等。1/3が大学院へ進学(見込)。その後、研究職、開発職へ。

で履修するバイオインフォマティクス、生命情報科学では、コンピュータを扱います。興味関心をステップアップして、フロンティアの力を身につける環境が生命科学部には整っている。自分やりたいこと、知りたことを持つて入学しても構いません。

また、東京農大の場合、学費サポートも手厚く、大学院進学制度を改正して対象者を拡大しています。これにより、最初の2年間(博士前期課程)についてはほとんど授業料が半額となります。入学金も免除となります。入学1年目は国立公立大学よりも負担がかなり軽いです。さらに本学の学部から博士後期課程を経て博士前期課程を進めば、学費のほぼ全額が免除となります。新設2学科の大学院はまだまだありませんが、設置に向けて文科省に申請して行く予定です。ぜひ大学院への進学を検討してもらいたいと思います。

**農と生命を科学して社会に貢献する人材を育成** 「農のこころ」を育み、「生きる」を支える。



東京農業大学 PRESENT #2  
**応用生物科学部**  
 「生きる」を支える  
**応用生物科学の力**  
 生物生産・食品・健康・環境

2017年4月の「生命科学部」開設を始め、生きるを支える農業の進化に挑戦し続けていく東京農業大学。「生物生産」「食品」「健康」「エネルギー」「環境」をキーワードに6学部22学科の多彩な学びの場を提供する。今回注目するのは農業を「化学」の視点から探究する「応用生物科学部」。学部長の上原万里子先生に、応用生物科学部の4学科の魅力をお話しました。

**学部全体が「小さな地球」  
 応用生物科学部の魅力とは？**

2017年4月の生命科学部開設に伴い、これまで応用生物科学部にあったバイオサイエンス学科が生命科学部へ移設となり、応用生物科学部とはどんな学部ですか？

応用生物科学部は「生物応用化学科」「醸造科学科」「食品安全健康科学科」「栄養科学科」の4学科構成となります。農学の知識と知恵を食品、発酵、健康、環境、エネルギー分野に広く応用展開していきますが、それらすべて「食」というキーワードで結びついています。応用生物科学部では「基礎から応用」という点を重視します。分子や遺伝子レベルでの基礎研究にのみ生命現象を振り下ろし、生命科学部に対して、分子や遺伝子レベルでの基礎研究を土台として、私たちの暮らしをより良くするためにいくことを目指しています。

「食」を通して人間の営みすべてを探求する学部ということですね。各学科の特徴を教えてください。

生物応用化学科では、分子の視点から土壌や肥料、植物、微生物、農薬、食料、栄養などの広範囲な分野の教育と研究が大きな特徴です。

醸造科学科は、伝統技術と先端科学を融合させた学科学です。伝統的な醸造・発酵技術の理論を先端的な研究方法でひもといて、そこから更に新しい技術を組み立てています。

食品安全健康科学科は、食品の機能性と安全性を考える学科学です。



東京農業大学 応用生物科学部長  
 食品安全健康学科学科 教授  
**上原 万里子 先生**

1988年 東京農業大学・大学院・農学研究科・農学専攻・博士後期課程を修了後（農学博士）、同大学 農学部 栄養学助手、講師、助教授、フィリピン・ヘルシンキ大学 医学部 博士学員（臨床生化学研究員）、応用生物科学部・栄養科学科 准教授、教授を経て、平成26年4月より新設の食品安全健康学科学科に異動し、「食と農」の博物館長を兼務後、平成28年4月より応用生物科学部長



研究室で用いられる電子顕微鏡や、生体材料の分析に用いられる顕微鏡など、最新の測定装置がそろっている研究室です。

**豊富な実験・実習で  
 「即戦力」としてのスキルを磨く**

東京農大の理念は「実学主義」。実験や実習は多いのでしょうか？

どの学科も1年次から実験を行います。例えば食品安全健康学科学科では基礎化学、生化学、生理学、微生物学の4つの必修実験科目を1年次に受講します。実際に手を動かして、基礎的な実験方法を学びながら座学の知識を深めていくわけです。

また、応用生物科学部の特徴として、基礎研究を行うだけでなく、作物や食品開発などの成果物が見えやすい面があります。例えば、植物由来の機能性成分の研究を企業と共同で行い、そのうちのいくつかは現在商品化されています。また、食品や化粧品メーカーなどの企業出身の先生も在籍していただき、さまざまな食品の改良、機能性の探索、肌や味覚などの研究もしています。あるいは他大学と連携したり、学内プロジェクトを立ち上げたり、内外を問わずいろいろな形で研究を進めているグループもあります。



東京農業大学 応用生物科学部長  
 食品安全健康学科学科 教授  
**上原 万里子 先生**

選択した学生の中には化学が苦手という人もいますが、心配ありません。本学では入学直後に基礎化学と基礎生物の試験を行っていただき、そこで基準点に達していない場合は、リスキュー授業を受けることができます。

選んだ学生の中には化学が苦手という人もいますが、心配ありません。本学では入学直後に基礎化学と基礎生物の試験を行っていただき、そこで基準点に達していない場合は、リスキュー授業を受けることができます。

やはり生物と化学の基礎知識です。とりわけ化学が重要なですが、文系出身者や入試で生物が必要とされて

学業はもちろんです。社会では今、「ミニコンプレックス」能力が必要とされて

**応用生物科学部 各学科のおもな進路**

- **生物応用化学科**  
 大学院進学 (19.2%) 就職 (73.3%)  
 内訳: 食品製造業 (27%)、サービス業 (13%)、卸売業 (13%)、小売業 (11%)、化学工業 (10%) 等。
- **醸造科学科**  
 大学院進学 (14.4%) 自営 (0.6%) 就職 (78.0%)  
 内訳: 食品製造業 (39%)、卸売業 (13%)、小売業 (13%)、サービス業 (9%)、化学工業 (4%) 等。
- **食品安全健康学科学科** (編入 (2014年開設))  
 大学院進学、新規食素材開発、食品・医薬品等新薬の安全性を検討する民間研究所、同公的機関、食品・製薬企業の品質管理・検査部門や企画商品開発部門、国際・国内情勢の学術調査部門等。
- **栄養科学科**  
 大学院進学 (10.5%) 就職 (81.4%)  
 内訳: サービス業\* (26%)、小売業 (20%)、食品製造業 (17%)、保健・福祉・介護事業 (7%)、医療保健業 (7%) 等。  
 \*管理栄養士の資格を活かした業務も含む

**2016年 東京農業大学 受験情報 体育祭 スケジュール**

オホーツクキャンパス  
 受験日 10/8 ⑤ - 10/10 ④  
 世田谷キャンパス (前夜祭: 10/27 (木))  
 受験日 10/28 ⑤ - 10/30 ③ 体育祭 10/31 ④  
 厚木キャンパス  
 受験日 10/29 ⑤ - 10/30 ③

画像支給 希望

**実学主義を  
 実践する  
 5学科を新設**

**バイオサイエンス学科**

最先端のバイオ技術で遺伝子の働きを解明し、食料・環境・健康問題などの解決を目指す

**分子生命化学科**

生物圏のあらゆる現象に関係している原子・分子の働きを、化学的な視点から解明します。

**分子微生物学**

人類未発見とされる90%の微生物、および微生物が関与する生命現象を解明します。

**地域創成科学科**

里山など地域の伝統文化に最新技術を融合。持続可能な土地利用の構築や、地域づくりの実現を目指します。

**国際食農科学科**

世界が注目する日本食文化、栽培技術、加工技術の伝統と発展を総合的に学ぶ。

**広がる領域！**  
 東京農大は社会科学、理学、環境系統等、大学の学問系統12のうち9領域をカバー。「生命・食料・環境・健康・エネルギー・地域創成」をキーワードに農と生命を科学し、「生きる」を支えます。

お問い合わせ先 東京農業大学入試センター Tel: 03-5477-2226 Mail: nyushi@nodai.ac.jp  
 www.nodai.ac.jp

山手線新型車両「E235系」  
ADトレイン 実施報告書

2016.11.2

**jeki** 株式会社ジェイアール東日本企画

## 展開概要

- ユニット名 山手線新型車両 E235系ADトレイン
- 日程 2016年10月18日(火)～11月2日(水)
- 広告内容 東京農業大学ブランディング「〇〇を学ぶ、それも農学。」
- 制作物 <ポスター> 中づりワイド 2種類  
ドア横新B 6種類
- <ムービー> まど上チャンネル(3画面)  
トレインチャンネル・サイドチャンネル(1画面)



## ■中づり 掲出枚数 132枚

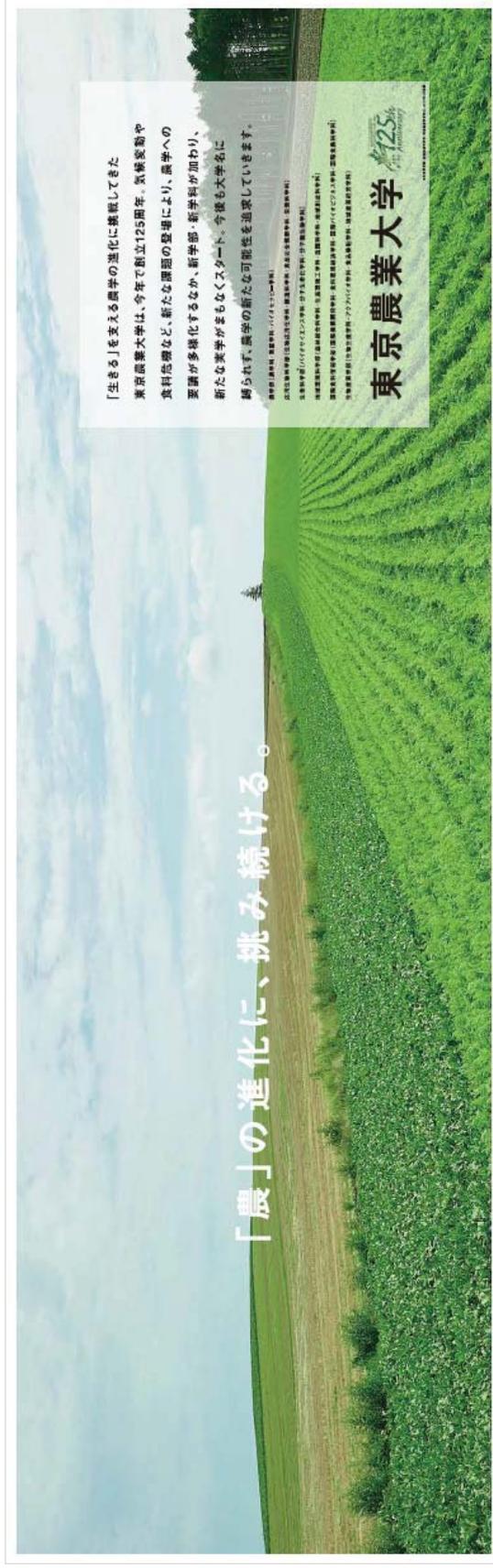


「生きる」のすべてを学ぶ、それも農学。

農学を学ぶだけが、農学ではありません。  
農学とは、生きるチカラを育み、人と社会に役立てる  
総合科学。そのフィールドは、時代の変化とともに、  
これからもますます広がっていきます。  
生命、食料、環境、健康、エネルギー、地域創成。  
さあ、あなたはどんな未来を耕しますか？

農学部(農学) 農学専攻(バイオテクノロジー) 農学専攻(食料) 農学専攻(環境) 農学専攻(健康) 農学専攻(エネルギー) 農学専攻(地域創成)  
農学専攻(食料) 農学専攻(環境) 農学専攻(健康) 農学専攻(エネルギー) 農学専攻(地域創成)  
農学専攻(食料) 農学専攻(環境) 農学専攻(健康) 農学専攻(エネルギー) 農学専攻(地域創成)  
農学専攻(食料) 農学専攻(環境) 農学専攻(健康) 農学専攻(エネルギー) 農学専攻(地域創成)

**東京農業大学** 125th Anniversary



「農」の進化に、挑み続ける。

「生きる」を支える農学の進化に挑戦してきた  
東京農業大学は、今年で創立125周年。気候変動や  
食料危機など、新たな課題の登場により、農学への  
要請が多様化するなか、新学部、新学科が加わり、  
新たな実学がまもなくスタート。今後も大学名に  
縛られず、農学の新たな可能性を追求していきます。

農学部(農学) 農学専攻(バイオテクノロジー) 農学専攻(食料) 農学専攻(環境) 農学専攻(健康) 農学専攻(エネルギー) 農学専攻(地域創成)  
農学専攻(食料) 農学専攻(環境) 農学専攻(健康) 農学専攻(エネルギー) 農学専攻(地域創成)  
農学専攻(食料) 農学専攻(環境) 農学専攻(健康) 農学専攻(エネルギー) 農学専攻(地域創成)  
農学専攻(食料) 農学専攻(環境) 農学専攻(健康) 農学専攻(エネルギー) 農学専攻(地域創成)

**東京農業大学** 125th Anniversary



## ■ドア横新B

### 生物産業学部



### 国際食料情報学部



# 制作物一覧

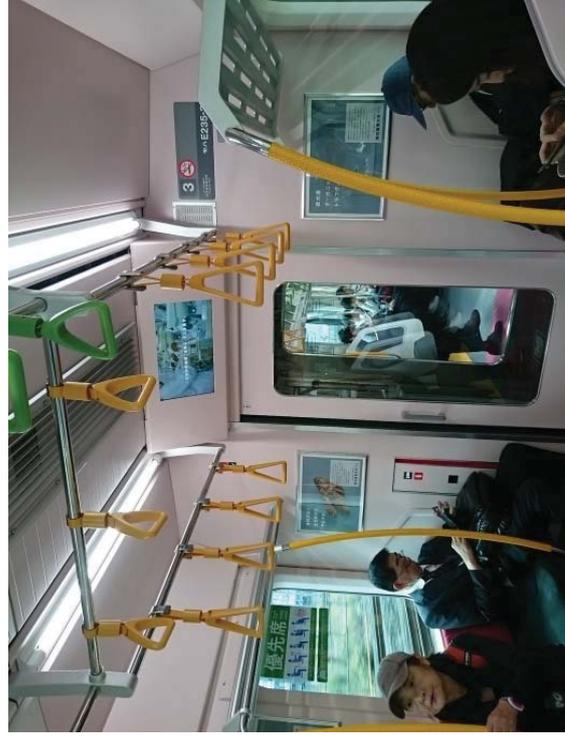
## ■動画 まど上チャンネル(3画面) 3'59" 全180面



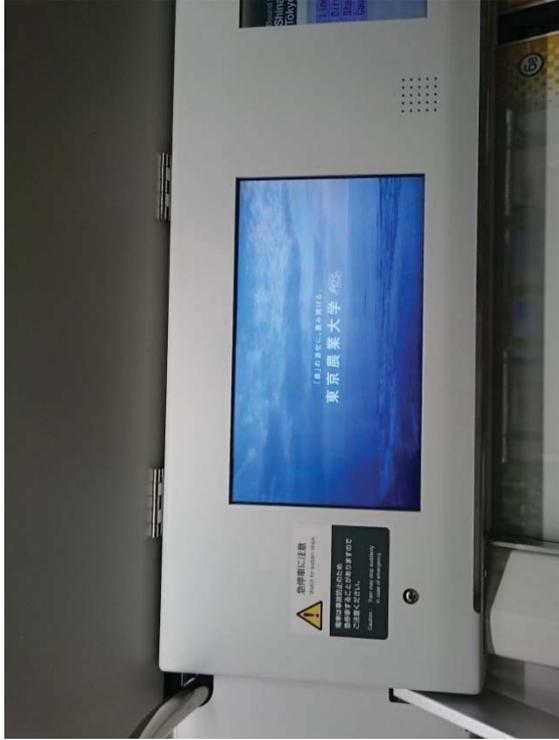
# 制作物一覧

## ■動画 トレインチャンネル・サイドチャンネル(1画面) 3'13" トレインチャンネル全88面 サイドチャンネル全20面





# 掲出モニター



# SNSでの反応

18時間  
KOGAWA @chirokogawa  
初めて山手線のE235系に乗ったんだけど、東京農大のセンスのいい広告に感心させられた。

20時間  
ガヤ @gayakanki  
山手線の広告が全面農大でビビった。金使ってるなあ

20時間  
なまなま @namaonaman  
山手線の車両でモニターばかりの車両ある。なんかすごいな！どこにいても動画観れる！農大の広告しか流してないみたいやけど。

21時間  
ワタノレ @watanorei  
山手線新車両乗ったら1車両中36個ディスプレイがある！！変な文字と写真がゴチャチャになった広告が無くなってただけでもスッキリなのに、流れてる東京農大の映像も綺麗でいい感じ。このディスプレイが今後雑誌とかパチンコの広告で汚されなれないといいな。ここまできたら中吊り紙広告は外してほしい。

21時間  
Fujio Maruyama @maruyama097  
山手線の中で偶然見た、三連のスクリーンを使った東京農大のCMが面白かった。ずいぶんお金もかかっているのだから、いいな、この未来感。大学で勉強して、人類にとって価値ある仕事をしようと言っているようが

1日  
小出敦子 @amanojaku66  
山手線(一車両だけ)東京農大に心地よくジャック。攻めてるなあ。でも興味津々で見入ってしまった。資源のない国は、人が資源、ましてや未来を担う子どもは無限大の頭脳を持つ。大切に育てなね(´)◇

1日  
はじち @hasily  
新型山手線をジャックしてる東京農大の広告がイカす！3連ビジョンをしつかり効果的に使っていて見入ってます。

1日  
いがらっちょ @IGfumi  
山手線1台まるごと農大！しかもセンスいい。つり革が緑だから偶然だと思っただけでもスッキリなのに、流れてる東京農大の映像も綺麗でいい感じ。このディスプレイが今後雑誌とかパチンコの広告で汚されなれないといいな。ここまできたら中吊り紙広告は外してほしい。

2日  
クハヤ @q000\_Tg  
「農大が山手線の新型車両で広告ジャックをやってる」って話を聞いてびっくりしている。農大すげえな(´)

3日  
yūta @isoranyan  
山手線のつり革が緑色と黒ったら車両内が東京農大にジャックされてるw [pic] -

3日  
まりむら @Mairura  
山手線の東京農大の広告がすごい。中身もめっちゃ面白そう。玉虫かわいた。。。理系に強い人間に生まれたかった。

3日  
marie k @mariemariétrip  
山手線の東京農大の車両ジャック広告、すごいいいな。世界観、

3日  
こんす @ConstantineJP  
山手線乗ったんだけど、抹茶色のつり革・座席に一面まみどりの農大の広告が吊られて、車内ビジョンでも緑が多い農大ムービーが流れていてなんと、いかもうアオムシを連想するレベルで緑

4日  
ぜ @zero\_pikasha\_w  
あと山手線使ってる人農大の広告見てください

4日  
美樹 @miki0127vivid  
山手線乗ったら広告全部が農大になってる..笑

4日  
vodka118 @vodka118  
東京農大が山手線に乗っている。農大、考えたこともあったな一、高校生どき。

4日  
ふぢふぢ @chibi\_marinos  
山手線乗ったら農大電車だった

6日  
ヲ和 @rapidLC  
新しい山手線の車内CMが某農大だったので今日も両張りです

6日  
Reviving oppappy1.11 @yuu1504  
今日は山手線の新型車両に乗れた。車両真ん中の荷物置きの上に液晶が3つあって、東京農大の宣伝してたかたまたまの外骨格を応用した、色彩鮮やかな食器欲しいわ。どこで買えるんだろう。

c\_n\_ranran

フォローする

いいね | 106件

c\_n\_ranran 農大が山手線広告ジャックしている電車昨日乗れた

#農大 #広告ジャック...続きを読む

ponchi1021 #食料不足に立ち向かうヤマイモ

ponchi1021 流行らせたい笑

hitomi0927.g

フォローする

いいね | 3件

hitomi0927.g なんでも！? wwl山手線が農大一色www広告全てにTVも全部www普段の心拍が60なのに、このせいで心拍97www

#山手線 #広告 #農大 #東京農大 #東京農大 #朝から目

表

キャンパスツアー 特別講義 (世田谷キャンパス)

農学から見るお米

# 農 Rice 農 Future

2016 6.12<sup>SUN</sup> / 6.26<sup>SUN</sup>

※一部日程により講義内容が異なります。



- 1 味の決め手は、精米にあり!**  
コメ1粒の削り方で、ご飯や清酒の味が変わる。“精米を制するものは、味を制する”
- 2 “おいしい”のヒミツ**  
あなたが「おいしい」と感じるワケは、実は化学で解明できる。
- 3 美しいコメの世界**  
食べるだけでないコメの役割とは…きっとコメの見方が変わるはず。
- 4 変幻自在なコメ**  
ご飯とお餅は同じコメからできているのに、状態も食感も異なる。  
コメの多様な特徴を探ります!
- 5 コメも植物です**  
イネはどのようにコメを作っているのでしょうか。そのヒミツに迫ります。
- 6 最近、お米食べてますか?**  
年々減少する米の消費量。現代の日本のお米事情について少し考えてみませんか。
- 7 コメを醸す**  
ニッポン伝統の醸造発酵食品の世界をぜひご覧あれ。
- 8 コメから生まれた栄養学・食品学**  
ビタミンはコメから見つかったって知ってる?  
コメを利用した新しい食品も作られており、まさにコメは研究の宝庫!

東京農業大学  
Tokyo University Of Agriculture

# 東京農業大学 キャンパスツアー 2016

2016年6月12(日)・6月26日(日) ※両日共に10:00~16:00  
※世田谷キャンパスのみ実施

## イベント内容

### キャンパスツアー

研究室や実験室を学生ナビゲーターがガイドツアー形式でご案内!  
3コースの中から自分が興味のあるコースを選んでね。

### 在学生トークブース

在学生と直接話ができるブースを設置。学生生活や受験勉強のことなど、  
実際に経験をした先輩だからこそ話せる情報がたくさん!ぜひ生の東京農大生の声を聞きにきてください。

### 入試ガイダンス

2017年度の最新入試情報をご案内いたします。

### 特別講義 (各回1時間)

身近な食材である「米」をテーマに、様々な学科が読み解きます!

| 6月12日(日)           | 6月26日(日)           |
|--------------------|--------------------|
| 10:45 ~ 景観 × 食感    | 10:45 ~ イネ × 栄養と健康 |
| 12:00 ~ 精米機 × ごはん  | 12:00 ~ 精米機 × 米麴   |
| 13:15 ~ 経済 × イネ    | 13:15 ~ 景観 × 起源    |
| 14:30 ~ 起源 × 栄養と健康 | 14:30 ~ 米消費 × 食感   |

※日程により講義内容が異なります。詳細はHPにて。

## 問い合わせ先

東京農業大学 世田谷キャンパス 入試センター

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1 TEL:03-5477-2226 / FAX:03-5477-2615

<http://www.nodai.ac.jp/>

東京農大

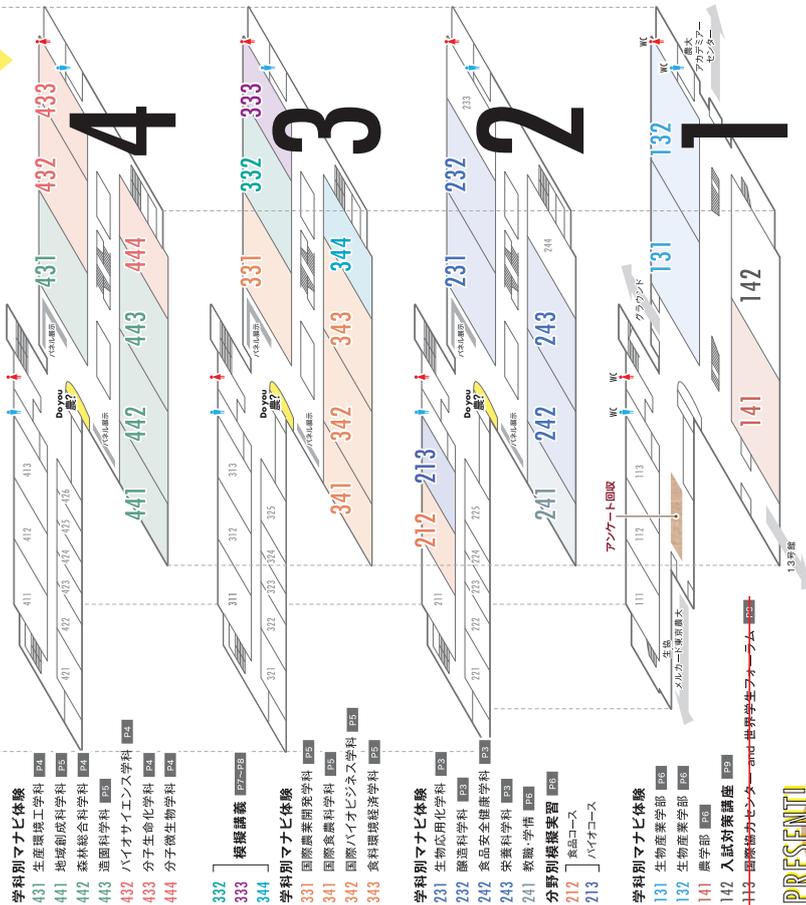
検索

# MAP

**1号館** | オープンキャンパス  
メイン会場

## Do you know? 農学ヘルプカウンター

東京農大で学ぶ皆さんの目的にあった1号館の学科は、どこにあるのかなど皆さんの疑問に、学生スタッフが丁寧に回答、思っている以上に幅広く農大の学びをご案内します。



**PRESENT!**  
アンケートに答えてくれた方には「手作り味噌」などモルトはじめてアンケートに答えていただきます。

東京農業大学  
東京農業大学短期大学部

# OPEN CAMPUS

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE

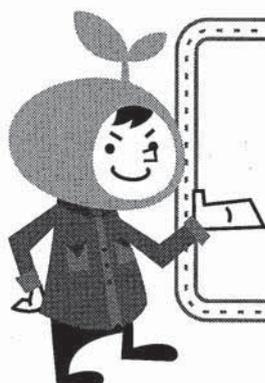
農学7工  
NOUGAKU FESTIVAL  
2016

8.2 Sun 8.3 Mon  
10:00 ▶ 17:00

東京農業大学  
東京農業大学短期大学部  
オープンキャンパス

7学部15学科へ、  
進化した農大で  
実りある農学を。

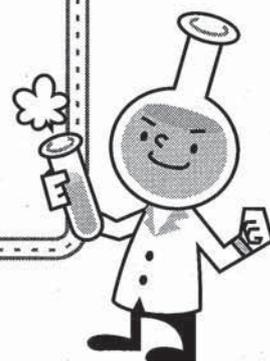
学科別マナビ体験  
分野別模擬実習  
模擬講義  
入試対策講座



# 東京農業大学 進学説明会

【開催日】10月29日(土)・10月30日(日)

【開催時間】10:00~16:00



## 1号館6階

### 学科別個人相談会

「あの学科とこの学科の違いは?」「こういう勉強がしたいんだけど、この学科でいいの?」「この学科の研究の楽しさを教えてほしい」そんな質問に各学科の先生たちが答えます。

### 資料展示

推薦入試用小論文用紙  
入試の過去問題・解答用紙の展示など



## 農大アカデミアセンター地下1階 横井講堂

### 入試説明

入学試験を突破するためのポイントは? 「一般入試」「センター試験利用入試」と、目前に迫った「推薦入試」について、入試センターのスタッフが解説します。

### オホーツクキャンパス

#### 紹介コーナー

横井講堂前にオホーツクキャンパス(北海道)紹介コーナーを開設し、オホーツクの教職員・在学生が展示・紹介をします。

【お問合せ先】入試センター(農大アカデミアセンター1階)

TEL: 03-5477-2226

FAX: 03-5477-2615









# 歩き方ガイド | とき：2016年6月18日(土) 13時-18時30分 ところ：東京ビッグサイト・西3

キーワードから、自分の知りたいことを探してみよう！  
それぞれのキーワードに沿って、大学のゼミ・研究室を体験することができます。

みらいの7 IN TOKYO BIG SIGHT 2016

みらいがく当日の流れ

STEP 1

気になるキーワードを**選ぶ**。  
10個のキーワードは、きっと身近に感じるキーワードばかり。  
キミの好きなことや興味のあるものを選んでみよう！

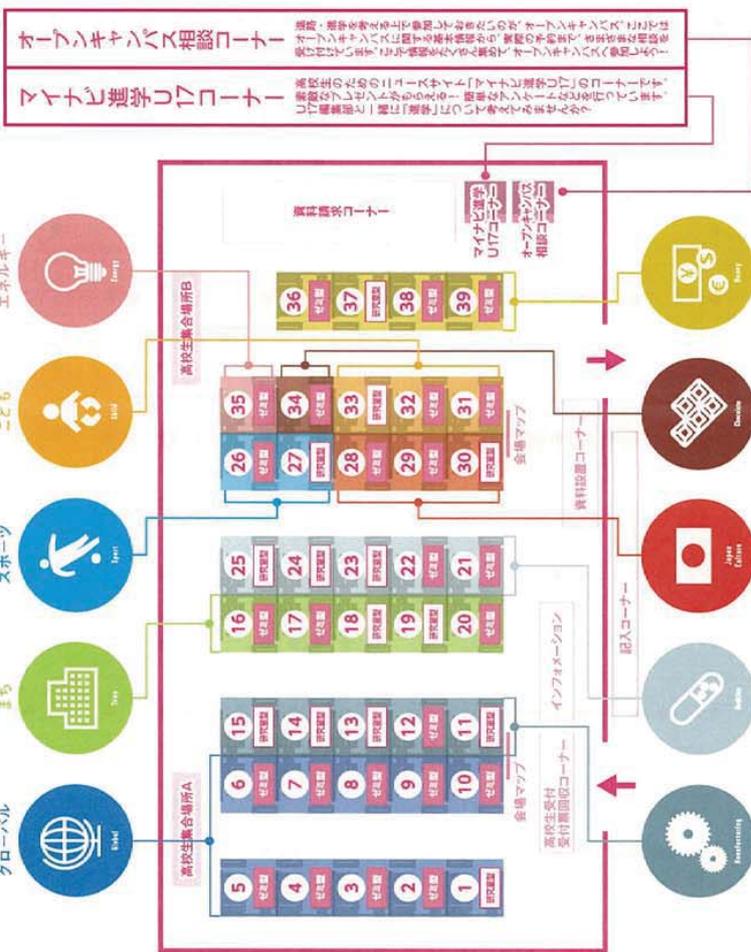
STEP 2

キーワードから**興味のあるゼミ・研究室**を選ぶ！  
一つのキーワードは、  
いろんな分野の学びにつながっていることを知ろう！  
キーワードに沿った学一マのゼミや研究室を体験し、  
どんな学びがあるのかを体験してみよう！

STEP 3

いろんな体験を通して、**学びの広がり**を知ろう！  
一日でいろんな学びを体験できるチャンス！  
一つのキーワードの中で学びの広がりを  
知ることはもちろん、  
これまで興味なかったキーワードの中にも自分の  
興味のある学びがあるかもしれない。  
いろんな体験を通して、  
進路選びのヒントを見つけよう！

| キーワード | 出展学校名    | ゼミ・研究室テーマ                           | 出展形式 |
|-------|----------|-------------------------------------|------|
| 1     | 亜細亜大学    | 4 connections to expand your future | 研究型  |
| 2     | 上野学園大学   | 就職に役立つフットワーク・インターンシップ               | 研究型  |
| 3     | 神奈川大学    | 境界を越えた学びとは？                         | 研究型  |
| 4     | 国立音楽大学   | ケナトをやってみたい                          | 研究型  |
| 5     | 国立音楽大学   | 世界の真実を伝える                           | 研究型  |
| 6     | 首都大学東京   | 音楽の歴史から学ぶ                           | 研究型  |
| 7     | 戸板女子短期大学 | 音楽療法とは世界で活躍する                       | 研究型  |
| 8     | 戸板女子短期大学 | ライオンズクラブ・ライオンズ                      | 研究型  |
| 9     | 戸板女子短期大学 | 国際関係の仕事を知らそう                        | 研究型  |
| 10    | 東洋大学     | 持続可能な社会に貢献する観光とは                    | 研究型  |
| 11    | 東洋大学     | これ、質問がなくていいよ！                       | 研究型  |
| 12    | 東洋大学     | 「無類な」に「通る」                          | 研究型  |
| 13    | 東洋大学     | 未来の自分、未来の世界、決められるか？                 | 研究型  |
| 14    | 東洋大学     | 一息を吐く                               | 研究型  |
| 15    | 東洋大学     | 製品のデザインを考えよう！                       | 研究型  |
| 16    | 昭和音楽大学   | 音楽が作り出されるまで                         | 研究型  |
| 17    | 昭和音楽大学   | 作曲、編曲に挑戦してみよう！                      | 研究型  |
| 18    | 昭和音楽大学   | 楽器の仕組みを考えよう！                        | 研究型  |
| 19    | 昭和音楽大学   | 化学反応でいる色の変化                         | 研究型  |
| 20    | 東京理科大学   | 医学部探検レポート                           | 研究型  |
| 21    | 東京理科大学   | あんなに好きでいる                           | 研究型  |
| 22    | 東京理科大学   | あんなに好きでいる                           | 研究型  |
| 23    | 東京理科大学   | 東京で「地味」を考えたこと                       | 研究型  |
| 24    | 東京理科大学   | 一人ひとりの「自分派」が繋がる                     | 研究型  |
| 25    | 東京理科大学   | 都市や農村、海沿地や山の上、高級店や地域の子どもたち、暮らしをめぐって | 研究型  |
| 26    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 27    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 28    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 29    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 30    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 31    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 32    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 33    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 34    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 35    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 36    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 37    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 38    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 39    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 40    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 41    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 42    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 43    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 44    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 45    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 46    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 47    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 48    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 49    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |
| 50    | 東京理科大学   | 「地味」を考えたこと                          | 研究型  |



### ゼミ体験型

各ブースごとにタイムテーブルがあり、実際の授業のようにゼミを体験することができます。

### 研究室体験型

実際の大学の研究室の雰囲気を体験できます。パネルや展示物を用いて、学びを紹介いたします。

### マイナビ進学U17コーナー

進学に関する相談コーナー

### オープンキャンパス相談コーナー

オープンキャンパスに関する相談コーナー

# INDEX

ゆめみらいワークショップの会場で出会える  
企業や職種、学校をみてみよう。

| キーワード      | 企業名・職種(学校名)/学校 | ページ   |
|------------|----------------|-------|
| ものづくり      | カテゴリー          | 11    |
|            | 企業             | 11    |
|            | 企業             | 12    |
|            | 企業             | 12    |
|            | 企業             | 13    |
|            | 企業             | 13    |
|            | 企業             | 14    |
|            | 企業             | 14    |
|            | 企業             | 15    |
|            | 企業             | 15    |
|            | 企業             | 16    |
|            | 企業             | 17    |
|            | 企業             | 17    |
|            | 企業             | 18    |
|            | 企業             | 18    |
| ロボット機械・くるま | カテゴリー          | 19    |
|            | 企業             | 19    |
|            | 企業             | 20    |
|            | 企業             | 20    |
|            | 企業             | 21    |
|            | 企業             | 21    |
|            | 企業             | 22    |
|            | 企業             | 22    |
|            | 企業             | 23    |
|            | 企業             | 23    |
|            | 企業             | 24    |
|            | 企業             | 24    |
|            | 企業             | 25    |
|            | 企業             | 26    |
|            | 企業             | 26    |
| エコ・エネルギー   | カテゴリー          | 27    |
|            | 企業             | 27    |
|            | 企業             | 28    |
|            | 企業             | 28    |
|            | 企業             | 29    |
|            | 企業             | 30    |
|            | 企業             | 30    |
|            | 企業             | 31    |
|            | 企業             | 31    |
|            | 企業             | 32    |
|            | 企業             | 32    |
|            | 企業             | 32    |
|            | 企業             | 33    |
|            | 企業             | 33    |
|            | パソコン・スマホ       | カテゴリー |
| 企業         |                | 34    |
| 企業         |                | 35    |
| 企業         |                | 36    |
| 企業         |                | 37    |
| 企業         |                | 37    |
| 企業         |                | 38    |
| 企業         |                | 38    |
| 企業         |                | 39    |
| 企業         |                | 39    |
| 企業         |                | 40    |
| 企業         |                | 40    |
| 企業         |                | 41    |
| 企業         |                | 42    |

| キーワード    | 企業名・職種(学校名)/学校   | ページ   |
|----------|------------------|-------|
| 交通・運輸    | カテゴリー            | 34    |
|          | 企業               | 34    |
|          | 企業               | 35    |
|          | 企業               | 36    |
|          | 企業               | 37    |
|          | 企業               | 37    |
|          | 企業               | 38    |
|          | 企業               | 38    |
|          | 企業               | 39    |
|          | 企業               | 39    |
|          | 企業               | 40    |
|          | 企業               | 40    |
|          | 企業               | 41    |
|          | 企業               | 42    |
|          | まちづくり            | カテゴリー |
| 企業       |                  | 42    |
| 企業       |                  | 43    |
| 企業       |                  | 43    |
| 企業       |                  | 44    |
| 企業       |                  | 44    |
| 企業       |                  | 45    |
| 企業       |                  | 45    |
| 企業       |                  | 46    |
| 企業       |                  | 47    |
| 企業       |                  | 47    |
| 企業       |                  | 48    |
| 企業       |                  | 49    |
| 企業       |                  | 49    |
| 病院・介護・福祉 |                  | カテゴリー |
|          | 企業               | 50    |
|          | 企業               | 51    |
|          | 企業               | 51    |
|          | 企業               | 52    |
|          | 企業               | 53    |
|          | 企業               | 54    |
|          | 企業               | 54    |
|          | 企業               | 55    |
|          | 企業               | 55    |
|          | 企業               | 56    |
|          | 企業               | 57    |
|          | 企業               | 58    |
|          | 企業               | 58    |
|          | お金・ファッション・ショッピング | カテゴリー |
| 企業       |                  | 59    |
| たべもの     |                  | カテゴリー |
|          | 企業               | 59    |
|          | 公務員              | カテゴリー |
| 企業       |                  | 59    |



Keyword

テーマ

## 五感で学ぼう!! 楽しい食事

**出展内容**  
みなさんは食事をする時に“楽しい”と感じていますか？  
普段の食事についてあまり考えたことがないという人も  
いると思います。誰もが楽しいと感じる食事って、どの  
ような食事でしょうか？今回は、みなさんの五感（視覚・  
聴覚・嗅覚・味覚・触覚）をフル活用して、楽しい食事  
について考えてみましょう！（8月26日（金）出版）

**協力**

九州産業福祉大学  
〒803-8511 福岡県北九州市小倉北区  
下町津5丁目1番1号  
tel. 093-561-2136



Keyword

テーマ

## 生命 食料 環境 健康 地域創成 “生きる”を支える

**出展内容**  
東京農業大学は、125年の中で「生命・食料・健康・  
エネルギー・地域創成」など人類の生存に関わる幅広い  
領域を研究対象に国内外の課題解決に取り組んでいます。  
創立当初からの教育研究理念「実学主義」は継承され今  
日に至りました。今回は「食」と「暮らし」について参加  
者に体験して頂きます。

**協力**

東京農業大学  
〒156-8502  
東京都世田谷区保土ヶ谷1-1-1  
tel. 03-5477-2226

DATA

### 海上保安庁（第七管区海上保安本部）

〒801-8507 福岡県北九州市門司区西海岸1-3-10  
tel. 093-321-2931  
http://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku

プロフィール

イベント出展内容

海上保安庁では、452隻の船艇と74機の航空機を保有  
しており、海上の安全・治安の確保に努めています。仕  
事内容はさまざまで、船艇を運航する航海士や航空機を  
運行するパイロット、潜水士や在外公館での勤務など、  
世界の海を舞台に活躍することができます。  
興味のある方は、ぜひお越しください。

DATA

### 北九州市消防局

〒803-8509 福岡県北九州市小倉北区大手町3-9  
tel. 093-582-3805  
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/shoubou/shoubou.html

プロフィール

イベント出展内容

火災予防、警戒、鎮圧、交通事故や労働災害などによる  
救急・救助業務、地震や風水害対策など、市民の生命を  
災害から守る防災活動を行っています。また、被害を最  
小限にするため、全国に先駆け「泡消火剤」を用いた消  
火活動の導入や、応急手当資器材を積載し、救急事案に  
対応する「あかきゆう」を実施しています。

DATA

### 北九州市役所

〒803-8501 福岡県北九州市小倉北区城内1番1号  
tel. 093-582-2203  
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/

プロフィール

イベント出展内容

当日は、基本構想・基本計画である「元気発進！  
北九州」プランに基づき、「人と文化を育み、世界につな  
がる、環境と技術のまち」の実現に向けて、市民と一体  
となり、新たなまちづくりを進めていきます。また「環境  
と「アジア」をキーワードとした緑の成長戦略」に取り組み、  
経済・雇用対策の成功モデルを発信していきます。

平成 26 年下半期食品産業動向調査

# 食品産業動向調査結果

- 1 食品産業の景況
- 2 食品産業の製商品の志向
- 3 食品産業の HACCP への取組み

## 調査要領

調査時点 平成27年1月1日

調査方法 郵送により調査票を配付し、郵送により回収

調査対象企業

公庫取引先を含む全国の食品関係企業 7,178社

回答先数 2,547社 (回答率：35.5%)

|      |       |        |
|------|-------|--------|
| <内訳> | 食品製造業 | 1,661社 |
|      | 食品卸売業 | 597社   |
|      | 食品小売業 | 224社   |
|      | 飲食業   | 65社    |

※景況判断のため、アンケート結果から DI 値を算出。DI (Diffusion Index = 動向指数) とは、「増加する (良くなる)」と回答した企業の割合から「減少する (悪くなる)」と回答した企業の割合を差し引いた数値。

詳しい調査結果を当公庫農林水産事業ホームページ (<http://www.jfc.go.jp/>) に掲載しています。トップページから「刊行物・各種調査結果」→「農林水産事業による調査」→「食品産業動向調査」の順をご覧ください。

<調査に関するお問い合わせ>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部 TEL 03-3270-3151

平成 27 年 3 月



日本政策金融公庫  
農林水産事業

# 1 食品産業の景況

景況DI (景況DIは、売上高DI、経常利益DI、資金繰りDIを平均して算出)

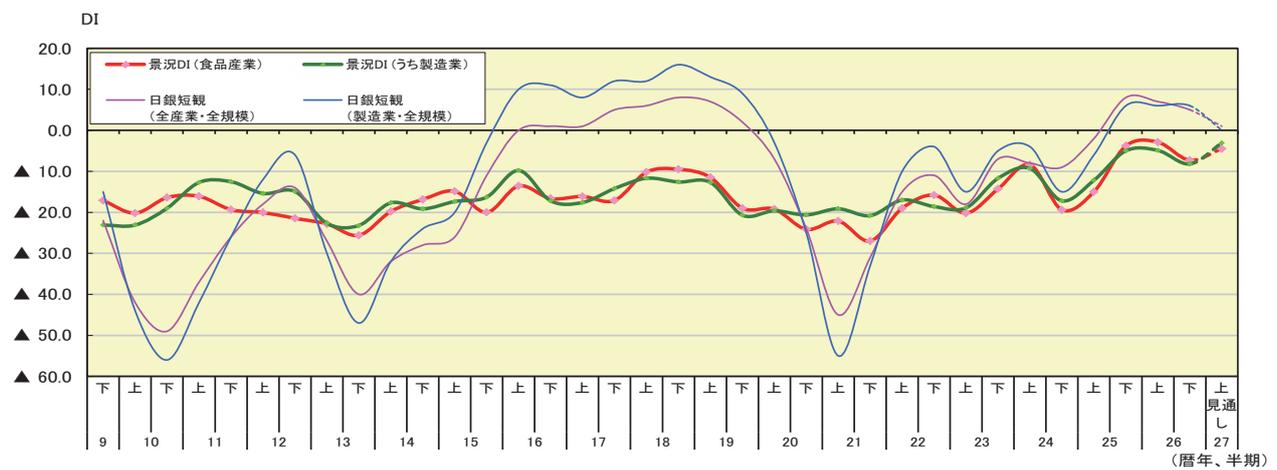
## 食品産業の景況感は売上伸びず足踏み状態

**【実績】**

○ 平成 26 年下半期の景況 DI は、前回調査時の 26 年上半期より 4.4 ポイント低下し▲ 7.3 となった。

**【見通し】**

○ 先行き 27 年上半期の景況 DI は 2.8 ポイント上昇し▲ 4.5 となる見通し。



|       | 22年下半期 | 23年上半期 | 23年下半期 | 24年上半期 | 24年下半期 | 25年上半期 | 25年下半期 | 26年上半期 | 26年下半期     | 27年上半期見通し  |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------------|------------|
| 食品産業  | ▲15.8  | ▲20.2  | ▲14.3  | ▲8.4   | ▲19.4  | ▲15.0  | ▲3.8   | ▲2.9   | ▲7.3(-4.4) | ▲4.5(+2.8) |
| うち製造業 | ▲18.6  | ▲18.9  | ▲11.7  | ▲9.3   | ▲17.2  | ▲12.2  | ▲5.0   | ▲4.9   | ▲8.2(-3.3) | ▲3.1(+5.1) |

( )は前回との差

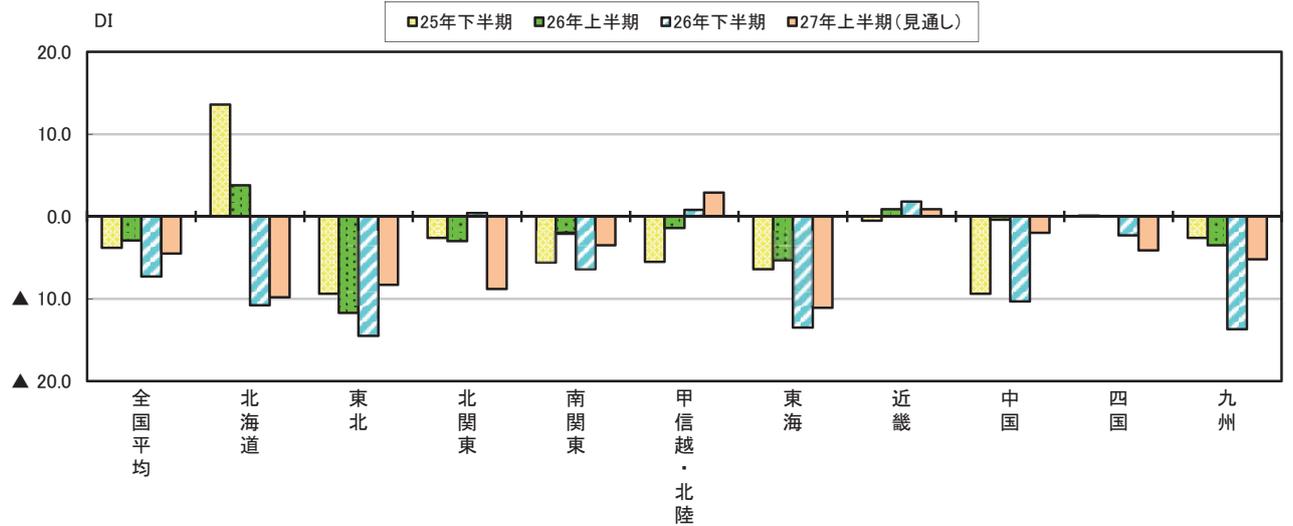
## 地域別景況DI

**【実績】**

○ 26 年下半期の地域別景況 DI は、10 地域のうち北海道、東北、南関東、東海、中国、四国、九州の 7 地域で前回調査から 2.3 ~ 14.6 ポイント幅の低下となった。

**【見通し】**

○ 先行き 27 年上半期の地域別景況 DI は、北海道、東北、南関東、甲信越・北陸、東海、中国、九州の 7 地域で 1.0 ~ 8.5 ポイント幅の上昇となる見通し。



(注) 地域の区分

- 北海道 …… 北海道
- 東北 …… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 北関東 …… 茨城県、栃木県、群馬県
- 南関東 …… 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 甲信越・北陸 …… 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県

(地域名)

- 東海 …… 岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- 近畿 …… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 中国 …… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 四国 …… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 九州 …… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県(沖縄県除く)

## 業種別景況DI

### 【製造業】

- 26年下半期の景況DIは3.3ポイント低下し▲8.2となった。
- 27年上半期の景況DIは5.1ポイント上昇し▲3.1となる見通し。

### 【卸売業】

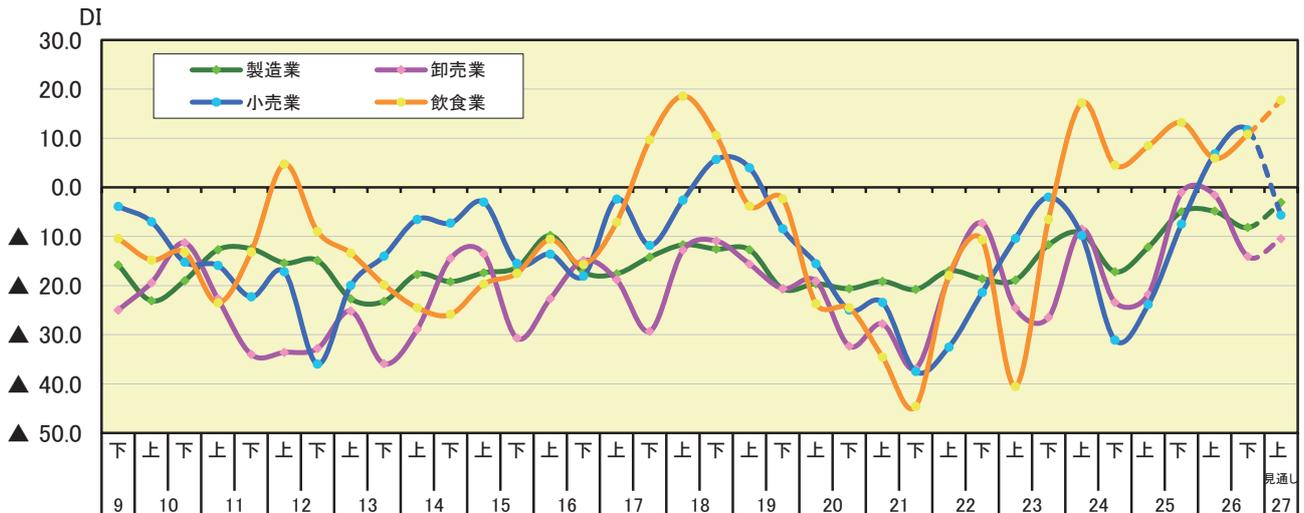
- 26年下半期の景況DIは12.5ポイント大幅低下し▲14.1となった。
- 27年上半期の景況DIは3.6ポイント上昇し▲10.5となる見通し。

### 【小売業】

- 26年下半期の景況DIは4.9ポイント上昇し11.7となった。
- 27年上半期の景況DIは17.4ポイント大幅低下し▲5.7となる見通し。

### 【飲食業】

- 26年下半期の景況DIは4.9ポイント上昇し10.8となった。
- 27年上半期の景況DIは6.9ポイント上昇し17.7となる見通し。

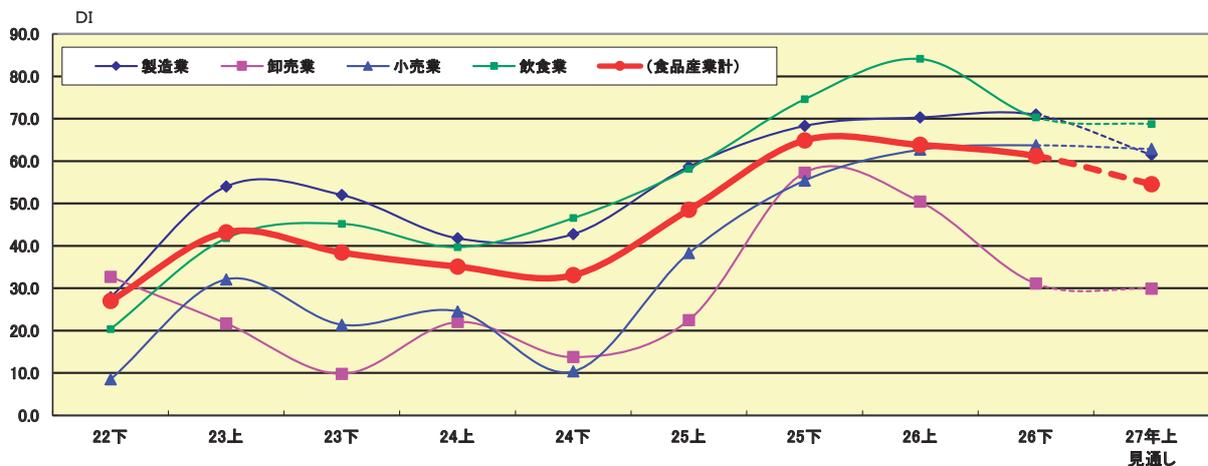


|     | 22年下半期 | 23年上半期 | 23年下半期 | 24年上半期 | 24年下半期 | 25年上半期 | 25年下半期 | 26年上半期 | 26年下半期       | 27年上半期見通し   |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------------|-------------|
| 製造業 | ▲18.6  | ▲18.9  | ▲11.7  | ▲9.3   | ▲17.2  | ▲12.2  | ▲5.0   | ▲4.9   | ▲8.2(-3.3)   | ▲3.1(+5.1)  |
| 卸売業 | ▲7.3   | ▲24.6  | ▲26.5  | ▲8.5   | ▲23.4  | ▲21.8  | ▲1.1   | ▲1.6   | ▲14.1(-12.5) | ▲10.5(+3.6) |
| 小売業 | ▲21.4  | ▲10.4  | ▲2.0   | ▲9.8   | ▲31.1  | ▲23.9  | ▲7.5   | 6.8    | 11.7(+4.9)   | ▲5.7(-17.4) |
| 飲食業 | ▲10.7  | ▲40.5  | ▲6.5   | 17.2   | 4.5    | 8.4    | 13.2   | 5.9    | 10.8(+4.9)   | 17.7(+6.9)  |

( )は前回との差

## 仕入価格DI (「上昇」の割合から「低下」の割合を引いた値)

- 26年下半期の仕入価格DIは2.6ポイント低下ながら61.2と価格上昇となった。
- 27年上半期の仕入価格DIも6.7ポイント低下ながら54.5と価格上昇が続く見通し。



|       | 22年下半期 | 23年上半期 | 23年下半期 | 24年上半期 | 24年下半期 | 25年上半期 | 25年下半期 | 26年上半期 | 26年下半期      | 27年上半期見通し  |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|------------|
| 食品産業  | 27.0   | 43.2   | 38.4   | 35.1   | 33.1   | 48.5   | 64.9   | 63.8   | 61.2(-2.6)  | 54.5(-6.7) |
| うち製造業 | 27.9   | 54.0   | 52.0   | 41.8   | 42.8   | 58.7   | 68.3   | 70.3   | 70.9(+0.6)  | 61.5(-9.4) |
| うち卸売業 | 32.7   | 21.7   | 9.8    | 22.0   | 13.7   | 22.5   | 57.3   | 50.4   | 31.1(-19.3) | 29.9(-1.2) |
| うち小売業 | 8.5    | 32.1   | 21.4   | 24.6   | 10.4   | 38.3   | 55.4   | 62.7   | 63.7(+1.0)  | 62.8(-0.9) |
| うち飲食業 | 20.4   | 41.8   | 45.2   | 39.7   | 46.6   | 58.2   | 74.6   | 84.1   | 70.3(-13.8) | 68.8(-1.5) |

( )は前回との差

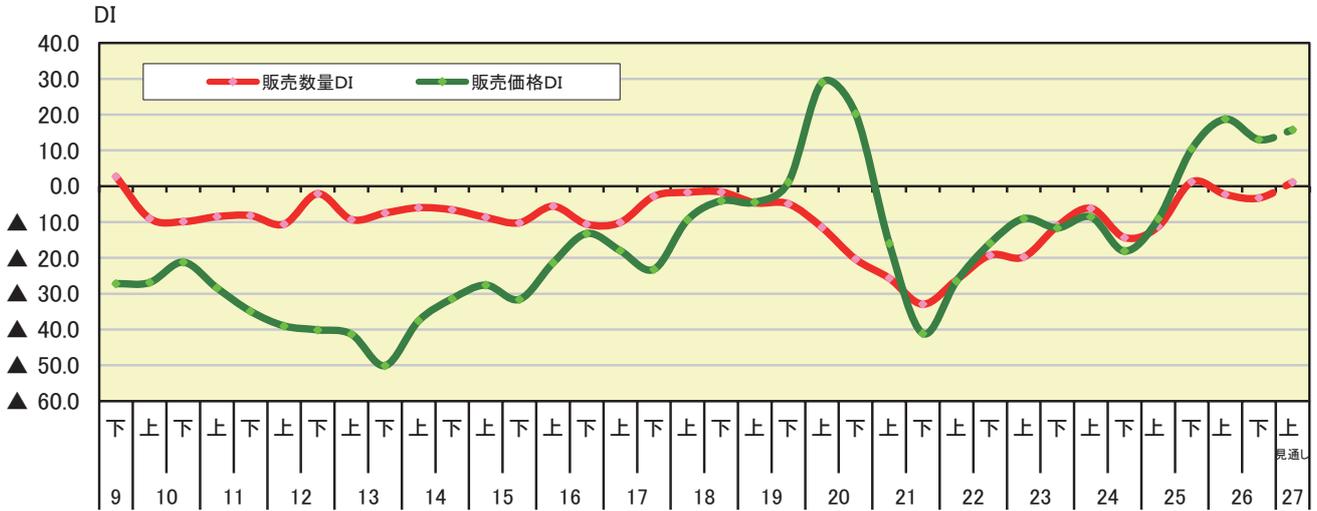
## 販売価格DIと販売数量DI (「上昇(増加)」の割合から「低下(減少)」の割合を引いた値)

### 【販売価格】

- 26年下半期の販売価格DIは5.7ポイント低下ながら13.0と価格上昇となった。
- 27年上半期の販売価格DIは2.7ポイント上昇し15.7と価格上昇が続く見通し。

### 【販売数量】

- 26年下半期の販売数量DIは1.0ポイント低下し▲3.3と数量減少となった。
- 27年上半期の販売数量DIは4.4ポイント上昇し1.1と数量増加となる見通し。

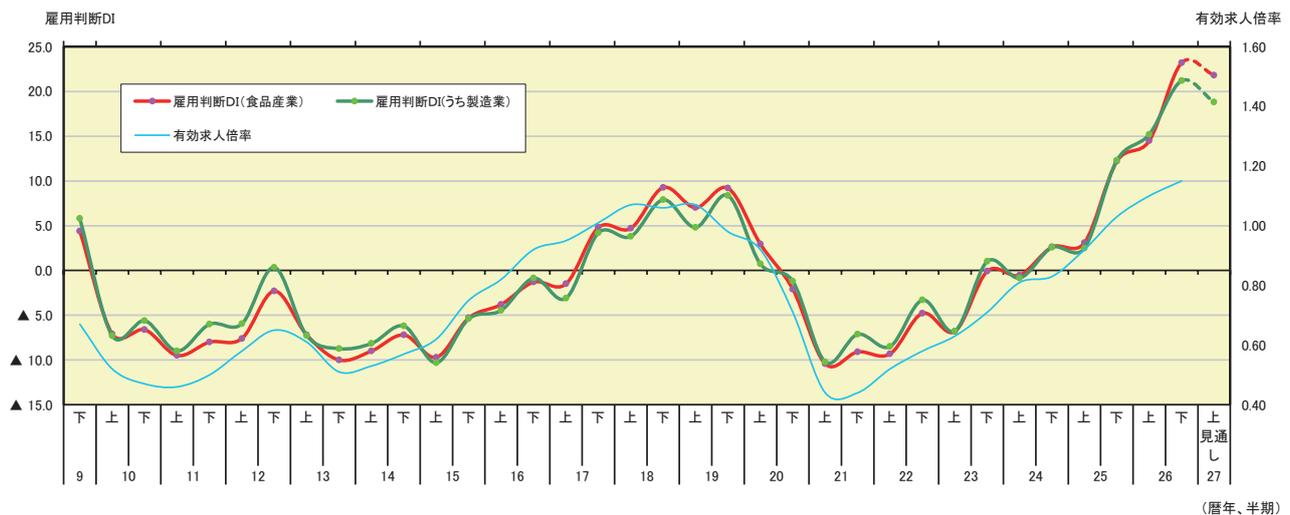


|        | 22年下半期 | 23年上半期 | 23年下半期 | 24年上半期 | 24年下半期 | 25年上半期 | 25年下半期 | 26年上半期 | 26年下半期     | 27年上半期見通し  |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------------|------------|
| 販売数量DI | ▲19.2  | ▲19.8  | ▲11.1  | ▲6.2   | ▲14.3  | ▲11.3  | 1.2    | ▲2.3   | ▲3.3(-1.0) | 1.1(+4.4)  |
| 販売価格DI | ▲15.9  | ▲9.1   | ▲11.6  | ▲8.6   | ▲18.1  | ▲9.2   | 10.4   | 18.7   | 13.0(-5.7) | 15.7(+2.7) |

( )は前回との差

## 雇用判断DI (「不足」の割合から「過剰」の割合を引いた値)

- 26年下半期の雇用判断DIは8.7ポイント上昇し23.2と不足感の拡大となった。
- 27年上半期の雇用判断DIは1.4ポイント低下し21.8と不足感が続く見通し。

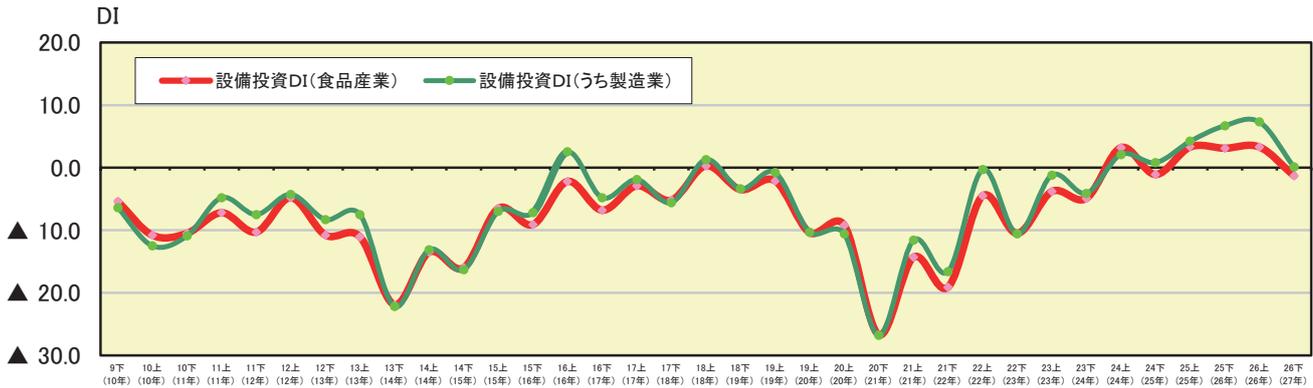


|       | 22年下半期 | 23年上半期 | 23年下半期 | 24年上半期 | 24年下半期 | 25年上半期 | 25年下半期 | 26年上半期 | 26年下半期     | 27年上半期見通し  |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------------|------------|
| 食品産業  | ▲4.8   | ▲6.8   | ▲0.1   | ▲0.5   | 2.6    | 3.1    | 12.2   | 14.5   | 23.2(+8.7) | 21.8(-1.4) |
| うち製造業 | ▲3.3   | ▲6.8   | 1.0    | ▲0.8   | 2.6    | 2.5    | 12.3   | 15.2   | 21.2(+6.0) | 18.8(-2.4) |

( )は前回との差

## 設備投資DI (「増加」の割合から「減少」の割合を引いた値)

- 設備投資DI(平成26年下半期時点での平成27年通年の見通し)は、前回調査(26年上半期)より4.6ポイント低下し▲1.3とマイナス値に転じており、改善傾向が続いていた設備投資環境に停滞感がみられる。



上段は調査時期、( )内は見通し年

(注) 年途中に行う上半期調査に比べ、年初に行う下半期調査の方が設備投資に対して弱含みの数値となりやすい。

| 調査時期<br>(見通し年) | 22年下半期<br>(23年) | 23年上半期<br>(23年) | 23年下半期<br>(24年) | 24年上半期<br>(24年) | 24年下半期<br>(25年) | 25年上半期<br>(25年) | 25年下半期<br>(26年) | 26年上半期<br>(26年) | 26年下半期<br>(27年) |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 食品産業           | ▲10.5           | ▲3.8            | ▲4.9            | 3.2             | ▲1.1            | 3.3             | 3.1             | 3.3             | ▲1.3(-4.6)      |
| うち製造業          | ▲10.6           | ▲1.2            | ▲4.1            | 2.1             | 0.8             | 4.2             | 6.7             | 7.3             | 0.1(-7.2)       |

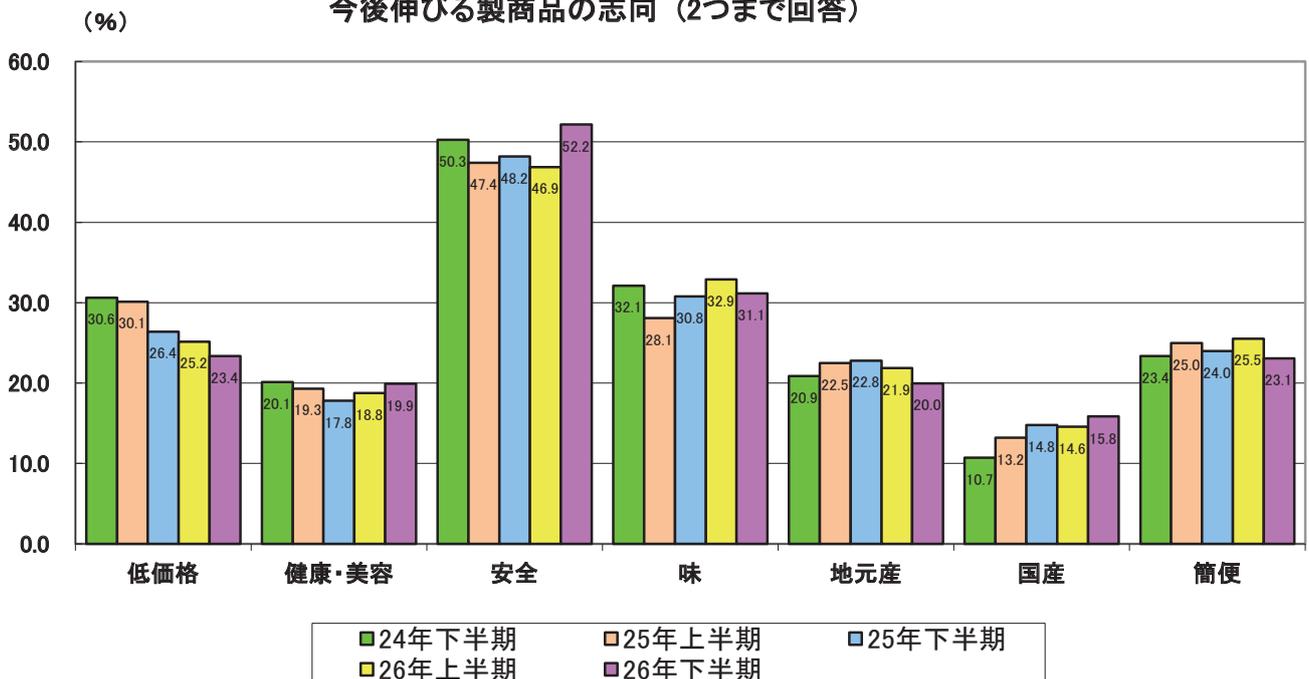
( )は前回との差

## 2 食品産業の製商品の志向

### 「低価格」はさらに減少、「安全」は増加に転じる

- 食品産業で今後伸びる製商品について聞いたところ、「低価格」志向が前回調査(26年上半期)より1.8ポイント減少し23.4%で引き続き減少傾向にある。
- 一方、減少傾向にあった「安全」が一転して5.3ポイント増加し52.2%となり、「国産」が1.2ポイント増加し15.8%と引き続き増加傾向にある。
- 期限切れ中国産鶏肉の使用、異物混入問題など食の安全・安心をめぐる出来事が影響していると思われる。

### 今後伸びる製商品の志向 (2つまで回答)



### 3 食品産業のHACCPへの取組み

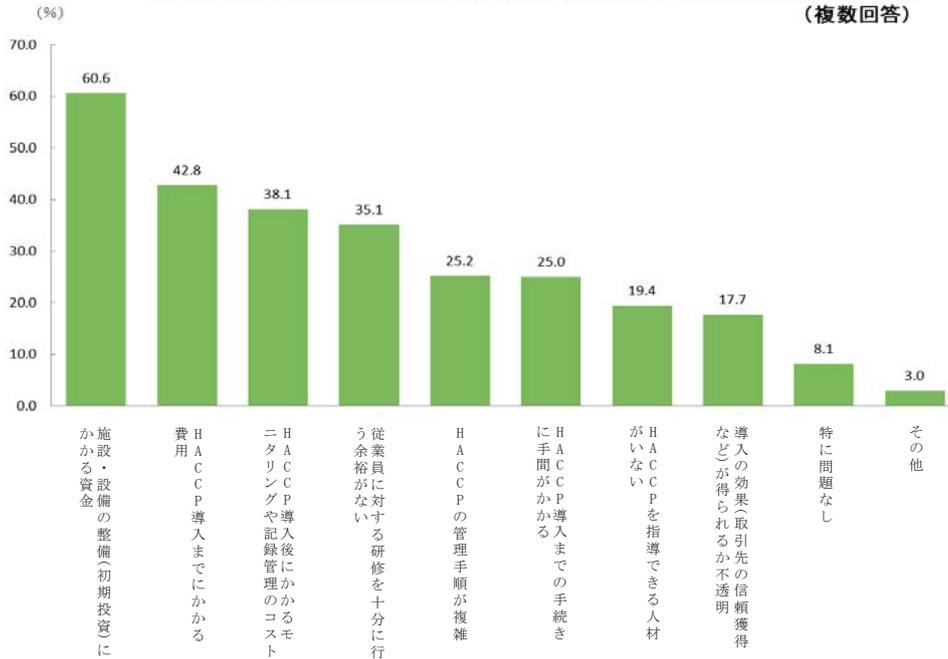
#### HACCPの導入状況と導入時の課題（製造業）

- 食品製造業の方に HACCP 導入の状況を聞いたところ、35.4%の食品製造企業が「導入している」と回答した。また、「導入を予定している」が11.7%で、これらを合わせると47.1%の食品製造企業が積極的に HACCP に取り組んでいることがわかった。一方で、52.9%と半数以上の食品製造業で HACCP を「導入していない」という取り組みの低さも見られる。
- HACCP 導入時に問題となった、もしくは問題になるとと思われる事項（複数回答）については、「施設や設備の整備にかかる資金」が60.6%と最も多く、次いで「導入までにかかる費用」が42.8%、「導入後にかかるコスト」が38.1%と圧倒的に資金負担面が問題であると考えられていることがわかった。

#### 食品製造業におけるHACCPの導入状況



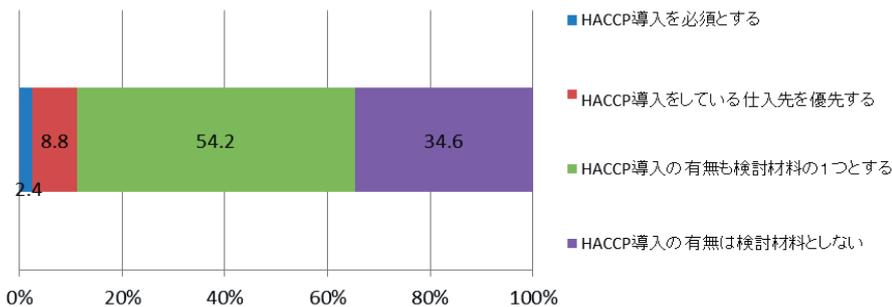
食品製造業でHACCP導入時に問題となった事項、もしくは問題になるとと思われる事項（複数回答）



#### 食品の仕入れにおけるHACCP導入の必要性（卸売業・小売業・飲食業）

- 食品の卸売業・小売業と飲食業の方に、食品を仕入れるにあたり、その食品の製造企業が HACCP を導入しているかどうかを考慮するか聞いたところ、「検討材料の一つとする」が54.2%、「導入の仕先を優先する」が8.8%、「導入を必須とする」が2.4%で、これらを合わせると65.4%の企業が食品の仕入れに HACCP 導入を考慮していることがわかった。

#### 食品の仕入れでのHACCP導入の必要性（食品卸売業、食品小売業、飲食業）



## 「食の安全」への関心度は70代が7割以上 安全性の判断基準は「国産」

<日本公庫・平成27年度上半期消費者動向調査>

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業が7月に実施した平成27年度上半期消費者動向調査で、「食の安全」への関心度及び消費者が食品購入する際、安全性について何を判断基準としているのかを品目別に調査しました。その結果、「食の安全」に対する関心が70代の7割以上を軸にきわめて高く、また、購入する食品が「国産」であることが安全性を判断する主要な基準となっていました。裏返せば、消費者は、国産食品における「食の安全」に関する信頼が高いことを示しています。

詳細は、以下のとおりです。

<調査結果のポイント>

### ○「食の安全」高い関心 男女別では女性の比率が高い(資料:図1)

我々は、生活を営む上で、自然災害や交通事故、病気・けがなど様々なリスク・問題に対して安全を意識しているが、それらの中で「食の安全」は、どの程度の位置づけか消費者に質問したところ、「関心がかなり高い」「関心が高い」と回答した割合は、あわせて49.3%となり、様々なリスク・問題の中でも、「食の安全」に対する関心は高いことがわかった。

男女別では、男性よりも女性で高く、また、年代別では、高年齢層ほど関心が高まる傾向がみられ、特に70代では、72.8%と非常に高い関心をもっていることがわかった。

### ○「食の安全」の確保、販売店舗・事業者の役割も重要(資料:図2)

消費者は食品を購入する際、食品の安全性について、何を基準として判断しているのかを品目別に調査した結果、「国産」であることが、「米」、「野菜」、「鶏卵」で最多回答として4割以上を占める結果となっており、また、その他品目でも上位3番目の回答となるなど、国産食品における「食の安全」に関する信頼が高いことを示す結果となった。

そのほか、食品を購入する先である「店舗・販売事業者」についても、各品目ともに高い割合となっており、消費者にとって、「食の安全」を確保する上で、これら事業者の位置づけは高く、その役割が重要であることがうかがわれる結果となった。

|      |                                  |
|------|----------------------------------|
| 調査時期 | 平成27年7月1日～7月15日                  |
| 調査方法 | インターネットによるアンケート調査                |
| 調査対象 | 全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人） |

※四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある。

図1 日常生活を営む上で、自然災害、交通事故、病気・けがなど様々なリスク・問題に対する安全を意識する中で、「食の安全」は、どの程度の位置づけで関心を持っているか

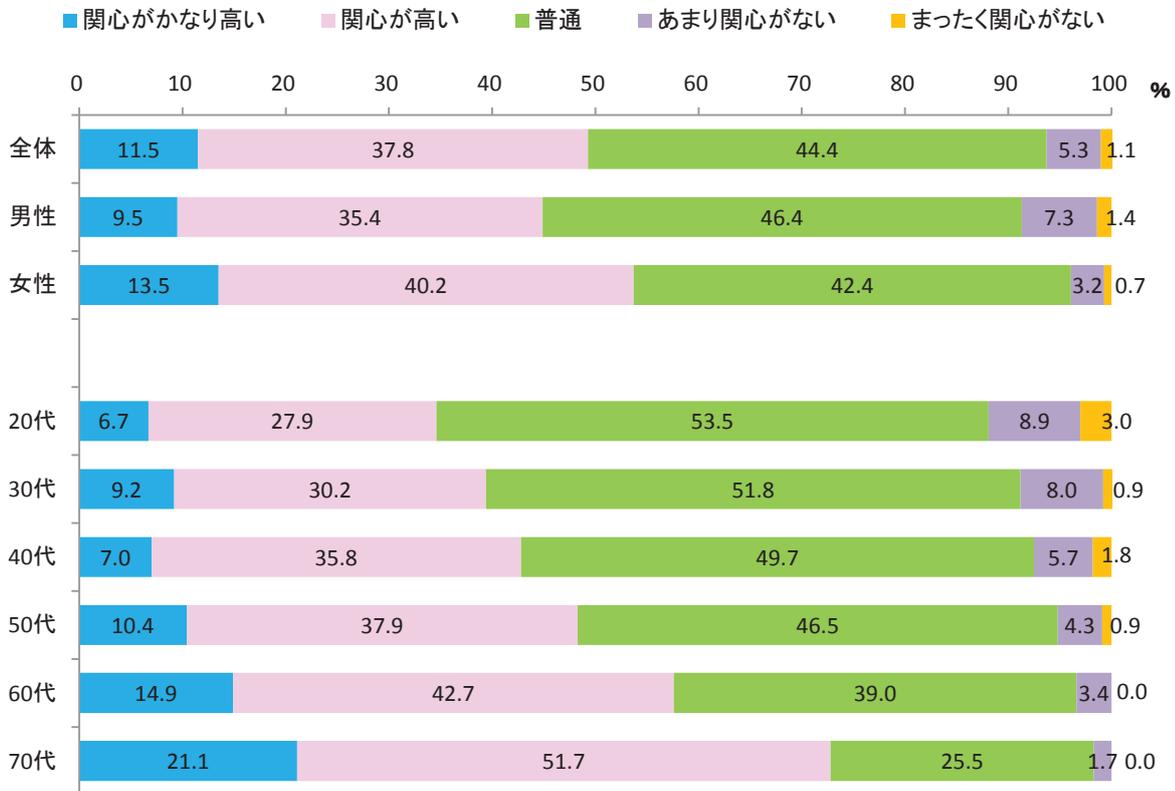
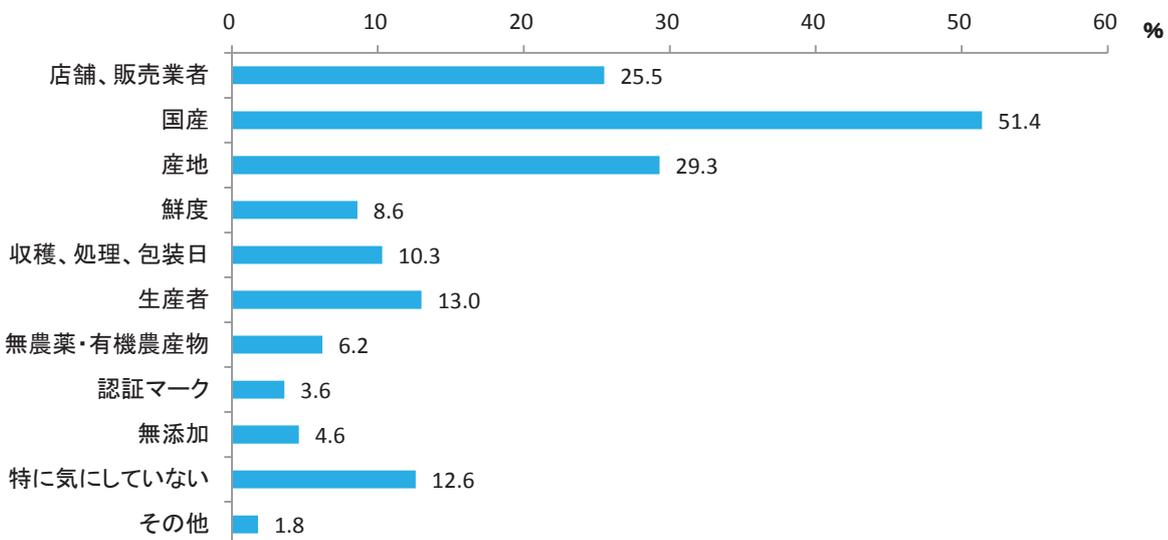
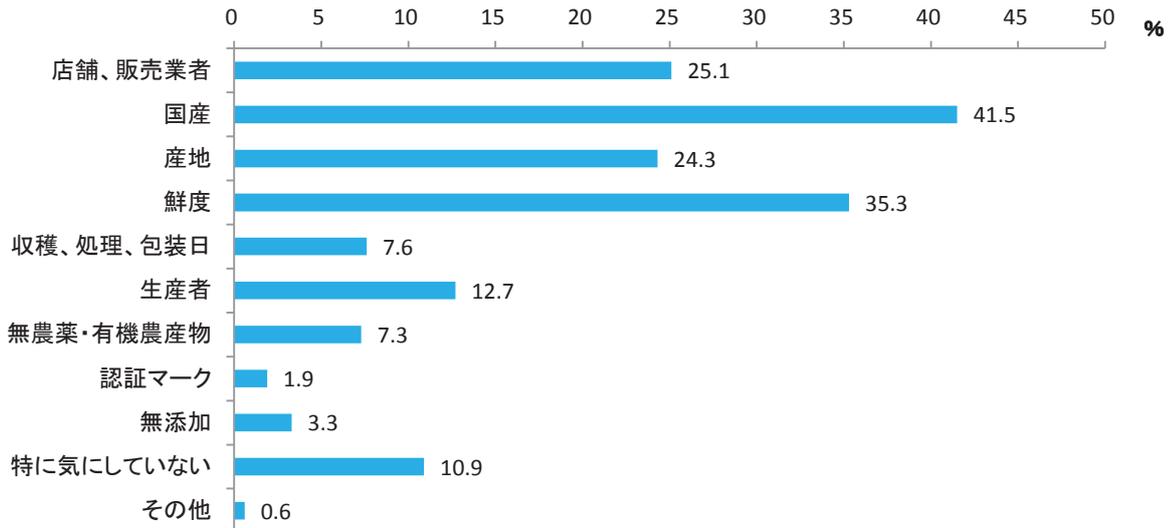


図2 品目別 食品購入時における安全性の判断基準(食品購入時に安全性を何で判断しているか)

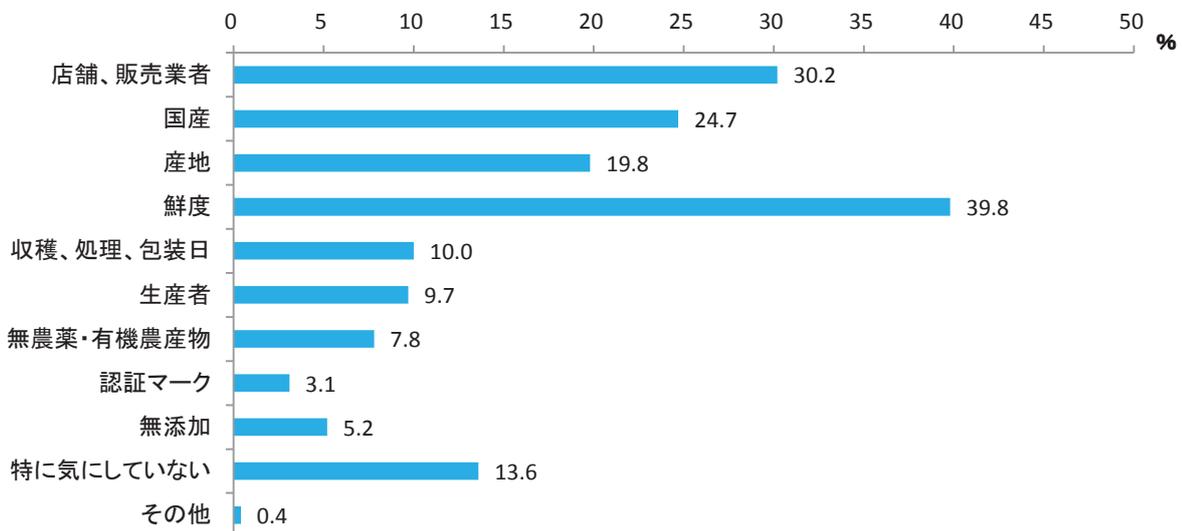
【米】(主なもの2つまで)



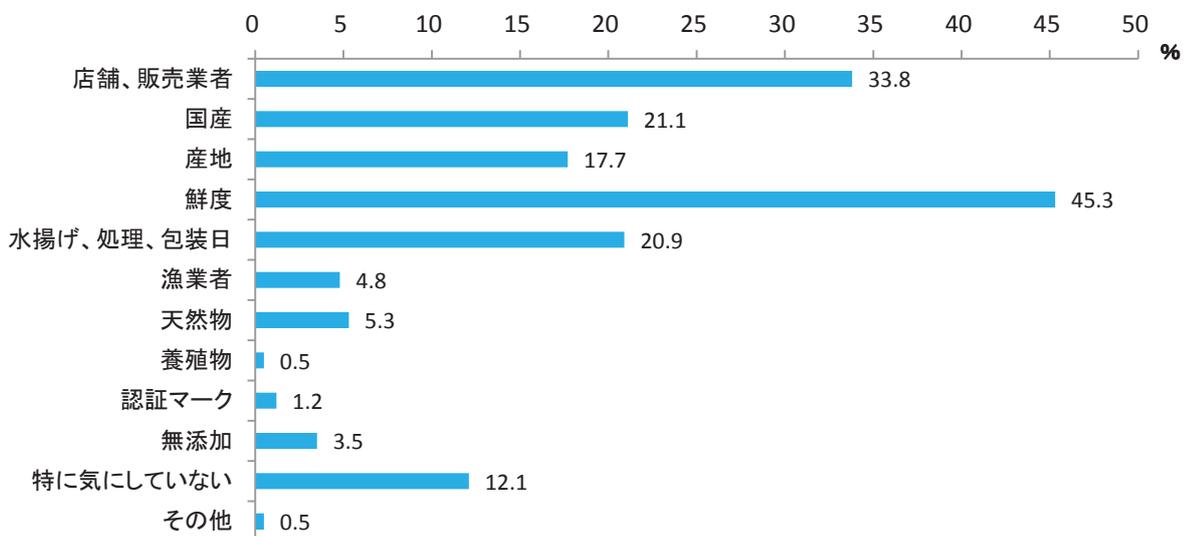
### 【野菜】(主なもの2つまで)



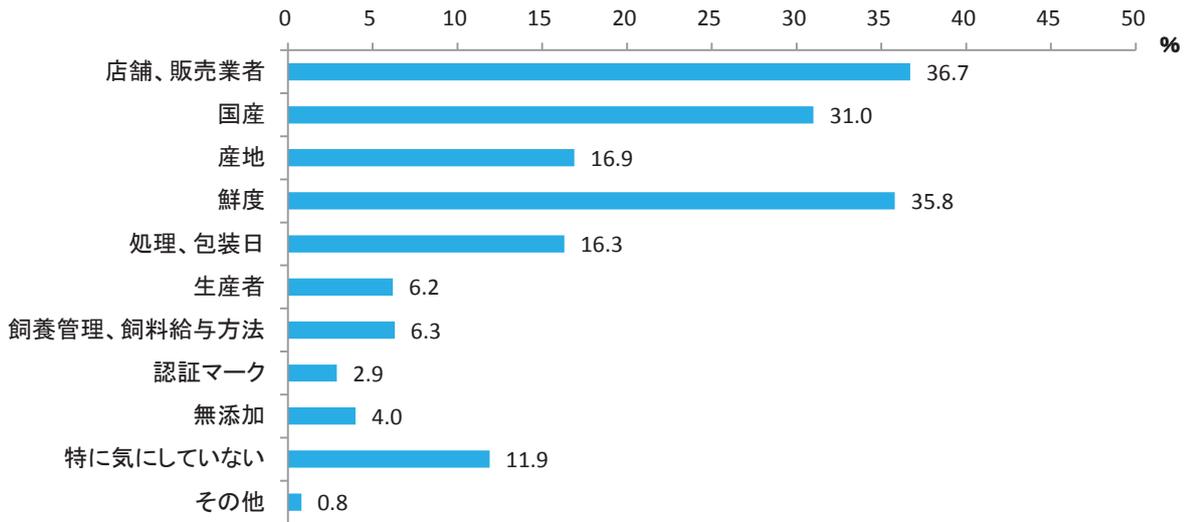
### 【果物】(主なもの2つまで)



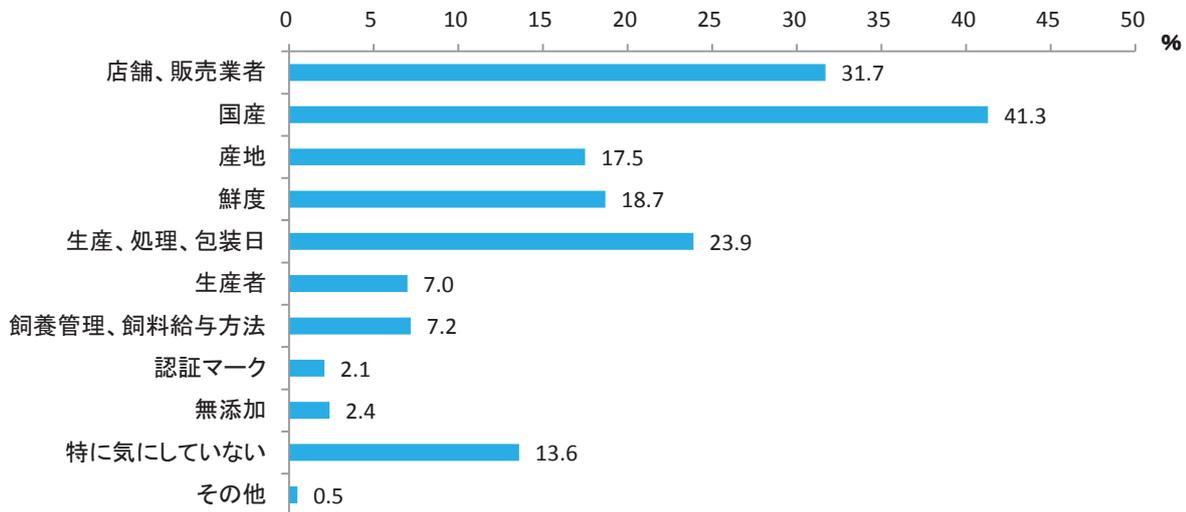
### 【魚介類】(主なもの2つまで)



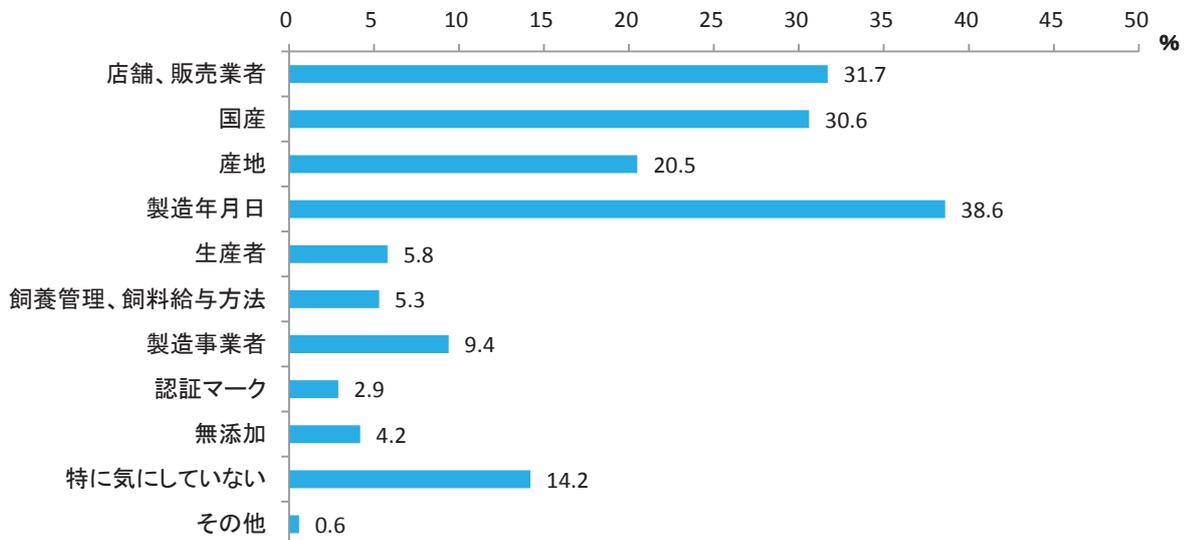
### 【食肉】(主なもの2つまで)



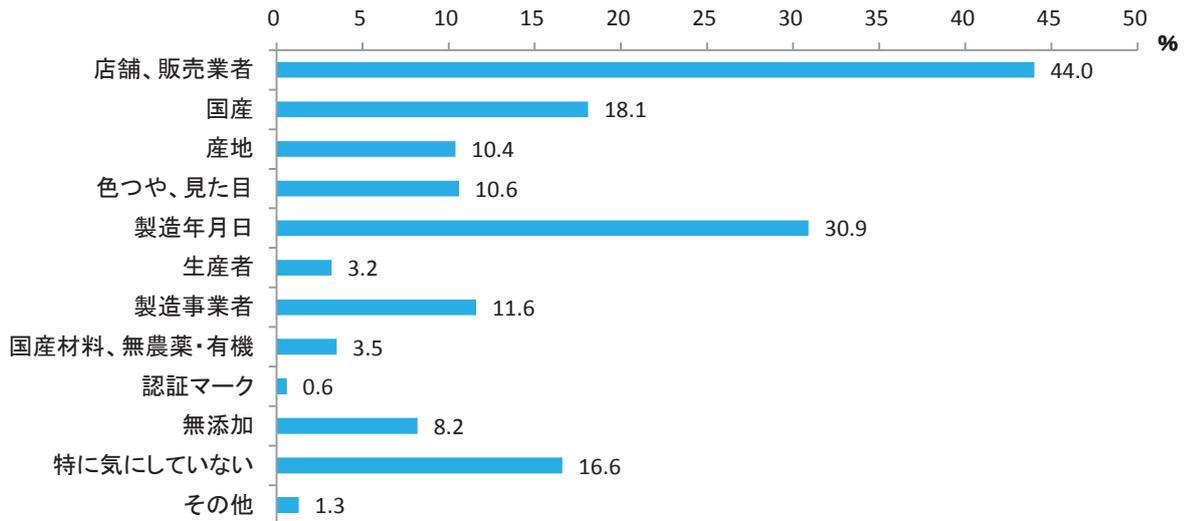
### 【鶏卵】(主なもの2つまで)



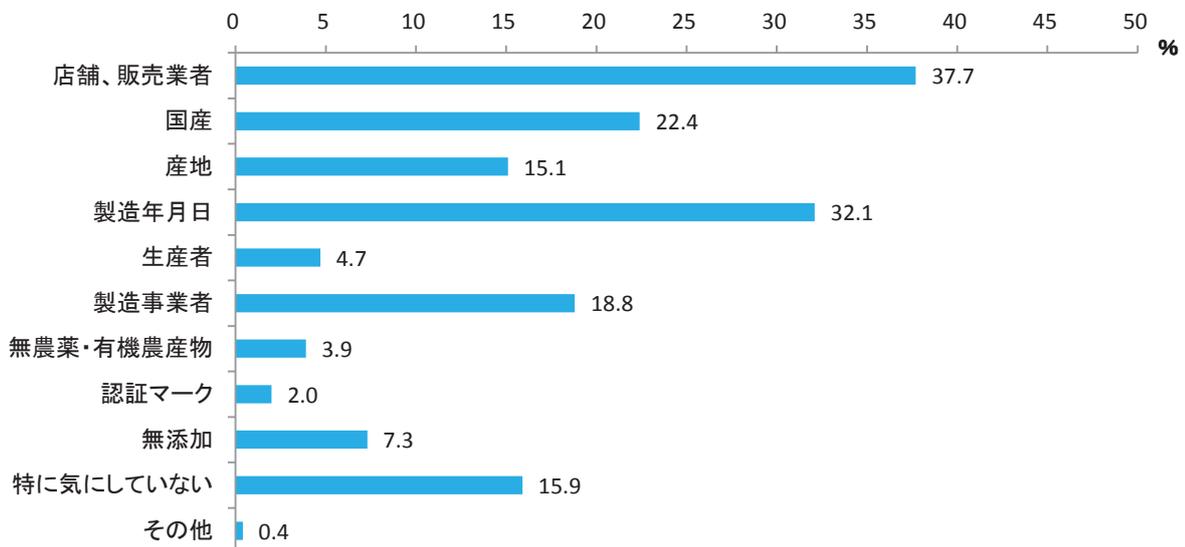
### 【牛乳乳製品】(主なもの2つまで)



【弁当・惣菜】(主なもの2つまで)



【加工食品】(主なもの2つまで)



## 食品健康影響評価の審議状況

(平成28年3月4日現在)

| 区分                               | 要請件数<br>注2) | うち<br>27年度分 |    | 合計    | 評価終了<br>うち<br>27年度分 |     | 意見<br>募集中<br>注3) | 審議中<br>注1) |
|----------------------------------|-------------|-------------|----|-------|---------------------|-----|------------------|------------|
|                                  |             | 自ら評価        | 合計 |       | 評価終了                | 合計  |                  |            |
| 添加物 注11)                         | 166         | 13          | 0  | 166   | 162                 | 24  | 0                | 4          |
| 農薬                               | 1037        | 38          | 0  | 1037  | 787                 | 65  | 18               | 232        |
| うちポジティブリスト関係                     | 491         | 6           | 0  | 491   | 304                 | 24  | 7                | 180        |
| うち清涼飲料水                          | 33          |             | 0  | 33    | 33                  |     | 0                | 0          |
| うち飼料中の残留農薬基準 注7)                 | 42          |             | 0  | 42    | 10                  |     | 0                | 32         |
| 動物用医薬品                           | 524         | 29          | 0  | 524   | 495                 | 40  | 2                | 27         |
| うちポジティブリスト関係                     | 108         | 1           | 0  | 108   | 79                  | 8   | 2                | 27         |
| 汚染物質等 注8)                        | 62          |             | 3  | 65    | 60                  |     | 1                | 4          |
| うち清涼飲料水                          | 49          |             | 0  | 49    | 46                  |     | 0                | 3          |
| 器具・容器包装                          | 16          |             | 0  | 16    | 11                  | 3   | 1                | 4          |
| 微生物・ウイルス 注9)                     | 14          | 1           | 2  | 16    | 16                  | 2   | 0                | 0          |
| プリオン                             | 50          | 10          | 16 | 66    | 51                  | 9   | 0                | 15         |
| かび毒・自然毒等 注4)                     | 7           |             | 3  | 10    | 10                  |     | 0                | 0          |
| 遺伝子組換え食品等                        | 240         | 20          | 0  | 240   | 225                 | 21  | 3                | 12         |
| 新開発食品 注5)                        | 82          | 1           | 1  | 83    | 82                  | 4   | 0                | 3          |
| 肥料・飼料等                           | 202         | 5           | 0  | 202   | 147                 | 18  | 1                | 54         |
| うちポジティブリスト関係                     | 100         |             | 0  | 100   | 57                  |     | 0                | 43         |
| 薬剤耐性菌                            | 5           | 3           | 0  | 5     | 4                   | 4   | 0                | 1          |
| 肥飼料・微生物合同 注10)                   | 1(34)       |             | 0  | 1     | 1(13)               |     | 0                | 0          |
| 高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するワーキンググループ | 1           |             | 0  | 1     | 1                   |     | 0                | 0          |
| 食品による窒息事故に関するワーキンググループ           | 1           |             | 0  | 1     | 1                   |     | 0                | 0          |
| 放射性物質の食品健康影響に関するワーキンググループ        | 1           |             | 0  | 1     | 1                   |     | 0                | 0          |
| その他 注6)                          | 1           |             | 1  | 2     | 1                   |     | 0                | 1          |
| 合計                               | 2,410       | 120         | 26 | 2,436 | 2,055               | 190 | 26               | 357        |

- (注) 1 審議中欄には、審議継続の案件のほか、今後検討を開始するものを含む。  
2 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。  
3 意見募集中欄には、意見情報の募集を締め切った後に検討中のものも含む。  
4 自ら評価案件「デオキシニバレノール及びニバレノール」について、評価終了欄には「デオキシニバレノール」、「ニバレノール」をそれぞれ1件として計上し、2件として記入している。  
5 自ら評価案件「トランス脂肪酸」は、通知先が消費者庁、厚生労働省及び農林水産省のため、評価終了欄は3件として記入している。  
6 平成22年3月18日に自ら評価案件として決定された「アルミニウム」は、まず情報収集から始めることとされたため、現在、担当専門調査会が未定となっている。  
7 飼料中の残留農薬基準欄については、ポジティブリスト制度の導入に際して、飼料中の残留基準が設定された農薬についての食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件数である。  
8 平成26年7月30日付けで評価要請のあった「ジクロロ酢酸」「トリクロロ酢酸」については、「クロロ酢酸」も評価したため、3件として記入している。  
9 平成16年度に自ら評価案件として決定した「食中毒原因微生物に関する食品健康影響評価」については、平成24年6月28日の委員会において、自ら評価案件として終了することとなった。  
10 平成15年12月8日付けで評価要請のあった「飼料添加物として指定された抗菌性物質、動物用医薬品のうち、飼料添加物として指定されている抗菌性物質と同一又は同系統で薬剤耐性の交差が認められる抗菌性物質により選択される薬剤耐性菌に係る食品健康影響評価」について、( )内に物質数を記入している。  
11 平成25年11月20日付けで評価要請のあった過酢酸製剤及び同製剤に含まれる物質については、過酢酸製剤の評価に当たり「酢酸」「過酸化水素」も評価したため、過酢酸製剤及び「過酢酸」「1-ヒドロキシエチリデン-1,1-ジホスホン酸」「オクタン酸」「酢酸」「過酸化水素」の計6件として記入している。

## 研究事業名一覧

[閲覧システムトップ](#)[検索トップ](#)[研究分野一覧](#)[担当課情報](#)[研究事業変遷表](#)[閲覧システムトップ](#) > [研究分野一覧](#) > 平成27(2015)年度[本データベースについて](#)[利用規約について](#)[ご利用環境について](#)\* **総括研究報告書** : 当該年度の研究報告書\* **総合研究報告書** : 複数年度の研究成果全般についての最終報告書

表示件数

20 ▼

## 行政政策研究分野

| 研究事業名                      | 登録件数 |       |
|----------------------------|------|-------|
|                            | 概要版  | 報告書本文 |
| 政策科学総合研究 (政策科学推進研究)        | 0    | 2     |
| 政策科学総合研究 (統計情報総合研究)        | 12   | 0     |
| 地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究 | 8    | 0     |
| 厚生労働科学特別研究                 | 27   | 0     |

## 厚生科学基盤研究分野

| 研究事業名    | 登録件数 |       |
|----------|------|-------|
|          | 概要版  | 報告書本文 |
| 未承認薬評価研究 | 0    | 0     |

## 疾病・障害対策研究分野

| 研究事業名                                       | 登録件数 |       |
|---|------|-------|
|   | 概要版  | 報告書本文 |
| 成育疾患克服等次世代育成基盤研究                            | 13   | 2     |
| がん対策推進総合研究                                  | 27   | 0     |
| 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究                       | 34   | 0     |
| 女性の健康の包括的支援総合研究                             | 1    | 0     |
| 難治性疾患等克服研究 (難治性疾患政策研究)                      | 53   | 0     |
| 難治性疾患等克服研究 (免疫アレルギー疾患等政策研究 免疫アレルギー疾患政策研究分野) | 0    | 0     |
| 難治性疾患等克服研究 (免疫アレルギー疾患等政策研究 移植医療基盤整備研究分野)    | 6    | 0     |
|   | 1    |       |

|                      |    |   |
|----------------------|----|---|
| 慢性の痛み対策研究            | 1  | 0 |
| 長寿科学総合研究             | 1  | 0 |
| 認知症対策総合研究            | 6  | 0 |
| 障害者対策総合研究            | 35 | 1 |
| 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究 | 29 | 0 |
| エイズ対策研究              | 18 | 0 |
| 肝炎等克服政策研究            | 0  | 0 |

### 健康安全確保総合研究分野

| 研究事業名                         | 登録件数 |       |
|-------------------------------|------|-------|
|                               | 概要版  | 報告書本文 |
| 地域医療基盤開発推進研究                  | 5    | 0     |
| 労働安全衛生総合研究                    | 15   | 1     |
| 食品の安全確保推進研究                   | 67   | 2     |
| 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス<br>政策研究 | 10   | 0     |
| 化学物質リスク研究                     | 23   | 1     |
| 健康安全・危機管理対策総合研究               | 31   | 0     |

▲このページのTOPへ

消費者の  
皆様へ

# 「機能性表示食品」って何？

特定保健用食品(トクホ)、栄養機能食品とは異なる新しい食品の機能性表示制度ができました。



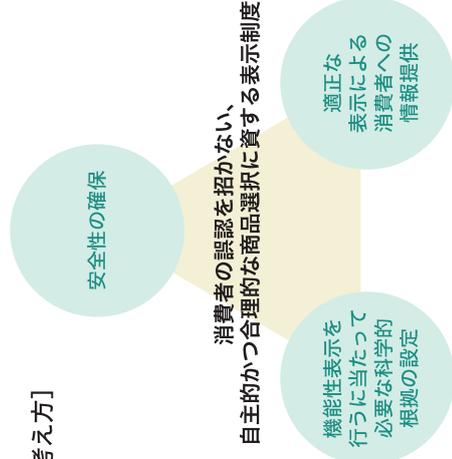
- 「機能性表示食品」は、事業者の責任で、科学的根拠を基に商品パッケージに機能性を表示するものとして、消費者庁に届け出られた食品です。
- 商品を買う前、摂取する前に、商品に表示されている注意書きや消費者庁のウェブサイトに公開された情報をしっかり確認してください。

# 1 機能性表示食品とは？

- 機能性を表示することができる食品は、これまで国が個別に許可した特定保健用食品（トクホ）と国の規格基準に適合した栄養機能食品に限られていました。
- そこで、機能性を分かりやすく表示した商品の選択肢を増やし、消費者の皆さんがそうした商品の正しい情報を得て選択できるよう、平成27年4月に、新しく「機能性表示食品」制度がはじまりました。

- 「おなかの調子を整えます」「脂肪の吸収をおだやかにします」など、特定の保健の目的が期待できる（健康の維持及び増進に役立つ）という食品の機能性を表示することができ食品です。
- 安全性の確保を前提とし、**科学的根拠**に基づいた機能性が、**事業者の責任**において表示されるものです。
- 消費者の皆さんが認識することなく商品を選択することができるよう、適正な表示などによる**情報提供**が行われます。

## [制度の基本的な考え方]



## 制度の特徴

1. 疾病に罹患していない方（未成年者、妊産婦（妊娠を計画している方を含む。）及び授乳婦を除く。）を対象にした食品です。
2. 生鮮食品を含め、すべての食品（一部除く。）が対象となっています。
3. 安全性及び機能性の根拠に関する情報、健康被害の情報収集体制など必要な事項が、商品の販売前に、事業者より消費者庁長官へ届けられます。
4. 特定保健用食品とは異なり、国が安全性と機能性の審査を行っていません。
5. 届け出られた情報は消費者庁のウェブサイトで公開されます。

## 機能性が表示されている食品

### 特定保健用食品（トクホ）

健康の維持増進に役立つことが科学的根拠に基づいて認められ、「コレステロールの吸収を抑える」などの表示が許可されている食品です。表示されている効果や安全性については国が審査を行い、食品ごとに消費者庁長官が許可しています。

### 栄養機能食品

一日に必要な栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）が不足しがちな場合、その補給・補完のために利用できる食品です。すでに科学的根拠が確認された栄養成分を一定の基準量含む食品であれば、特に届出などをしなくても、国が定めた表現によって機能性を表示することができます。

### 機能性表示食品

事業者の責任において、科学的根拠に基づいた機能性を表示した食品です。販売前に安全性及び機能性の根拠に関する情報などが消費者庁長官へ届け出られたものです。ただし、特定保健用食品とは異なり、消費者庁長官の個別の許可を受けたものではありません。



## 2 機能性表示食品の表示に書かれているのは・・・

パッケージの主要な面に「機能性表示食品」と表示されています。

届出番号が表示されています。  
消費者庁のウェブサイトで、届出番号ごとに安全性や機能性の根拠に関する情報を確認できます。

### パッケージ表

機能性表示食品

届出番号

●●● (商品名)

#### 〈届出表示〉

本品には◇◇◇が含まれるので、□□の機能があります。

本品は、事業者の責任において特定の保健の目的が期待できる旨を表示するものとして、消費者庁長官に届出されたものです。ただし、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。

科学的根拠を基にした機能性について、消費者庁長官に届け出た内容が表示されています。

特定の保健の目的が期待できる（健康の維持及び増進に役立つ）内容が表示されています。

### パッケージ裏

名称：○○○  
原材料名：◎◎◎◎◎、△△△△△、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○、×××××、……、(一部にXX-○を含む)  
内容量：90g(1粒500mg×180粒)  
賞味期限：欄外下部に記載  
保存方法：直射日光、高温多湿の場所を避けて保存してください。  
製造者：○○○○株式会社  
△△県○○○市 XXXX

●一日当たりの摂取目安量：2粒  
●摂取の方法：水またはぬるま湯と一緒に召し上がってください。  
●摂取上の注意：本品は多量摂取により疾病が治癒したり、より健康が増進するものではありません。  
●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。  
●本品は、疾病に罹患している者、未成年者、妊産婦（妊婦を計画している者を含む。）及び授乳婦を対象に開発された食品ではありません。●疾病に罹患している場合は医師に、医薬品を服用している場合は医師、薬剤師に相談してください。●体調に異変を感じた際は、速やかに摂取を中止し、医師に相談してください。



より詳しいことを知りたい場合は、**消費者庁のウェブサイト**で、**安全性や機能性の根拠**など事業者が**届け出た情報が公開されています。**  
<http://www.caa.go.jp/foods/index23.html>

表示されている**一日に摂取する量の目安、摂取方法**を守り、**注意事項**を確認して利用してください。

「**機能性表示食品**」は、**医薬品ではありません。**  
疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。  
疾病のある方、薬を服用されている方は、必ず**医師、薬剤師**にご相談ください。

疾病のある方、未成年者、妊産婦（妊婦を計画している方を含む）、授乳中の方を対象に開発された食品ではありません。  
※生鮮食品にはこの表示はありませんが、考え方は同じです。

主食、主菜、副菜がそろっていると、色々な栄養素をバランスよく摂取することにつながります。

事業者問合せ、又は連絡することができるよう電話番号が表示されています。

一日当たりの摂取目安量を摂取した場合、どのくらいの機能性関与成分が摂取できるかわかります。

# 3 機能性表示食品の安全性や機能性はどのよう確保されているの？

- 事業者が、国の定めた一定のルールに基づき安全性や機能性に関する評価を行うとともに、生産・製造・品質の管理の体制、健康被害の情報収集体制を整え、商品の販売日の60日前までに消費者庁長官に届け出ることとなっています。
  - 届け出られた内容は、消費者庁のウェブサイトで公開されます。
  - 消費者の皆さんは、商品の安全性や機能性がどのように確保されているのかなどについて、商品の情報を販売前に確認できます。
- ◆ 消費者庁が中心となり、販売後の監視を行います。

## 1. 安全性の評価は？

- 以下のいずれかによって、評価されます。
- 今まで広く食べられていたかどうかの食経験
  - 安全性に関する既存情報の調査
  - 動物や人を用いたの安全性試験の実施
- 医薬品との相互作用などについても評価されます。

## 2. 機能性の評価は？

- 以下のいずれかによって、評価されます。
- 最終製品を用いた臨床試験
  - 最終製品又は機能性関与成分に関する文献調査（研究レビュー）※
- 「どのような科学的根拠に基づいて」「どのような人が」「どのように摂取すると」「どのような機能性があるのか」が明らかにされます。
- 「最終製品を用いた臨床試験」により科学的根拠が示されている場合、商品パッケージに「○○の機能があります」のように表示されます。
  - 「研究レビュー」により科学的根拠が示されている場合、「○○の機能があると報告されています」のような表示が基本とされています。

## 3. 生産・製造・品質の管理は？

以下のような体制を整えることとなっています。

- 加工食品の場合、製造施設・従業員の衛生管理体制
- 生鮮食品の場合、生産・採取・漁獲などの衛生管理体制
- 規格外製品の出荷防止体制
- 機能性関与成分の分析方法 など

## 4. 健康被害の情報収集体制は？

消費者、医療従事者などからの連絡を受けるための体制が整えられています。パッケージに事業者の連絡先（電話番号）が必ず表示されています。



これら1～4について事業者から届け出られた情報が消費者庁のウェブサイトで公開されますので、ご覧ください。届出番号ごとに安全性や機能性の根拠などに関する情報を知ることができます。

## ※「研究レビュー」って何？

機能性の「科学的根拠」を示す手法の一つとして認められているものに研究レビュー（システムティックレビュー）があります。肯定的な結果だけでなく、否定的な結果もすべてあわせて、「機能性がある」と認められるかどうかを総合的に判断するものです。

研究レビューを行う人は、研究論文が登録されているデータベースを用いて、論文を抽出します。抽出に当たっては、検索に用いるキーワードなどあらかじめ条件を設定します。抽出された論文を絞り込み、最終製品又は機能性関与成分に「機能性がある」と認められているのか、もしくは認められていないのかを分類します。事業者の都合で機能性があることを示す論文だけを意図的に抽出することはできません。



# 4

## 機能性表示食品の利用のポイント！

✓ **まずは、ご自身の食生活をふりかえってみましょう。**

— 食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスをとることが大切です。

✓ **たくさん摂取すれば、より多くの効果が期待できるというものではありません。過剰な摂取が健康に害を及ぼす場合もあります。**

— パッケージに表示してある注意喚起事項をよく確認して、摂取するようにしましょう。

— パッケージには、一日当たりの摂取目安量、摂取の方法、摂取する上での注意事項が表示されていますので、よく読みましょう。

✓ **体調に異変を感じた際は、速やかに摂取を中止しましょう。**

— 体調に異変を感じた際は、速やかに摂取を中止し、医師に相談してください。

— パッケージには、事業者の連絡先として、電話番号が表示されていますので、商品による健康被害が発生した場合は連絡してください。

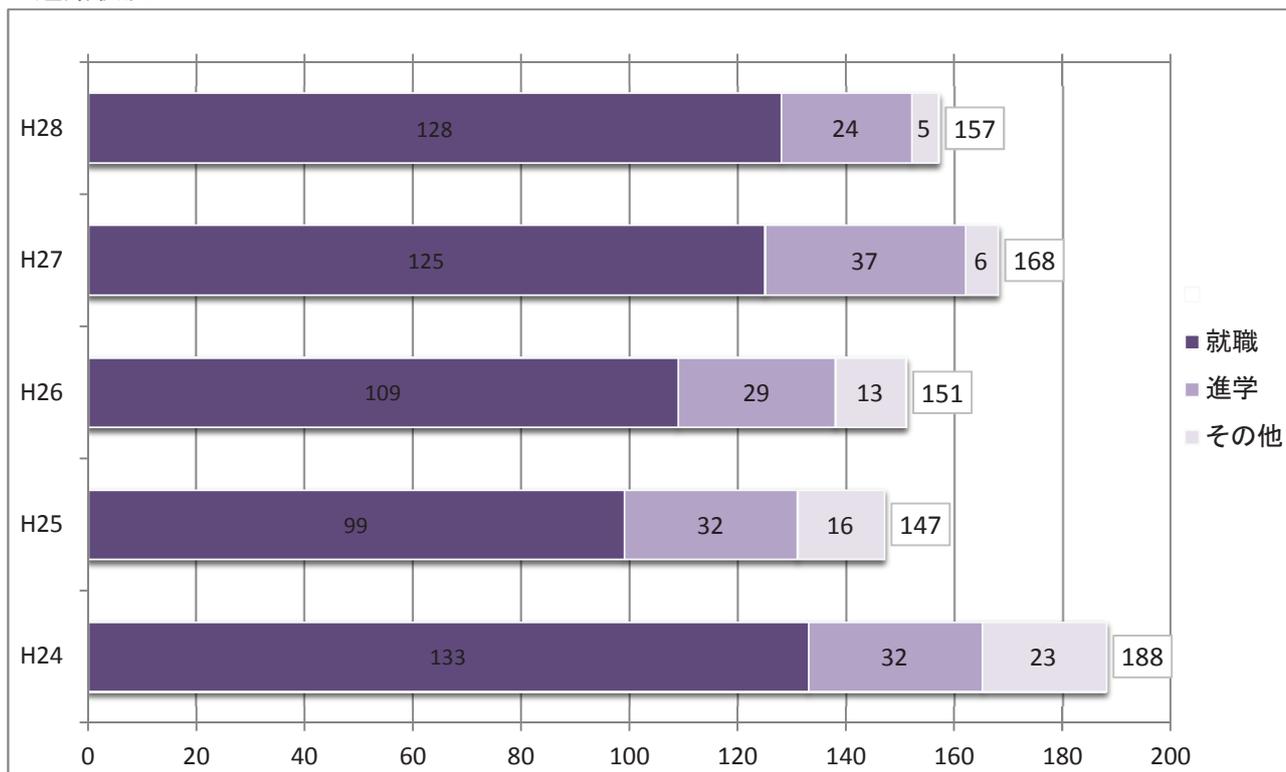


もっと詳しく知りたい方へ

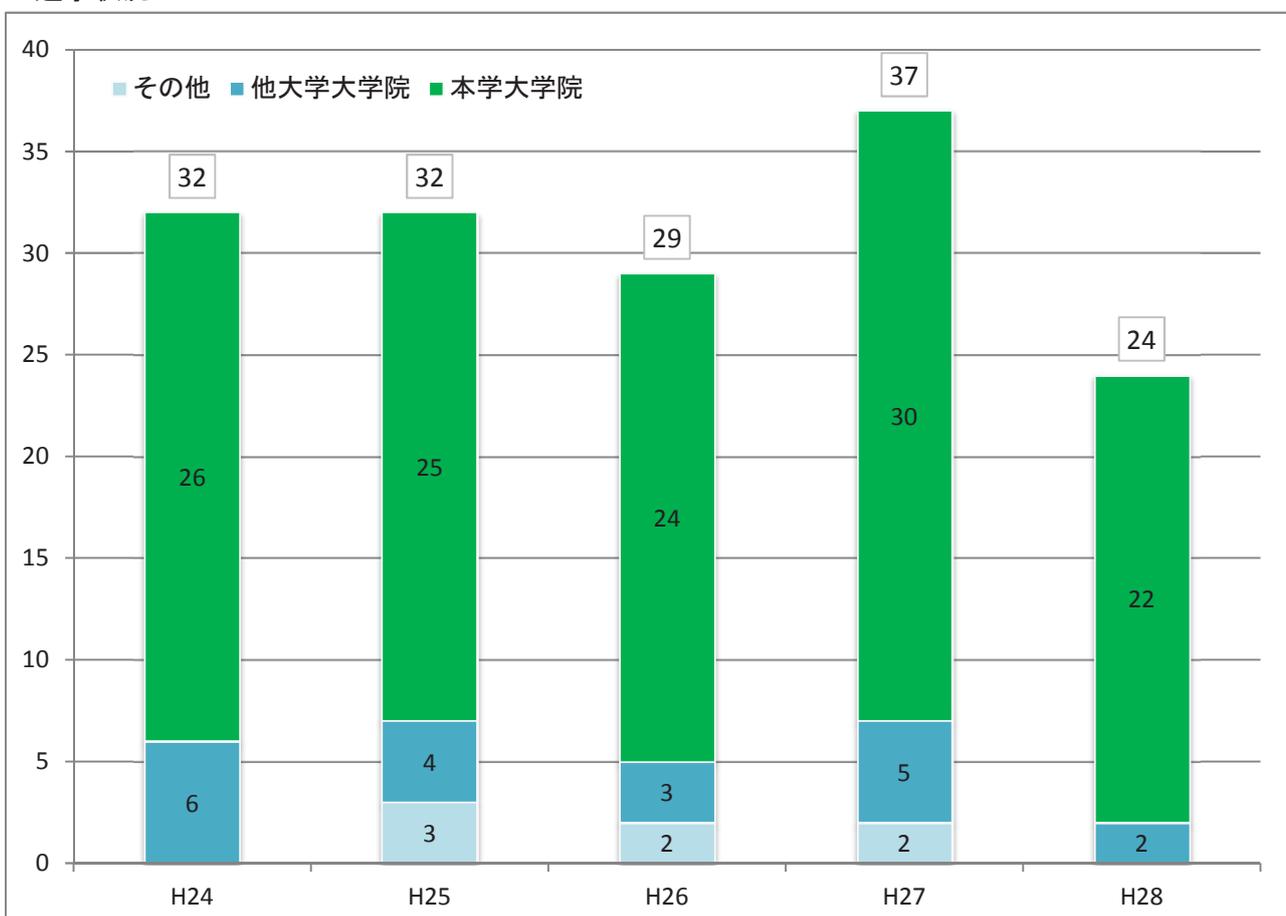
● 消費者庁 <http://www.caa.go.jp/foods/index23.html>

## 24年度～平成28年度 応用生物科学部 生物応用化学科卒業生 進路等状況

### ■進路状況



### ■進学状況



平成24年度～平成28年度  
 応用生物科学部 生物応用化学科卒業生 就職状況

◆業種



※その他には上位6位以下すべてを含む

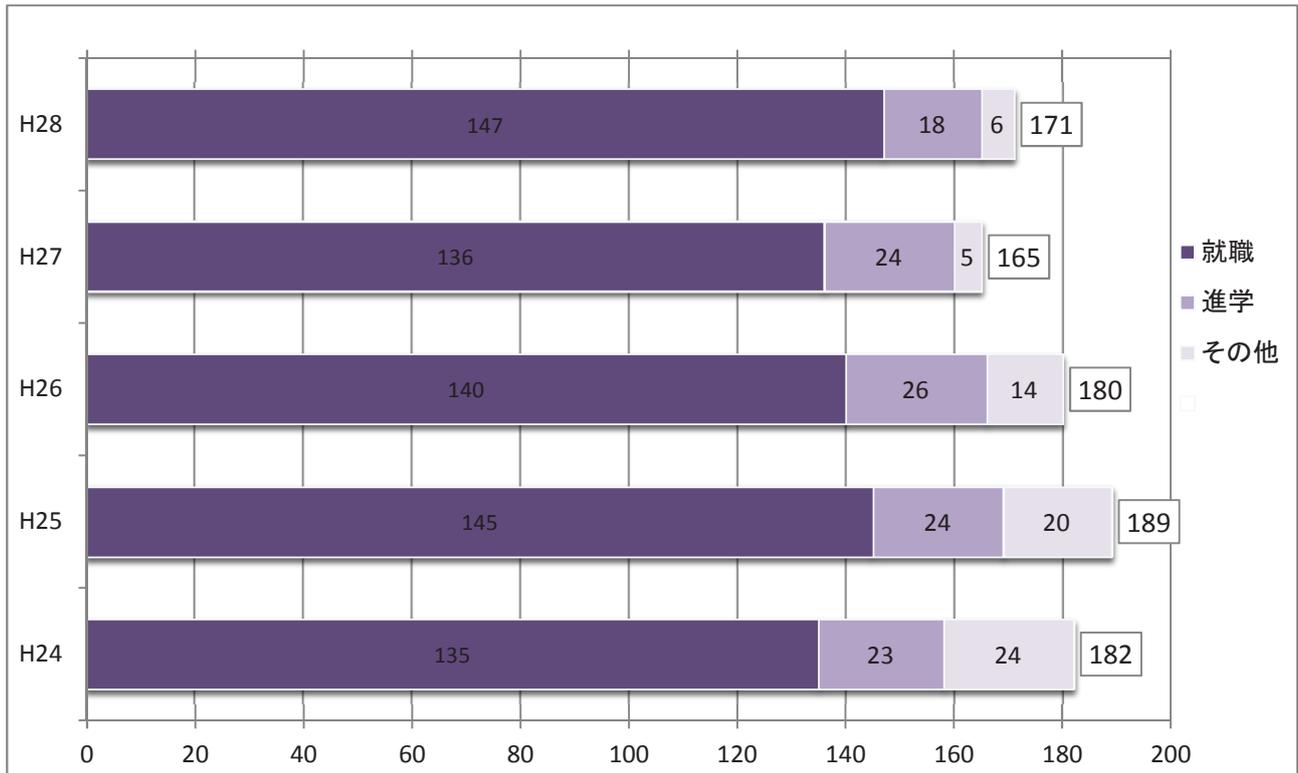
◆平成28年度 業種分類 詳細

| メーカー |                     |    |
|------|---------------------|----|
| 1    | 食品・食料               | 40 |
| 2    | 化学・医薬・化粧品           | 13 |
| 3    | 印刷・印刷関連サービス         | 1  |
| 4    | 飲料・たばこ・飼料           | 1  |
| 5    | 金属製品・金属加工品          | 1  |
| 6    | 繊維製品・衣料             | 1  |
| 7    | その他製品               | 1  |
| サービス |                     |    |
| 1    | 学校・専門学校             | 9  |
| 2    | その他                 | 7  |
| 3    | 病院・医院・医療・保健衛生       | 6  |
| 4    | 学習塾・教育支援            | 1  |
| 5    | 協同組合・郵便局            | 1  |
| 6    | 広告代理業               | 1  |
| 7    | 旅行代理店               | 1  |
| 商社   |                     |    |
| 1    | 農畜水産物・青果物・卸売市場      | 6  |
| 2    | 食品・飲料               | 4  |
| 3    | 機械器具・OA製品           | 3  |
| 4    | その他の製品              | 1  |
| 5    | 医薬・化学・化粧品・ゴム・プラスチック | 1  |
| 6    | 金属・鉱物・金属製品          | 1  |
| 流通   |                     |    |
| 1    | 飲食料品・食品スーパー         | 4  |
| 2    | レストラン・外食・給食         | 3  |
| 3    | ガソリンスタンド・燃料         | 1  |
| 4    | その他(カネ・薬局・書籍・スポーツ等) | 1  |
| 情報通信 |                     |    |
| 1    | ソフトウェア・情報処理・情報サービス  | 6  |

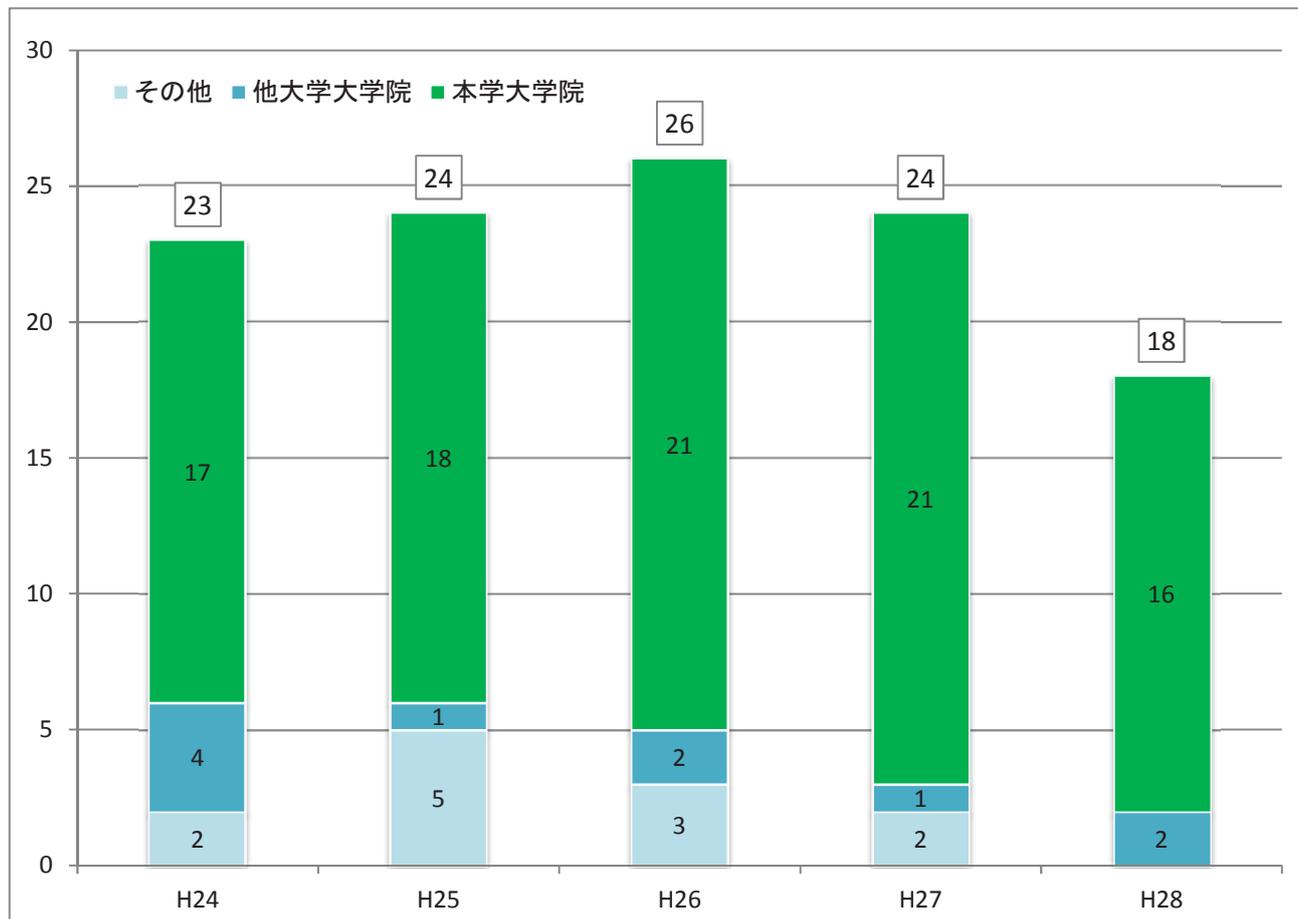
| 公務            |               |     |
|---------------|---------------|-----|
| 1             | 公務(地方)        | 4   |
| 輸送            |               |     |
| 1             | 航空            | 2   |
| 2             | 陸上            | 1   |
| 農業            |               |     |
| 1             | 農業            | 2   |
| 金融            |               |     |
| 1             | 銀行・信託銀行       | 2   |
| 建設業           |               |     |
| 1             | 建設業:住宅        | 1   |
| 電気・ガス・熱・水道供給業 |               |     |
| 1             | 電気・ガス・熱・水道供給業 | 1   |
| 計             |               | 128 |

## 24年度～平成28年度 応用生物科学部 醸造科学科卒業生 進路等状況

### ■進路状況

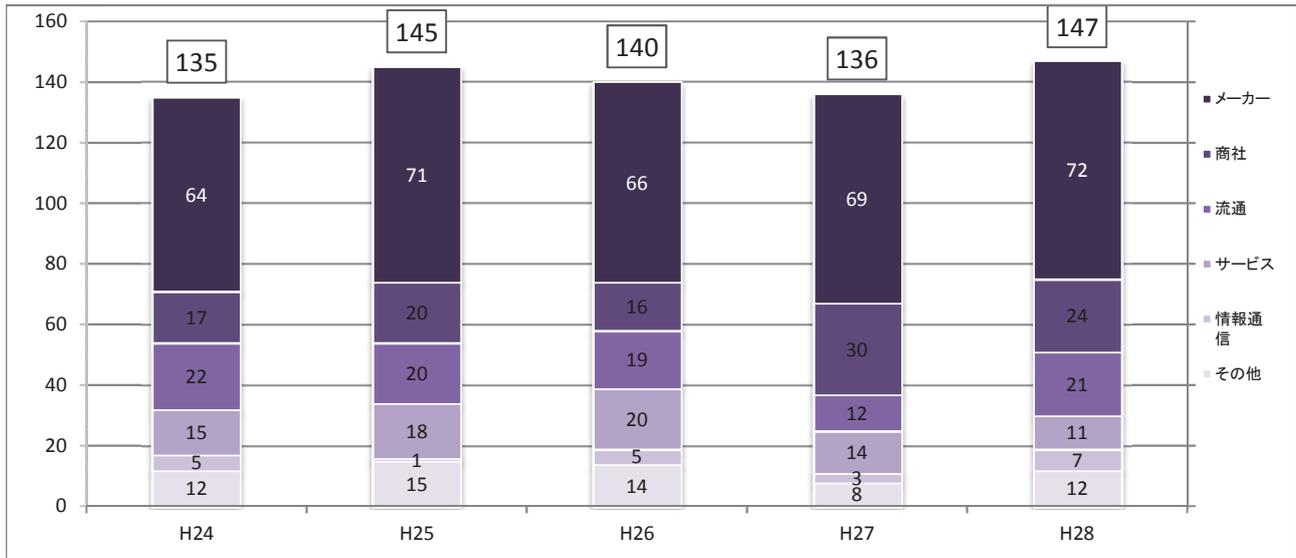


### ■進学状況



平成24年度～平成28年度  
 応用生物科学部 醸造科学科卒業生 就職状況

◆業種



※その他には上位6位以下すべてを含む

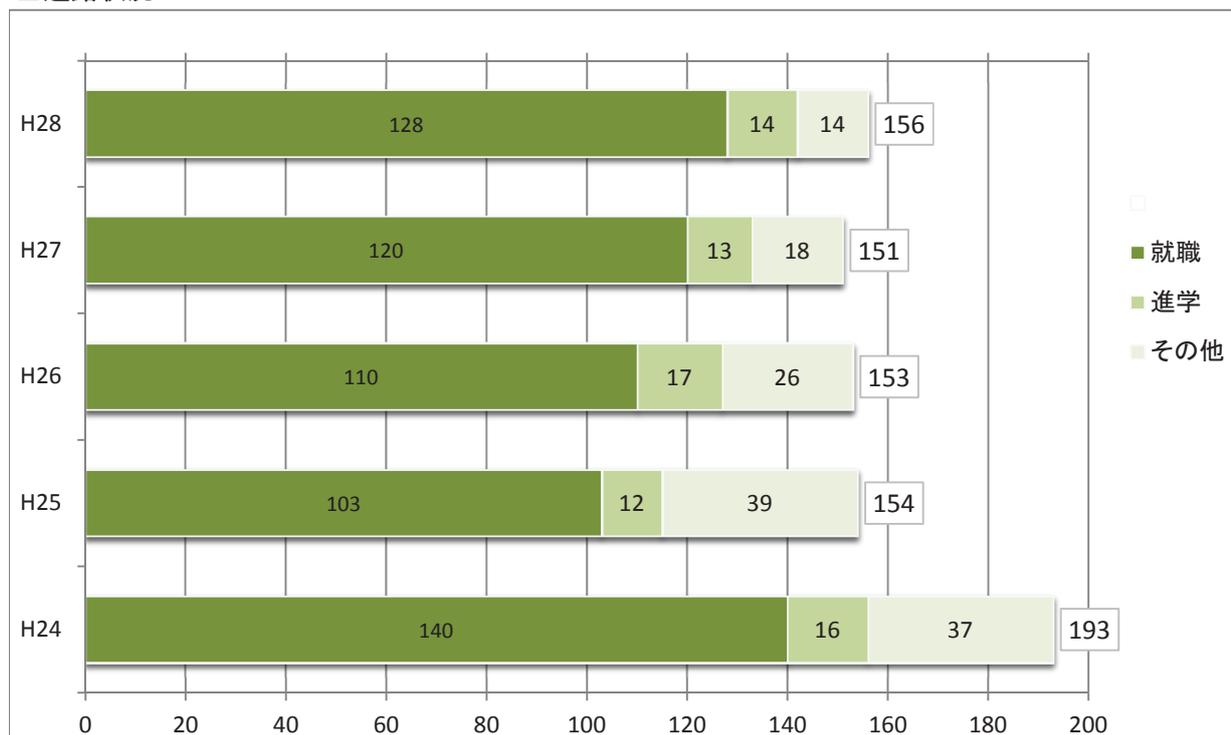
◆平成28年度 業種分類 詳細

| メーカー |                          |    |
|------|--------------------------|----|
| 1    | 食品・食料                    | 47 |
| 2    | 飲料・たばこ・飼料                | 15 |
| 3    | 化学・医薬・化粧品                | 5  |
| 4    | 一般機械・産業機械                | 2  |
| 5    | その他製品                    | 1  |
| 6    | 出版・新聞                    | 1  |
| 7    | 電気機械・照明                  | 1  |
| 商社   |                          |    |
| 1    | 食品・飲料                    | 15 |
| 2    | 機械器具・OA製品                | 4  |
| 3    | 農畜水産物・青果物・卸売市場           | 3  |
| 4    | 医薬・化学・化粧品・ゴム・プラスチック      | 1  |
| 5    | 金属・鉱物・金属製品               | 1  |
| 流通   |                          |    |
| 1    | 飲食料品・食品スーパー              | 7  |
| 2    | レストラン・外食・給食              | 6  |
| 3    | その他(カネ・薬局・書籍・スポーツ等)      | 5  |
| 4    | 繊維・衣服・靴・身の回り品            | 2  |
| 5    | 家具・建具・什器・家電・ホームセンター      | 1  |
| サービス |                          |    |
| 1    | その他                      | 4  |
| 2    | その他専門サービス(デザイン・機械設計等)    | 1  |
| 3    | レジャー・娯楽・スポーツ施設・フィットネスクラブ | 1  |
| 4    | 学校・専門学校                  | 1  |
| 5    | 協同組合・郵便局                 | 1  |
| 6    | 広告代理業                    | 1  |
| 7    | 非営利団体(学術・開発研究機関)         | 1  |
| 8    | 病院・医院・医療・保健衛生            | 1  |
| 情報通信 |                          |    |
| 1    | ソフトウェア・情報処理・情報サービス       | 7  |

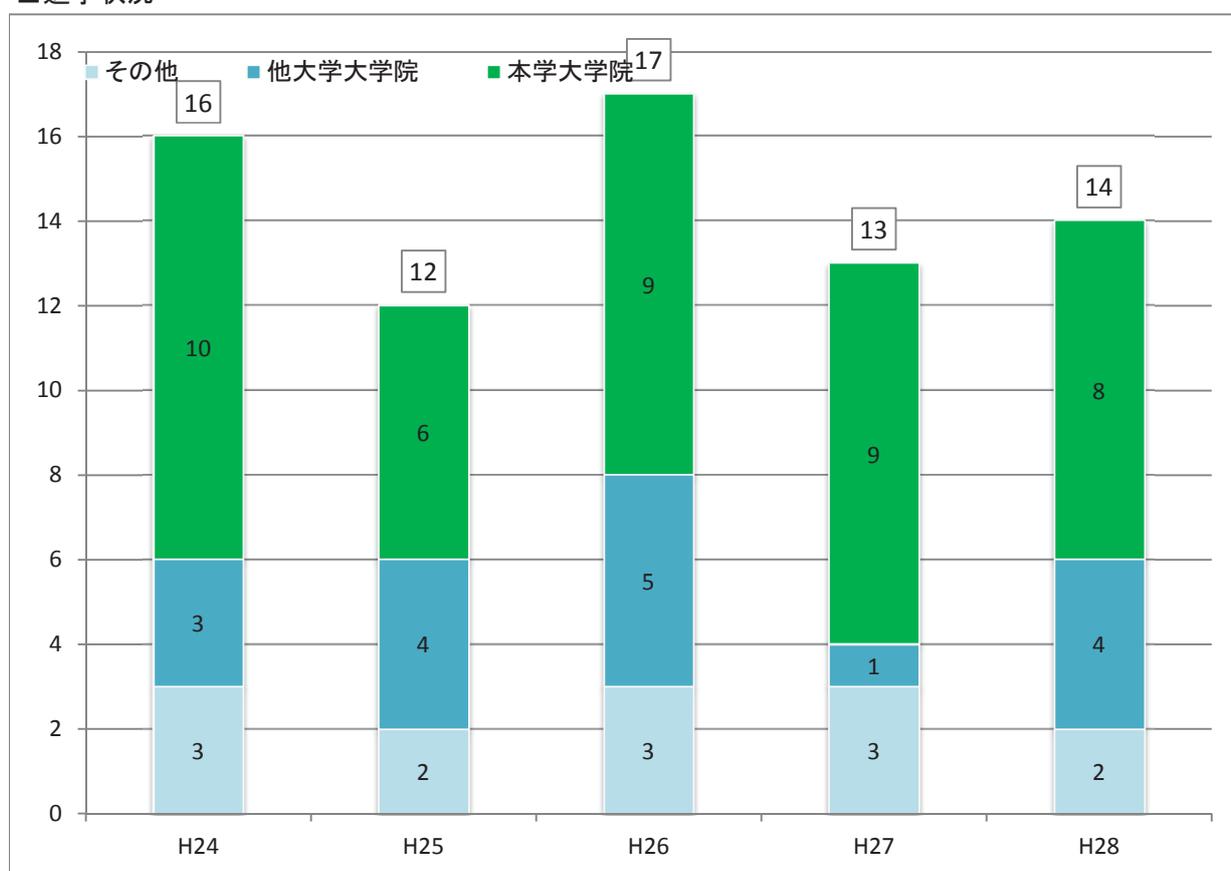
| 公務   |              |     |
|------|--------------|-----|
| 1    | 公務(地方)       | 4   |
| 輸送   |              |     |
| 1    | 航空           | 1   |
| 2    | 倉庫・運輸付帯サービス  | 1   |
| 3    | 陸上           | 1   |
| 分類不能 |              |     |
| 1    | 分類不能         | 2   |
| 農業   |              |     |
| 1    | 農業           | 1   |
| 金融   |              |     |
| 1    | 銀行・信託銀行      | 1   |
| 建設業  |              |     |
| 1    | 設備工事・プラント・内装 | 1   |
| 計    |              | 147 |

## 24年度～平成28年度 地域環境科学部 森林総合科学科卒業生 進路等状況

### ■進路状況

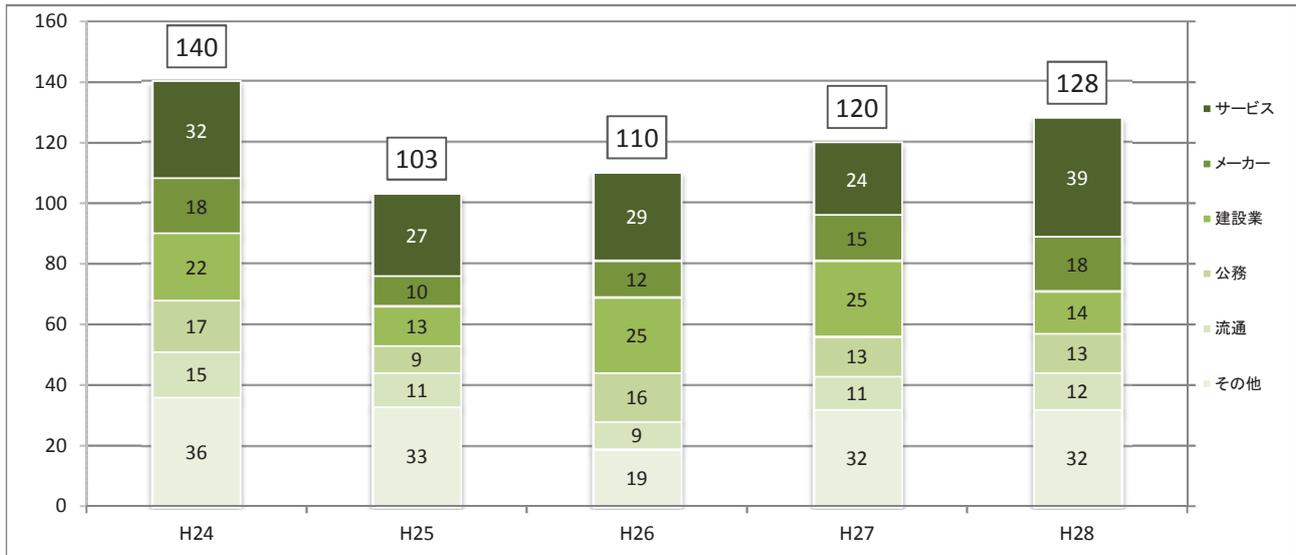


### ■進学状況



平成24年度～平成28年度  
地域環境科学部 森林総合科学科卒業生 就職状況

◆業種



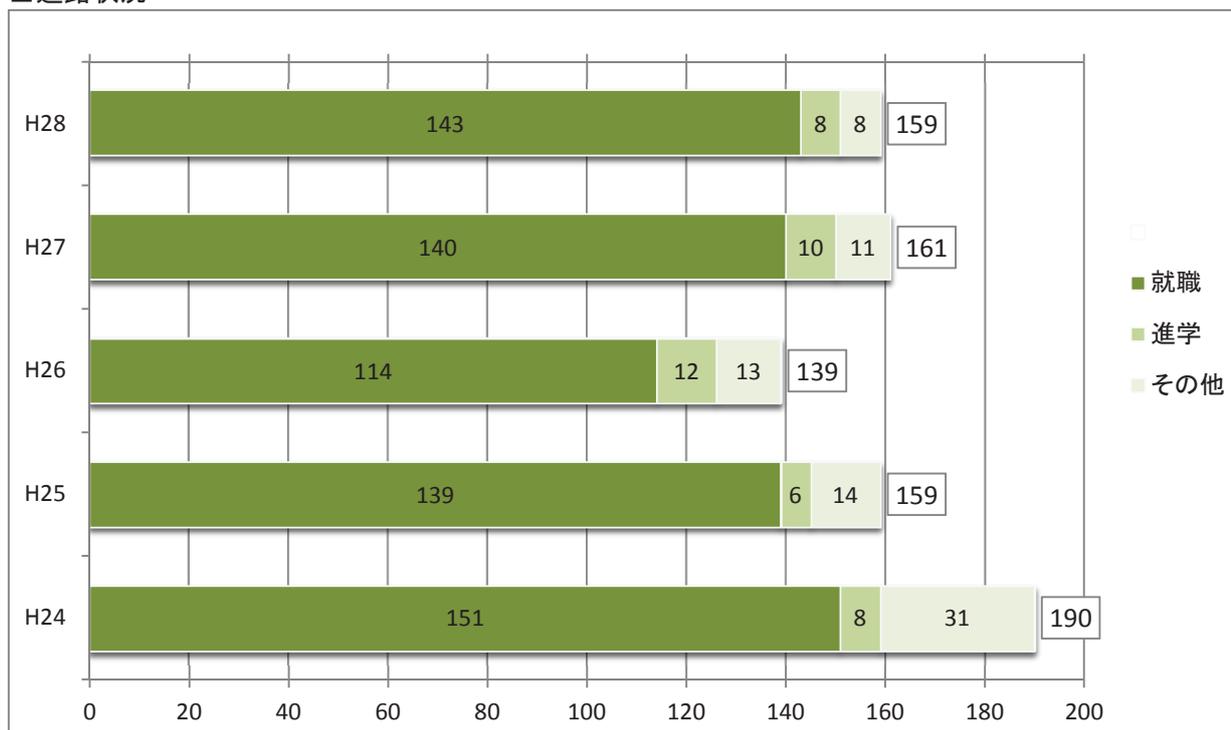
※その他には上位6位以下すべてを含む

◆平成28年度 業種分類 詳細

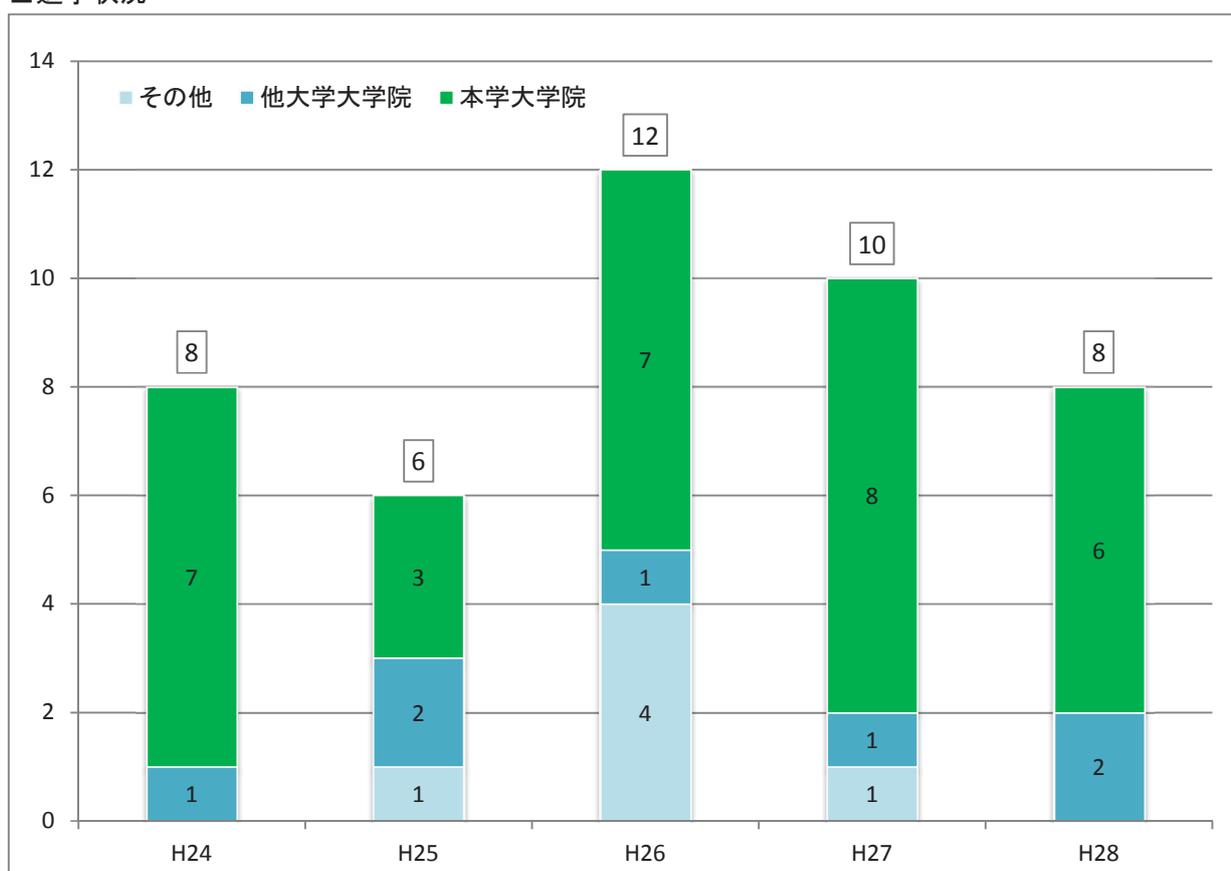
| サービス        |                          |    | 流通                   |                         |   |
|-------------|--------------------------|----|----------------------|-------------------------|---|
| 1           | その他                      | 11 | 1                    | 家具・建具・什器・家電・ホームセンター     | 3 |
| 2           | 学校・専門学校                  | 9  | 2                    | レストラン・外食・給食             | 2 |
| 3           | 協同組合・郵便局                 | 7  | 3                    | 飲食料品・食品スーパー             | 2 |
| 4           | その他専門サービス(デザイン・機械設計等)    | 3  | 4                    | 繊維・衣服・靴・身の回り品           | 2 |
| 5           | レジャー・娯楽・スポーツ施設・フィットネスクラブ | 2  | 5                    | 百貨店・総合スーパー              | 2 |
| 6           | 冠婚葬祭                     | 2  | 6                    | その他(メガネ・薬局・書籍・スポーツ等)    | 1 |
| 7           | メンテナンス・保守・修理             | 1  | <b>商社</b>            |                         |   |
| 8           | 広告代理業                    | 1  | 1                    | 機械器具・OA製品               | 3 |
| 9           | 非営利団体(政治・経済・文化団体)        | 1  | 2                    | 食品・飲料                   | 2 |
| 10          | 病院・医院・医療・保健衛生            | 1  | 3                    | 医薬・化学・化粧品・ゴム・プラスチック     | 1 |
| 11          | 旅行代理店                    | 1  | 4                    | 建材・木材・再生資源              | 1 |
| <b>メーカー</b> |                          |    | 5                    | 農畜水産物・青果物・卸売市場          | 1 |
| 1           | 食品・食料                    | 4  | <b>林業</b>            |                         |   |
| 2           | 木材・木製品                   | 3  | 1                    | 林業                      | 8 |
| 3           | パルプ・製紙・紙製品               | 2  | <b>情報通信</b>          |                         |   |
| 4           | 一般機械・産業機械                | 2  | 1                    | 情報通信:ソフトウェア・情報処理・情報サービス | 6 |
| 5           | 飲料・たばこ・飼料                | 2  | 2                    | 情報通信:インターネット関連サービス      | 1 |
| 6           | 化学・医薬・化粧品                | 2  | <b>農業</b>            |                         |   |
| 7           | 印刷・印刷関連サービス              | 1  | 1                    | 農業                      | 2 |
| 8           | 精密・光学・レンズ・医療             | 1  | <b>金融</b>            |                         |   |
| 9           | 皮革・毛皮製品                  | 1  | 1                    | 消費者・クレジット・投資・他          | 1 |
| <b>建設業</b>  |                          |    | 1                    | 生命保険                    | 1 |
| 1           | 土木・橋梁・造園・鉄骨              | 5  | <b>分類不能</b>          |                         |   |
| 2           | 設備工事・プラント・内装             | 4  | 1                    | 分類不能                    | 2 |
| 3           | コンサルタント・設計事務所            | 2  | <b>輸送</b>            |                         |   |
| 4           | 住宅                       | 2  | 1                    | 航空                      | 2 |
| 5           | 総合(土木・建築)                | 1  | <b>不動産取引業(建物・土地)</b> |                         |   |
| <b>公務</b>   |                          |    | 1                    | 不動産取引業(建物・土地)           | 1 |
| 1           | 公務(地方)                   | 10 | 計                    |                         |   |
| 2           | 公務(国家)                   | 3  | 128                  |                         |   |

## 24年度～平成28年度 地域環境科学部 生産環境工学科卒業生 進路等状況

### ■進路状況

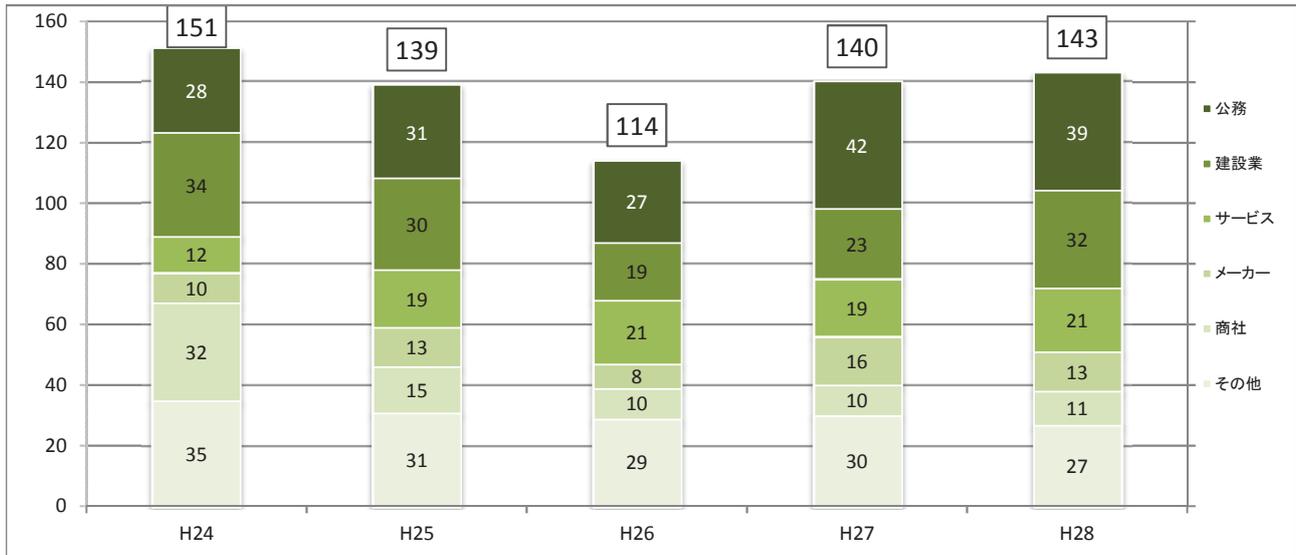


### ■進学状況



平成24年度～平成28年度  
地域環境科学部 生産環境工学科卒業生 就職状況

◆業種



※その他には上位6位以下すべてを含む

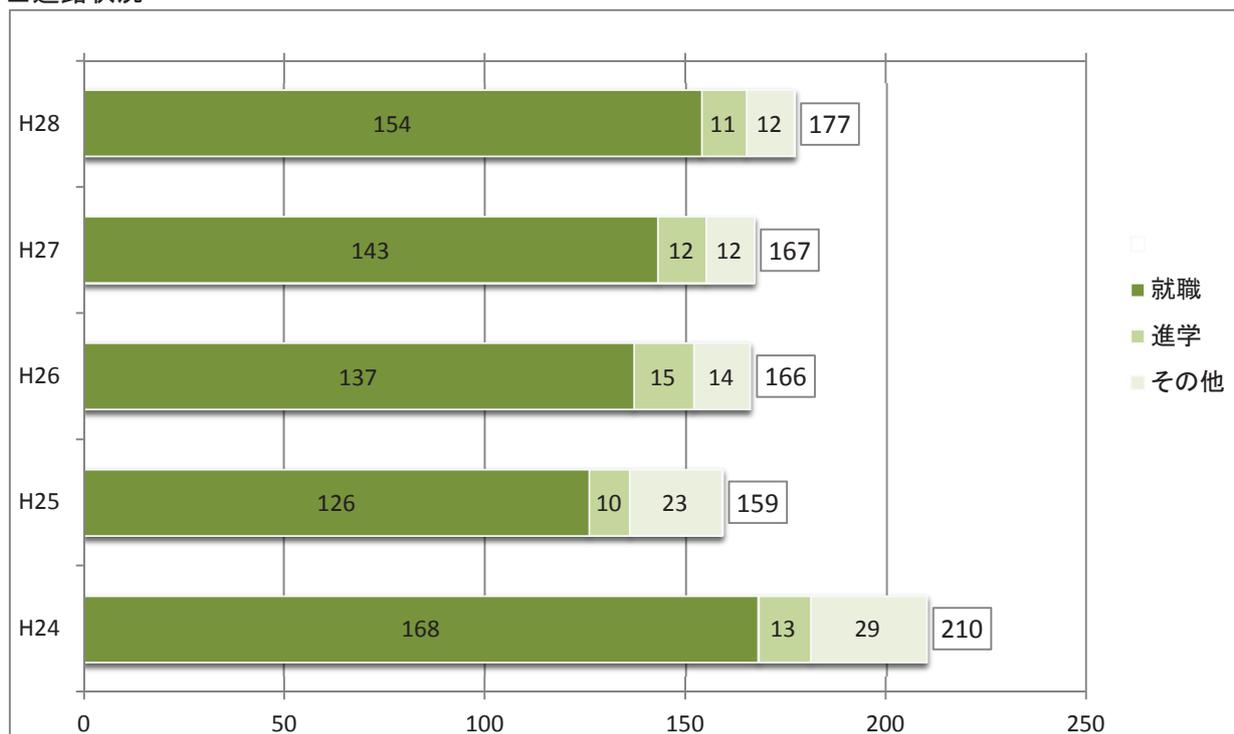
◆平成28年度 業種分類 詳細

| 公務   |                       |    |
|------|-----------------------|----|
| 1    | 公務(地方)                | 36 |
| 2    | 公務(国家)                | 3  |
| 建設業  |                       |    |
| 1    | 総合(土木・建築)             | 13 |
| 2    | 土木・橋梁・造園・鉄骨           | 9  |
| 3    | コンサルタント・設計事務所         | 6  |
| 4    | 設備工事・プラント・内装          | 3  |
| 5    | 建築・建設                 | 1  |
| サービス |                       |    |
| 1    | その他                   | 9  |
| 2    | 学校・専門学校               | 5  |
| 3    | 非営利団体(政治・経済・文化団体)     | 2  |
| 4    | その他専門サービス(デザイン・機械設計等) | 1  |
| 5    | 協同組合・郵便局              | 1  |
| 6    | 福祉・福祉施設               | 1  |
| 7    | 物品レンタル・物品リース          | 1  |
| 8    | 旅行代理店                 | 1  |
| メーカー |                       |    |
| 1    | 食品・食料                 | 7  |
| 2    | 化学・医薬・化粧品             | 2  |
| 3    | その他製品                 | 1  |
| 4    | 一般機械・産業機械             | 1  |
| 5    | 印刷・印刷関連サービス           | 1  |
| 6    | 自動車・輸送機器・関連           | 1  |
| 商社   |                       |    |
| 1    | 医薬・化学・化粧品・ゴム・プラスチック   | 4  |
| 2    | 農畜水産物・青果物・卸売市場        | 3  |
| 3    | 家具・インテリア・什器・陶器        | 1  |
| 4    | 機械器具・OA製品             | 1  |
| 5    | 金属・鉱物・金属製品            | 1  |
| 6    | 総合                    | 1  |

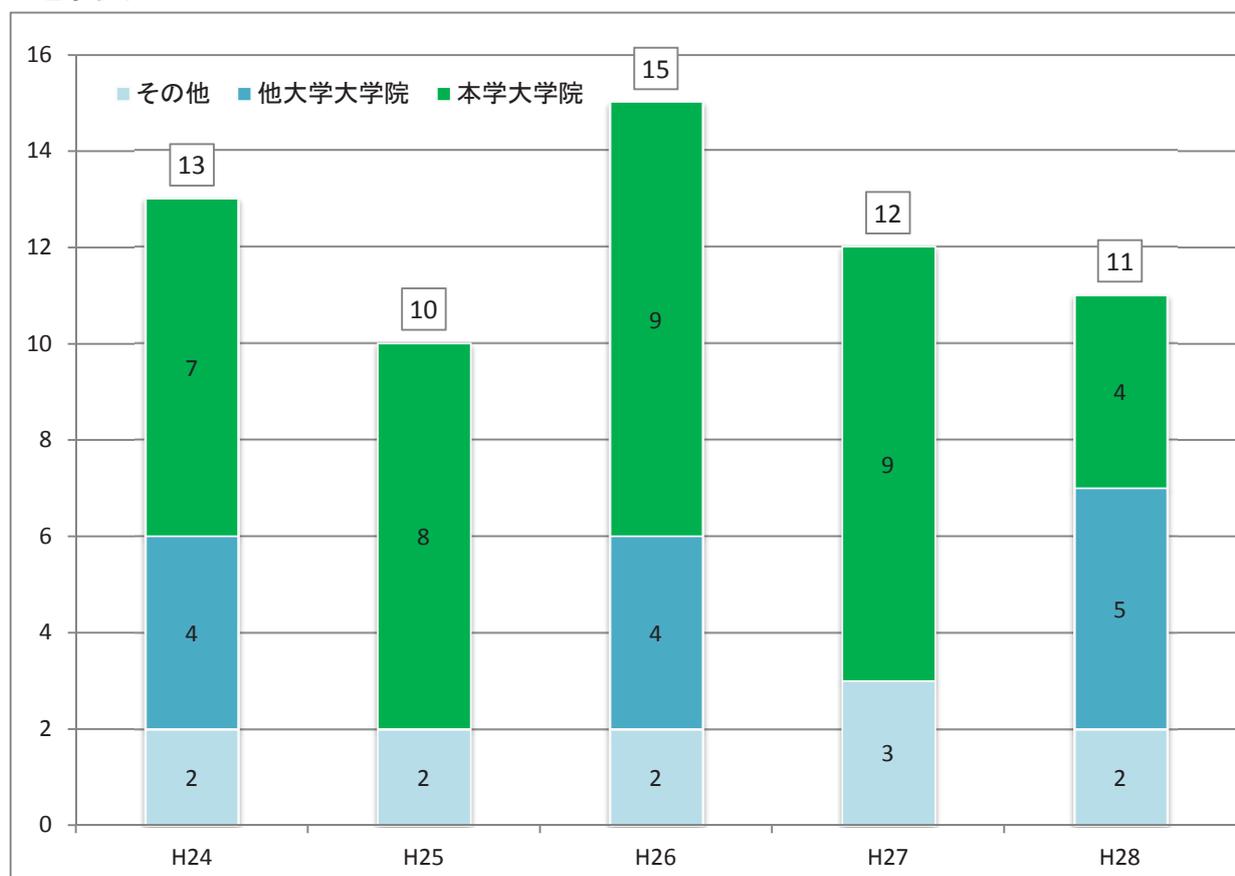
| 情報通信          |                     |     |
|---------------|---------------------|-----|
| 1             | ソフトウェア・情報処理・情報サービス  | 5   |
| 2             | 映像・TV番組・音楽 製作配給     | 2   |
| 3             | インターネット関連サービス       | 1   |
| 流通            |                     |     |
| 1             | 家具・建具・什器・家電・ホームセンター | 3   |
| 2             | レストラン・外食・給食         | 2   |
| 3             | 自動車販売・自動車部品         | 1   |
| 4             | 繊維・衣服・靴・身の回り品       | 1   |
| 輸送            |                     |     |
| 1             | 陸上                  | 5   |
| 2             | 航空                  | 1   |
| 農業            |                     |     |
| 1             | 農業                  | 4   |
| 金融            |                     |     |
| 1             | 消費者・クレジット・投資・他      | 1   |
| 不動産取引業(建物・土地) |                     |     |
| 1             | 不動産取引業(建物・土地)       | 1   |
| 計             |                     | 143 |

## 24年度～平成28年度 地域環境科学部 造園科学科卒業生 進路等状況

### ■進路状況

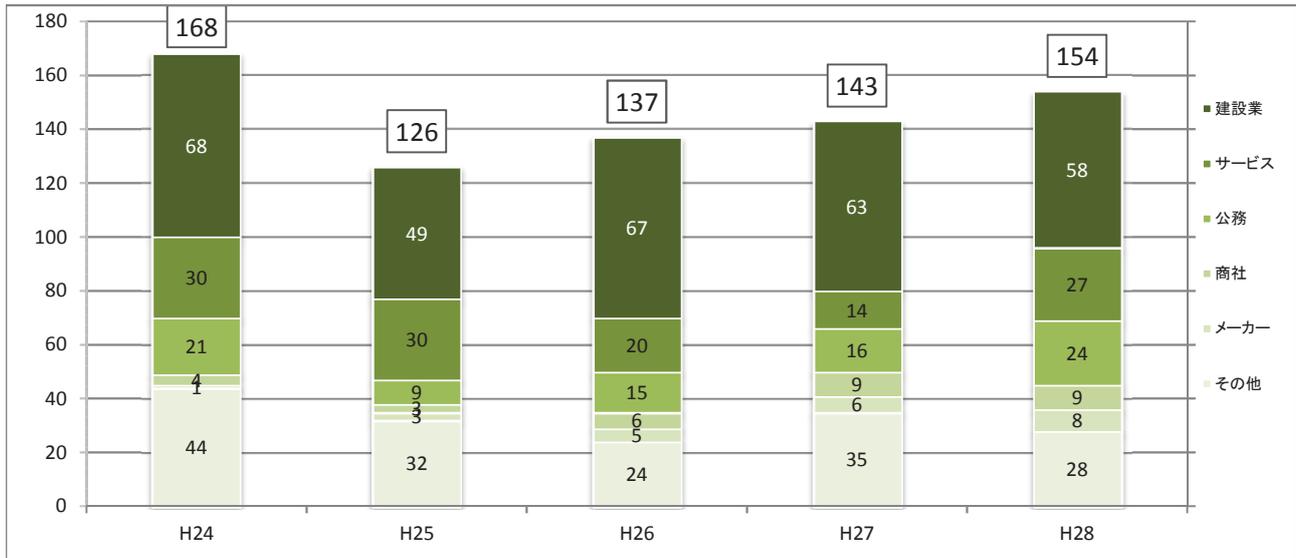


### ■進学状況



# 平成24年度～平成28年度 地域環境科学部 造園科学科卒業生 就職状況

## ◆業種



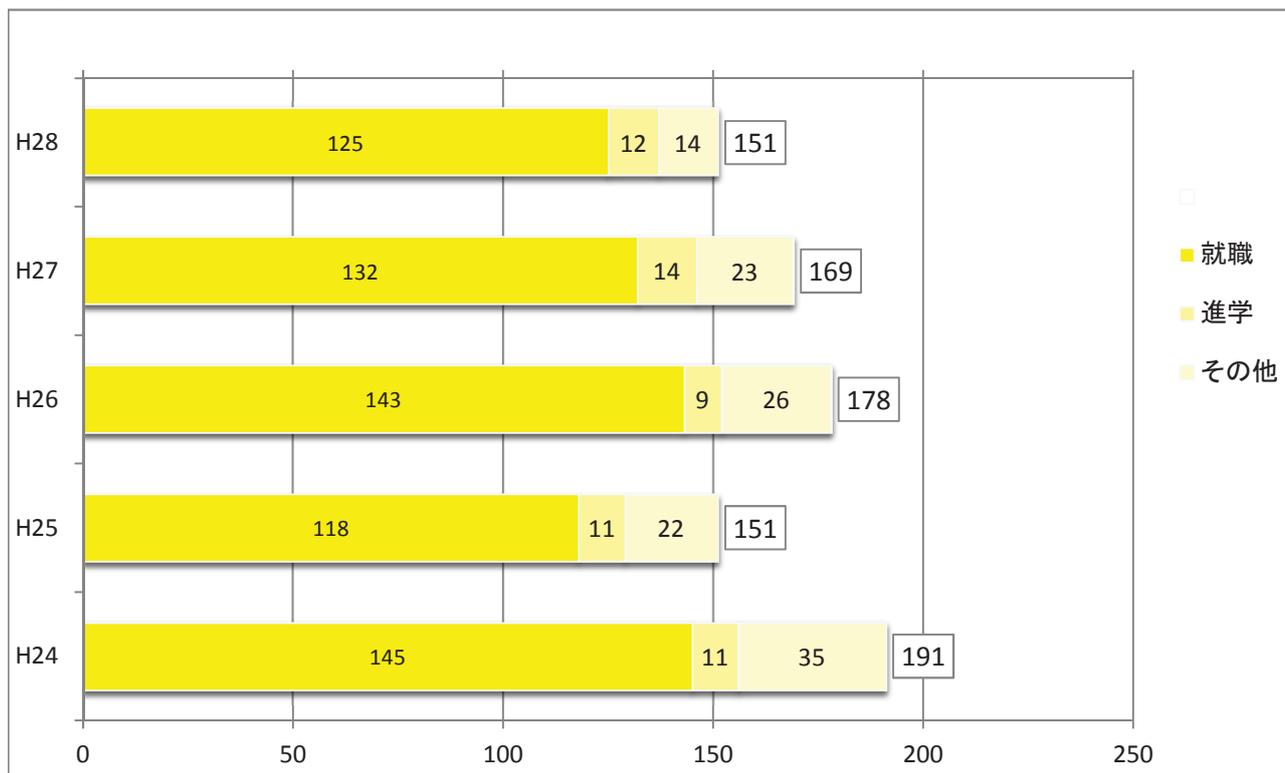
※その他には上位6位以下すべてを含む

## ◆平成28年度 業種分類 詳細

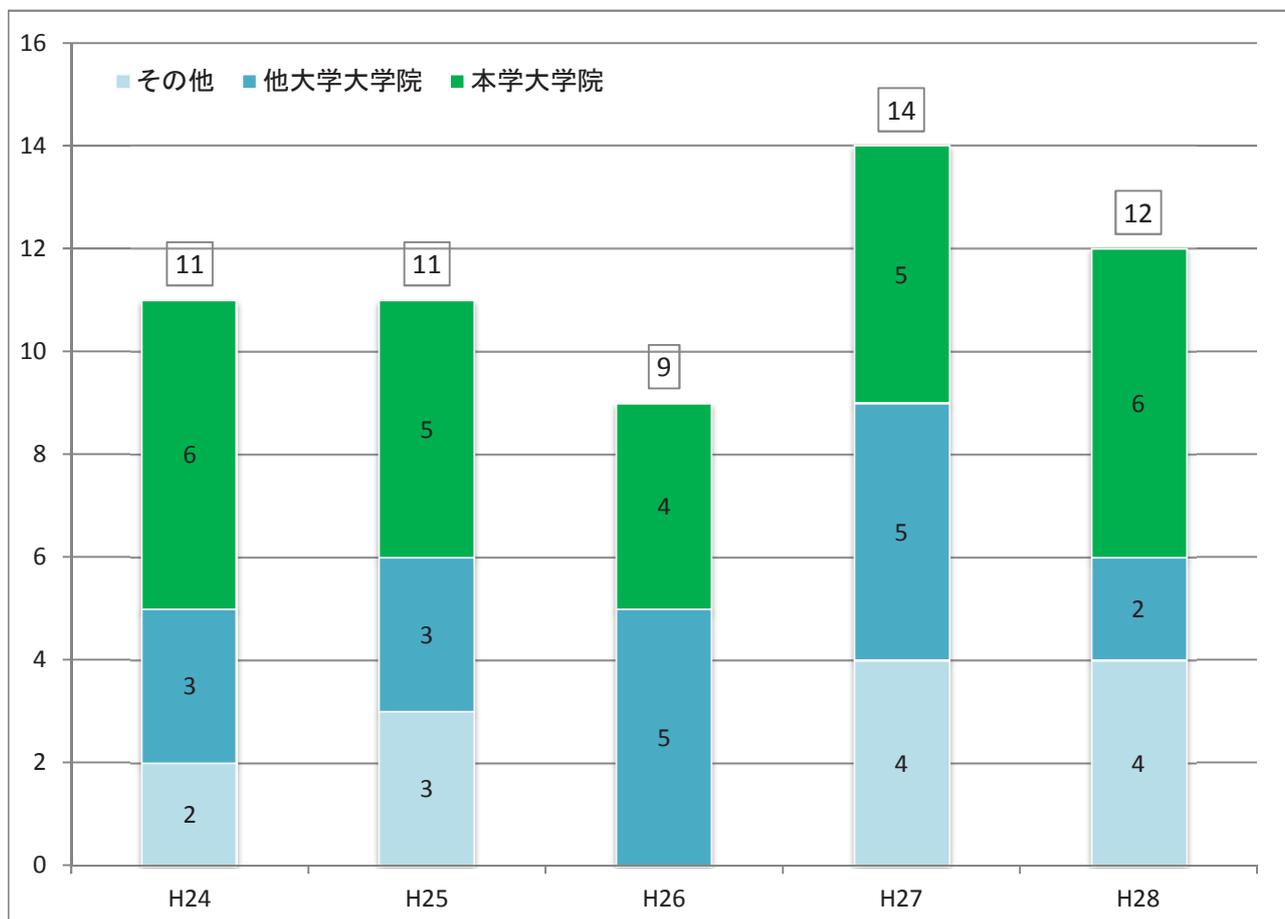
| 業種          | 分類                         | 人数  |
|-------------|----------------------------|-----|
| <b>建設業</b>  | 1 土木・橋梁・造園・鉄骨              | 28  |
|             | 2 コンサルタント・設計事務所            | 16  |
|             | 3 住宅                       | 7   |
|             | 4 設備工事・プラント・内装             | 4   |
|             | 5 総合(土木・建築)                | 3   |
| <b>サービス</b> | 1 物品レンタル・物品リース             | 5   |
|             | 2 その他                      | 4   |
|             | 3 協同組合・郵便局                 | 4   |
|             | 4 レジャー・娯楽・スポーツ施設・フィットネスクラブ | 3   |
|             | 5 学校・専門学校                  | 3   |
|             | 6 ホテル・旅館                   | 2   |
|             | 7 非営利団体(政治・経済・文化団体)        | 2   |
|             | 8 その他専門サービス(デザイン・機械設計等)    | 1   |
|             | 9 広告代理業                    | 1   |
|             | 10 税理・会計・特許・経営コンサルタント      | 1   |
|             | 11 福祉・福祉施設                 | 1   |
| <b>公務</b>   | 1 公務(地方)                   | 24  |
| <b>商社</b>   | 1 その他の製品                   | 2   |
|             | 2 建材・木材・再生資源               | 2   |
|             | 3 繊維製品・衣服・身の回り品            | 2   |
|             | 4 家具・インテリア・什器・陶器           | 1   |
|             | 5 機械器具・OA製品                | 1   |
|             | 6 農畜水産物・青果物・卸売市場           | 1   |
| <b>メーカー</b> | 1 化学・医薬・化粧品                | 2   |
|             | 2 一般機械・産業機械                | 1   |
|             | 3 印刷・印刷関連サービス              | 1   |
|             | 4 家具・装備品                   | 1   |
|             | 5 食品・食料                    | 1   |
| <b>流通</b>   | 6 繊維製品・衣料                  | 1   |
|             | 7 窯業・土石・セラミックス・ガラス         | 1   |
|             | 1 その他(メガネ・薬局・書籍・スポーツ等)     | 5   |
|             | 2 飲食料品・食品スーパー              | 1   |
| <b>輸送</b>   | 3 家具・建具・什器・家電・ホームセンター      | 1   |
|             | 4 繊維・衣服・靴・身の回り品            | 1   |
|             | 1 陸上                       | 3   |
| <b>農業</b>   | 2 航空                       | 2   |
|             | 3 倉庫・運輸付帯サービス              | 2   |
|             | 1 農業                       | 5   |
| <b>不動産</b>  | 1 不動産取引業(建物・土地)            | 3   |
|             | 2 不動産賃貸業(賃貸・管理)            | 2   |
| <b>金融</b>   | 1 協同組織                     | 1   |
|             | 2 銀行・信託銀行                  | 1   |
| <b>分類不能</b> | 1 分類不能                     | 1   |
| 計           |                            | 154 |

## 24年度～平成28年度 国際食料情報学部 国際農業開発学科卒業生 進路等状況

### ■進路状況



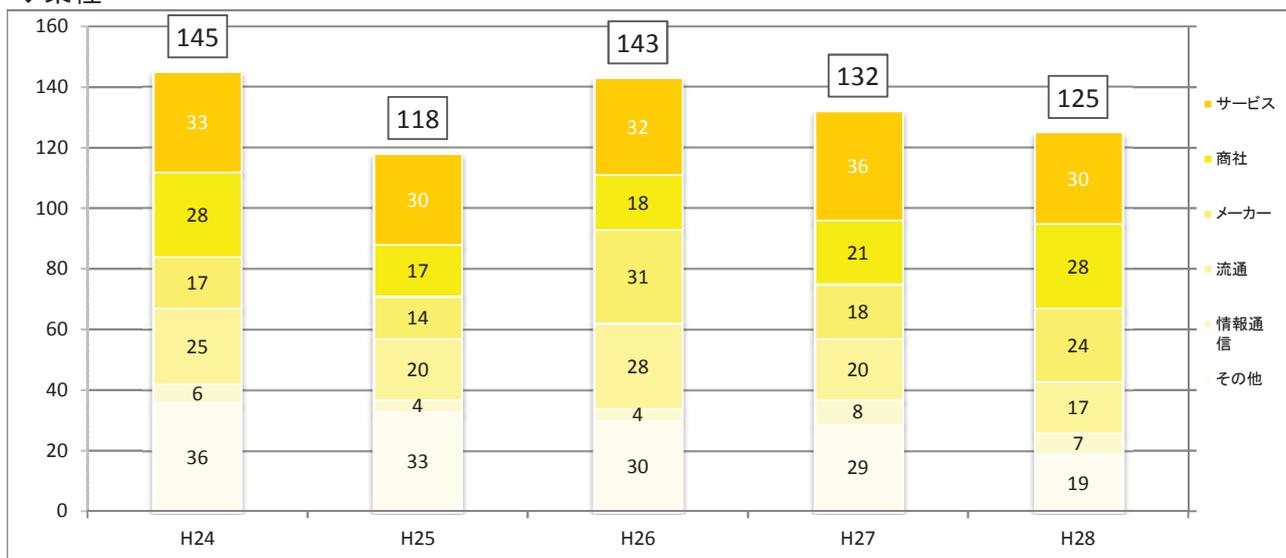
### ■進学状況



## 平成24年度～平成28年度

### 国際食料情報学部 国際農業開発学科卒業生 就職状況

#### ◆業種



※その他には上位6位以下すべてを含む

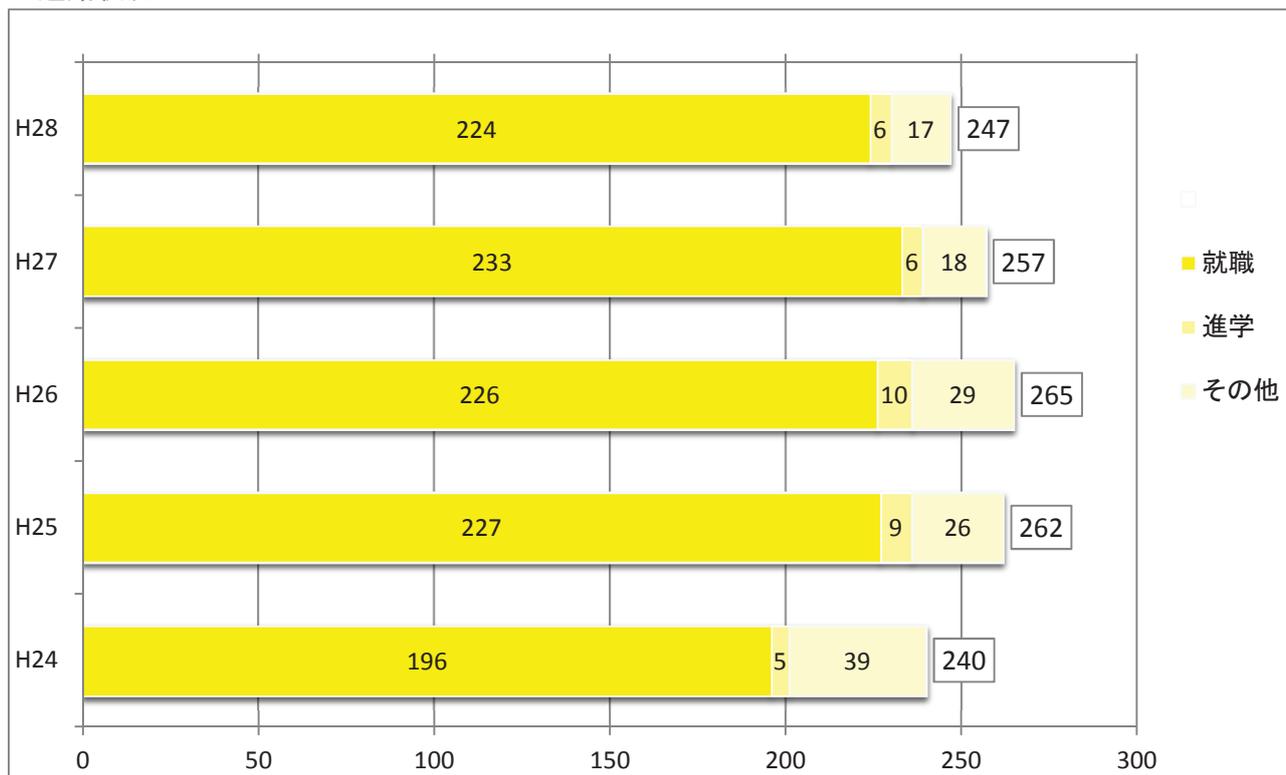
#### ◆平成28年度 業種分類 詳細

| サービス |                          |    |
|------|--------------------------|----|
| 1    | 協同組合・郵便局                 | 9  |
| 2    | 学校・専門学校                  | 8  |
| 3    | その他                      | 4  |
| 4    | 非営利団体(政治・経済・文化団体)        | 2  |
| 5    | 福祉・福祉施設                  | 2  |
| 6    | ホテル・旅館                   | 1  |
| 7    | メンテナンス・保守・修理             | 1  |
| 8    | レジャー・娯楽・スポーツ施設・フィットネスクラブ | 1  |
| 9    | 税理・会計・特許・経営コンサルタント       | 1  |
| 10   | 旅行代理店                    | 1  |
| 商社   |                          |    |
| 1    | 農畜水産物・青果物・卸売市場           | 14 |
| 2    | 機械器具・OA製品                | 4  |
| 3    | 食品・飲料                    | 4  |
| 4    | その他の製品                   | 3  |
| 5    | 医薬・化学・化粧品・ゴム・プラスチック      | 2  |
| 6    | 建材・木材・再生資源               | 1  |
| メーカー |                          |    |
| 1    | 食品・食料                    | 17 |
| 2    | 化学・医薬・化粧品                | 3  |
| 3    | その他製品                    | 1  |
| 4    | プラスチック製品                 | 1  |
| 5    | 家具・装備品                   | 1  |
| 6    | 自動車・輸送機器・関連              | 1  |
| 流通   |                          |    |
| 1    | 飲食品・食品スーパー               | 6  |
| 2    | その他(カネ・薬局・書籍・スポーツ等)      | 3  |
| 3    | レストラン・外食・給食              | 3  |
| 4    | 百貨店・総合スーパー               | 2  |
| 5    | 家具・建具・什器・家電・ホームセンター      | 1  |
| 6    | 自動車販売・自動車部品              | 1  |
| 7    | 繊維・衣服・靴・身の回り品            | 1  |

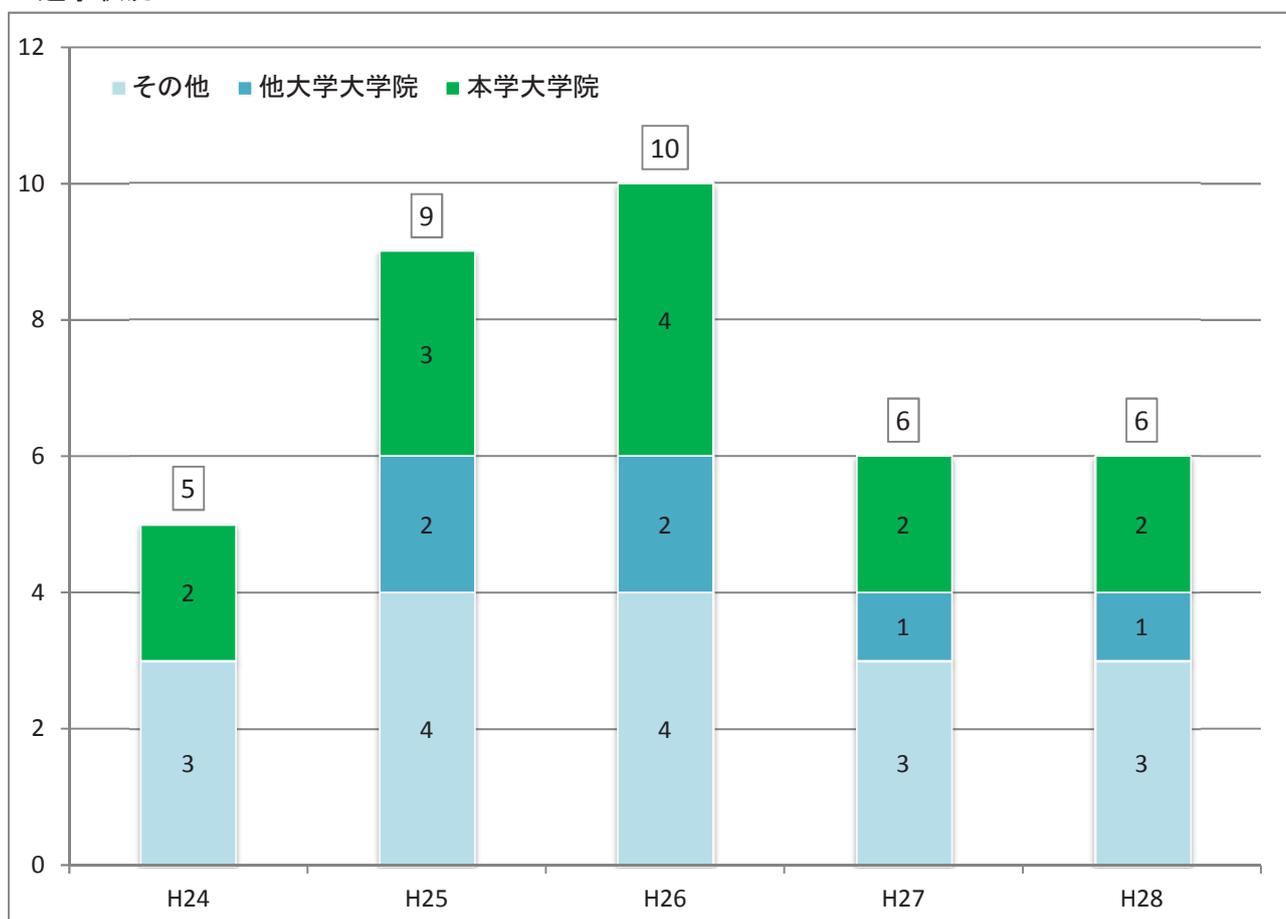
| 情報通信 |                         |     |
|------|-------------------------|-----|
| 1    | 情報通信:ソフトウェア・情報処理・情報サービス | 7   |
| 金融   |                         |     |
| 1    | 金融:協同組織                 | 2   |
| 2    | 金融:消費者・クレジット・投資・他       | 2   |
| 3    | 金融:証券業                  | 1   |
| 4    | 金融:損害保険                 | 1   |
| 公務   |                         |     |
| 1    | 公務(地方)                  | 3   |
| 2    | 公務(国家)                  | 1   |
| 農業   |                         |     |
| 1    | 農業                      | 3   |
| 建設業  |                         |     |
| 1    | 建設業:土木・橋梁・造園・鉄骨         | 2   |
| 2    | 建設業:建築・建設               | 1   |
| 不動産  |                         |     |
| 1    | 不動産取引業(建物・土地)           | 1   |
| 2    | 不動産賃貸業(賃貸・管理)           | 1   |
| 輸送   |                         |     |
| 1    | 輸送:倉庫・運輸附帯サービス          | 1   |
| 計    |                         | 125 |

## 24年度～平成28年度 国際食料情報学部 食料環境経済学科卒業生 進路等状況

### ■進路状況



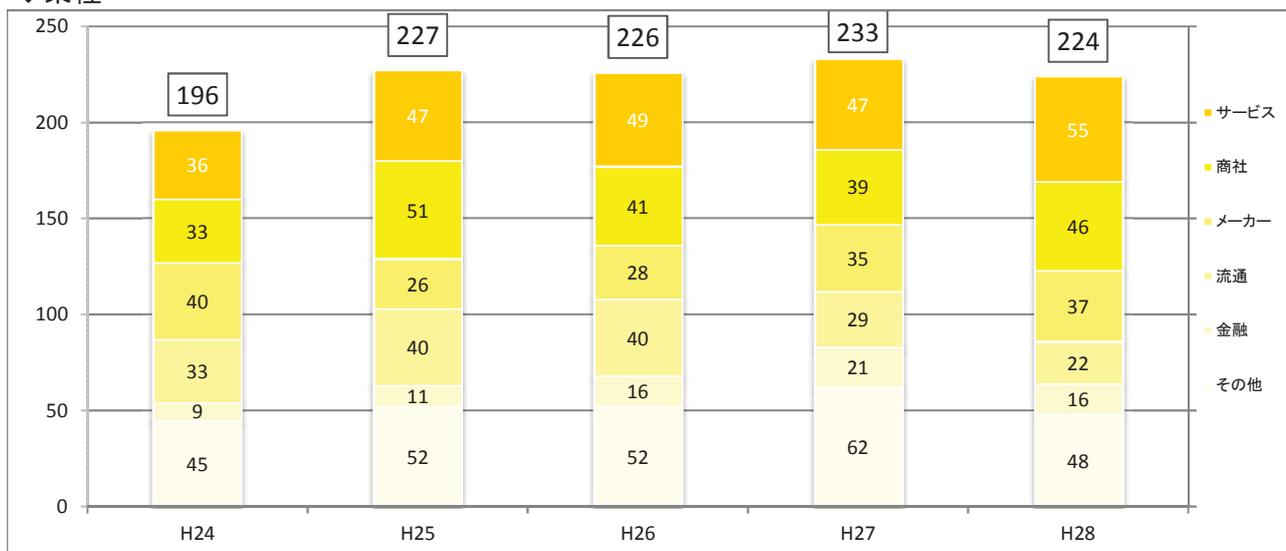
### ■進学状況



## 平成24年度～平成28年度

### 国際食料情報学部 食料環境経済学科卒業生 就職状況

#### ◆業種



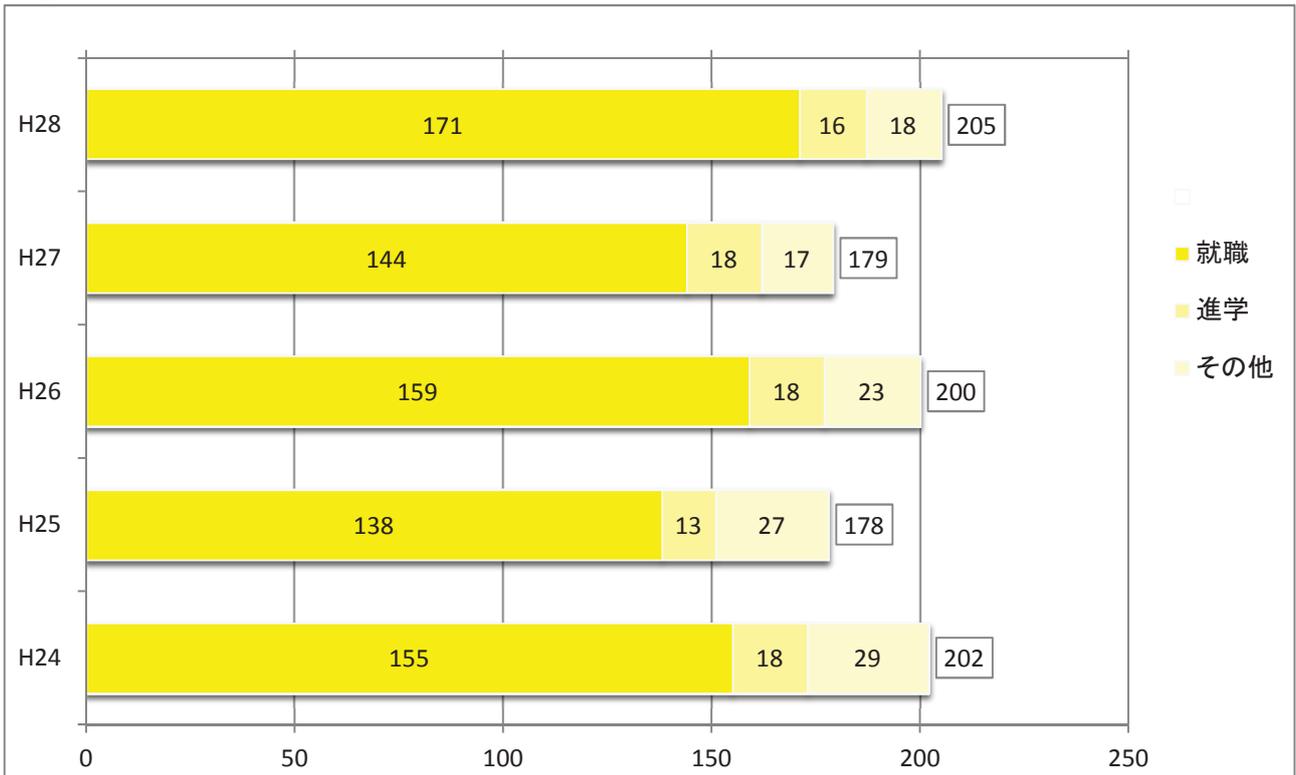
※その他には上位6位以下すべてを含む

#### ◆平成28年度 業種分類 詳細

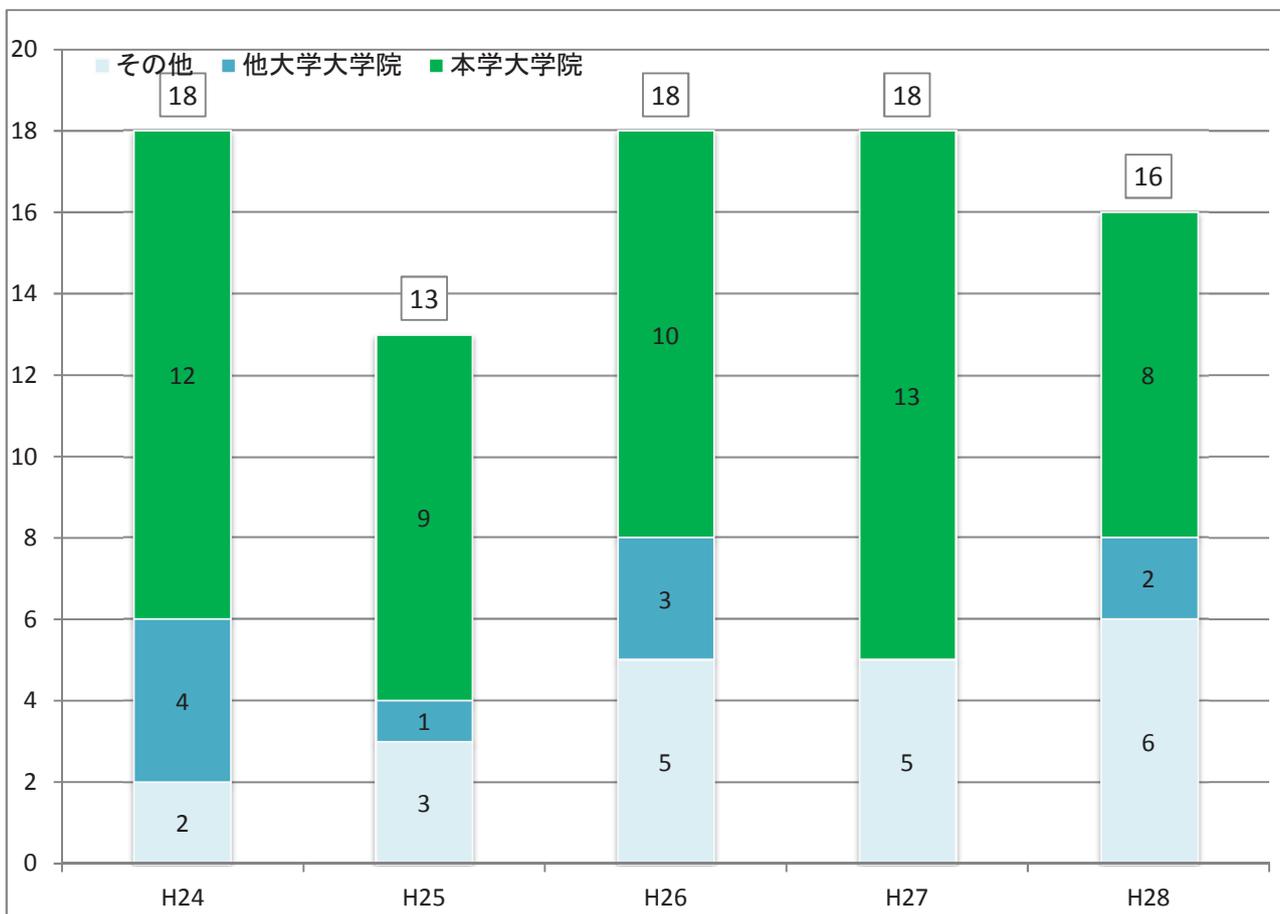
| 業種   | 業種名                        | 人数  |
|------|----------------------------|-----|
| サービス | 1 協同組合・郵便局                 | 14  |
|      | 2 その他                      | 11  |
|      | 3 学校・専門学校                  | 9   |
|      | 4 ホテル・旅館                   | 3   |
|      | 5 税理・会計・特許・経営コンサルタント       | 3   |
|      | 6 レジャー・娯楽・スポーツ施設・フィットネスクラブ | 2   |
|      | 7 非営利団体(政治・経済・文化団体)        | 2   |
|      | 8 病院・医院・医療・保健衛生            | 2   |
|      | 9 福祉・福祉施設                  | 2   |
|      | 10 物品レンタル・物品リース            | 2   |
|      | 11 理美容・エステ・洗濯・浴場           | 2   |
|      | 12 その他専門サービス(デザイン・機械設計等)   | 1   |
|      | 13 広告代理業                   | 1   |
|      | 14 旅行代理店                   | 1   |
| 商社   | 1 農畜水産物・青果物・卸売市場           | 19  |
|      | 2 食品・飲料                    | 11  |
|      | 3 機械器具・OA製品                | 5   |
|      | 4 医薬・化学・化粧品・ゴム・プラスチック      | 3   |
|      | 5 建材・木材・再生資源               | 3   |
|      | 6 総合                       | 2   |
|      | 7 その他の製品                   | 1   |
|      | 8 家具・インテリア・什器・陶器           | 1   |
|      | 9 繊維製品・衣服・身の回り品            | 1   |
| メーカー | 1 食品・食料                    | 22  |
|      | 2 飲料・たばこ・飼料                | 4   |
|      | 3 その他製品                    | 2   |
|      | 4 パルプ・製紙・紙製品               | 2   |
|      | 5 一般機械・産業機械                | 2   |
|      | 6 情報通信機械器具                 | 2   |
|      | 7 化学・医薬・化粧品                | 1   |
| 流通   | 1 飲食料品・食品スーパー              | 12  |
|      | 2 自動車販売・自動車部品              | 5   |
| 金融   | 1 銀行・信託銀行                  | 7   |
|      | 2 信用金庫・信用協同組合              | 5   |
|      | 3 損害保険                     | 2   |
|      | 4 証券業                      | 1   |
|      | 5 生命保険                     | 1   |
| 情報通信 | 1 ソフトウェア・情報処理・情報サービス       | 14  |
|      | 1 農業                       | 9   |
| 輸送   | 1 陸上                       | 6   |
|      | 2 倉庫・運輸附帯サービス              | 2   |
| 公務   | 1 公務(地方)                   | 7   |
|      | 2 公務(国家)                   | 1   |
| 建設業  | 1 建築・建設                    | 2   |
|      | 2 設備工事・プラント・内装             | 2   |
|      | 3 住宅                       | 1   |
|      | 4 総合(土木・建築)                | 1   |
| 不動産  | 1 不動産取引業(建物・土地)            | 2   |
|      | 2 不動産賃貸業(賃貸・管理)            | 1   |
| 計    |                            | 224 |

24年度～平成28年度  
 国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科卒業生 進路等状況

■進路状況



■進学状況





# Works flash

リクルートワークス研究所  
〒104-8001 東京都中央区銀座8-4-17  
リクルートGINZA8ビル  
株式会社リクルートホールディングス

2016.12.20

## ワークス採用見通し調査 (新卒:2018年卒)

株式会社リクルートホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO:峰岸真澄)の人と組織に関する研究機関・リクルートワークス研究所では、民間企業における2017年度の採用の見通しに関する調査を行い、4,768社(回収率66.3%)より回答が得られましたので、ご報告いたします。

※本データは、民間企業における、2018年卒の新卒採用を対象としております。

### 新卒採用は、来年度も引き続き堅調に推移する見通し 大企業を中心に女性比率を高める予定

#### 【2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)】

- 2018年卒対象の大学生・大学院生の新卒採用見通しは、「増える」が13.5%、「減る」が5.7%と、「増える」が「減る」を上回っている(+7.8%ポイント)。「増えるー減る」のポイントは、前年の+9.2%ポイントよりはやや低下しているが、依然として堅調に推移する見通しである。(詳細は3ページ)
- 業種別に見ると、ほとんどの業種において「増える」が「減る」を上回っている。特に、「増える」が「減る」を大きく上回っているのは、飲食サービス業(+18.2%ポイント)、半導体・電子・電気部品(+16.6%ポイント)、小売業(+15.4%ポイント)などである。(詳細は4ページ)

#### 【採用見通しの経年比較】

- 過去の採用見通し調査の「増えるー減る」のポイントを比較すると、大学生・大学院生の新卒採用見通しは7年連続プラスである。(詳細は7ページ)

#### 【2018年新卒採用の女性比率、初任給(大学生・大学院生)】

- 2018年卒の新卒採用において、女性比率を前年より高める企業は17.9%。特に、従業員1000人以上企業では28.5%にのぼる。(詳細は8ページ)
- 2018年卒の新卒採用において、初任給を前年より高める企業は7.6%。(詳細は9ページ)

#### お問い合わせ先

株式会社リクルートホールディングス リクルートワークス研究所 戸田 淳仁  
e-mail: works\_1@r.recruit.co.jp <http://www.works-i.com/>



## INDEX

|                               |     |
|-------------------------------|-----|
| 調査概要                          | 2   |
| 2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)     | 3~4 |
| 従業員規模別                        | 3   |
| 業種別                           | 4   |
| 2018年卒者の新卒採用見通し(高校生)          | 5~6 |
| 従業員規模別                        | 5   |
| 業種別                           | 6   |
| 採用見通しの経年比較                    | 7   |
| 2018年卒の新卒採用における女性採用(大学生・大学院生) | 8   |
| 2018年卒の新卒採用における初任給(大学生・大学院生)  | 9   |
| 参考 地域別 採用見通し                  | 10  |

## 【調査概要】

調査目的: 全国の民間企業を対象に、新卒・中途採用における求人動向を明らかにすること。

## 【2016年調査】

調査対象: 従業員規模5人以上の全国の民間企業

7,194社

調査項目: 2016年度の新卒・中途採用状況

2017年度の新卒・中途採用見通し

調査期間: 2016年10月11日～11月11日

回収社数: 4,768社(回収率66.3%)

回収方法: 電話・FAXにて回収

## (参考)

## 【2015年調査】

調査対象: 従業員規模5人以上の全国の民間企業

7,210社

調査項目: 2015年度の新卒・中途採用状況

2016年度の新卒・中途採用見通し

調査期間: 2015年10月2日～11月2日

回収社数: 4,794社(回収率66.5%)

回収方法: 電話・FAXにて回収

## 《調査結果を見る際の注意点》

※%を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合があります

※業種別の表において、業種にその他の区分があるため、大分類の合計社数が回答社数と一致しません

## リクルートワークス研究所について

リクルートワークス研究所は、1999年1月に設立された、株式会社リクルートホールディングスの中にある「人」と「組織」に関する研究部門。

## ＜設立目的＞

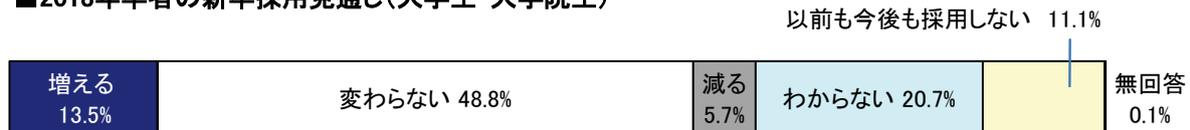
リクルートグループの中・長期人材ビジネスの基礎研究。「人材マネジメント」や「労働市場」における情報発信・提言活動の推進。

## 【2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)】

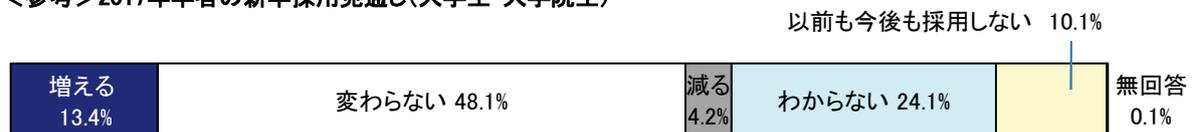
2018年卒対象の大学生・大学院生の新卒採用見通しは、「増える」(13.5%)が「減る」(5.7%)を上回っており(+7.8ポイント)、2017年卒に引き続き、大学生・大学院生の新卒採用は増加する見込みである。

また、「わからない」が20.7%と、2017年卒の24.1%より減少しているが、依然として高い水準である。新卒採用市場は今後の景気動向に左右される可能性があるといえる。

## ■2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)



## &lt;参考&gt; 2017年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)



## 【従業員規模別 2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)】

従業員規模別に見ると、従業員1000人未満企業、従業員1000人以上企業ともに、「増える」が「減る」を上回っている。

従業員規模別を細かく見てみると、どの従業員規模でも「増える」が「減る」を上回っている。「増えるー減る」のポイントが比較的に大きい従業員規模は、従業員5000人以上企業(+11.0ポイント)といった大企業だけでなく、従業員300~999人企業(+9.8ポイント)の中堅企業である。

## ■従業員規模別 2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)

(%ポイント)

|                | 社数          | 増える          | 変わらない        | 減る          | わからない        | 以前も今後も採用しない  | 無回答         | 増えるー減る      |
|----------------|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| <b>全 体</b>     | <b>4768</b> | <b>13.5%</b> | <b>48.8%</b> | <b>5.7%</b> | <b>20.7%</b> | <b>11.1%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+7.8</b> |
| <b>1000人未満</b> | <b>3502</b> | <b>12.8%</b> | <b>45.8%</b> | <b>5.7%</b> | <b>20.8%</b> | <b>14.7%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+7.1</b> |
| 5~99人          | 1067        | 6.8%         | 26.4%        | 2.9%        | 28.1%        | 35.6%        | 0.1%        | +3.9        |
| 100~299人       | 1082        | 13.5%        | 49.9%        | 6.7%        | 21.0%        | 9.0%         | -           | +6.8        |
| 300~999人       | 1353        | 17.0%        | 57.9%        | 7.2%        | 14.9%        | 2.9%         | 0.1%        | +9.8        |
| <b>1000人以上</b> | <b>1266</b> | <b>15.6%</b> | <b>57.2%</b> | <b>5.8%</b> | <b>20.4%</b> | <b>0.9%</b>  | <b>0.2%</b> | <b>+9.8</b> |
| 1000~1999人     | 546         | 15.6%        | 61.0%        | 6.2%        | 16.3%        | 0.9%         | -           | +9.4        |
| 2000~4999人     | 448         | 15.0%        | 52.9%        | 5.4%        | 25.4%        | 0.9%         | 0.4%        | +9.6        |
| 5000人以上        | 272         | 16.5%        | 56.6%        | 5.5%        | 20.2%        | 0.7%         | 0.4%        | +11.0       |

## &lt;参考&gt; 従業員規模別 2017年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)

(%ポイント)

|         | 社数   | 増える   | 変わらない | 減る   | わからない | 以前も今後も採用しない | 無回答  | 増えるー減る |
|---------|------|-------|-------|------|-------|-------------|------|--------|
| 1000人未満 | 3478 | 12.2% | 46.4% | 4.4% | 23.4% | 13.5%       | 0.1% | +7.8   |
| 1000人以上 | 1316 | 16.5% | 52.5% | 3.7% | 26.0% | 1.1%        | 0.2% | +12.8  |

## 【業種別 2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)】

業種別を大分類で見ると、ほとんどの業種において「増える」の方が「減る」を上回っている。ただし、金融業においては、「増える」-「減る」が+0.9ポイントとほかの業種に比べて、「増える」-「減る」のポイントが小さい。

業種別を細かく見ると、「増える」が「減る」を大きく上回っているのは、飲食サービス業(+18.2ポイント)、半導体・電子・電気部品(+16.6ポイント)、小売業(+15.4ポイント)などであり、人手不足が顕著な業種を中心に「増える」が「減る」を大きく上回っている。

## ■業種別 2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)

(ポイント)

|                     | 社数          | 増える          | 変わらない        | 減る          | わからない        | 以前も今後も採用しない  | 無回答         | 増える<br>-減る   |
|---------------------|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|
| <b>建設業</b>          | <b>342</b>  | <b>16.1%</b> | <b>49.4%</b> | <b>2.9%</b> | <b>18.4%</b> | <b>13.2%</b> | -           | <b>+13.2</b> |
| <b>製造業</b>          | <b>1637</b> | <b>12.2%</b> | <b>50.6%</b> | <b>5.9%</b> | <b>22.4%</b> | <b>8.9%</b>  | <b>0.1%</b> | <b>+6.3</b>  |
| 食品                  | 206         | 10.2%        | 46.1%        | 9.2%        | 20.4%        | 13.6%        | 0.5%        | +1.0         |
| 化学・紙・石油             | 174         | 13.2%        | 51.7%        | 4.6%        | 24.1%        | 6.3%         | -           | +8.6         |
| 医薬・化粧品              | 51          | 7.8%         | 51.0%        | 7.8%        | 27.5%        | 5.9%         | -           | 0.0          |
| 鉄鋼・非鉄金属・金属          | 162         | 16.7%        | 40.1%        | 4.9%        | 26.5%        | 11.7%        | -           | +11.8        |
| 機械・プラント・エンジニアリング    | 187         | 11.8%        | 56.7%        | 7.0%        | 19.8%        | 4.8%         | -           | +4.8         |
| ※コンピュータ・通信機器・OA機器関連 | 36          | 2.8%         | 66.7%        | -           | 27.8%        | 2.8%         | -           | +2.8         |
| 半導体・電子・電気部品         | 78          | 17.9%        | 52.6%        | 1.3%        | 24.4%        | 3.8%         | -           | +16.6        |
| 自動車・鉄道              | 156         | 7.1%         | 60.3%        | 6.4%        | 23.1%        | 3.2%         | -           | +0.7         |
| 精密機械器具              | 89          | 15.7%        | 46.1%        | 9.0%        | 23.6%        | 5.6%         | -           | +6.7         |
| <b>流通業</b>          | <b>884</b>  | <b>16.9%</b> | <b>49.9%</b> | <b>7.1%</b> | <b>16.6%</b> | <b>9.5%</b>  | -           | <b>+9.8</b>  |
| 卸売業                 | 456         | 11.8%        | 50.2%        | 7.5%        | 20.8%        | 9.6%         | -           | +4.3         |
| 小売業                 | 428         | 22.2%        | 49.5%        | 6.8%        | 12.1%        | 9.3%         | -           | +15.4        |
| <b>金融業</b>          | <b>327</b>  | <b>7.3%</b>  | <b>53.8%</b> | <b>6.4%</b> | <b>27.2%</b> | <b>4.6%</b>  | <b>0.6%</b> | <b>+0.9</b>  |
| 銀行                  | 58          | 5.2%         | 53.4%        | 1.7%        | 39.7%        | -            | -           | +3.5         |
| ※証券                 | 39          | 5.1%         | 66.7%        | 5.1%        | 15.4%        | 7.7%         | -           | 0.0          |
| 労働金庫・信用金庫・信用組合      | 162         | 10.5%        | 55.6%        | 9.9%        | 24.1%        | -            | -           | +0.6         |
| <b>サービス・情報業</b>     | <b>1530</b> | <b>13.9%</b> | <b>45.4%</b> | <b>5.3%</b> | <b>20.2%</b> | <b>15.0%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+8.6</b>  |
| 情報通信業               | 345         | 18.0%        | 54.2%        | 6.4%        | 16.5%        | 4.6%         | 0.3%        | +11.6        |
| 運輸業                 | 265         | 13.6%        | 39.2%        | 2.6%        | 23.0%        | 21.5%        | -           | +11.0        |
| 不動産業                | 86          | 12.8%        | 46.5%        | 5.8%        | 24.4%        | 10.5%        | -           | +7.0         |
| 飲食サービス業             | 77          | 26.0%        | 40.3%        | 7.8%        | 13.0%        | 13.0%        | -           | +18.2        |
| 教育・学習支援             | 69          | 13.0%        | 47.8%        | 2.9%        | 26.1%        | 10.1%        | -           | +10.1        |
| 医療・福祉               | 189         | 5.3%         | 49.2%        | 4.2%        | 19.0%        | 22.2%        | -           | +1.1         |
| ※電気・ガス・熱供給・水道業      | 36          | 2.8%         | 47.2%        | 11.1%       | 27.8%        | 11.1%        | -           | -8.3         |

注)業種内訳は、特徴的な業種の一部を抜粋

注)※が付いているものは、回答社数が少ないため、参考データとして参照

## &lt;参考&gt;業種別 2017年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)

(ポイント)

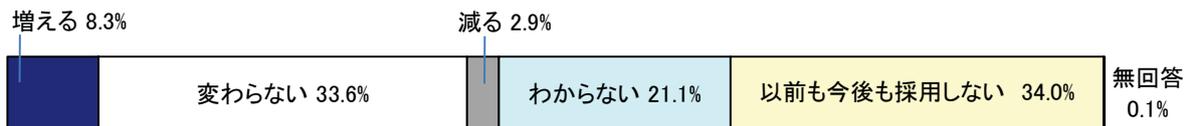
|          | 社数   | 増える   | 変わらない | 減る   | わからない | 以前も今後も採用しない | 無回答  | 増える<br>-減る |
|----------|------|-------|-------|------|-------|-------------|------|------------|
| 建設業      | 370  | 14.9% | 47.8% | 3.8% | 19.5% | 14.1%       | -    | +11.1      |
| 製造業      | 1667 | 10.9% | 47.9% | 4.5% | 27.8% | 8.8%        | 0.1% | +6.4       |
| 流通業      | 921  | 15.2% | 50.2% | 5.0% | 21.4% | 8.1%        | 0.1% | +10.2      |
| 金融業      | 344  | 12.5% | 51.2% | 1.5% | 31.4% | 3.5%        | -    | +11.0      |
| サービス・情報業 | 1472 | 15.0% | 46.2% | 4.1% | 21.1% | 13.4%       | 0.2% | +10.9      |

## 【2018年卒者の新卒採用見通し(高校生)】

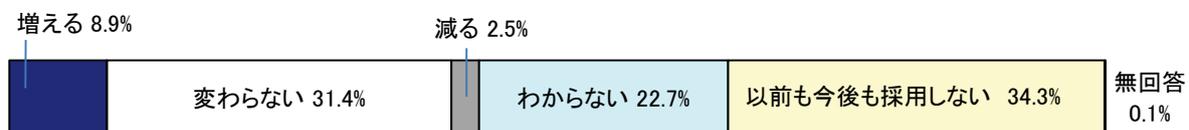
2018年卒対象の高校生の新卒採用見通しは、「増える」(8.3%)が「減る」(2.9%)を上回っており(+5.4%ポイント)、2017年卒に続いて、「増える」が「減る」を上回っている。

また、「以前も今後も採用しない」は34.0%と、2017年卒(34.3%)よりも微減となっている。

## ■2018年卒者の新卒採用見通し(高校生)



## &lt;参考&gt;2017年卒者の新卒採用見通し(高校生)



## 【従業員規模別 2018年卒者の新卒採用見通し(高校生)】

従業員規模別に見ると、いずれの企業規模においても、「増える」が「減る」を上回っている。見通しが「わからない」企業は1000人未満企業において20.8%、1000人以上企業において21.9%となっており、高校生の新卒採用見通しも今後の景気動向に左右される可能性がある。

従業員規模別を細かく見てみると、すべての従業員規模において、「増える」が「減る」を上回っている。

## ■従業員規模別 2018年卒者の新卒採用見通し(高校生)

|                | 社数          | 増える         | 変わらない        | 減る          | わからない        | 以前も今後も採用しない  | 無回答         | 増える<br>- 減る |
|----------------|-------------|-------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| <b>全体</b>      | <b>4768</b> | <b>8.3%</b> | <b>33.6%</b> | <b>2.9%</b> | <b>21.1%</b> | <b>34.0%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+5.4</b> |
| <b>1000人未満</b> | <b>3502</b> | <b>7.7%</b> | <b>32.2%</b> | <b>3.0%</b> | <b>20.8%</b> | <b>36.1%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+4.7</b> |
| 5~99人          | 1067        | 5.5%        | 21.3%        | 1.3%        | 25.6%        | 46.2%        | 0.1%        | +4.2        |
| 100~299人       | 1082        | 8.3%        | 33.5%        | 4.1%        | 20.2%        | 33.7%        | 0.1%        | +4.2        |
| 300~999人       | 1353        | 8.9%        | 39.8%        | 3.5%        | 17.6%        | 30.1%        | 0.1%        | +5.4        |
| <b>1000人以上</b> | <b>1266</b> | <b>9.8%</b> | <b>37.4%</b> | <b>2.7%</b> | <b>21.9%</b> | <b>28.0%</b> | <b>0.2%</b> | <b>+7.1</b> |
| 1000~1999人     | 546         | 8.8%        | 39.7%        | 2.9%        | 19.0%        | 29.5%        | -           | +5.9        |
| 2000~4999人     | 448         | 8.7%        | 37.1%        | 2.2%        | 26.1%        | 25.4%        | 0.4%        | +6.5        |
| 5000人以上        | 272         | 13.6%       | 33.1%        | 2.9%        | 20.6%        | 29.4%        | 0.4%        | +10.7       |

## &lt;参考&gt; 従業員規模別 2017年卒者の新卒採用見通し(高校生)

|         | 社数   | 増える   | 変わらない | 減る   | わからない | 以前も今後も採用しない | 無回答  | 増える<br>- 減る |
|---------|------|-------|-------|------|-------|-------------|------|-------------|
| 1000人未満 | 3478 | 8.2%  | 30.8% | 3.0% | 21.8% | 36.1%       | 0.1% | +5.2        |
| 1000人以上 | 1316 | 10.7% | 32.9% | 1.3% | 25.2% | 29.7%       | 0.2% | +9.4        |

## 【業種別 2018年卒者の新卒採用見通し(高校生)】

業種別を大分類で見ると、前年はすべての業種で「増える」が「減る」を上回っていたが、2018年卒者については、金融業を除いた業種において、「増える」が「減る」を上回っている。

業種別を細かく見ると、「増える」が「減る」を上回っているのは、飲食サービス業(+16.9%ポイント)、小売業(+11.5%ポイント)、運輸業(+10.2%ポイント)などである。

## ■業種別 2018年卒者の新卒採用見通し(高校生)

(ポイント)

|                     | 社数          | 増える          | 変わらない        | 減る          | わからない        | 以前も今後も採用しない  | 無回答         | 増える<br>- 減る |
|---------------------|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| <b>建設業</b>          | <b>342</b>  | <b>12.9%</b> | <b>38.6%</b> | <b>4.4%</b> | <b>19.3%</b> | <b>24.9%</b> | -           | <b>+8.5</b> |
| <b>製造業</b>          | <b>1637</b> | <b>9.2%</b>  | <b>43.7%</b> | <b>3.8%</b> | <b>24.7%</b> | <b>18.6%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+5.4</b> |
| 食品                  | 206         | 11.7%        | 38.8%        | 4.9%        | 23.8%        | 20.4%        | 0.5%        | +6.8        |
| 化学・紙・石油             | 174         | 8.0%         | 48.9%        | 3.4%        | 26.4%        | 13.2%        | -           | +4.6        |
| 医薬・化粧品              | 51          | -            | 37.3%        | 3.9%        | 35.3%        | 23.5%        | -           | -3.9        |
| 鉄鋼・非鉄金属・金属          | 162         | 11.1%        | 43.2%        | 4.3%        | 27.8%        | 13.6%        | -           | +6.8        |
| 機械・プラント・エンジニアリング    | 187         | 6.4%         | 54.0%        | 5.3%        | 20.9%        | 13.4%        | -           | +1.1        |
| ※コンピュータ・通信機器・OA機器関連 | 36          | 8.3%         | 36.1%        | -           | 22.2%        | 33.3%        | -           | +8.3        |
| 半導体・電子・電気部品         | 78          | 7.7%         | 35.9%        | 2.6%        | 28.2%        | 25.6%        | -           | +5.1        |
| 自動車・鉄道              | 156         | 7.1%         | 52.6%        | 6.4%        | 26.3%        | 7.7%         | -           | +0.7        |
| 精密機械器具              | 89          | 9.0%         | 44.9%        | 2.2%        | 23.6%        | 20.2%        | -           | +6.8        |
| <b>流通業</b>          | <b>884</b>  | <b>9.5%</b>  | <b>27.5%</b> | <b>2.5%</b> | <b>18.2%</b> | <b>42.2%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+7.0</b> |
| 卸売業                 | 456         | 4.4%         | 22.1%        | 1.5%        | 19.1%        | 52.6%        | 0.2%        | +2.9        |
| 小売業                 | 428         | 15.0%        | 33.2%        | 3.5%        | 17.3%        | 31.1%        | -           | +11.5       |
| <b>金融業</b>          | <b>327</b>  | <b>1.8%</b>  | <b>33.6%</b> | <b>2.8%</b> | <b>22.9%</b> | <b>38.2%</b> | <b>0.6%</b> | <b>-1.0</b> |
| 銀行                  | 58          | 1.7%         | 36.2%        | 1.7%        | 37.9%        | 22.4%        | -           | 0.0         |
| ※証券                 | 39          | 2.6%         | 23.1%        | 2.6%        | 15.4%        | 56.4%        | -           | 0.0         |
| 労働金庫・信用金庫・信用組合      | 162         | 2.5%         | 46.3%        | 3.7%        | 22.2%        | 25.3%        | -           | -1.2        |
| <b>サービス・情報業</b>     | <b>1530</b> | <b>7.0%</b>  | <b>25.2%</b> | <b>2.0%</b> | <b>18.8%</b> | <b>46.9%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+5.0</b> |
| 情報通信業               | 345         | 1.2%         | 15.7%        | 0.6%        | 14.5%        | 67.8%        | 0.3%        | +0.6        |
| 運輸業                 | 265         | 11.7%        | 26.0%        | 1.5%        | 21.9%        | 38.9%        | -           | +10.2       |
| 不動産業                | 86          | 2.3%         | 17.4%        | 1.2%        | 15.1%        | 64.0%        | -           | +1.1        |
| 飲食サービス業             | 77          | 20.8%        | 33.8%        | 3.9%        | 15.6%        | 26.0%        | -           | +16.9       |
| 教育・学習支援             | 69          | -            | 11.6%        | -           | 13.0%        | 75.4%        | -           | 0.0         |
| 医療・福祉               | 189         | 6.9%         | 37.0%        | 3.7%        | 18.0%        | 34.4%        | -           | +3.2        |
| ※電気・ガス・熱供給・水道業      | 36          | 11.1%        | 36.1%        | 5.6%        | 25.0%        | 22.2%        | -           | +5.5        |

注)業種内訳は、特徴的な業種の一部を抜粋

注)※が付いているものは、回答社数が少ないため、参考データとして参照

## ＜参考＞業種別 2017年卒者の新卒採用見通し(高校生)

(ポイント)

|          | 社数   | 増える   | 変わらない | 減る   | わからない | 以前も今後も採用しない | 無回答  | 増える<br>- 減る |
|----------|------|-------|-------|------|-------|-------------|------|-------------|
| 建設業      | 370  | 14.6% | 33.2% | 2.7% | 25.1% | 24.3%       | -    | +11.9       |
| 製造業      | 1667 | 9.6%  | 39.4% | 3.2% | 28.5% | 19.2%       | 0.1% | +6.4        |
| 流通業      | 921  | 7.7%  | 26.5% | 2.3% | 19.8% | 43.6%       | 0.1% | +5.4        |
| 金融業      | 344  | 3.5%  | 30.8% | 0.9% | 23.5% | 41.3%       | -    | +2.6        |
| サービス・情報業 | 1472 | 8.8%  | 25.2% | 2.4% | 17.2% | 46.3%       | 0.2% | +6.4        |

## 【採用見通しの経年比較】

大学生・大学院生の新卒採用見通しは、2012年卒以来7年連続「増えるー減る」のポイントがプラスとなっている。高校生の新卒採用見通しは、2015年卒以来4年連続「増えるー減る」のポイントがプラスとなっている。

■「増えるー減る」のポイントの経年比較



□大学生・大学院生の新卒採用見通し

(%ポイント)

|        | 増える   | 変わらない | 減る    | わからない | 以前も今後も採用しない | 無回答  | 増えるー減る |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------------|------|--------|
| 2018年卒 | 13.5% | 48.8% | 5.7%  | 20.7% | 11.1%       | 0.1% | +7.8   |
| 2017年卒 | 13.4% | 48.1% | 4.2%  | 24.1% | 10.1%       | 0.1% | +9.2   |
| 2016年卒 | 14.0% | 46.8% | 5.3%  | 24.4% | 9.3%        | 0.2% | +8.7   |
| 2015年卒 | 13.3% | 47.5% | 5.5%  | 24.1% | 9.5%        | 0.1% | +7.8   |
| 2014年卒 | 10.3% | 47.6% | 6.9%  | 25.8% | 9.2%        | 0.2% | +3.4   |
| 2013年卒 | 10.4% | 50.0% | 6.4%  | 25.1% | 7.9%        | 0.1% | +4.0   |
| 2012年卒 | 9.3%  | 47.1% | 7.5%  | 28.6% | 7.5%        | 0.1% | +1.8   |
| 2011年卒 | 5.5%  | 40.1% | 9.3%  | 36.6% | 8.3%        | 0.1% | -3.8   |
| 2010年卒 | 8.3%  | 50.6% | 15.7% | 25.1% | -           | 0.3% | -7.4   |
| 2009年卒 | 18.0% | 54.9% | 6.8%  | 19.9% | -           | 0.4% | +11.2  |
| 2008年卒 | 22.7% | 46.4% | 6.9%  | 21.4% | -           | 2.7% | +15.8  |

□高校生の新卒採用見通し

(%ポイント)

|        | 増える  | 変わらない | 減る   | わからない | 以前も今後も採用しない | 無回答  | 増えるー減る |
|--------|------|-------|------|-------|-------------|------|--------|
| 2018年卒 | 8.3% | 33.6% | 2.9% | 21.1% | 34.0%       | 0.1% | +5.4   |
| 2017年卒 | 8.9% | 31.4% | 2.5% | 22.7% | 34.3%       | 0.1% | +6.4   |
| 2016年卒 | 8.4% | 29.9% | 2.6% | 25.2% | 33.7%       | 0.2% | +5.8   |
| 2015年卒 | 5.8% | 28.9% | 3.6% | 22.7% | 38.9%       | 0.1% | +2.2   |
| 2014年卒 | 4.0% | 28.1% | 5.1% | 24.6% | 38.1%       | 0.2% | -1.1   |
| 2013年卒 | 3.2% | 27.8% | 3.6% | 25.5% | 39.7%       | 0.1% | -0.4   |
| 2012年卒 | 3.4% | 26.7% | 4.1% | 28.2% | 37.4%       | 0.2% | -0.7   |
| 2011年卒 | 3.1% | 29.8% | 5.3% | 38.3% | 23.3%       | 0.0% | -2.2   |
| 2010年卒 | 4.9% | 62.0% | 7.9% | 24.6% | -           | 0.5% | -3.0   |

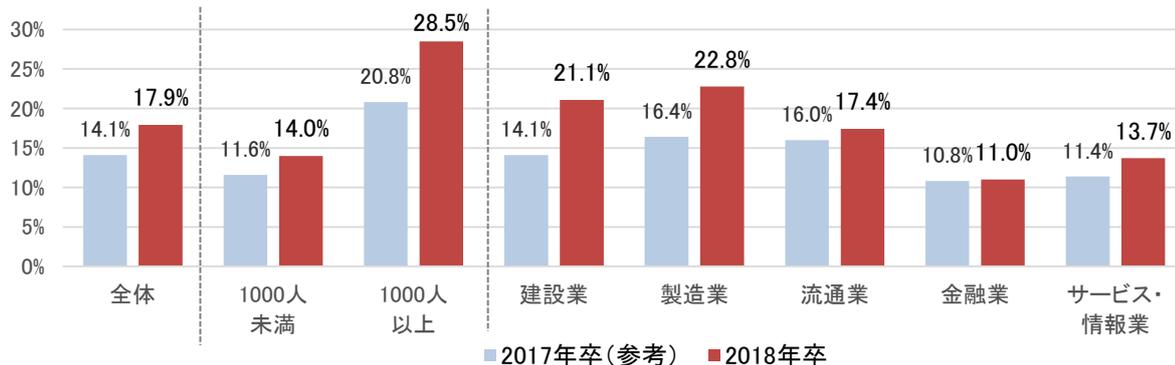
注)高卒の採用見通しは2010年卒より調査している

注)2010年卒(2009年度)以前は、採用の見通しを質問する際に、「以前も今後も採用しない」を選択肢に入れていないため、2011年卒(2010年度)以降と2010年卒(2009年度)以前は単純に比較できないが参考として記載

## 【2018年卒の新卒採用における女性採用(大学生・大学院生)】

2018年卒対象の新卒採用において、女性比率を前年より高める企業は17.9%となっており、前年の14.1%よりも上昇している。特に従業員1000人以上の大企業(28.5%、前年は20.8%)、建設業(21.1%、前年は14.1%)、製造業(22.8%、前年16.4%)は前年より上昇し、高い水準となっている。業種の詳細を見ると、証券(41.0%、回答社数が少なく参考値)、自動車・鉄道(40.4%)、コンピュータ・通信機器・OA機器関連(38.9%、回答社数が少なく参考値)などにおいて他の業種に比べて高くなっている。

■新卒採用において女性比率を前年より高める企業割合(大学生・大学院生)



■2018年卒の新卒採用において女性比率を前年より高める企業割合(大学生・大学院生)

|                 |                     | 社数           | 女性比率を前年より高める企業割合 |
|-----------------|---------------------|--------------|------------------|
| <b>全体</b>       |                     | <b>4768</b>  | <b>17.9%</b>     |
| 従業員規模別          | <b>1000人未満</b>      | <b>3502</b>  | <b>14.0%</b>     |
|                 | 5~99人               | 1067         | 3.4%             |
|                 | 100~299人            | 1082         | 11.5%            |
|                 | 300~999人            | 1353         | 24.5%            |
|                 | <b>1000人以上</b>      | <b>1266</b>  | <b>28.5%</b>     |
|                 | 1000~1999人          | 546          | 30.8%            |
|                 | 2000~4999人          | 448          | 27.5%            |
| 5000人以上         | 272                 | 25.7%        |                  |
| 業種別             | <b>建設業</b>          | <b>342</b>   | <b>21.1%</b>     |
|                 | <b>製造業</b>          | <b>1637</b>  | <b>22.8%</b>     |
|                 | 食品                  | 206          | 8.7%             |
|                 | 化学・紙・石油             | 174          | 25.3%            |
|                 | 医薬・化粧品              | 51           | 5.9%             |
|                 | 鉄鋼・非鉄金属・金属          | 162          | 19.1%            |
|                 | 機械・プラント・エンジニアリング    | 187          | 31.6%            |
|                 | ※コンピュータ・通信機器・OA機器関連 | 36           | 38.9%            |
|                 | 半導体・電子・電気部品         | 78           | 29.5%            |
|                 | 自動車・鉄道              | 156          | 40.4%            |
|                 | 精密機械器具              | 89           | 34.8%            |
|                 | <b>流通業</b>          | <b>884</b>   | <b>17.4%</b>     |
|                 | 卸売業                 | 456          | 13.6%            |
| 小売業             | 428                 | 21.5%        |                  |
| <b>金融業</b>      | <b>327</b>          | <b>11.0%</b> |                  |
| 銀行              | 58                  | 1.7%         |                  |
| ※証券             | 39                  | 41.0%        |                  |
| 労働金庫・信用金庫・信用組合  | 162                 | 8.6%         |                  |
| <b>サービス・情報業</b> | <b>1530</b>         | <b>13.7%</b> |                  |
| 情報通信業           | 345                 | 27.0%        |                  |
| 運輸業             | 265                 | 9.8%         |                  |
| 不動産業            | 86                  | 10.5%        |                  |
| 飲食サービス業         | 77                  | 18.2%        |                  |
| 教育・学習支援         | 69                  | 7.2%         |                  |
| 医療・福祉           | 189                 | 2.1%         |                  |
| ※電気・ガス・熱供給・水道業  | 36                  | 25.0%        |                  |

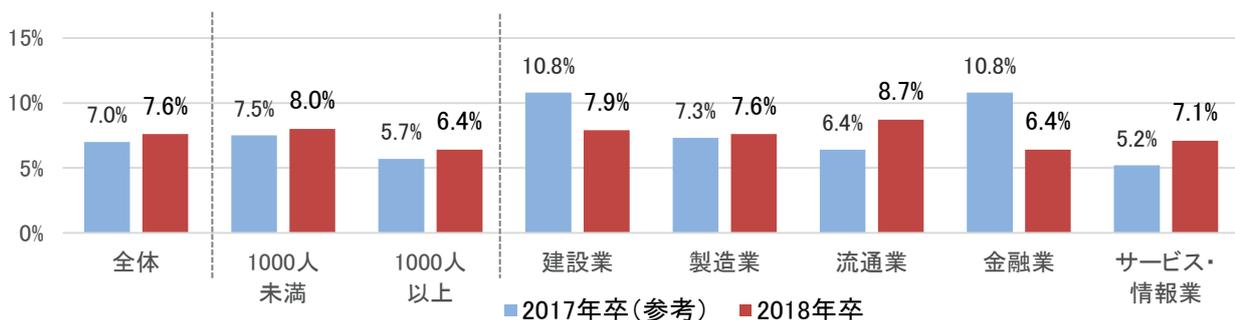
注)業種内訳は、特徴的な業種の一部を抜粋

注)※が付いているものは、回答社数が少ないため、参考データとして参照

## 【2018年卒の新卒採用における初任給(大学生・大学院生)】

2018年卒対象の新卒採用において、初任給を前年より高める企業は7.6%となっている。従業員規模別に見ると、1000人未満企業において8.0%、1000人以上企業において6.4%となっている。業種別に見ると、流通業(8.7%)や建設業(7.9%)は、他の業種に比べて高く、詳細を見ると、精密機械器具(14.6%)、コンピュータ・通信機器・OA機器関連(11.1%、回答社数が少なく参考値)、医療・福祉(10.1%)などにおいて他の業種に比べて高くなっている。

### ■新卒採用において初任給を前年より高める企業割合(大学生・大学院生)



### ■2018年卒の新卒採用において初任給を前年より高める企業割合(大学生・大学院生)

|           |                     | 社数          | 初任給を前年より高める企業割合 |
|-----------|---------------------|-------------|-----------------|
| <b>全体</b> |                     | <b>4768</b> | <b>7.6%</b>     |
| 従業員規模別    | <b>1000人未満</b>      | <b>3502</b> | <b>8.0%</b>     |
|           | 5~99人               | 1067        | 5.2%            |
|           | 100~299人            | 1082        | 10.1%           |
|           | 300~999人            | 1353        | 8.6%            |
|           | <b>1000人以上</b>      | <b>1266</b> | <b>6.4%</b>     |
|           | 1000~1999人          | 546         | 8.4%            |
|           | 2000~4999人          | 448         | 4.9%            |
| 5000人以上   | 272                 | 4.8%        |                 |
| 業種別       | <b>建設業</b>          | <b>342</b>  | <b>7.9%</b>     |
|           | <b>製造業</b>          | <b>1637</b> | <b>7.6%</b>     |
|           | 食品                  | 206         | 6.3%            |
|           | 化学・紙・石油             | 174         | 6.9%            |
|           | 医薬・化粧品              | 51          | 2.0%            |
|           | 鉄鋼・非鉄金属・金属          | 162         | 6.8%            |
|           | 機械・プラント・エンジニアリング    | 187         | 9.1%            |
|           | ※コンピュータ・通信機器・OA機器関連 | 36          | 11.1%           |
|           | 半導体・電子・電気部品         | 78          | 9.0%            |
|           | 自動車・鉄道              | 156         | 5.8%            |
|           | 精密機械器具              | 89          | 14.6%           |

|     |                 | 社数          | 初任給を前年より高める企業割合 |
|-----|-----------------|-------------|-----------------|
| 業種別 | <b>流通業</b>      | <b>884</b>  | <b>8.7%</b>     |
|     | 卸売業             | 456         | 9.2%            |
|     | 小売業             | 428         | 8.2%            |
|     | <b>金融業</b>      | <b>327</b>  | <b>6.4%</b>     |
|     | 銀行              | 58          | 3.4%            |
|     | ※証券             | 39          | 5.1%            |
|     | 労働金庫・信用金庫・信用組合  | 162         | 9.9%            |
|     | <b>サービス・情報業</b> | <b>1530</b> | <b>7.1%</b>     |
|     | 情報通信業           | 345         | 8.1%            |
|     | 運輸業             | 265         | 4.2%            |
|     | 不動産業            | 86          | 3.5%            |
|     | 飲食サービス業         | 77          | 7.8%            |
|     | 教育・学習支援         | 69          | 7.2%            |
|     | 医療・福祉           | 189         | 10.1%           |
|     | ※電気・ガス・熱供給・水道業  | 36          | 8.3%            |

注)業種内訳は、特徴的な業種の一部を抜粋

注)※が付いているものは、回答社数が少ないため、参考データとして参照

## 参考【地域別 採用見通し】

## ■地域別 2018年卒者の新卒採用見通し(大学生・大学院生)

(％ポイント)

|           | 社数          | 増える          | 変わらない        | 減る          | わからない        | 以前も今後も採用しない  | 無回答         | 増える<br>－減る  |
|-----------|-------------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| <b>全体</b> | <b>4768</b> | <b>13.5%</b> | <b>48.8%</b> | <b>5.7%</b> | <b>20.7%</b> | <b>11.1%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+7.8</b> |
| 北海道       | 204         | 14.2%        | 38.7%        | 5.9%        | 23.5%        | 17.6%        | －           | +8.3        |
| 東北        | 224         | 12.9%        | 34.4%        | 6.7%        | 25.9%        | 20.1%        | －           | +6.2        |
| 関東        | 2038        | 13.2%        | 53.2%        | 4.5%        | 19.2%        | 9.6%         | 0.2%        | +8.7        |
| 中部        | 856         | 15.2%        | 48.2%        | 7.4%        | 20.8%        | 8.3%         | 0.1%        | +7.8        |
| 近畿        | 741         | 13.2%        | 49.9%        | 6.3%        | 20.9%        | 9.6%         | －           | +6.9        |
| 中国・四国     | 420         | 12.6%        | 44.5%        | 7.9%        | 21.2%        | 13.8%        | －           | +4.7        |
| 九州        | 285         | 13.0%        | 41.4%        | 4.6%        | 23.5%        | 17.5%        | －           | +8.4        |

## ■地域別 2018年卒者の新卒採用見通し(高校生)

(％ポイント)

|           | 社数          | 増える         | 変わらない        | 減る          | わからない        | 以前も今後も採用しない  | 無回答         | 増える<br>－減る  |
|-----------|-------------|-------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| <b>全体</b> | <b>4768</b> | <b>8.3%</b> | <b>33.6%</b> | <b>2.9%</b> | <b>21.1%</b> | <b>34.0%</b> | <b>0.1%</b> | <b>+5.4</b> |
| 北海道       | 204         | 9.8%        | 35.8%        | 2.9%        | 27.5%        | 24.0%        | －           | +6.9        |
| 東北        | 224         | 12.1%       | 33.9%        | 4.0%        | 23.7%        | 26.3%        | －           | +8.1        |
| 関東        | 2038        | 6.1%        | 29.4%        | 1.9%        | 19.0%        | 43.3%        | 0.2%        | +4.2        |
| 中部        | 856         | 10.2%       | 41.4%        | 4.2%        | 20.3%        | 23.8%        | 0.1%        | +6.0        |
| 近畿        | 741         | 7.6%        | 32.9%        | 2.0%        | 24.2%        | 33.3%        | －           | +5.6        |
| 中国・四国     | 420         | 10.7%       | 36.7%        | 5.0%        | 21.4%        | 26.2%        | －           | +5.7        |
| 九州        | 285         | 11.9%       | 35.1%        | 5.3%        | 23.5%        | 24.2%        | －           | +6.6        |

注) 地域は本社所在地の都道府県を示しており、地域区分は下記の通り

北海道:北海道

東北:青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県

関東:茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部:山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県

近畿:三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国・四国:鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州:福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

東京農業大学生命科学部（仮称）、  
地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、  
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に  
対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

平成27年11月

一般財団法人 日本開発構想研究所

東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、  
国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する  
企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 29 年 4 月に予定している東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の開設に向けて、東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる、全国 47 都道府県の企業等の採用担当者にアンケートを実施し、東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等 4,000 社の採用担当者にアンケートを実施し、945 件の有効回答があった。

(3) 調査方法

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる企業等 4,000 社の採用担当者にアンケート用紙及び東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答については第三者機関へ企業等から直接郵送。

集計結果より、東京農業大学生命科学部（仮称）、地域環境科学部地域創成科学科（仮称）、国際食料情報学部国際食農科学科（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 27 年 9 月～平成 27 年 11 月

(5) 有効回収率等

配布数 : 4,000 社

有効回答数 : 945 件

有効回収率 : 約 23.6%

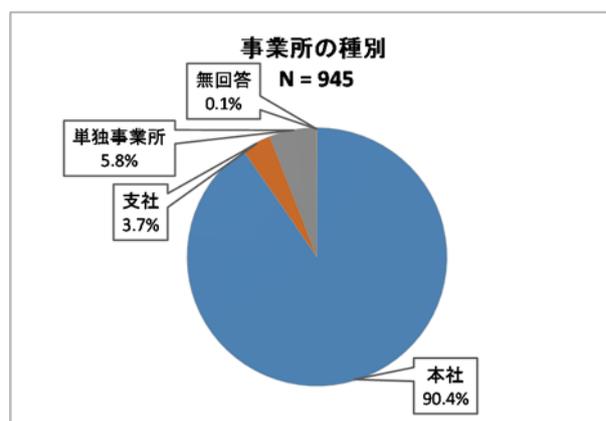
※東京農業大学にて設置を構想している生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科は仮称であるが、その旨の表示を本文中では省略した。

## 2. 調査結果

### (1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「本社」が 854 件（90.4%）と最も多く、次いで「単独事業所」55 件（5.8%）、「支社」35 件（3.7%）、「無回答」1 件（0.1%）の順になっている。

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 本社       | 854 | 90.4  |
| 2   | 支社       | 35  | 3.7   |
| 3   | 単独事業所    | 55  | 5.8   |
|     | 無回答      | 1   | 0.1   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |

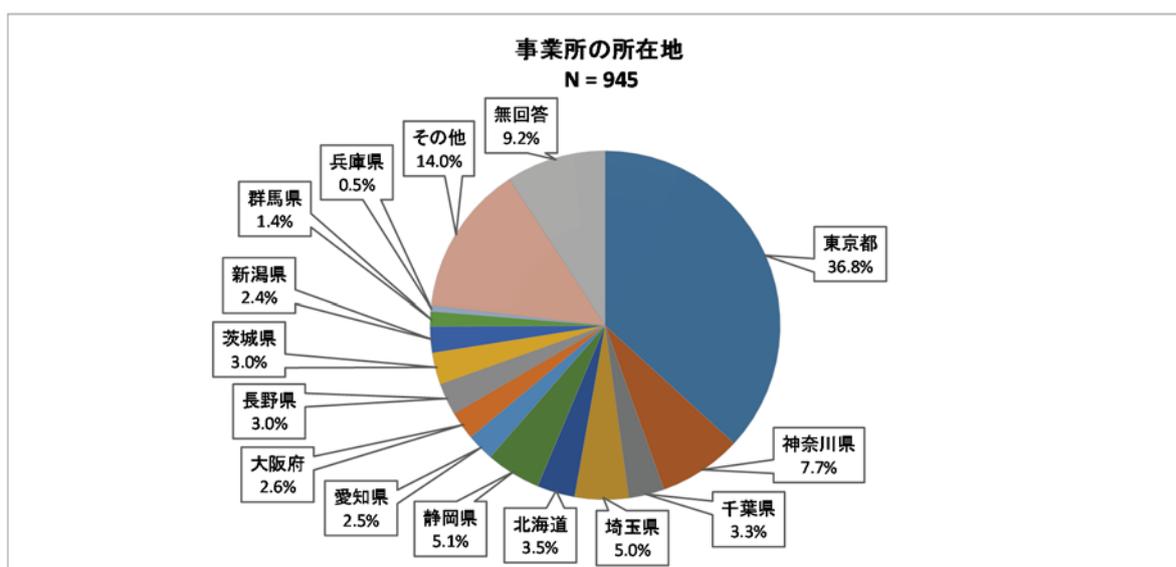


(2) 事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「東京都」が 348 件 (36.8%) と最も多く、次いで「その他」132 件 (14.0%)、「無回答」87 件 (9.2%)、「神奈川県」73 件 (7.7%)、「静岡県」48 件 (5.1%)、「埼玉県」47 件 (5.0%)、「北海道」33 件 (3.5%)、「千葉県」31 件 (3.3%)、「長野県」28 件 (3.0%)、「茨城県」28 件 (3.0%)、「大阪府」25 件 (2.6%)、「愛知県」24 件 (2.5%)、「新潟県」23 件 (2.4%)、「群馬県」13 件 (1.4%)、「兵庫県」5 件 (0.5%) の順になっている。

事業所の所在地

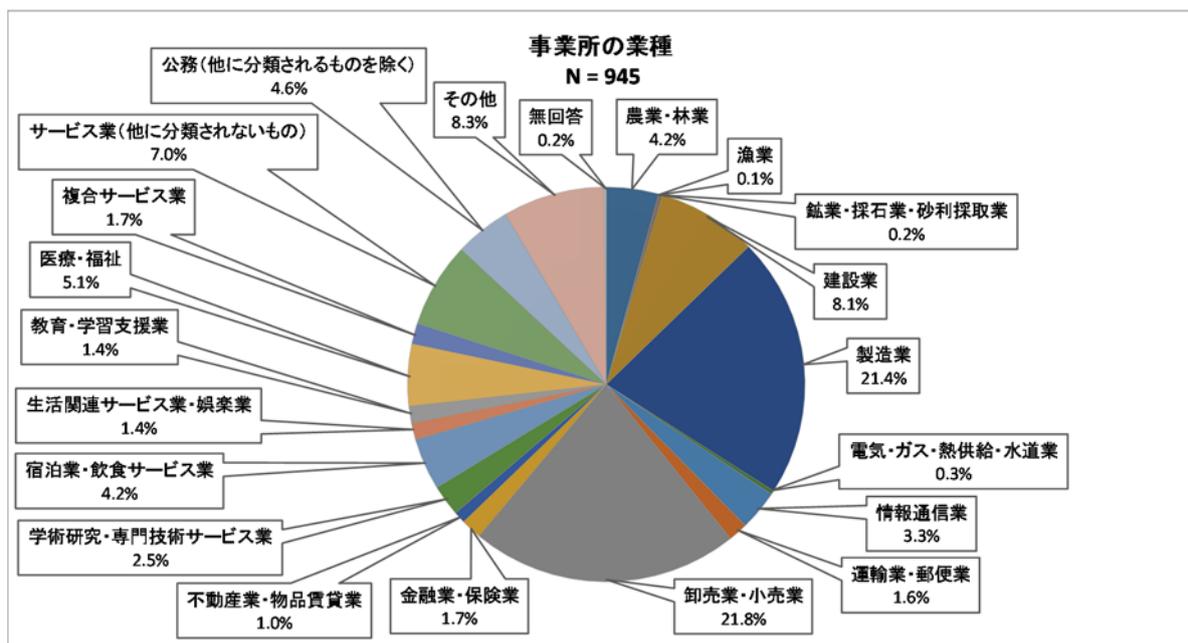
| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 東京都      | 348 | 36.8  |
| 2   | 神奈川県     | 73  | 7.7   |
| 3   | 千葉県      | 31  | 3.3   |
| 4   | 埼玉県      | 47  | 5.0   |
| 5   | 北海道      | 33  | 3.5   |
| 6   | 静岡県      | 48  | 5.1   |
| 7   | 愛知県      | 24  | 2.5   |
| 8   | 大阪府      | 25  | 2.6   |
| 9   | 長野県      | 28  | 3.0   |
| 10  | 茨城県      | 28  | 3.0   |
| 11  | 新潟県      | 23  | 2.4   |
| 12  | 群馬県      | 13  | 1.4   |
| 13  | 兵庫県      | 5   | 0.5   |
| 14  | その他      | 132 | 14.0  |
|     | 無回答      | 87  | 9.2   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「卸売業・小売業」が 206 件 (21.8%) と最も多く、次いで「製造業」202 件 (21.4%)、「その他」78 件 (8.3%)、「建設業」77 件 (8.1%)、「サービス業 (他に分類されないもの)」66 件 (7.0%)、「医療・福祉」48 件 (5.1%)、「公務 (他に分類されるものを除く)」43 件 (4.6%)、「農業・林業」40 件 (4.2%)、「宿泊業・飲食サービス業」40 件 (4.2%)、「情報通信業」31 件 (3.3%) の順になっている。

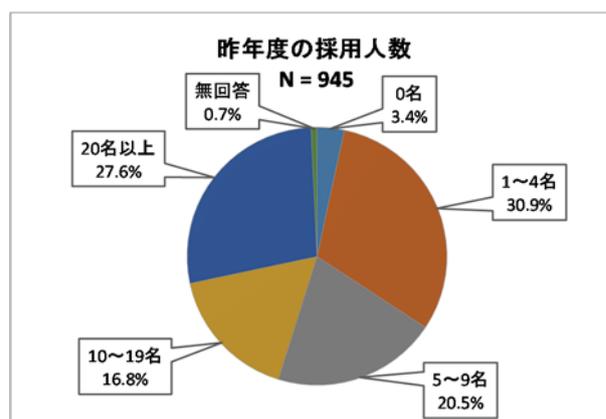
| 事業所の業種 |                   |     |       |
|--------|-------------------|-----|-------|
| No.    | カテゴリ              | 件数  | (全体)% |
| 1      | 農業・林業             | 40  | 4.2   |
| 2      | 漁業                | 1   | 0.1   |
| 3      | 鉱業・採石業・砂利採取業      | 2   | 0.2   |
| 4      | 建設業               | 77  | 8.1   |
| 5      | 製造業               | 202 | 21.4  |
| 6      | 電気・ガス・熱供給・水道業     | 3   | 0.3   |
| 7      | 情報通信業             | 31  | 3.3   |
| 8      | 運輸業・郵便業           | 15  | 1.6   |
| 9      | 卸売業・小売業           | 206 | 21.8  |
| 10     | 金融業・保険業           | 16  | 1.7   |
| 11     | 不動産業・物品賃貸業        | 9   | 1.0   |
| 12     | 学術研究・専門技術サービス業    | 24  | 2.5   |
| 13     | 宿泊業・飲食サービス業       | 40  | 4.2   |
| 14     | 生活関連サービス業・娯楽業     | 13  | 1.4   |
| 15     | 教育・学習支援業          | 13  | 1.4   |
| 16     | 医療・福祉             | 48  | 5.1   |
| 17     | 複合サービス業           | 16  | 1.7   |
| 18     | サービス業(他に分類されないもの) | 66  | 7.0   |
| 19     | 公務(他に分類されるものを除く)  | 43  | 4.6   |
| 20     | その他               | 78  | 8.3   |
|        | 無回答               | 2   | 0.2   |
|        | N (%ベース)          | 945 | 100   |



(4) 昨年度の採用人数について

昨年度の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「1～4 名」が 292 件 (30.9%) と最も多く、次いで「20 名以上」261 件 (27.6%)、「5～9 名」194 件 (20.5%)、「10～19 名」159 件 (16.8%)、「0 名」32 件 (3.4%)、「無回答」7 件 (0.7%) の順になっている。

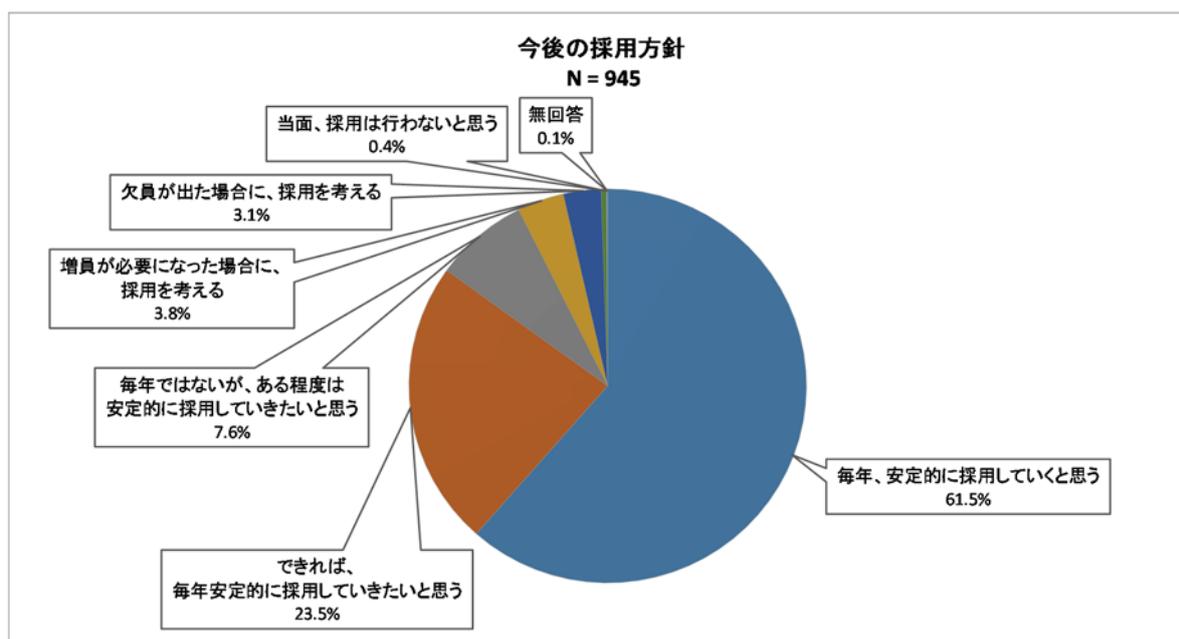
| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 0名       | 32  | 3.4   |
| 2   | 1～4名     | 292 | 30.9  |
| 3   | 5～9名     | 194 | 20.5  |
| 4   | 10～19名   | 159 | 16.8  |
| 5   | 20名以上    | 261 | 27.6  |
|     | 無回答      | 7   | 0.7   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「毎年、安定的に採用していくと思う」が 581 件 (61.5%) と最も多く、次いで「できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う」222 件 (23.5%)、「毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う」72 件 (7.6%)、「増員が必要になった場合に、採用を考える」36 件 (3.8%)、「欠員が出た場合に、採用を考える」29 件 (3.1%)、「当面、採用は行わないと思う」4 件 (0.4%)、「無回答」1 件 (0.1%) の順になっている。

| No. | カテゴリ                         | 件数  | (全体)% |
|-----|------------------------------|-----|-------|
| 1   | 毎年、安定的に採用していくと思う             | 581 | 61.5  |
| 2   | できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う       | 222 | 23.5  |
| 3   | 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う | 72  | 7.6   |
| 4   | 増員が必要になった場合に、採用を考える          | 36  | 3.8   |
| 5   | 欠員が出た場合に、採用を考える              | 29  | 3.1   |
| 6   | 当面、採用は行わないと思う                | 4   | 0.4   |
|     | 無回答                          | 1   | 0.1   |
|     | N (%ベース)                     | 945 | 100   |



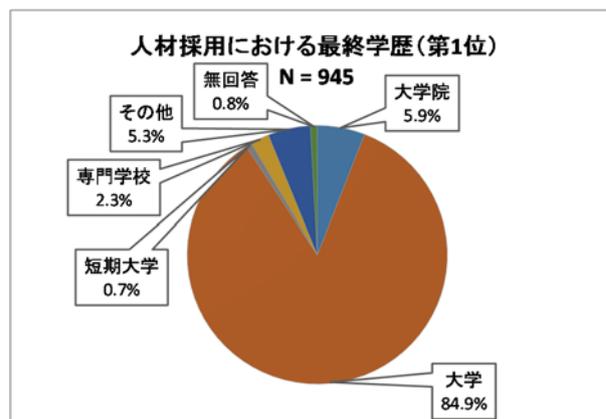
(6) 人材採用における最終学歴について

6-1 人材採用における最終学歴（第1位）について

人材採用における最終学歴（第1位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「大学」が802件（84.9%）と最も多く、次いで「大学院」56件（5.9%）、「その他」50件（5.3%）、「専門学校」22件（2.3%）、「無回答」8件（0.8%）、「短期大学」7件（0.7%）の順になっている。

人材採用における最終学歴(第1位)

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 大学院      | 56  | 5.9   |
| 2   | 大学       | 802 | 84.9  |
| 3   | 短期大学     | 7   | 0.7   |
| 4   | 専門学校     | 22  | 2.3   |
| 5   | その他      | 50  | 5.3   |
|     | 無回答      | 8   | 0.8   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |

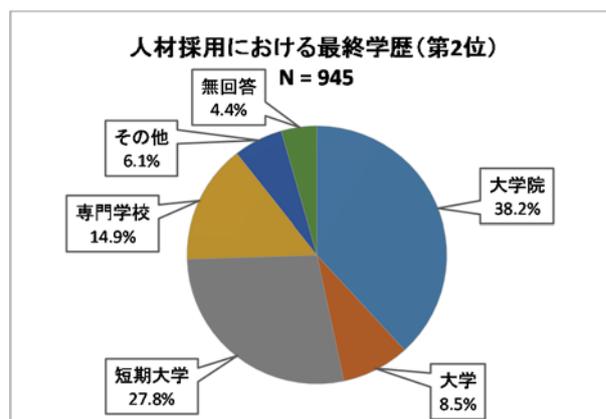


6-2 人材採用における最終学歴（第2位）について

人材採用における最終学歴（第2位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「大学院」が361件（38.2%）と最も多く、次いで「短期大学」263件（27.8%）、「専門学校」141件（14.9%）、「大学」80件（8.5%）、「その他」58件（6.1%）、「無回答」42件（4.4%）の順になっている。

人材採用における最終学歴(第2位)

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 大学院      | 361 | 38.2  |
| 2   | 大学       | 80  | 8.5   |
| 3   | 短期大学     | 263 | 27.8  |
| 4   | 専門学校     | 141 | 14.9  |
| 5   | その他      | 58  | 6.1   |
|     | 無回答      | 42  | 4.4   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |

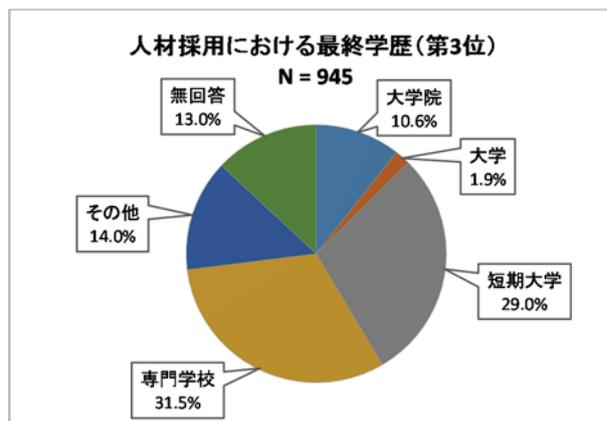


### 6-3 人材採用における最終学歴（第3位）について

人材採用における最終学歴（第3位）について調査したところ、回答のあった企業等945件のうち、「専門学校」が298件（31.5%）と最も多く、次いで「短期大学」274件（29.0%）、「その他」132件（14.0%）、「無回答」123件（13.0%）、「大学院」100件（10.6%）、「大学」18件（1.9%）の順になっている。

人材採用における最終学歴(第3位)

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 大学院      | 100 | 10.6  |
| 2   | 大学       | 18  | 1.9   |
| 3   | 短期大学     | 274 | 29.0  |
| 4   | 専門学校     | 298 | 31.5  |
| 5   | その他      | 132 | 14.0  |
|     | 無回答      | 123 | 13.0  |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



(7) 新設学部・新設学科の社会的必要性について

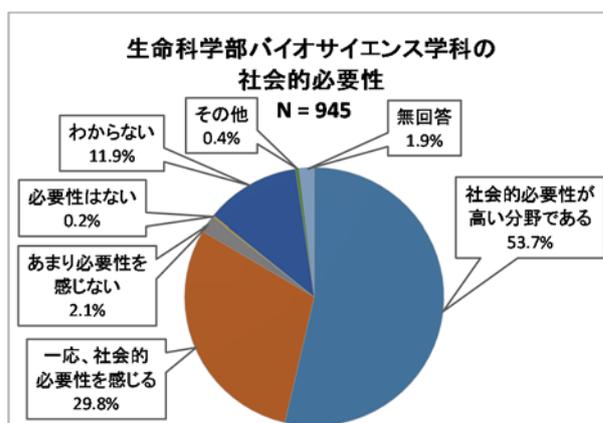
7-1 生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 507 件 (53.7%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」282 件 (29.8%)、「わからない」112 件 (11.9%)、「あまり必要性を感じない」20 件 (2.1%)、「無回答」18 件 (1.9%)、「その他」4 件 (0.4%)、「必要性はない」2 件 (0.2%) の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、789 件 (83.5%) となっている。

生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 507 | 53.7  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 282 | 29.8  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 20  | 2.1   |
| 4   | 必要性はない         | 2   | 0.2   |
| 5   | わからない          | 112 | 11.9  |
| 6   | その他            | 4   | 0.4   |
|     | 無回答            | 18  | 1.9   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



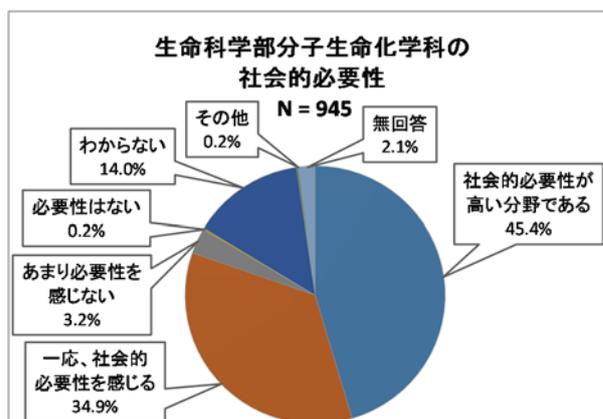
7-2 生命科学部分子生命化学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部分子生命化学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 429 件 (45.4%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」330 件 (34.9%)、「わからない」132 件 (14.0%)、「あまり必要性を感じない」30 件 (3.2%)、「無回答」20 件 (2.1%)、「必要性はない」2 件 (0.2%)、「その他」2 件 (0.2%) の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部分子生命化学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、759 件 (80.3%) となっている。

生命科学部分子生命化学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 429 | 45.4  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 330 | 34.9  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 30  | 3.2   |
| 4   | 必要性はない         | 2   | 0.2   |
| 5   | わからない          | 132 | 14.0  |
| 6   | その他            | 2   | 0.2   |
|     | 無回答            | 20  | 2.1   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



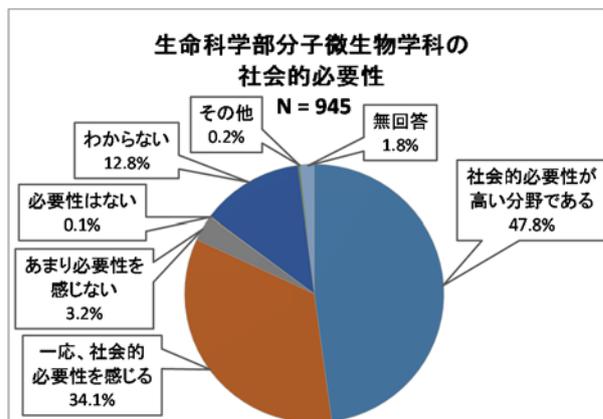
### 7-3 生命科学部分子微生物学科の社会的必要性について

東京農業大学生命科学部分子微生物学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 452 件（47.8%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」322 件（34.1%）、「わからない」121 件（12.8%）、「あまり必要性を感じない」30 件（3.2%）、「無回答」17 件（1.8%）、「その他」2 件（0.2%）、「必要性はない」1 件（0.1%）の順になっている。

なお、東京農業大学生命科学部分子微生物学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、774 件（81.9%）となっている。

生命科学部分子微生物学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 452 | 47.8  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 322 | 34.1  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 30  | 3.2   |
| 4   | 必要性はない         | 1   | 0.1   |
| 5   | わからない          | 121 | 12.8  |
| 6   | その他            | 2   | 0.2   |
|     | 無回答            | 17  | 1.8   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



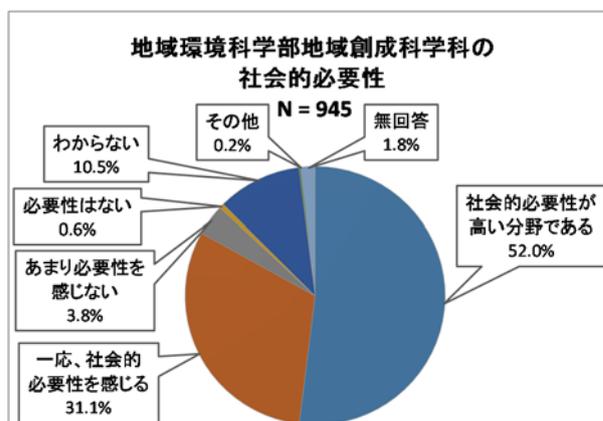
### 7-4 地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性について

東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 491 件（52.0%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」294 件（31.1%）、「わからない」99 件（10.5%）、「あまり必要性を感じない」36 件（3.8%）、「無回答」17 件（1.8%）、「必要性はない」6 件（0.6%）、「その他」2 件（0.2%）の順になっている。

なお、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、785 件（83.1%）となっている。

地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 491 | 52.0  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 294 | 31.1  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 36  | 3.8   |
| 4   | 必要性はない         | 6   | 0.6   |
| 5   | わからない          | 99  | 10.5  |
| 6   | その他            | 2   | 0.2   |
|     | 無回答            | 17  | 1.8   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



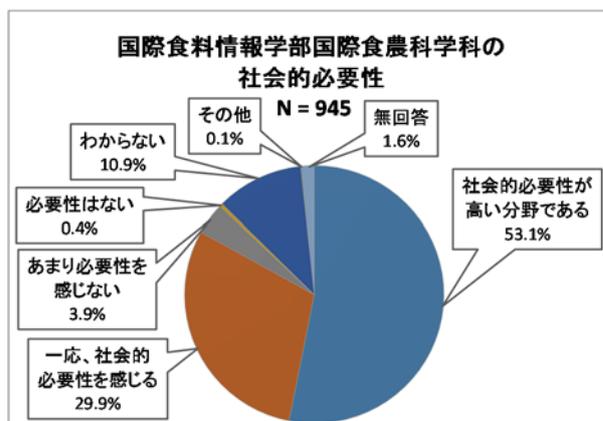
### 7-5 国際食料情報学部国際食農科学科の社会的必要性について

東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 502 件（53.1%）と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」283 件（29.9%）、「わからない」103 件（10.9%）、「あまり必要性を感じない」37 件（3.9%）、「無回答」15 件（1.6%）、「必要性はない」4 件（0.4%）、「その他」1 件（0.1%）の順になっている。

なお、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、785 件（83.0%）となっている。

国際食料情報学部国際食農科学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 502 | 53.1  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 283 | 29.9  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 37  | 3.9   |
| 4   | 必要性はない         | 4   | 0.4   |
| 5   | わからない          | 103 | 10.9  |
| 6   | その他            | 1   | 0.1   |
|     | 無回答            | 15  | 1.6   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について

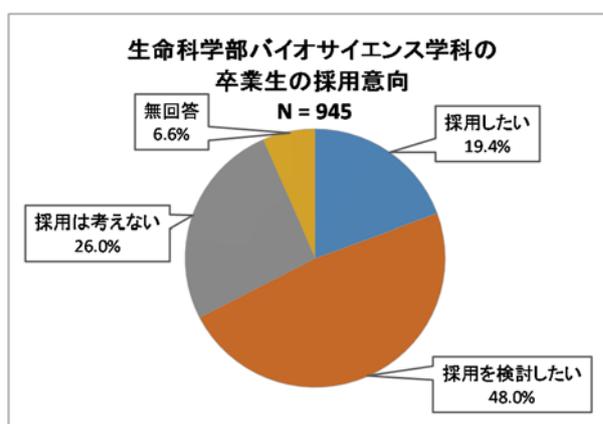
8-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 454 件（48.0%）と最も多く、次いで「採用は考えない」246 件（26.0%）、「採用したい」183 件（19.4%）、「無回答」62 件（6.6%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、637 件（67.4%）となっている。

生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 183 | 19.4  |
| 2   | 採用を検討したい | 454 | 48.0  |
| 3   | 採用は考えない  | 246 | 26.0  |
|     | 無回答      | 62  | 6.6   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



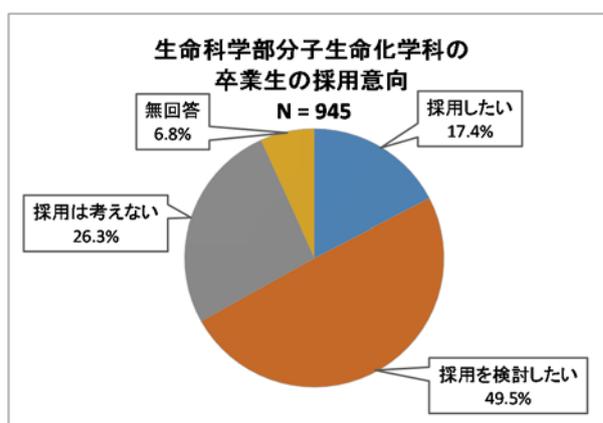
8-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 468 件（49.5%）と最も多く、次いで「採用は考えない」249 件（26.3%）、「採用したい」164 件（17.4%）、「無回答」64 件（6.8%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、632 件（66.9%）となっている。

生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 164 | 17.4  |
| 2   | 採用を検討したい | 468 | 49.5  |
| 3   | 採用は考えない  | 249 | 26.3  |
|     | 無回答      | 64  | 6.8   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



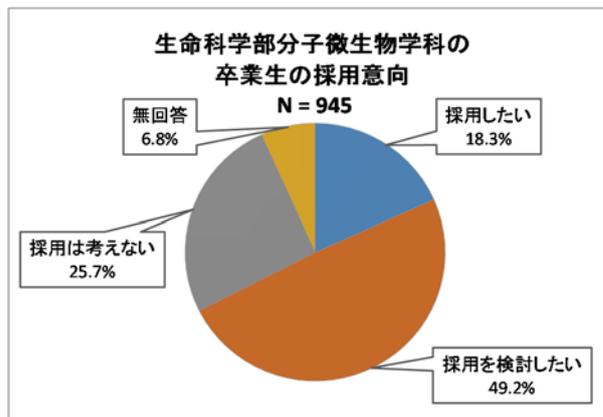
### 8-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 465 件（49.2%）と最も多く、次いで「採用は考えない」243 件（25.7%）、「採用したい」173 件（18.3%）、「無回答」64 件（6.8%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、638 件（67.5%）となっている。

生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 173 | 18.3  |
| 2   | 採用を検討したい | 465 | 49.2  |
| 3   | 採用は考えない  | 243 | 25.7  |
|     | 無回答      | 64  | 6.8   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



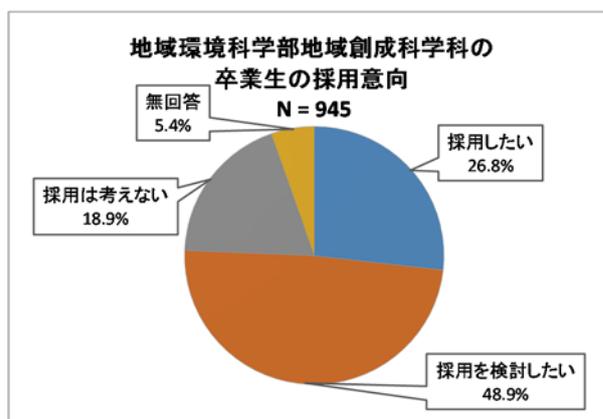
### 8-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 462 件（48.9%）と最も多く、次いで「採用したい」253 件（26.8%）、「採用は考えない」179 件（18.9%）、「無回答」51 件（5.4%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、715 件（75.7%）となっている。

地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 253 | 26.8  |
| 2   | 採用を検討したい | 462 | 48.9  |
| 3   | 採用は考えない  | 179 | 18.9  |
|     | 無回答      | 51  | 5.4   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



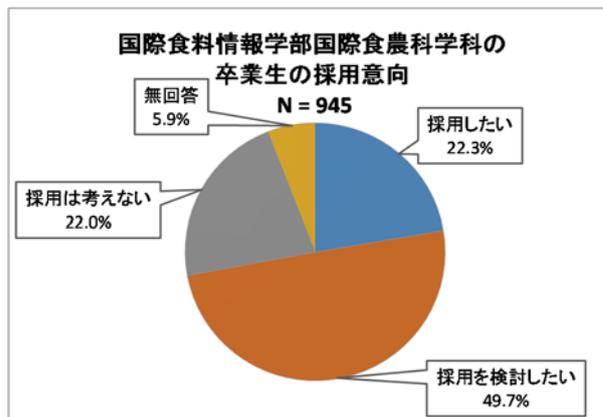
### 8-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について

東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 945 件のうち、「採用を検討したい」が 470 件（49.7%）と最も多く、次いで「採用したい」211 件（22.3%）、「採用は考えない」208 件（22.0%）、「無回答」56 件（5.9%）の順になっている。

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、681 件（72.0%）となっている。

国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 211 | 22.3  |
| 2   | 採用を検討したい | 470 | 49.7  |
| 3   | 採用は考えない  | 208 | 22.0  |
|     | 無回答      | 56  | 5.9   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



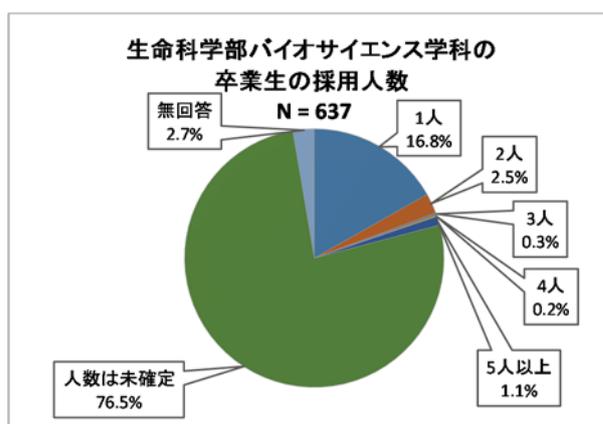
(9) 新設学部・新設学科の卒業生の採用人数について

9-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-1 生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 637 件に対して、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 487 件 (76.5%) と最も多く、次いで「1人」107件 (16.8%)、「無回答」17件 (2.7%)、「2人」16件 (2.5%)、「5人以上」7件 (1.1%)、「3人」2件 (0.3%)、「4人」1件 (0.2%) の順になっている。

生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 107 | 16.8  |
| 2   | 2人       | 16  | 2.5   |
| 3   | 3人       | 2   | 0.3   |
| 4   | 4人       | 1   | 0.2   |
| 5   | 5人以上     | 7   | 1.1   |
| 6   | 人数は未確定   | 487 | 76.5  |
|     | 無回答      | 17  | 2.7   |
|     | N (%ベース) | 637 | 100   |

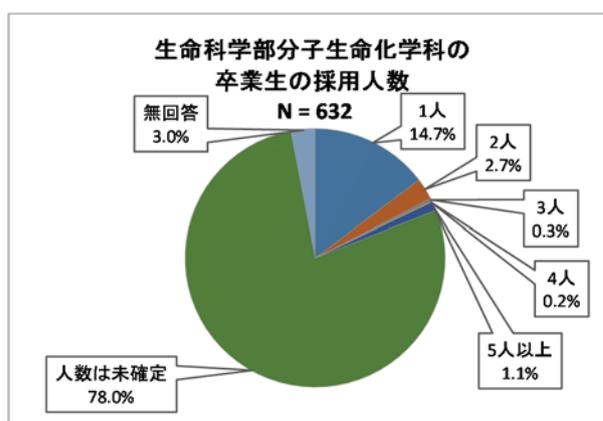


9-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-2 生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 637 件に対して、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 493 件 (78.0%) と最も多く、次いで「1人」93件 (14.7%)、「無回答」19件 (3.0%)、「2人」17件 (2.7%)、「5人以上」7件 (1.1%)、「3人」2件 (0.3%)、「4人」1件 (0.2%) の順になっている。

生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 93  | 14.7  |
| 2   | 2人       | 17  | 2.7   |
| 3   | 3人       | 2   | 0.3   |
| 4   | 4人       | 1   | 0.2   |
| 5   | 5人以上     | 7   | 1.1   |
| 6   | 人数は未確定   | 493 | 78.0  |
|     | 無回答      | 19  | 3.0   |
|     | N (%ベース) | 632 | 100   |

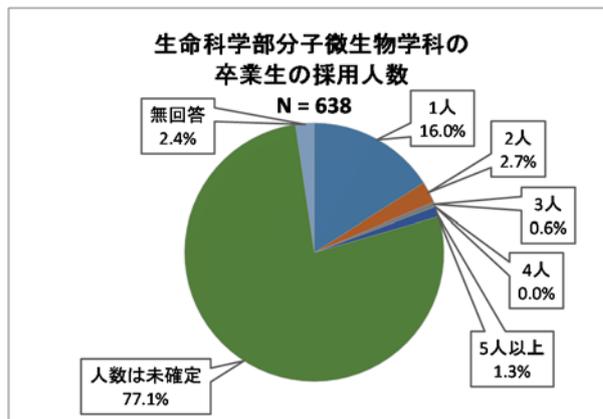


### 9-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-3 生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 638 件に対して、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 492 件 (77.1%) と最も多く、次いで「1人」102 件 (16.0%)、「2人」17 件 (2.7%)、「無回答」15 件 (2.4%)、「5人以上」8 件 (1.3%)、「3人」4 件 (0.6%)、「4人」0 件 (0%) の順になっている。

生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 102 | 16.0  |
| 2   | 2人       | 17  | 2.7   |
| 3   | 3人       | 4   | 0.6   |
| 4   | 4人       | 0   | 0.0   |
| 5   | 5人以上     | 8   | 1.3   |
| 6   | 人数は未確定   | 492 | 77.1  |
|     | 無回答      | 15  | 2.4   |
|     | N (%ベース) | 638 | 100   |

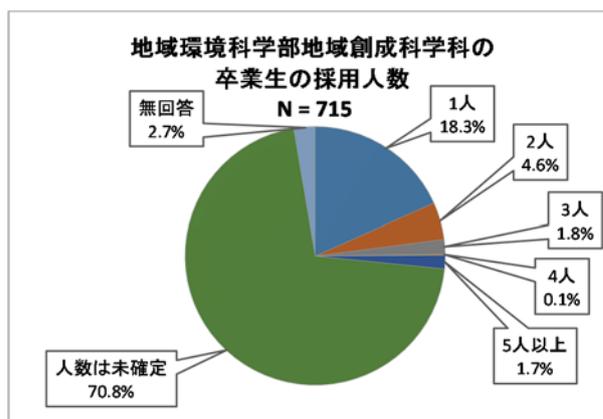


### 9-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-4 地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 715 件に対して、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 506 件 (70.8%) と最も多く、次いで「1人」131 件 (18.3%)、「2人」33 件 (4.6%)、「無回答」19 件 (2.7%)、「3人」13 件 (1.8%)、「5人以上」12 件 (1.7%)、「4人」1 件 (0.1%) の順になっている。

地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 131 | 18.3  |
| 2   | 2人       | 33  | 4.6   |
| 3   | 3人       | 13  | 1.8   |
| 4   | 4人       | 1   | 0.1   |
| 5   | 5人以上     | 12  | 1.7   |
| 6   | 人数は未確定   | 506 | 70.8  |
|     | 無回答      | 19  | 2.7   |
|     | N (%ベース) | 715 | 100   |

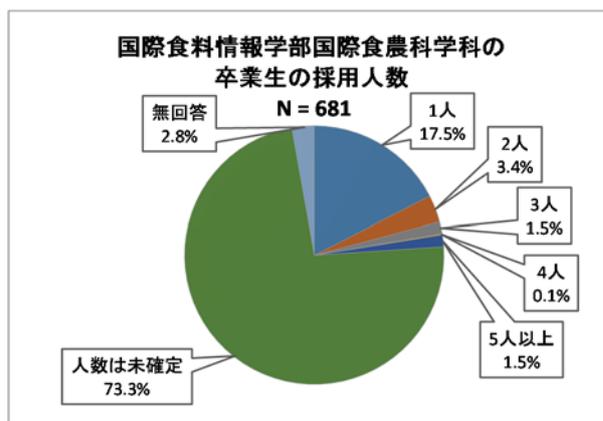


9-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数について

「(8) 8-5 国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向について」で肯定的な採用意向を示した 681 件に対して、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」が 499 件 (73.3%) と最も多く、次いで「1人」119 件 (17.5%)、「2人」23 件 (3.4%)、「無回答」19 件 (2.8%)、「3人」10 件 (1.5%)、「5人以上」10 件 (1.5%)、「4人」1 件 (0.1%) の順になっている。

国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 119 | 17.5  |
| 2   | 2人       | 23  | 3.4   |
| 3   | 3人       | 10  | 1.5   |
| 4   | 4人       | 1   | 0.1   |
| 5   | 5人以上     | 10  | 1.5   |
| 6   | 人数は未確定   | 499 | 73.3  |
|     | 無回答      | 19  | 2.8   |
|     | N (%ベース) | 681 | 100   |



### 3. 調査結果のまとめ

東京農業大学 生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(9) 新設学部・新設学科の卒業生の採用人数について」の将来的な採用人数の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(8) 新設学部・新設学科の卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

#### 生命科学部バイオサイエンス学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、213人分となる。入学定員は140名であるため、約1.52倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は671人となり、これは、入学定員140名に対して、約4.79倍となる。

生命科学部バイオサイエンス学科

| 回答数(件)    | 「採用したい」のみ |               | 合計  |
|-----------|-----------|---------------|-----|
| 人数(人)     |           |               |     |
| 1人(A)     | 40        | (a) (A) × (a) | 40  |
| 2人(B)     | 9         | (b) (B) × (b) | 18  |
| 3人(C)     | 1         | (c) (C) × (c) | 3   |
| 4人(D)     | -         | (d) (D) × (d) | -   |
| 5人以上(E)   | 6         | (e) (E) × (e) | 30  |
| 人数は未確定(F) | 122       | (f) (F) × (f) | 122 |
| 無回答       | 5         |               |     |

合計採用意向 213人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

| 回答数(件)    | 「採用したい」「採用を検討したい」の合計 |               | 合計  |
|-----------|----------------------|---------------|-----|
| 人数(人)     |                      |               |     |
| 1人(A)     | 107                  | (a) (A) × (a) | 107 |
| 2人(B)     | 16                   | (b) (B) × (b) | 32  |
| 3人(C)     | 2                    | (c) (C) × (c) | 6   |
| 4人(D)     | 1                    | (d) (D) × (d) | 4   |
| 5人以上(E)   | 7                    | (e) (E) × (e) | 35  |
| 人数は未確定(F) | 487                  | (f) (F) × (f) | 487 |
| 無回答       | 17                   |               |     |

合計採用意向 671人

### 生命科学部分子生命化学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部分子生命化学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、195人分となる。入学定員は115名であるため、約1.69倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は665人となり、これは、入学定員115名に対して、約5.78倍となる。

#### 生命科学部分子生命化学科

| 回答数(件)    | 「採用したい」のみ |               | 合計  |
|-----------|-----------|---------------|-----|
| 人数(人)     |           |               |     |
| 1人(A)     | 30        | (a) (A) × (a) | 30  |
| 2人(B)     | 10        | (b) (B) × (b) | 20  |
| 3人(C)     | 1         | (c) (C) × (c) | 3   |
| 4人(D)     | -         | (d) (D) × (d) | -   |
| 5人以上(E)   | 6         | (e) (E) × (e) | 30  |
| 人数は未確定(F) | 112       | (f) (F) × (f) | 112 |
| 無回答       | 5         |               |     |

合計採用意向 195人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

| 回答数(件)    | 「採用したい」「採用を検討したい」の合計 |               | 合計  |
|-----------|----------------------|---------------|-----|
| 人数(人)     |                      |               |     |
| 1人(A)     | 93                   | (a) (A) × (a) | 93  |
| 2人(B)     | 17                   | (b) (B) × (b) | 34  |
| 3人(C)     | 2                    | (c) (C) × (c) | 6   |
| 4人(D)     | 1                    | (d) (D) × (d) | 4   |
| 5人以上(E)   | 7                    | (e) (E) × (e) | 35  |
| 人数は未確定(F) | 493                  | (f) (F) × (f) | 493 |
| 無回答       | 19                   |               |     |

合計採用意向 665人

### 生命科学部分子微生物学科

下記の表より、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、211人分となる。入学定員は115名であるため、約1.83倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は680人となり、これは、入学定員115名に対して、約5.91倍となる。

#### 生命科学部分子微生物学科

| 回答数(件)    | 「採用したい」のみ |               | 合計  |
|-----------|-----------|---------------|-----|
| 人数(人)     |           |               |     |
| 1人(A)     | 34        | (a) (A) × (a) | 34  |
| 2人(B)     | 11        | (b) (B) × (b) | 22  |
| 3人(C)     | 2         | (c) (C) × (c) | 6   |
| 4人(D)     | -         | (d) (D) × (d) | -   |
| 5人以上(E)   | 7         | (e) (E) × (e) | 35  |
| 人数は未確定(F) | 114       | (f) (F) × (f) | 114 |
| 無回答       | 5         |               |     |

合計採用意向 211人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

| 回答数(件)    | 「採用したい」「採用を検討したい」の合計 |               | 合計  |
|-----------|----------------------|---------------|-----|
| 人数(人)     |                      |               |     |
| 1人(A)     | 102                  | (a) (A) × (a) | 102 |
| 2人(B)     | 17                   | (b) (B) × (b) | 34  |
| 3人(C)     | 4                    | (c) (C) × (c) | 12  |
| 4人(D)     | -                    | (d) (D) × (d) | -   |
| 5人以上(E)   | 8                    | (e) (E) × (e) | 40  |
| 人数は未確定(F) | 492                  | (f) (F) × (f) | 492 |
| 無回答       | 15                   |               |     |

合計採用意向 680人

### 地域環境科学部地域創成科学科

下記の表より、東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、341人分となる。入学定員は80名であるため、約4.26倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は806人となり、これは、入学定員80名に対して、約10.07倍となる。

地域環境科学部地域創成科学科

| 回答数(件)    | 「採用したい」のみ |               | 合計  |
|-----------|-----------|---------------|-----|
| 人数(人)     |           |               |     |
| 1人(A)     | 53        | (a) (A) × (a) | 53  |
| 2人(B)     | 25        | (b) (B) × (b) | 50  |
| 3人(C)     | 11        | (c) (C) × (c) | 33  |
| 4人(D)     | 1         | (d) (D) × (d) | 4   |
| 5人以上(E)   | 11        | (e) (E) × (e) | 55  |
| 人数は未確定(F) | 146       | (f) (F) × (f) | 146 |
| 無回答       | 6         |               |     |

合計採用意向 341人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

| 回答数(件)    | 「採用したい」「採用を検討したい」の合計 |               | 合計  |
|-----------|----------------------|---------------|-----|
| 人数(人)     |                      |               |     |
| 1人(A)     | 131                  | (a) (A) × (a) | 131 |
| 2人(B)     | 33                   | (b) (B) × (b) | 66  |
| 3人(C)     | 13                   | (c) (C) × (c) | 39  |
| 4人(D)     | 1                    | (d) (D) × (d) | 4   |
| 5人以上(E)   | 12                   | (e) (E) × (e) | 60  |
| 人数は未確定(F) | 506                  | (f) (F) × (f) | 506 |
| 無回答       | 19                   |               |     |

合計採用意向 806人

### 国際食料情報学部国際食農科学科

下記の表より、東京農業大学国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、278人分となる。入学定員は100名であるため、2.78倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は748人となり、これは、入学定員100名に対して、7.48倍となる。

国際食料情報学部国際食農科学科

| 回答数(件)    | 「採用したい」のみ |               | 合計  |
|-----------|-----------|---------------|-----|
| 人数(人)     |           |               |     |
| 1人(A)     | 38        | (a) (A) × (a) | 38  |
| 2人(B)     | 14        | (b) (B) × (b) | 28  |
| 3人(C)     | 9         | (c) (C) × (c) | 27  |
| 4人(D)     | 1         | (d) (D) × (d) | 4   |
| 5人以上(E)   | 9         | (e) (E) × (e) | 45  |
| 人数は未確定(F) | 136       | (f) (F) × (f) | 136 |
| 無回答       | 4         |               |     |

合計採用意向 278人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

| 回答数(件)    | 「採用したい」「採用を検討したい」の合計 |               | 合計  |
|-----------|----------------------|---------------|-----|
| 人数(人)     |                      |               |     |
| 1人(A)     | 119                  | (a) (A) × (a) | 119 |
| 2人(B)     | 23                   | (b) (B) × (b) | 46  |
| 3人(C)     | 10                   | (c) (C) × (c) | 30  |
| 4人(D)     | 1                    | (d) (D) × (d) | 4   |
| 5人以上(E)   | 10                   | (e) (E) × (e) | 50  |
| 人数は未確定(F) | 499                  | (f) (F) × (f) | 499 |
| 無回答       | 19                   |               |     |

合計採用意向 748人

以上の調査結果と、今回の調査対象以外の進路も考えられることから、東京農業大学生命科学部、地域環境科学部地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

## 調査票

東京農業大学 生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、  
国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の設置に係るアンケート調査

- ・このアンケート調査は2017年4月に設置を予定している新学部・新学科の設置構想の基礎資料とするため、貴社の採用状況・意向についてお聞きするものです。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄へ直接記入してください。

★調査回答締め切りのお願ひ

2015年10月2日(金)までに、同封の返信用封筒にてご投函頂きますようお願いいたします。

【 貴社についてお聞きします 】

【回答欄】

- Q1. 本社・支社・事業所等についてお聞きします。  
次の中から該当する番号を 1つ お選びください。
1. 本社      2. 支社      3. 単独事業所
- Q2. 所在地についてお聞きします。次の中から該当する番号を 1つ お選びください。  
※Q1の「企業」で「1. 本社」以外を選択された場合は、その所在地をお答えください。
1. 東京都      2. 神奈川県      3. 千葉県      4. 埼玉県  
5. 北海道      6. 静岡県      7. 愛知県      8. 大阪府  
9. 長野県      10. 茨城県      11. 新潟県      12. 群馬県  
13. 兵庫県      14. その他 (      )
- Q3. 業種についてお聞きします。次の中から最も当てはまる番号を 1つ お選びください。
1. 農業・林業      2. 漁業  
3. 鉱業・採石業・砂利採取業      4. 建設業  
5. 製造業      6. 電気・ガス・熱供給・水道業  
7. 情報通信業      8. 運輸業・郵便業  
9. 卸売業・小売業      10. 金融業・保険業  
11. 不動産業・物品賃貸業      12. 学術研究・専門技術サービス業  
13. 宿泊業・飲食サービス業      14. 生活関連サービス業・娯楽業  
15. 教育・学習支援業      16. 医療・福祉  
17. 複合サービス業      18. サービス業(他に分類されないもの)  
19. 公務(他に分類されるものを除く)      20. その他(具体的に      )
- Q4. 昨年度に採用された人数について、該当する番号を 1つ お選びください。  
(支社または単独事業所でお答えいただいている場合は、そちらでの採用数をお願いします)
1. 0名      2. 1~4名      3. 5~9名      4. 10~19名      5. 20名以上
- Q5. 今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を 1つ お選びください。
1. 毎年、安定的に採用していくと思う  
2. できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う  
3. 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う  
4. 増員が必要になった場合に、採用を考える  
5. 欠員が出た場合に、採用を考える  
6. 当面、採用は行わないと思う
- Q6. 今後、人材の採用にあたり、どのような出身学歴(最終学歴)の方の採用をお考えですか。  
「採用対象となる」と思われる番号を 第3位まで お選びください。
1. 大学院      a: 第1位  
2. 大学  
3. 短期大学      b: 第2位  
4. 専門学校  
5. その他 (      )      c: 第3位

— 裏面へお進みください → —

【 ここからは、同封の「生命科学部(仮称)、地域環境科学部地域創成科学科(仮称)、国際食料情報学部国際食農科学科(仮称)の概要」をご覧ください 】

Q7. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の社会的必要性についてどのようにお考えになりますか。学部・学科ごとに次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 2. 一応、社会的必要性を感じる |
| 3. あまり必要性を感じない    | 4. 必要性はない        |
| 5. わからない          | 6. その他(具体的に )    |

|                          |                      |                         |                      |
|--------------------------|----------------------|-------------------------|----------------------|
| a: 生命科学部バイオサイエンス学科(仮称) → | <input type="text"/> | b: 生命科学部分子生命化学科(仮称) →   | <input type="text"/> |
| c: 生命科学部分子微生物学科(仮称) →    | <input type="text"/> | d: 地域環境科学部地域創成科学科(仮称) → | <input type="text"/> |
| e: 国際食料情報学部国際食農科学科(仮称) → | <input type="text"/> |                         |                      |

Q8. 東京農業大学が構想している新学部・新学科卒業生の採用意向についておたずねします。学部・学科ごとに次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用は考えない

1 つでも 1、2 を選ばれた方は Q9 へお進みください。  
 全て 3 を選ばれた方は Q10 へお進みください。

|                          |                      |                         |                      |
|--------------------------|----------------------|-------------------------|----------------------|
| a: 生命科学部バイオサイエンス学科(仮称) → | <input type="text"/> | b: 生命科学部分子生命化学科(仮称) →   | <input type="text"/> |
| c: 生命科学部分子微生物学科(仮称) →    | <input type="text"/> | d: 地域環境科学部地域創成科学科(仮称) → | <input type="text"/> |
| e: 国際食料情報学部国際食農科学科(仮称) → | <input type="text"/> |                         |                      |

Q9. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の卒業生を何人程度採用したいと考えますか。Q8 にて「採用したい」「採用を検討したい」を選択した学科について、次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- |       |       |       |       |         |           |
|-------|-------|-------|-------|---------|-----------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 | 4. 4人 | 5. 5人以上 | 6. 人数は未確定 |
|-------|-------|-------|-------|---------|-----------|

|                          |                      |                         |                      |
|--------------------------|----------------------|-------------------------|----------------------|
| a: 生命科学部バイオサイエンス学科(仮称) → | <input type="text"/> | b: 生命科学部分子生命化学科(仮称) →   | <input type="text"/> |
| c: 生命科学部分子微生物学科(仮称) →    | <input type="text"/> | d: 地域環境科学部地域創成科学科(仮称) → | <input type="text"/> |
| e: 国際食料情報学部国際食農科学科(仮称) → | <input type="text"/> |                         |                      |

Q10. 東京農業大学が構想している新学部・新学科の設置構想にあたり、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。その他、大学の教育内容・活動等について、ご意見等ございましたら、あわせてご記入ください。

◆◆ 最後までご協力いただき、ありがとうございました ◆◆

東京農業大学 大学改革推進室 (担当: 村越)

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 電話: 03-5477-2650 FAX: 03-5477-2804



正門に掛かる門標は棟方志功の揮毫

# 進化する東京農大

## 2017年4月設置構想中

**新設** 生命科学部<sup>※</sup><仮称> 世田谷キャンパス

**新設** バイオサイエンス学科<sup>※</sup><仮称> 定員140名

**新設** 分子生命化学科<sup>※</sup><仮称> 定員115名

**新設** 分子微生物学科<sup>※</sup><仮称> 定員115名

地域環境科学部 世田谷キャンパス

**新設** 地域創成科学科<sup>※</sup><仮称> 定員80名

国際食料情報学部 世田谷キャンパス

**新設** 国際食農科学科<sup>※</sup><仮称> 定員100名

“生きる”を支える

# 東京農業大学

TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE FOUNDED IN 1891

※学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

# 「農のこころ」を育み “生きる”を支える東京農業大学



東京農業大学 学長

農学博士 高野 克己

東京農大は生命・食料・環境・健康・エネルギー・地域再生など、人類の生存に関わる幅広い農学領域を対象に、国内外の様々な課題解決に取り組んでいます。

人類はその叡智により自然の恵みを享受し、高度に複雑化した現代社会を創造しました。一方では、地球規模の気候変動に伴う環境変化と自然災害の増加、人口増加による食料危機、水不足、生活環境の悪化、経済格差の拡大など、地球とそこに生きる多様な生き物、人類の生存を脅かす課題に直面しています。

東京農大は建学の精神「人物を畑に還す」と教育・研究の理念「実学主義」に基づき、世界水準の先端研究と生命を大切に「農のこころ」を育む実学教育を推進し、未来の問題を解決できる人物をグローバル社会に輩出します。

東京農大は、農と生命を科学し、“生きる”を支えるエシカル(環境保全・社会貢献など)な社会の構築を目指します。

## 学部改組の趣旨



### ●生命科学部 (新設・仮称)<sup>※1</sup>

生物の設計図である遺伝子は、生命のメカニズムの情報を伝える物質であり、それを利用して人々の生活をより豊かにする試みに、社会の注目が年々高まっています。また、生命を作り機能させている化学反応と、最もシンプルな生物である微生物の研究・応用は、環境、食料、健康、エネルギーなどの新技術開発に貢献する大きな潜在能力を秘めています。生命の本質を科学する本学部では、基盤をなす分子・遺伝子・細胞からまるごとの微生物・動植物まで幅広い理解をベースに、それらの解析と革新的な活用法の探求に主眼をおいています。その専門教育と研究活動の成果によって、将来にわたり社会問題の解決に貢献し国際的に活躍できる人材の育成をめざしていきます。

### ●地域環境科学部

近年、地球温暖化や気候変動などによって巨大台風の襲来や局地的豪雨、猛暑日など地球規模の環境問題が表面化しています。2013年6月のリオ+20では「グリーンエコノミー」が提言され、環境問題への具体的な取り組みが世界的に問われています。社会では、生産力優先から生活重視へ、開発主義から生物多様性保全へ、さらに地域づくりの視点もグローバル経済からローカル経済重視へと変化してきました。そのため新たな地域環境科学部では、21世紀の環境の時代における「地域づくり」や「地域再生」を基本理念に、農学系の知識や技術を基礎として、持続可能な循環型社会の構築に貢献し、地域で活躍できる人材の育成をめざします。

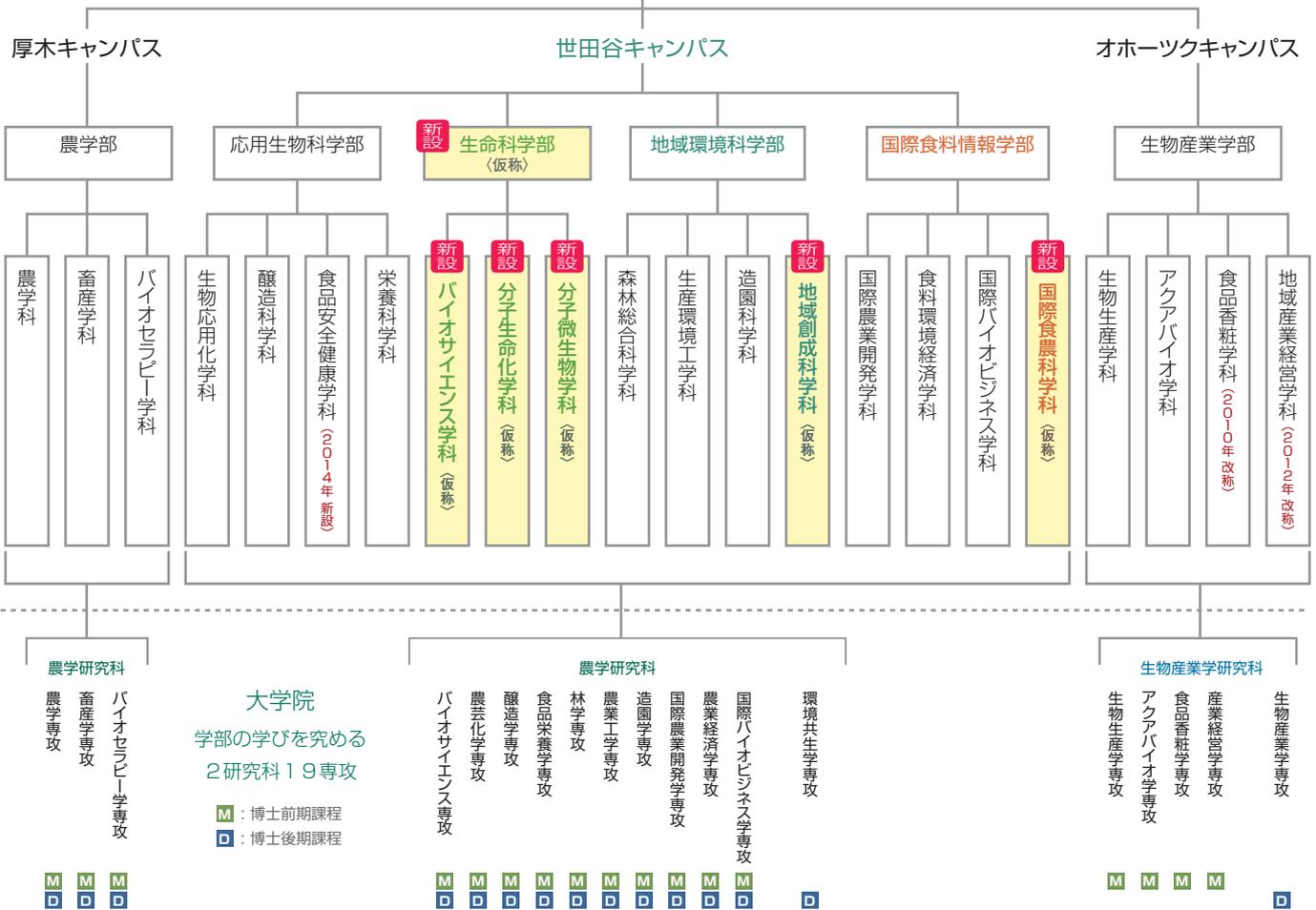
### ●国際食料情報学部

日本の「和食」が世界無形文化遺産に、「能登の里山里海」等が世界農業遺産に登録されるなど、近年、伝統的な食農文化に対する国民の関心が増大しています。こうした背景から、農業生産をとりまく社会では、地域の食農文化を継承し世界に発信していくことのできる人材、また、農業を基盤とした経営の6次産業化の発展に貢献できる人材、さらに食の世界市場に向けた経営展開を実現できる人材の育成が欠かせない時代を迎えています。そのため「日本と世界の食料・農業・農村問題の解決に向けて、国際的情報網の活用のもと、総合的・実践的に挑戦する」を国際食料情報学部の基本理念とし、社会のニーズに応え、活躍できる人材の育成をめざします。

多様な農学分野をカバーする

# 3キャンパス6学部22学科へ

東京農業大学



## 生命科学部

# バイオサイエンス学科 ※1

<仮称/設置構想中>

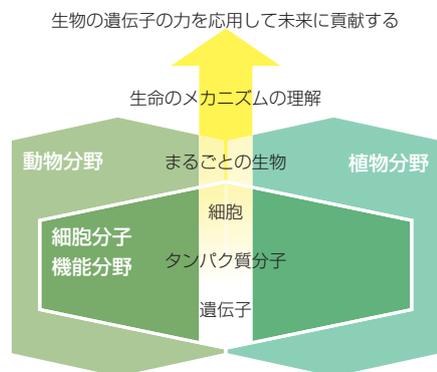
学科のキーワード

- ◆動物 ◆植物 ◆細胞 ◆機能分子 ◆遺伝子操作 ◆ゲノム
- ◆脳 ◆発生 ◆細胞培養 ◆増殖・分化 ◆育種 ◆遺伝子工学
- ◆植物の環境耐性 ◆創薬 ◆機能性食品開発 ◆イメージング

## 遺伝子の力を解き明かし、未来の生活に貢献する

遺伝子は生物の設計図。最先端のバイオ技術を駆使して、遺伝子の働きを解き明かし、遺伝子の力を最大限に引き出して、人類が抱えている食料、健康、環境の諸問題の解決をめざします。細胞、そして動物と植物を研究対象として、遺伝子操作を中心とした遺伝子工学技術から、生きている生物の内部を観察するライブイメージング（可視化）技術に至るまで、基礎・専門的技法を身につけます。講義では最先端の知識を学習します。

●教育課程の特色



### ■取得資格(予定)

- 中学校教諭一種免許状(理科)※2
- 高等学校教諭一種免許状(理科/農業)※2
- 危険物取扱責任者、学芸員、司書

### ■予想される進路

大学院、化学系企業、製薬企業、環境科学・生物関連企業、食品系企業 など

### 予想される研究テーマ

- 遺伝子操作マウスを用いたレチノイン酸(ビタミンA)により記憶力が良くなるメカニズムの解析
- 藻類の細胞増殖制御に関する研究
- 生物間コミュニケーション分子の解析
- 哺乳動物の未熟な卵子を成熟させる体外培養法の確立
- イネ乾燥耐性品種選抜のためのDNAマーカー探索
- 植物の低温馴化プロセスにおけるタンパク質リン酸化酵素活性化の分子機構

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

生命科学部

# 分子生命化学科<sup>※1</sup>

<仮称/設置構想中>

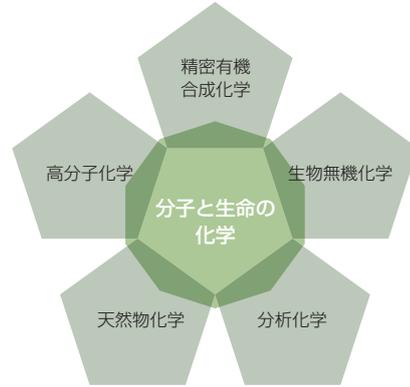
学科のキーワード

- ◆原子・分子 ◆化学力養成 ◆農学領域を化学の視点から
- ◆日常生活で取り扱う最小単位 ◆遺伝子よりも小さい
- ◆新物質の探究 ◆バイオプラスチック

## 原子・分子の視点から生命、農業、生態系を化学する

生物圏のあらゆる“生命”現象には、原子・分子が関わっています。この原子・分子の動きを化学的な視点で解き明かしていくことで、これからの農学の可能性をより広げていくことを狙いとしています。精密有機合成化学、天然物化学を中心に、高分子化学、分析化学を基盤とする研究・教育を展開、また大学院への進学もサポートし、汎用性のある基礎力を有する人材を育成します。さらに、農場実習などの「農の現場を知る」ための実習も行います。

●教育課程の特色



### ■取得資格(予定)

中学校・高等学校教諭一種免許状(理科)<sup>※2</sup>、  
危険物取扱責任者、学芸員、司書

### ■予想される進路

大学院、化学系企業、製薬企業、公務員、環境科学・生物  
関連企業 など

### 予想される研究テーマ

- 超微量で生物の機能・行動に影響を与える物質の設計
- 植物・動物・微生物からの新規有用化合物の探索および分離
- 生物学的・化学的手法によるバイオプラスチックの創製
- 細胞を構成する有機分子の解析・合成
- 医療・農薬の開発につながる天然有機化合物の合成



生命科学部

# 分子微生物学科<sup>※1</sup>

<仮称/設置構想中>

学科のキーワード

- ◆微生物探索 ◆プロバイオティクスと健康 ◆病原菌応答 ◆生物間相互作用
- ◆ゲノム ◆バイオインフォマティクス ◆環境浄化 ◆有用物質生産
- ◆発酵代謝 ◆腸内細菌 ◆極限微生物 ◆微細藻類

## 微生物を先端科学で追求し、動植物の健全な生育と環境保全に貢献する

微生物は地球上の最もシンプルな生命体。あらゆる環境に生息しますが、これまでに見つかった微生物種はほんの数%にすぎません。植物や動物、そして広大な地球環境を研究対象として、これまで未解明であったミクロの世界を先端科学のちからで追求することで、未来の農学分野への貢献を目指します。未解明の生命現象へ果敢に挑戦する独創性に富む人材の育成を目指します。

●教育課程の特色



### ■取得資格(予定)

中学校教諭一種免許状(理科)<sup>※2</sup>  
高等学校教諭一種免許状(理科/農業)<sup>※2</sup>  
学芸員、司書、危険物取扱責任者

### ■予想される進路

大学院、バイオ産業、製薬企業、食品産業、発酵産業、  
健康産業、検査業界、環境科学、公務員、教員

### 予想される研究テーマ

- 未知微生物の探索と有用な生命現象の発見
- ゲノム情報を活用した微生物の新規機能開発
- 植物・微生物間の病原応答機構に関する分子応答解析
- 微生物に対する動物の生体防御機構
- 極限環境微生物が持つ環境ストレス耐性能力の有効利用
- 乳酸菌のゲノムネットワーク解析による有用物質生産
- 酵母と乳酸菌の協調的増幅に関わる因子の推定
- 腸内細菌が健康におよぼす影響

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります。

地域環境科学部

# 地域創成科学科 ※1

<仮称/設置構想中>

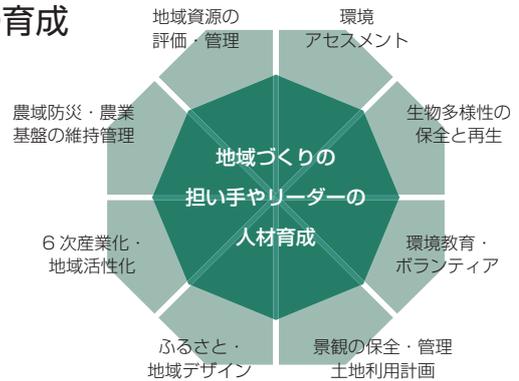
学科のキーワード

- ◆生物多様性 ◆土地利用 ◆自然再生 ◆SATOYAMA
- ◆地域防災 ◆農業施設 ◆農村都市交流 ◆地域貢献 ◆環境教育
- ◆農山村インターンシップ

## 持続可能な循環型社会の再構築とそれを担う人材の育成

里山などの“地域”の伝統的な文化や知恵と最新の技術を融合させ、持続可能な土地利用の構築、地域づくりの実現に貢献します。地域が抱える問題を総合的に捉え、生物多様性や生態系に配慮した土地利用、地域防災に関連する保全・管理技術、環境教育、政策立案、地域マネジメントといった実学型教育を通じて、地域づくりの担い手やリーダーになり得る人材の育成を目指します。

●教育課程の特色



### ■取得資格(予定)

高等学校教諭一種免許状(農業)※2、学芸員、司書、測量士補、自然再生士補、樹木医補、技術士補

### ■予想される進路

大学院、農産物流通業、建設業(土木・造園)、農業協同組合、観光・レクリエーション業、地方自治体、教員 など

### 予想される研究テーマ

- 伝統的な草地利用による春植物の保全 ●農地や樹林地におけるファイトレメディエーション ●動植物、植生調査による自然空間の実態把握 ●気象観測データによる土砂災害の予測と最適避難経路の選定
- 食品廃棄物の肥料化による地域内の窒素・炭素循環 ●住民参加型の農業施設管理とその経済性評価
- ボランティアによる中山間地の草地管理と景観認識調査



国際食料情報学部

# 国際食農科学科 ※1

<仮称/設置構想中>

学科のキーワード

- ◆和食 日本人の伝統的な食文化 ◆世界農業遺産 ◆伝統野菜
- ◆食育 ◆農業の教育力 ◆食のマルシェ ◆6次産業化 ◆フードツーリズム ◆地産地消 ◆スローフード ◆フェアトレード

## 世界に向けて日本の食農技術・文化を展開

日本の食と農に関する文化、それらを支える栽培や加工技術は、今日、世界的に注目を集めています。本学科では、農学の柱となる生産科学系、食品科学系、食農文化系、食農政策系、食農教育系などの多様性のある教育システムで、総合的に食と農の伝統と新たな発展の可能性を理解し、国際的な視野で活躍できる人材の育成を目指します。

●教育課程の特色



### ■取得資格(予定)

高等学校教諭一種免許状(農業)※2、学芸員、司書、食の6次産業化プロデューサー、フードスペシャリスト

### ■予想される進路

大学院、食品系商社、総合商社、食品メーカー、貿易、広告・マスコミ、農業協同組合・生活協同組合、NPO、公務員、教員、新規就農、農業法人 など

### 予想される研究テーマ

- 食文化・農村文化と地域振興 ●都市農村交流による地域活性化とメディア戦略 ●調理加工特性を活かした食品素材の有効利用 ●食品の機能性に関する研究 ●伝統野菜の生理・生態に関する研究
- 世界のフェアトレードによる国際貢献活動に関する研究 ●海外における学校菜園の教育効果
- 食育プログラムの開発

※1 学部・学科の概要等は予定であり、変更する場合があります。

※2 課程認定申請予定。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開発時期が変更となる可能性があります。

## 緑あふれる都市型キャンパス

東京農業大学のメインキャンパスである世田谷キャンパスは、小田急線経堂駅を最寄りとしています。新宿まで30分強、渋谷へは正門前バス停からやはり30分程度ということもあり、非常に都心にアクセスしやすい立地にあります。

広い敷地内には、100種類以上の樹木があふれ、落ち着いた雰囲気の中に包まれています。講義棟である1号館、図書館やコンピュータセンターが入った「農大アカデミアセンター」など、新校舎も次々に誕生しています。



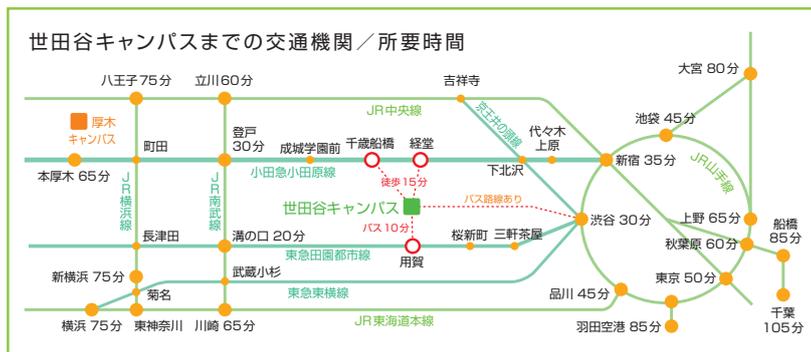
キャンパスより新宿方面を望む



6階建ての講義棟・1号館



芝生がひろがる「ユリノキ広場」は学生の人気スポット



## 東京農業大学

[www.nodai.ac.jp](http://www.nodai.ac.jp)

お問い合わせ先

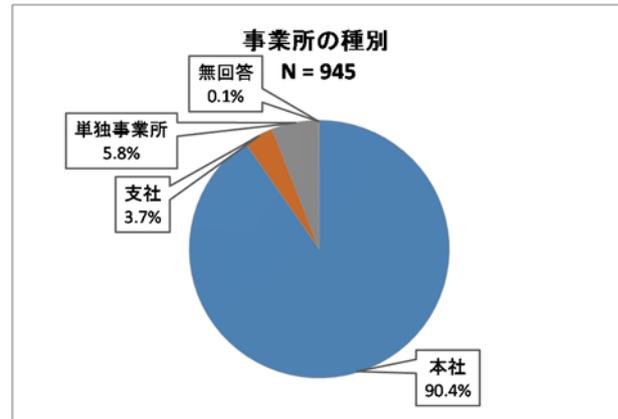
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

TEL.03-5477-2226 (入試センター)

## 単純集計表

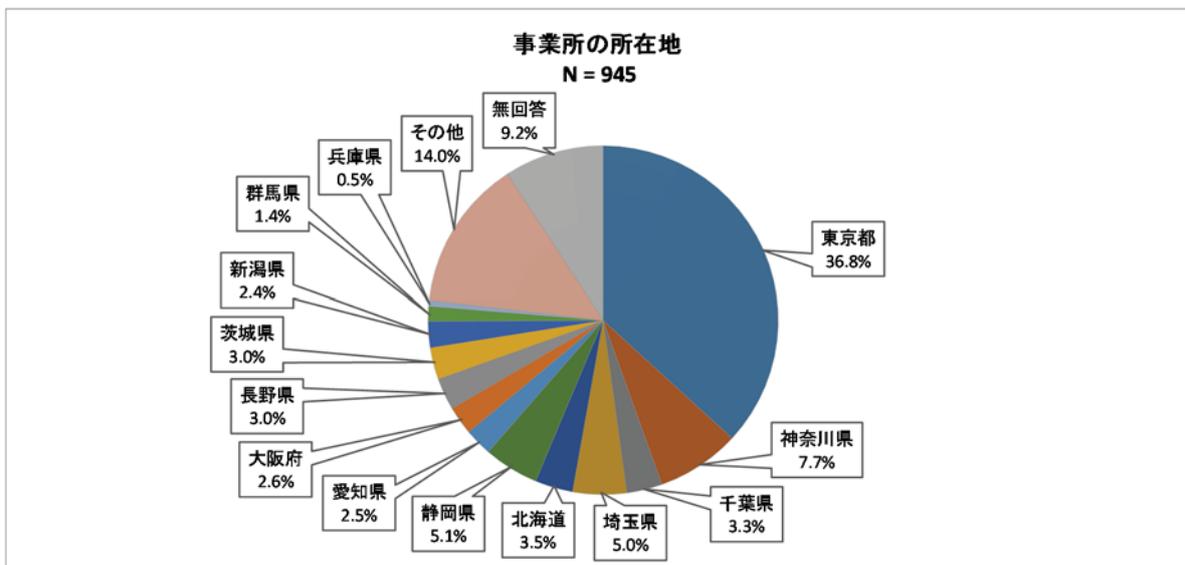
事業所の種別

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 本社       | 854 | 90.4  |
| 2   | 支社       | 35  | 3.7   |
| 3   | 単独事業所    | 55  | 5.8   |
|     | 無回答      | 1   | 0.1   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



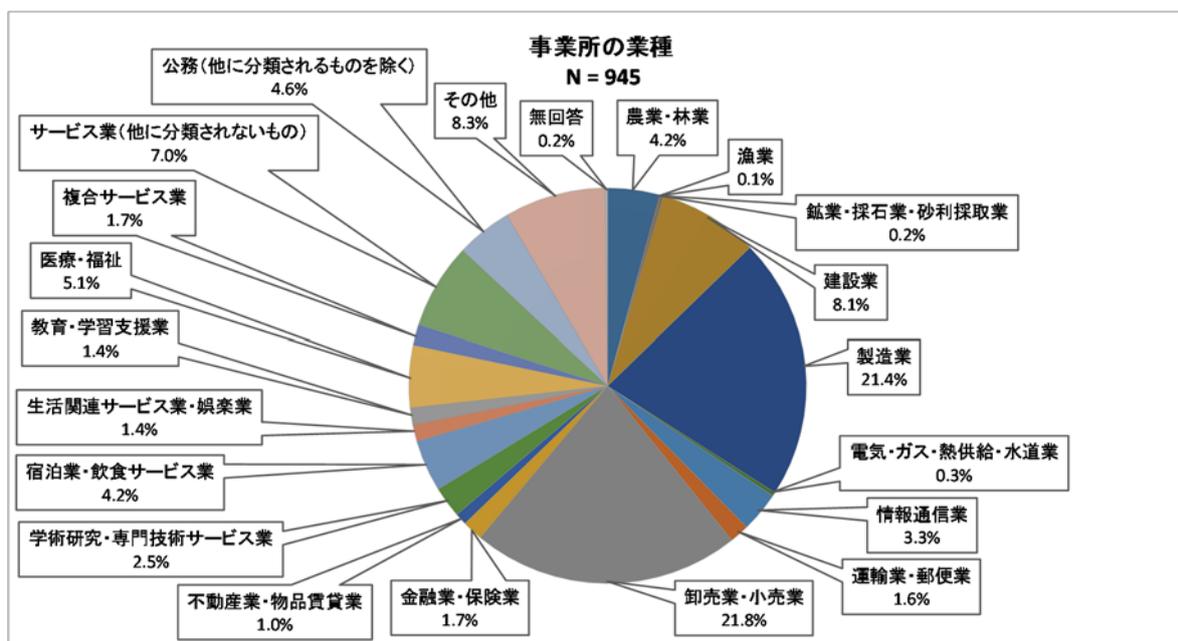
事業所の所在地

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 東京都      | 348 | 36.8  |
| 2   | 神奈川県     | 73  | 7.7   |
| 3   | 千葉県      | 31  | 3.3   |
| 4   | 埼玉県      | 47  | 5.0   |
| 5   | 北海道      | 33  | 3.5   |
| 6   | 静岡県      | 48  | 5.1   |
| 7   | 愛知県      | 24  | 2.5   |
| 8   | 大阪府      | 25  | 2.6   |
| 9   | 長野県      | 28  | 3.0   |
| 10  | 茨城県      | 28  | 3.0   |
| 11  | 新潟県      | 23  | 2.4   |
| 12  | 群馬県      | 13  | 1.4   |
| 13  | 兵庫県      | 5   | 0.5   |
| 14  | その他      | 132 | 14.0  |
|     | 無回答      | 87  | 9.2   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



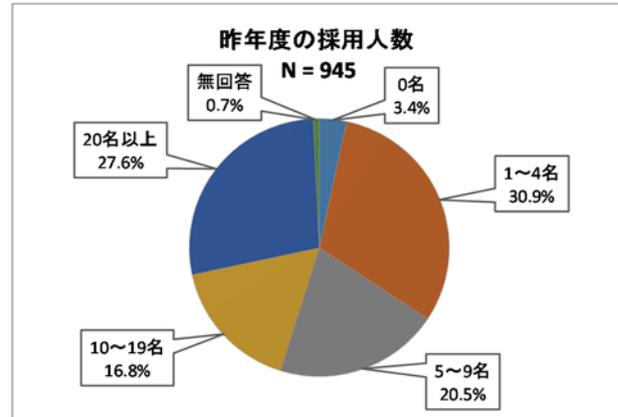
事業所の業種

| No. | カテゴリ              | 件数  | (全体)% |
|-----|-------------------|-----|-------|
| 1   | 農業・林業             | 40  | 4.2   |
| 2   | 漁業                | 1   | 0.1   |
| 3   | 鉱業・採石業・砂利採取業      | 2   | 0.2   |
| 4   | 建設業               | 77  | 8.1   |
| 5   | 製造業               | 202 | 21.4  |
| 6   | 電気・ガス・熱供給・水道業     | 3   | 0.3   |
| 7   | 情報通信業             | 31  | 3.3   |
| 8   | 運輸業・郵便業           | 15  | 1.6   |
| 9   | 卸売業・小売業           | 206 | 21.8  |
| 10  | 金融業・保険業           | 16  | 1.7   |
| 11  | 不動産業・物品賃貸業        | 9   | 1.0   |
| 12  | 学術研究・専門技術サービス業    | 24  | 2.5   |
| 13  | 宿泊業・飲食サービス業       | 40  | 4.2   |
| 14  | 生活関連サービス業・娯楽業     | 13  | 1.4   |
| 15  | 教育・学習支援業          | 13  | 1.4   |
| 16  | 医療・福祉             | 48  | 5.1   |
| 17  | 複合サービス業           | 16  | 1.7   |
| 18  | サービス業(他に分類されないもの) | 66  | 7.0   |
| 19  | 公務(他に分類されるものを除く)  | 43  | 4.6   |
| 20  | その他               | 78  | 8.3   |
|     | 無回答               | 2   | 0.2   |
|     | N(%ベース)           | 945 | 100   |



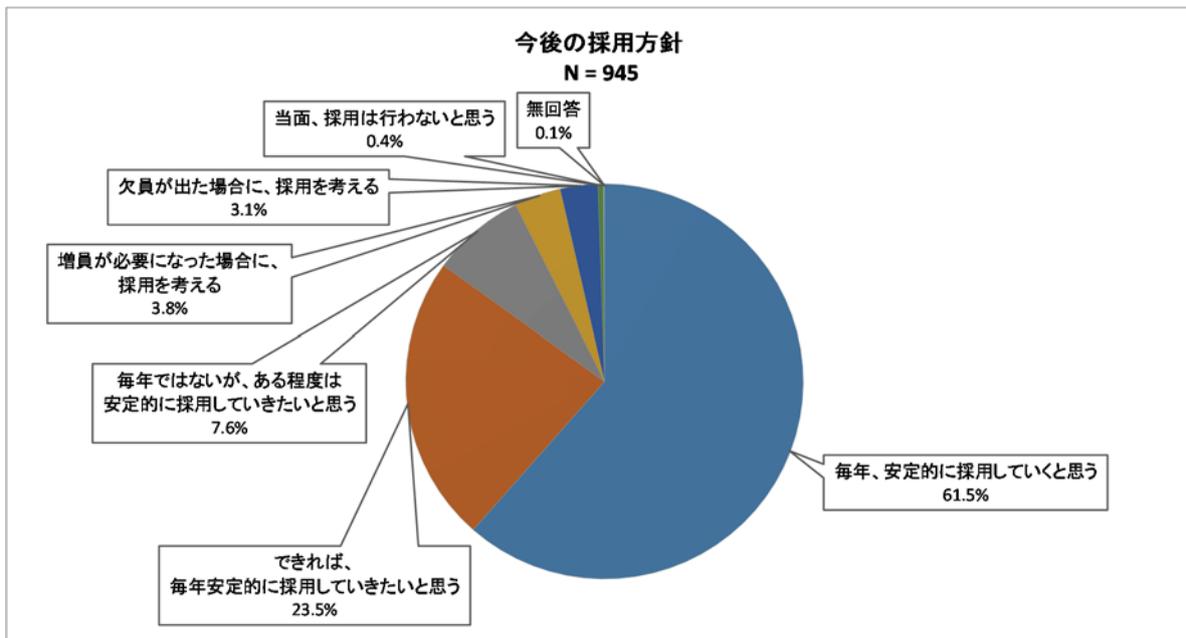
昨年度の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 0名       | 32  | 3.4   |
| 2   | 1～4名     | 292 | 30.9  |
| 3   | 5～9名     | 194 | 20.5  |
| 4   | 10～19名   | 159 | 16.8  |
| 5   | 20名以上    | 261 | 27.6  |
|     | 無回答      | 7   | 0.7   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



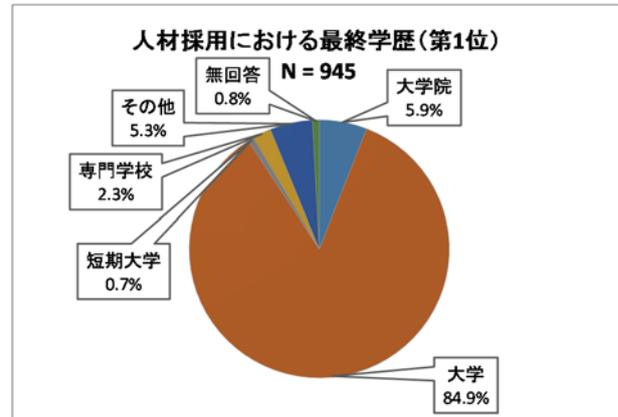
今後の採用方針

| No. | カテゴリ                         | 件数  | (全体)% |
|-----|------------------------------|-----|-------|
| 1   | 毎年、安定的に採用していくと思う             | 581 | 61.5  |
| 2   | できれば、毎年安定的に採用していきたいと思う       | 222 | 23.5  |
| 3   | 毎年ではないが、ある程度は安定的に採用していきたいと思う | 72  | 7.6   |
| 4   | 増員が必要になった場合に、採用を考える          | 36  | 3.8   |
| 5   | 欠員が出た場合に、採用を考える              | 29  | 3.1   |
| 6   | 当面、採用は行わないと思う                | 4   | 0.4   |
|     | 無回答                          | 1   | 0.1   |
|     | N (%ベース)                     | 945 | 100   |



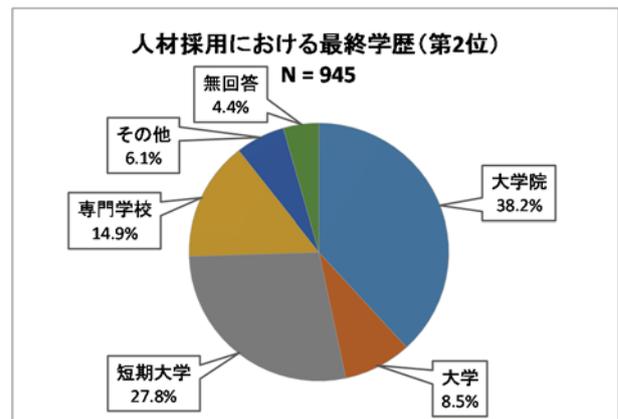
人材採用における最終学歴(第1位)

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 大学院      | 56  | 5.9   |
| 2   | 大学       | 802 | 84.9  |
| 3   | 短期大学     | 7   | 0.7   |
| 4   | 専門学校     | 22  | 2.3   |
| 5   | その他      | 50  | 5.3   |
|     | 無回答      | 8   | 0.8   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



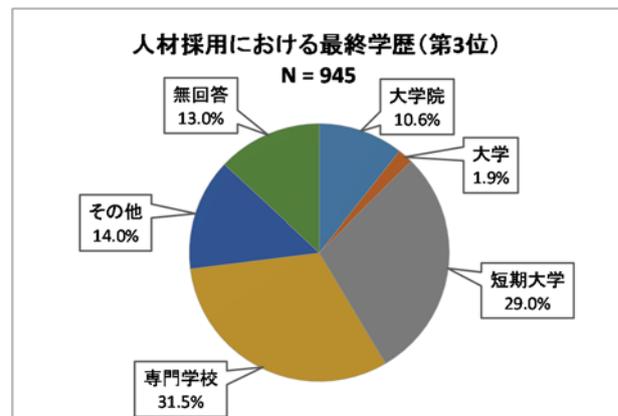
人材採用における最終学歴(第2位)

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 大学院      | 361 | 38.2  |
| 2   | 大学       | 80  | 8.5   |
| 3   | 短期大学     | 263 | 27.8  |
| 4   | 専門学校     | 141 | 14.9  |
| 5   | その他      | 58  | 6.1   |
|     | 無回答      | 42  | 4.4   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



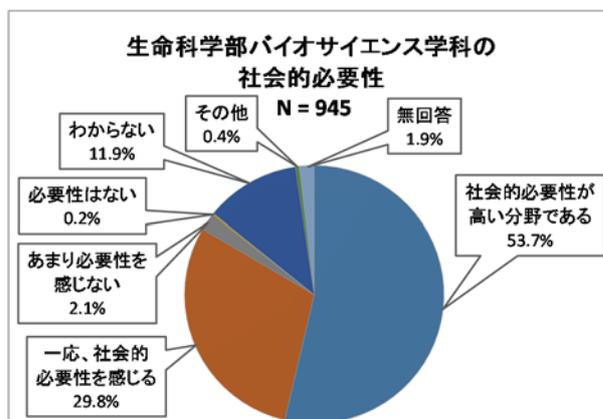
人材採用における最終学歴(第3位)

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 大学院      | 100 | 10.6  |
| 2   | 大学       | 18  | 1.9   |
| 3   | 短期大学     | 274 | 29.0  |
| 4   | 専門学校     | 298 | 31.5  |
| 5   | その他      | 132 | 14.0  |
|     | 無回答      | 123 | 13.0  |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



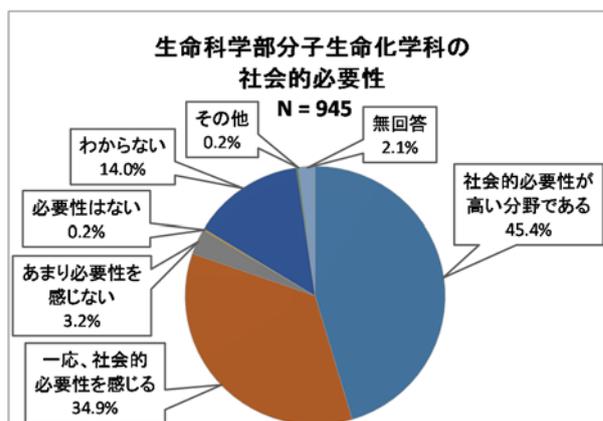
生命科学部バイオサイエンス学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 507 | 53.7  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 282 | 29.8  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 20  | 2.1   |
| 4   | 必要性はない         | 2   | 0.2   |
| 5   | わからない          | 112 | 11.9  |
| 6   | その他            | 4   | 0.4   |
|     | 無回答            | 18  | 1.9   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



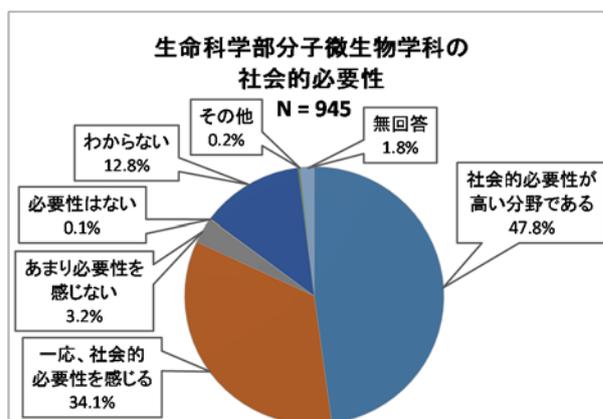
生命科学部分子生命化学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 429 | 45.4  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 330 | 34.9  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 30  | 3.2   |
| 4   | 必要性はない         | 2   | 0.2   |
| 5   | わからない          | 132 | 14.0  |
| 6   | その他            | 2   | 0.2   |
|     | 無回答            | 20  | 2.1   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



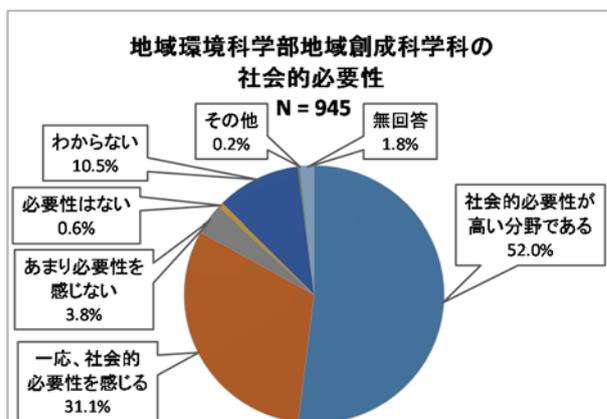
生命科学部分子微生物学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 452 | 47.8  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 322 | 34.1  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 30  | 3.2   |
| 4   | 必要性はない         | 1   | 0.1   |
| 5   | わからない          | 121 | 12.8  |
| 6   | その他            | 2   | 0.2   |
|     | 無回答            | 17  | 1.8   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



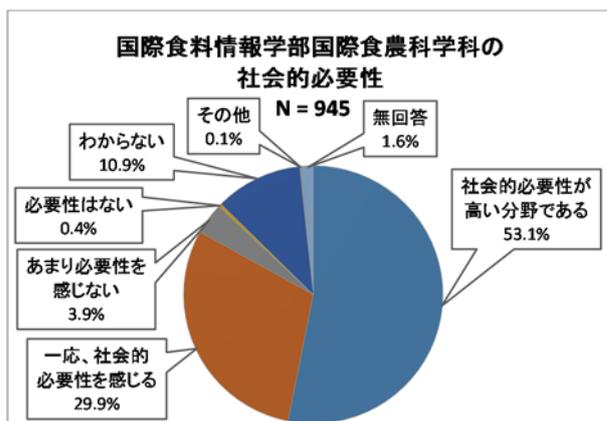
地域環境科学部地域創成科学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 491 | 52.0  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 294 | 31.1  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 36  | 3.8   |
| 4   | 必要性はない         | 6   | 0.6   |
| 5   | わからない          | 99  | 10.5  |
| 6   | その他            | 2   | 0.2   |
|     | 無回答            | 17  | 1.8   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



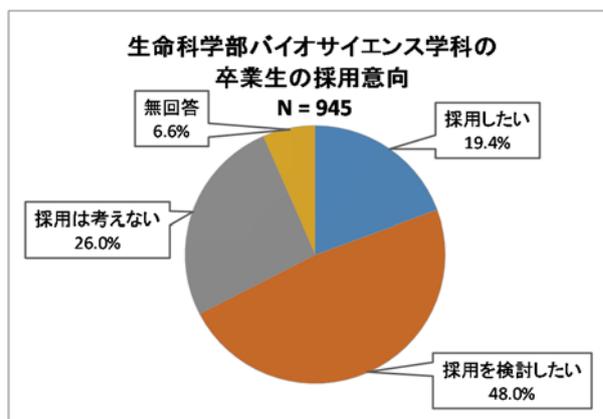
国際食料情報学部国際食農科学科の社会的必要性

| No. | カテゴリ           | 件数  | (全体)% |
|-----|----------------|-----|-------|
| 1   | 社会的必要性が高い分野である | 502 | 53.1  |
| 2   | 一応、社会的必要性を感じる  | 283 | 29.9  |
| 3   | あまり必要性を感じない    | 37  | 3.9   |
| 4   | 必要性はない         | 4   | 0.4   |
| 5   | わからない          | 103 | 10.9  |
| 6   | その他            | 1   | 0.1   |
|     | 無回答            | 15  | 1.6   |
|     | N (%ベース)       | 945 | 100   |



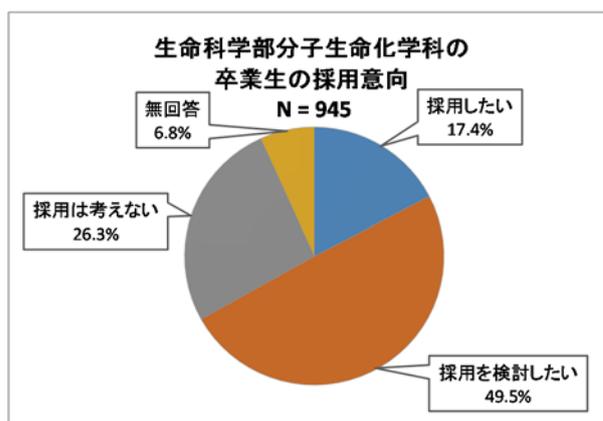
生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 183 | 19.4  |
| 2   | 採用を検討したい | 454 | 48.0  |
| 3   | 採用は考えない  | 246 | 26.0  |
|     | 無回答      | 62  | 6.6   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



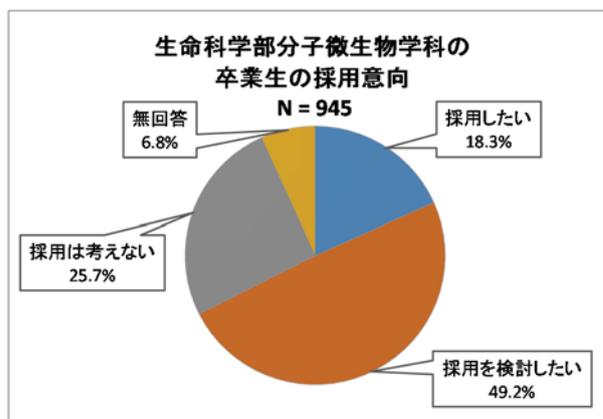
生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 164 | 17.4  |
| 2   | 採用を検討したい | 468 | 49.5  |
| 3   | 採用は考えない  | 249 | 26.3  |
|     | 無回答      | 64  | 6.8   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



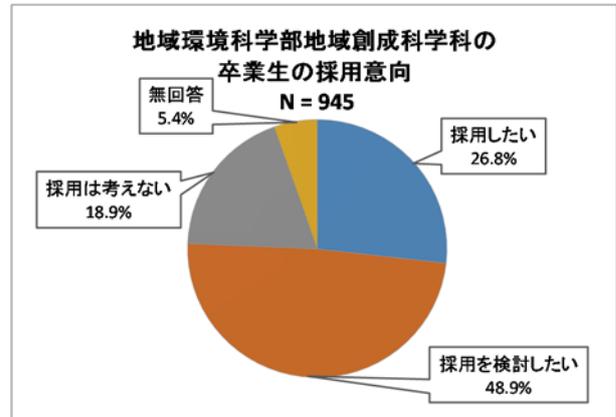
生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 173 | 18.3  |
| 2   | 採用を検討したい | 465 | 49.2  |
| 3   | 採用は考えない  | 243 | 25.7  |
|     | 無回答      | 64  | 6.8   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



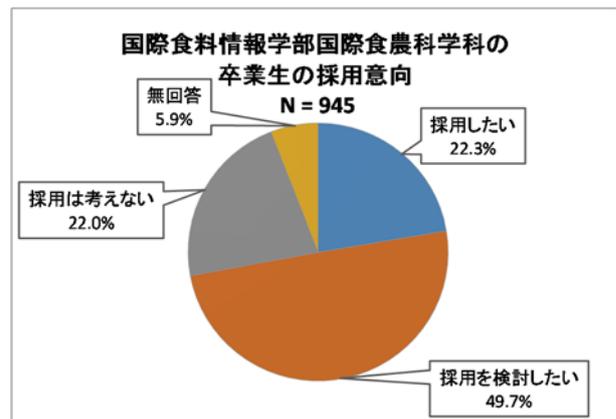
地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 253 | 26.8  |
| 2   | 採用を検討したい | 462 | 48.9  |
| 3   | 採用は考えない  | 179 | 18.9  |
|     | 無回答      | 51  | 5.4   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



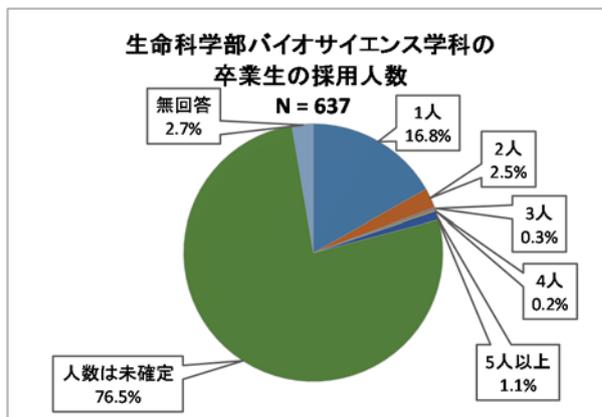
国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用意向

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 採用したい    | 211 | 22.3  |
| 2   | 採用を検討したい | 470 | 49.7  |
| 3   | 採用は考えない  | 208 | 22.0  |
|     | 無回答      | 56  | 5.9   |
|     | N (%ベース) | 945 | 100   |



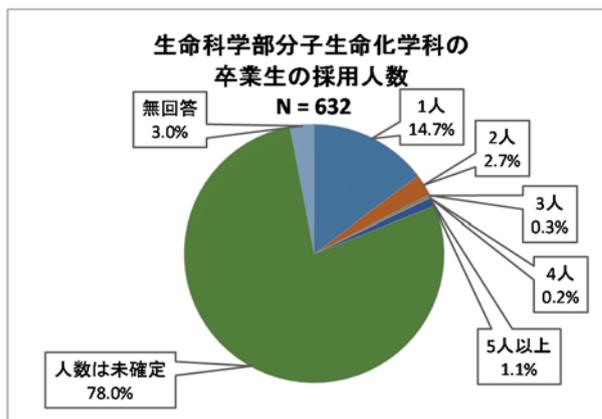
生命科学部バイオサイエンス学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 107 | 16.8  |
| 2   | 2人       | 16  | 2.5   |
| 3   | 3人       | 2   | 0.3   |
| 4   | 4人       | 1   | 0.2   |
| 5   | 5人以上     | 7   | 1.1   |
| 6   | 人数は未確定   | 487 | 76.5  |
|     | 無回答      | 17  | 2.7   |
|     | N (%ベース) | 637 | 100   |



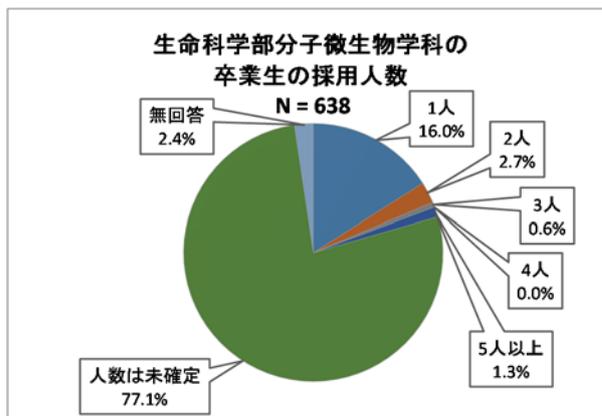
生命科学部分子生命化学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 93  | 14.7  |
| 2   | 2人       | 17  | 2.7   |
| 3   | 3人       | 2   | 0.3   |
| 4   | 4人       | 1   | 0.2   |
| 5   | 5人以上     | 7   | 1.1   |
| 6   | 人数は未確定   | 493 | 78.0  |
|     | 無回答      | 19  | 3.0   |
|     | N (%ベース) | 632 | 100   |



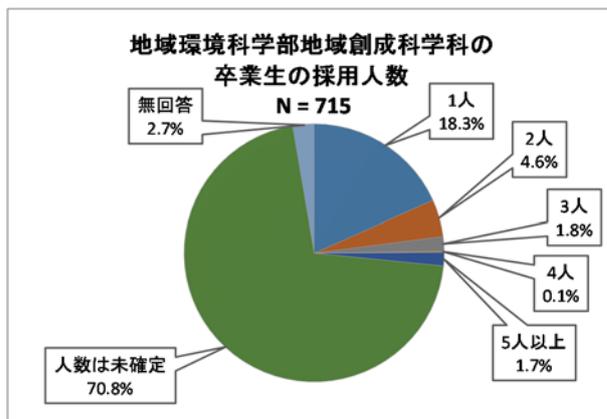
生命科学部分子微生物学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 102 | 16.0  |
| 2   | 2人       | 17  | 2.7   |
| 3   | 3人       | 4   | 0.6   |
| 4   | 4人       | 0   | 0.0   |
| 5   | 5人以上     | 8   | 1.3   |
| 6   | 人数は未確定   | 492 | 77.1  |
|     | 無回答      | 15  | 2.4   |
|     | N (%ベース) | 638 | 100   |



地域環境科学部地域創成科学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 131 | 18.3  |
| 2   | 2人       | 33  | 4.6   |
| 3   | 3人       | 13  | 1.8   |
| 4   | 4人       | 1   | 0.1   |
| 5   | 5人以上     | 12  | 1.7   |
| 6   | 人数は未確定   | 506 | 70.8  |
|     | 無回答      | 19  | 2.7   |
|     | N (%ベース) | 715 | 100   |



国際食料情報学部国際食農科学科の卒業生の採用人数

| No. | カテゴリ     | 件数  | (全体)% |
|-----|----------|-----|-------|
| 1   | 1人       | 119 | 17.5  |
| 2   | 2人       | 23  | 3.4   |
| 3   | 3人       | 10  | 1.5   |
| 4   | 4人       | 1   | 0.1   |
| 5   | 5人以上     | 10  | 1.5   |
| 6   | 人数は未確定   | 499 | 73.3  |
|     | 無回答      | 19  | 2.8   |
|     | N (%ベース) | 681 | 100   |

